静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第204集

# 菊川市下平川の遺跡群

志味堂古墳群
志味堂横穴群
瑞泉寺１号墳
八幡ヶ谷古墳
下平川八幡神社西遺跡
下平川八幡谷遺跡

平成18・19・20年度主要地方道掛川浜岡線合併支援重点道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００９

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第204集

# 菊川市下平川の遺跡群

志味堂古墳群
志味堂横穴群
瑞泉寺１号墳
八幡ヶ谷古墳
下平川八幡神社西遺跡
下平川八幡谷遺跡

平成18・19・20年度主要地方道掛川浜岡線合併支援重点道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００９

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

遺跡遠景（西より）

# 巻頭図版 2

遺跡周辺地形（垂直写真）

1．完掘状況(北より)

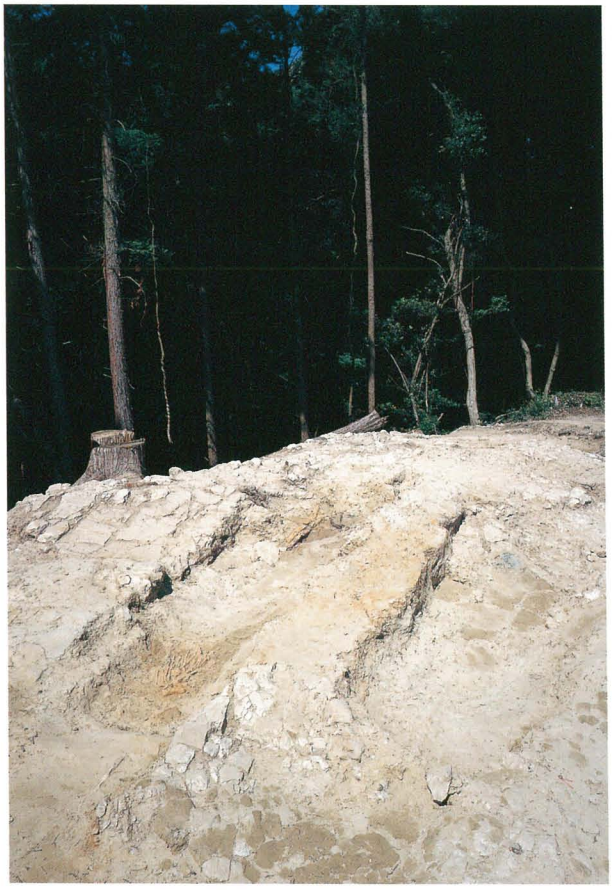
2．１号墳　第１埋葬施設遺物出土状況(南東より)

# 巻頭図版４　志味堂横穴群

１．B群全景（南西より）

２．C群全景（南より）

１．八幡ヶ谷古墳・瑞泉寺１号墳(東より)



２．瑞泉寺１号墳(西より)

３．瑞泉寺１号墳　銅鏡出土状況(西より)

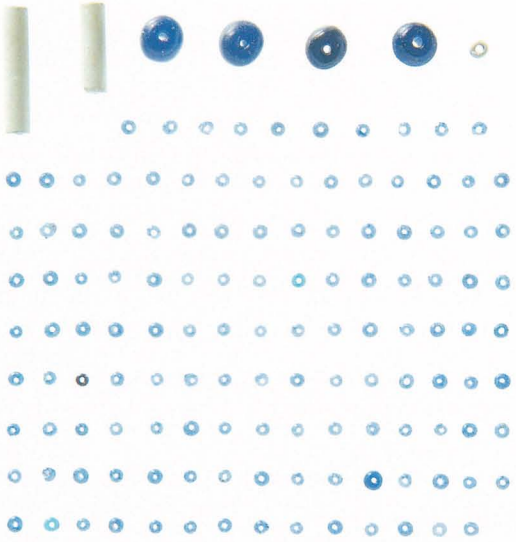
# 巻頭図版６　瑞泉寺１号墳

第１埋葬施設　出土遺物集合

２．第２埋葬施設　銅鏡　紐の痕跡

４．第１埋葬施設　玉類

３．第２埋葬施設　竪櫛



５．第２埋葬施設　玉類

# 巻頭図版８　八幡ヶ谷古墳

１．完掘状況（北より）

２．埋葬施設（北より）

1．埋葬施設土層断面(南より)

2．１号棺　遺物出土状況(北東より)

3．２号棺　遺物出土状況(北東より)

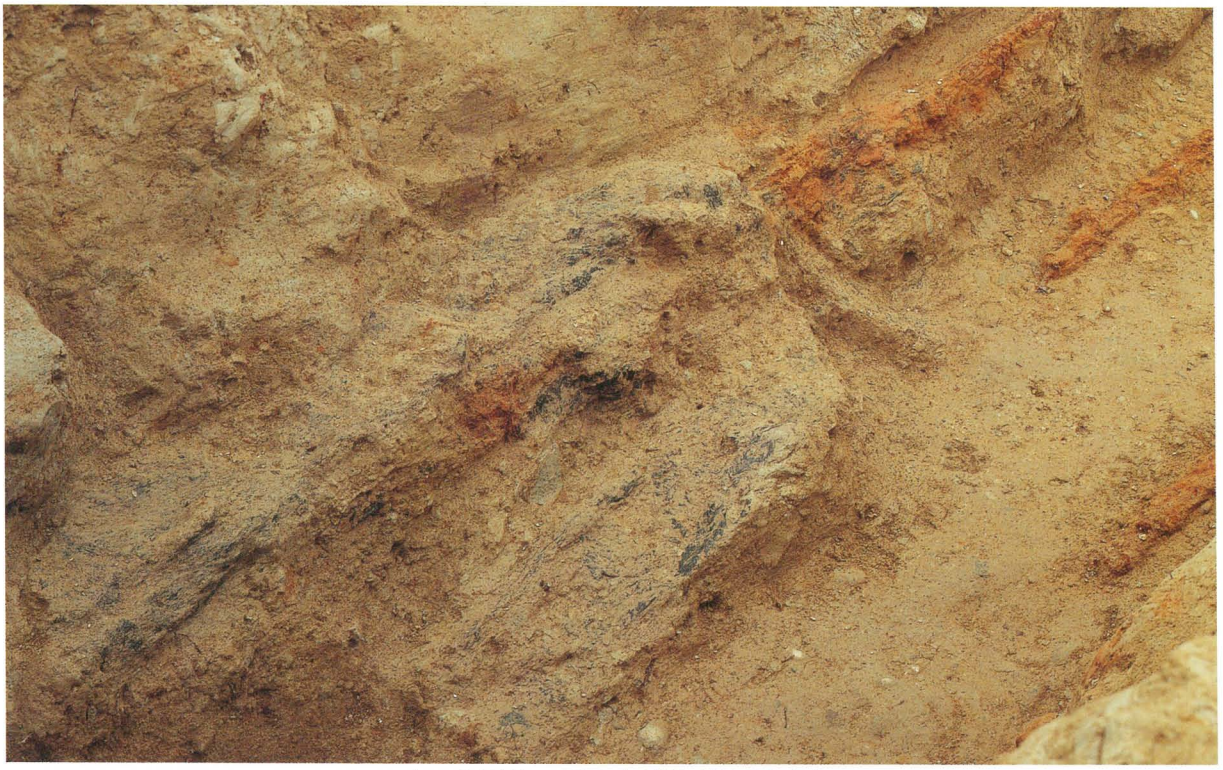
# 巻頭図版10　八幡ヶ谷古墳

1．1号棺　出土遺物集合

1．１号棺　巴型銅器出土状況（東より）

2．巴形銅器保存処理後（表）

3．巴形銅器保存処理後（裏）



4．１号棺　盾出土状況（北西より）

5．１号棺　盾保存処理後

6．１号棺　盾保存処理後

# 巻頭図版12　八幡ヶ谷古墳

1．１号棺　柄頭出土状況(北より)

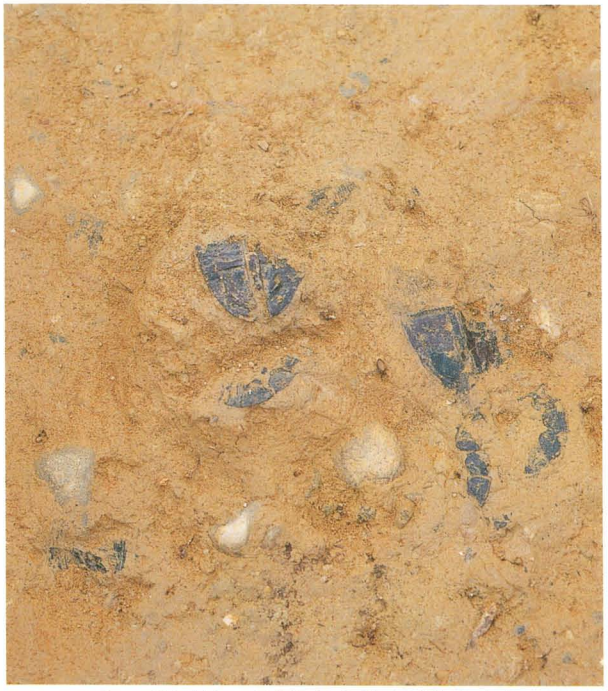
2．１号棺　柄頭保存処理後

3．１号棺　竪櫛55-3保存処理後

4．１号棺　竪櫛55-2保存処理後

5．１号棺　竪櫛55-5～８保存処理後

6．１号棺　竪櫛55-4保存処理後



1．２号棺　竪櫛出土状況(北より)

2．２号棺　竪櫛58-1保存処理後

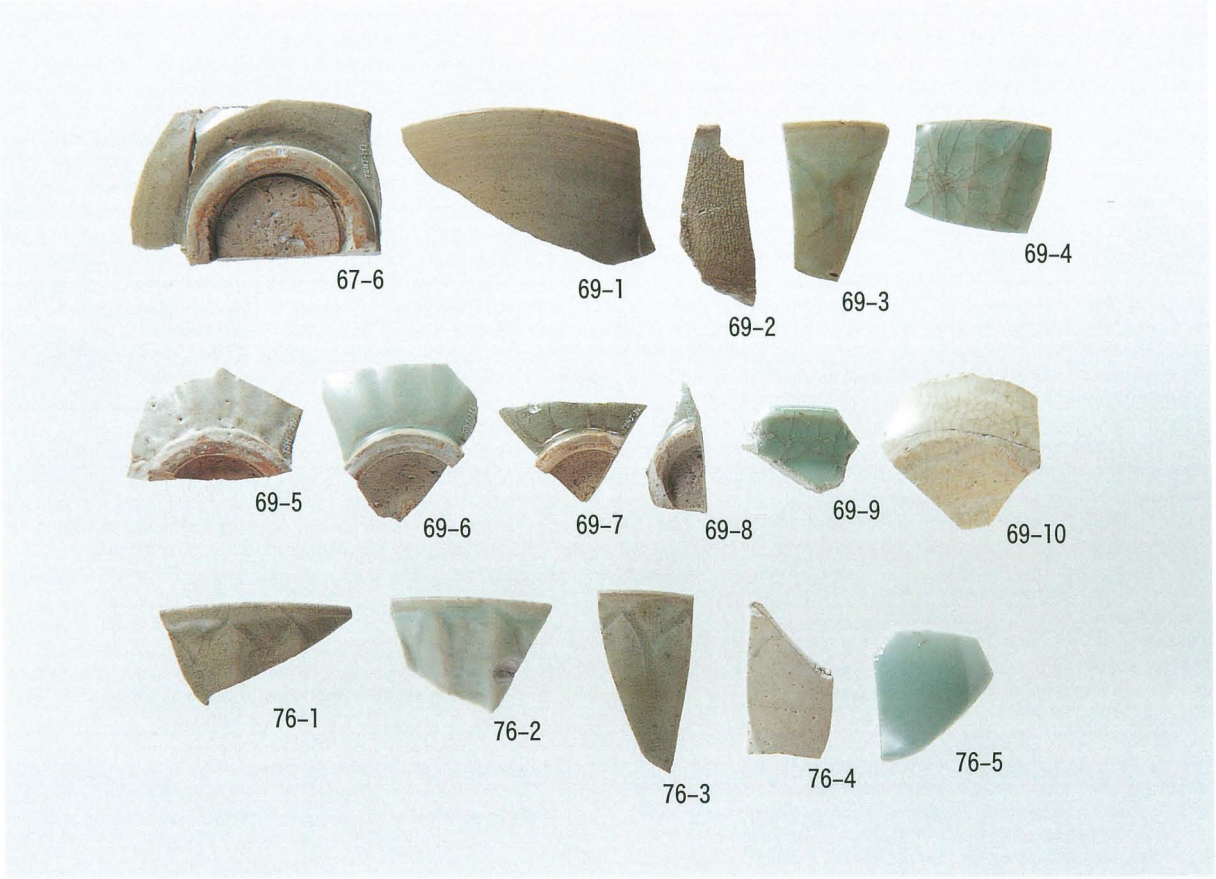
3．２号棺　竪櫛58-5保存処理後

4．２号棺　竪櫛58-2保存処理後

5．２号棺　竪櫛58-3保存処理後

6．２号棺　竪櫛58-2保存処理後

# 巻頭図版14　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡




1．出土磁器(表)

2．出土磁器(裏)

# 序

本書は、主要地方道掛川浜岡線合併支援重点道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

静岡県西部の東寄りに位置する菊川市は、平成17年に菊川町と小笠町が合併して誕生した。

このたび調査を行った下平川の地は小笠町に属していた。旧小笠町は大規模な開発が少なかったためもあり、発掘調査が少なく、考古学的には未知の部分が多い。そのため、一つ一つの調査が貴重な資料であることは明らかである。

今回、志味堂古墳群、志味堂横穴群、瑞泉寺１号墳、八幡ヶ谷古墳、下平川八幡神社西遺跡、下平川八幡谷遺跡と６つの遺跡の発掘調査を行い、報告書として刊行することは非常に貴重な資料を提供することとなるであろう。特に古墳時代においては、小笠、菊川流域という地域だけでなく、静岡県内でも特筆される成果を得ることができた。

八幡ヶ谷古墳は古墳時代中期の首長墓と呼ぶにふさわしく、豊富な副葬品が出土した。盾、竪櫛、刀装具などの漆製品が残っていたことも好運なことである。特殊な形態の鉄鏃、巴形銅器などからも、畿内やその他の地域とも交流を持ったであろう人物が葬られていたことがわかった。

また、それに後続する瑞泉寺１号墳、志味堂１号墳でも、銅鏡や鉄製武器など一族の繁栄を示す遺物が出土しており、遺跡名は異なっているが、一つの群として今後の古墳研究の俎上にのるはずである。

これら古墳以外にも、丘陵斜面に形成された横穴墓群、低地部の中近世集落の調査も、さらなる研究の対象となって貰いたい。

全体を通してみると、縄文時代から近世にかけて、ほとんどの時代の遺物が発見されている。それは、この下平川地域が住むのに適した恵まれた地であることを示していよう。今回の調査成果が、現在この地に住んでいる地域の人たちの誇りとなることを願っている。

最後に、今回の調査にあたって多大なるご協力をいただいた、静岡県袋井土木事務所、菊川市教育委員会に感謝するとともに、作業に従事した作業員さんたちの労苦をねぎらいたい。

2009年３月

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所長　清水　哲

# 例　言

1．本書は静岡県菊川市下平川（しずおかけんきくがわししもひらかわ）に所在する志味堂古墳群・志味堂横穴群・瑞泉寺１号墳・八幡ヶ谷古墳・下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は主要地方道掛川浜岡線合併支援重点道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、静岡県袋井土木事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、菊川市教育委員会の協力を得て、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

3．調査は平成18年度に確認調査を、平成18・19年度に本調査を、平成20年度に整理作業を実施した。

4．調査体制は次のとおりである。

**平成18年度**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所長 | 斎藤　忠 | 総務部長 | 平松公夫 |
| 総務部次長兼総務課長 | 鈴木大二郎 | 総務課主事 | 望月高史 |
| 調査研究部長 | 石川素久 | 調査研究部次長 | 佐野五十三・稲葉保幸 |
| 調査研究部次長兼調査課長 | 及川　司 | | |
| 調査課係長［西部地区］ | 富樫　孝志 | 調査研究員 | 蔵本俊明・中谷哲久 |

**平成19年度**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所長 | 斎藤　忠 | 事務局長 | 清水　哲 |
| 事務局次長兼総務課長 | 大場正夫 | 総務課主事 | 望月高史 |
| 事務局次長 | 佐野五十三・稲葉保幸 | | |
| 事務局次長兼調査課長 | 及川　司 | 保存処理室長 | 西尾太加二 |
| 西部調査係長 | 富樫孝志 | 調査研究員 | 蔵本俊明・村松健史（９月まで） |

**平成20年度**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 所長 | 清水　哲 | 次長兼総務課長 | 大場正夫 |
| 次長兼事業係長 | 稲葉保幸 | 事業係主事 | 青井拓司 |
| 次長兼調査課長 | 及川　司 | 保存処理室長 | 西尾太加二 |
| 西部調査係長 | 富樫孝志 | 調査研究員 | 蔵本俊明・大森信宏 |

5．基準点測量・空中写真測量・空中写真撮影は株式会社フジヤマに委託した。

6．石材の鑑定は静岡大学名誉教授伊藤通玄先生に依頼した。

7．金属製品の保存処理は当研究所保存処理室（室長西尾太加二）が実施した。遺物写真撮影は当研究所写真室担当職員が行った。

8．本書の執筆は第Ⅳ章第３節を調査研究員溝口彰啓が、それ以外を同蔵本俊明が行った。

9．本書の編集は財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所があたった。

10．発掘調査の資料は静岡県教育委員会文化課が保管している。

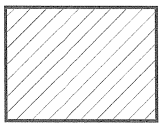
# 凡　例

1．本書で使用した遺構の略号は次のとおりである。

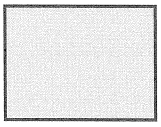
ＳＤ　溝　　ＳＥ　井戸　　ＳＫ　土坑　　ＳＰ　ピット　　ＳＲ　自然流路

ＳＸ　不定型遺構

2．実測図のスクリーントーンでの表現は以下のようである。



金属･石などの断面



木質断面

漆

3．遺物実測図の縮尺はスケールで示しているが、基本的には以下のとおりである。

土器類１/３　　小型土製品　１/３　　埴輪　１/４

小型鉄製品１/２　　大型刀剣類　１/４　　銅鏡・玉類・銭貨　１/１

石器　１/３、２/３、１/２

4．鉄鏃の部位名称、形態分類は大谷,2003aに従った。

5．遺物の時期の決定は以下の文献を参考にした。

須恵器　　鈴木敏,2001

中世陶磁器　　中野,1994、松井,1993、菊川シンポジウム実行委員会,2005

6．ガラス製の玉の分類は、直径５㎜以上の丸い玉を丸玉、以下のものを小玉とした。

7．下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡に関して、出土遺物観察表の「出土位置・遺構」欄に記されている遺構以外の記号はグリッド名である。記録のあるものはグリッド内の位置を示している。

Ｎ－北、Ｅ－東、Ｗ－西、Ｓ－南である。

例えば、Ａ１ＮＥはＡ１グリッドの北東部である。

8．金属製品の観察表での重量は錆落とし後、樹脂による補填などの復元前の状態で計測している。

# 目　次

序
例言
凡例
第Ⅰ章　調査の経過……1
　第１節　調査の経過……1
　第２節　発掘作業の経過……1
　第３節　資料整理作業の経過……2
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……4
　第１節　地理的環境……4
　第２節　歴史的環境……4
第Ⅲ章　調査の方法と成果……10
　第１節　調査の方法……10
　　（１）現地調査……10
　　（２）資料整理・報告書作成……11
　第２節　志味堂古墳群の遺構と遺物……12
　　（１）志味堂１号墳……12
　　（２）志味堂２号墳……20
　第３節　志味堂横穴群の遺構と遺物……23
　　（１）志味堂横穴群Ｂ群……23
　　（２）志味堂横穴群Ｃ群……34
　第４節　瑞泉寺１号墳の遺構と遺物……45
　第５節　八幡ヶ谷古墳の遺構と遺物……56
　第６節　下平川八幡神社西遺跡の遺構と遺物……81
　第７節　下平川八幡谷遺跡の遺構と遺物……93
第Ⅳ章　まとめ……111
　第１節　古墳について……111
　第２節　横穴墓について……112
　第３節　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡出土中世土器・陶磁器について……113
　第４節　中世から近世の集落について……116
　第５節　下平川全体の変遷……118
あとがき……119
参考文献……120
写真図版
報告書抄録

# 挿図目次


第１図　遺跡位置図……3
第２図　遺跡周辺地形図……5
第３図　周辺遺跡分布図……7
第４図　志味堂古墳群・横穴群　地形図……13
第５図　志味堂古墳群・横穴群　東区　平面・立面図……14
第６図　志味堂古墳群・横穴群　西区　平面・立面図……15
第７図　志味堂古墳群　実測図……16
第８図　志味堂１号墳　埋葬施設実測図……17
第９図　志味堂１号墳　出土遺物実測図１（第１埋葬施設）……19
第10図　志味堂１号墳　出土遺物実測図２（第２埋葬施設・埋葬施設外）……20
第11図　志味堂２号墳　ＳＸ01　実測図……21
第12図　志味堂２号墳　出土遺物実測図……23
第13図　志味堂横穴群　Ｂ１号横穴　実測図……24
第14図　志味堂横穴群　Ｂ１号横穴　工具痕実測図……25
第15図　志味堂横穴群　Ｂ２号横穴　実測図……26
第16図　志味堂横穴群　Ｂ２・３・４号横穴　出土遺物実測図（金属製品）……27
第17図　志味堂横穴群　Ｂ３号横穴　実測図……28
第18図　志味堂横穴群　Ｂ３号横穴　出土遺物実測図（土器）……29
第19図　志味堂横穴群　Ｂ４号横穴　実測図……30
第20図　志味堂横穴群　Ｂ５号横穴　実測図……31
第21図　志味堂横穴群　Ｂ６号横穴　実測図……32
第22図　志味堂横穴群　Ｂ６号横穴　出土遺物実測図……32
第23図　志味堂横穴群　Ｂ７号横穴　実測図……33
第24図　志味堂横穴群　Ｃ１号横穴　工具痕実測図……34
第25図　志味堂横穴群　Ｃ１号横穴　実測図……35
第26図　志味堂横穴群　Ｃ１号横穴　出土遺物実測図……37
第27図　志味堂横穴群　Ｃ２号横穴　実測図……38
第28図　志味堂横穴群　Ｃ２号横穴　出土遺物実測図……39
第29図　志味堂横穴群　Ｃ３号横穴　実測図……40
第30図　志味堂横穴群　Ｃ３号横穴墓前域　実測図……41
第31図　志味堂横穴群　Ｃ３号横穴　出土遺物実測図……43
第32図　志味堂横穴群　出土遺物実測図（鉄製品）……44
第33図　瑞泉寺１号墳・八幡ヶ谷古墳　地形図……46
第34図　瑞泉寺１号墳　実測図……47
第35図　瑞泉寺１号墳　埋葬施設実測図……48
第36図　瑞泉寺１号墳　遺物出土状況実測図……49
第37図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図１（第１埋葬施設・農工具）……50
第38図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図２（第１埋葬施設・武器）……52
第39図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図３（玉類）……53

第40図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図４（第２埋葬施設・埋葬施設外）……54
第41図　八幡ヶ谷古墳　調査前測量図……57
第42図　八幡ヶ谷古墳　実測図……58
第43図　八幡ヶ谷古墳　埋葬施設平面・土層断面図……59
第44図　八幡ヶ谷古墳　１号棺　平面図……60
第45図　八幡ヶ谷古墳　１号棺　断面図……61
第46図　八幡ヶ谷古墳　１号棺　盾出土状況実測図……62
第47図　八幡ヶ谷古墳　２号棺　平面図……64
第48図　八幡ヶ谷古墳　２号棺　断面図……65
第49図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図１（１号棺・農工具）……66
第50図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図２（１号棺・鉄鏃１）……67
第51図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図３（１号棺・鉄鏃２）……68
第52図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図４（１号棺・刀）……69
第53図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図５（１号棺・刀）……70
第54図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図６（１号棺・剣）……72
第55図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図７（１号棺・巴形銅器・竪櫛）……73
第56図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図８（２号棺・農工具）……74
第57図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図９（２号棺・刀剣）……75
第58図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図10（２号棺・竪櫛）……77
第59図　八幡ヶ谷古墳　埋葬施設上層　埴輪・土師器出土状況実測図……78
第60図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図11（土器・埴輪）……79
第61図　八幡ヶ谷古墳　墳丘推定復元図……80
第62図　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　グリッド配置図……82
第63図　下平川八幡神社西遺跡　１区　遺構全体図……83
第64図　下平川八幡神社西遺跡　１区　中世遺構概略図……84
第65図　下平川八幡神社西遺跡　１区　ＳＥ01･02･03・ＳＫ01実測図……85
第66図　下平川八幡神社西遺跡　２区　遺構全体図……86
第67図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図１（１区土器）……88
第68図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図２（１区土器）……89
第69図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図３（１区磁器）……90
第70図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図４（２区土器）……91
第71図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図５（石器・銭貨）……92
第72図　下平川八幡谷遺跡　遺構全体図……94
第73図　下平川八幡谷遺跡　２区　南端遺構全体図……95
第74図　下平川八幡谷遺跡　２区　ＳＤ01実測図……96
第75図　下平川八幡谷遺跡　出土遺物実測図１（土器・土製品）……97
第76図　下平川八幡谷遺跡　出土遺物実測図２（磁器）……98
第77図　下平川八幡谷遺跡　出土遺物実測図３（石器・銭貨）……99
第78図　下平川八幡谷遺跡　遺物出土位置図……100
第79図　八幡谷周辺　中・近世居住域推定図……117

# 挿表目次

表１　調査工程表……1
表２　遺跡地名表……6
表３　志味堂横穴群　計測値一覧表……23
表４　出土遺物観察表１（志味堂古墳群　鉄製品）……101
表５　出土遺物観察表２（志味堂古墳群　土器）……101
表６　出土遺物観察表３（志味堂横穴群　金属製品）……101
表７　出土遺物観察表４（志味堂横穴群　土器）……102
表８　出土遺物観察表５（志味堂横穴群　玉類）……102
表９　出土遺物観察表６（瑞泉寺１号墳　金属製品）……103
表10　出土遺物観察表７（瑞泉寺１号墳　玉類）……104
表11　出土遺物観察表８（八幡ヶ谷古墳　金属製品）……105
表12　出土遺物観察表９（八幡ヶ谷古墳　土器・埴輪）……106
表13　出土遺物観察表10（下平川八幡神社西遺跡　土器）……107
表14　出土遺物観察表11（下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　磁器）……109
表15　出土遺物観察表12（下平川八幡神社西遺跡　石器）……109
表16　出土遺物観察表13（下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　銭貨）……109
表17　出土遺物観察表14（下平川八幡谷遺跡　土器）……110
表18　出土遺物観察表15（下平川八幡谷遺跡　土製品）……110
表19　出土遺物観察表16（下平川八幡谷遺跡　石器）……110
表20　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　瀬戸美濃系施釉陶器一覧表……114
表21　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　中世遺物一覧表……115

# 図版目次

巻頭カラー図版
1　遺跡遠景（西より）
2　遺跡周辺地形（垂直写真）
3　1．志味堂古墳群　完掘状況　　2．志味堂１号墳　第１埋葬施設遺物出土状況
4　1．志味堂横穴群　Ｂ群全景　　2．志味堂横穴群　Ｃ群全景
5　1．八幡ヶ谷古墳・瑞泉寺１号墳　　2．瑞泉寺１号墳
　　3．瑞泉寺１号墳　銅鏡出土状況
6　1．瑞泉寺１号墳　出土遺物集合
7　1．瑞泉寺１号墳　銅鏡　　2．瑞泉寺１号墳　第２埋葬施設　銅鏡
　　3．瑞泉寺１号墳　第２埋葬施設　竪櫛　　4．瑞泉寺１号墳　第１埋葬施設　玉類
　　5．瑞泉寺１号墳　第２埋葬施設　玉類
8　1．八幡ヶ谷古墳　完掘状況　　2．八幡ヶ谷古墳　埋葬施設
9　1．八幡ヶ谷古墳　埋葬施設土層断面　　2．八幡ヶ谷古墳　１号棺　遺物出土状況
　　3．八幡ヶ谷古墳　２号棺　遺物出土状況
10　1．八幡ヶ谷古墳　１号棺　出土遺物集合

11　1．八幡ヶ谷古墳　1号棺　巴型銅器出土状況　2．巴形銅器保存処理後（表）
　3．巴形銅器保存処理後（裏）　4．八幡ヶ谷古墳　1号棺　盾出土状況
　5．八幡ヶ谷古墳　1号棺　盾保存処理後　6．八幡ヶ谷古墳　1号棺　盾保存処理後
12　1．八幡ヶ谷古墳　1号棺　柄頭出土状況　2．八幡ヶ谷古墳　1号棺　柄頭保存処理後
　3～6．八幡ヶ谷古墳　1号棺　竪櫛保存処理後
13　1．八幡ヶ谷古墳　2号棺　竪櫛出土状況
　2～6．八幡ヶ谷古墳　2号棺　竪櫛保存処理後
14　1．下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　出土磁器（表）
　2．下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　出土磁器（裏）

図版1　遺跡遠景（南より）
図版2　1．志味堂1号墳　調査前状況　2．志味堂1号墳　完掘状況
図版3　1．志味堂1号墳　第1埋葬施設　刀、鉄鏃出土状況
　2．志味堂1号墳　第1埋葬施設　鉄鏃出土状況
　3．志味堂1号墳　第2埋葬施設　刀出土状況
図版4　1．志味堂2号墳　調査前状況　2．志味堂2号墳　完掘状況
図版5　1．志味堂2号墳　SX01　須恵器、横瓶出土状況
　2．志味堂2号墳　SX01　土師器、坏出土状況
　3．志味堂2号墳　須恵器、甕出土状況
図版6　志味堂1号墳　出土遺物1
図版7　志味堂1号墳　出土遺物2
図版8　志味堂1号墳　出土遺物3
図版9　志味堂2号墳　出土遺物1
図版10　1．志味堂横穴群　B群調査前状況　2．志味堂横穴群　B群完掘状況
図版11　1．B1号横穴　正面　2．B1号横穴　完掘状況
図版12　1．B1号横穴　主体部溝完掘状況　2．B1号横穴　奥壁工具痕
　3．B1号横穴　天井工具痕　4．B1号横穴　玄室東壁工具痕
　5．B1号横穴　玄室西壁工具痕　6．B1号横穴　羨道西壁工具痕
図版13　1．B1号横穴　羨門　2．B1号横穴　墓前域工具痕
図版14　1．B2号横穴　完掘状況　2．B2号横穴　閉塞石検出状況
図版15　1．B2号横穴　完掘状況　2．B2号横穴　遺物出土状況
　3．B2号横穴　奥壁工具痕　4．B2号横穴　玄室東壁工具痕
　5．B2号横穴　羨道東壁工具痕　6．B2号横穴　羨道西壁工具痕
図版16　1．B3号横穴　正面　2．B3号横穴　閉塞石根石検出状況
図版17　1．B3号横穴　完掘状況　2．B3号横穴　遺物出土状況（上面）
　3．B3号横穴　遺物出土状況（下面）
図版18　1．B3号横穴　奥壁工具痕　2．B3号横穴　天井工具痕
　3．B3号横穴　玄室東壁工具痕　4．B3号横穴　玄室西壁工具痕
　5．B3号横穴　羨道東壁工具痕　6．B3号横穴　羨道西壁工具痕
図版19　1．B4号横穴　完掘状況　2．B4号横穴　閉塞石検出状況
図版20　1．B4号横穴　完掘状況　2．B4号横穴　奥壁工具痕

３．Ｂ４号横穴　天井工具痕　４．Ｂ４号横穴　玄室東壁工具痕
５．Ｂ４号横穴　羨道東壁工具痕　６．Ｂ４号横穴　羨道西壁工具痕
図版21　１．Ｂ５号横穴　棺台石検出状況　２．Ｂ６号横穴　土器、閉塞石検出状況
図版22　１．Ｂ６号横穴　完掘状況　２．Ｂ６号横穴　東壁工具痕
３．Ｂ７号横穴　完掘状況　４．Ｂ６号横穴　奥壁工具痕
図版23　志味堂横穴群　出土遺物１（Ｂ３号横穴）
図版24　志味堂横穴群　出土遺物２
図版25　志味堂横穴群　出土遺物３（Ｂ６号横穴）
図版26　１．志味堂横穴群　Ｃ群調査前状況　２．志味堂横穴群　Ｃ群完掘状況
図版27　１．Ｃ１号・Ｃ２号横穴　完掘状況　２．Ｃ１号横穴　閉塞石検出状況
図版28　１．Ｃ１号横穴　須恵器出土状況　２．Ｃ１号横穴　閉塞石検出状況（内側）
３．Ｃ１号横穴　閉塞石根石検出状況
図版29　１．Ｃ１号横穴　鉄鏃出土状況　２．Ｃ１号横穴　奥壁工具痕
３．Ｃ１号横穴　天井工具痕　４．Ｃ１号横穴　玄室東壁工具痕
５．Ｃ１号横穴　玄室西壁工具痕　６．Ｃ１号横穴　羨道東壁工具痕
図版30　１．Ｃ２号横穴　正面　２．Ｃ２号横穴　閉塞石検出状況
３．Ｃ２号横穴　閉塞石根石検出状況
図版31　１．Ｃ２号横穴　完掘状況　２．Ｃ２号横穴　天井工具痕
３．Ｃ２号横穴　玄室東壁工具痕　４．Ｃ２号横穴　玄室西壁工具痕
５．Ｃ２号横穴　羨道東壁工具痕　６．Ｃ２号横穴　羨道西壁工具痕
図版32　１．Ｃ３号横穴　羨門完掘状況　２．Ｃ３号横穴　閉塞石検出状況
図版33　１．Ｃ３号横穴　完掘状況　２．Ｃ３号横穴　墓前域完掘状況
図版34　１．Ｃ３号横穴　墓前域須恵器出土状況　２．Ｃ３号横穴　墓前域須恵器出土状況
３．Ｃ３号横穴　墓前域須恵器出土状況
図版35　１．Ｃ３号横穴　天井崩落状況　２．Ｃ３号横穴　奥壁工具痕
３．Ｃ３号横穴　玄室東壁工具痕　４．Ｃ３号横穴　玄室西壁工具痕
５．Ｃ３号横穴　羨道東壁工具痕　６．Ｃ３号横穴　羨道西壁工具痕
図版36　志味堂横穴群　出土遺物４（Ｃ１号横穴）
図版37　志味堂横穴群　出土遺物５
図版38　志味堂横穴群　出土遺物６（Ｃ３号横穴）
図版39　１．瑞泉寺１号墳　調査前状況　２．瑞泉寺１号墳　完掘状況
図版40　１．瑞泉寺１号墳　第１埋葬施設　２．瑞泉寺１号墳　第２埋葬施設
３．瑞泉寺１号墳　第２埋葬施設　遺物出土状況
図版41　１．瑞泉寺１号墳　第１埋葬施設　鉄鏃出土状況
２．瑞泉寺１号墳　第１埋葬施設　遺物出土状況
図版42　瑞泉寺１号墳　出土遺物１
図版43　瑞泉寺１号墳　出土遺物２
図版44　瑞泉寺１号墳　出土遺物３
図版45　瑞泉寺１号墳　出土遺物４
図版46　１．八幡ヶ谷古墳　遠景　２．八幡ヶ谷古墳　調査前状況
図版47　１．八幡ヶ谷古墳　完掘状況　２．八幡ヶ谷古墳　埋葬施設遺物出土状況

図版48　1．八幡ヶ谷古墳　遺物出土状況　　2．八幡ヶ谷古墳　礫床検出状況
図版49　1．八幡ヶ谷古墳　1号棺　遺物出土状況　2．八幡ヶ谷古墳　1号棺　遺物出土状況
　　3．八幡ヶ谷古墳　1号棺　遺物出土状況　4．八幡ヶ谷古墳　1号棺　遺物出土状況
図版50　1．八幡ヶ谷古墳　2号棺　遺物出土状況　2．八幡ヶ谷古墳　2号棺　遺物出土状況
　　3．八幡ヶ谷古墳　2号棺　礫床検出状況
図版51　1．八幡ヶ谷古墳　1号棺　巴型銅器出土状況　2．八幡ヶ谷古墳　1号棺　柄頭出土状況
　　3．八幡ヶ谷古墳　1号棺　遺物出土状況　4．八幡ヶ谷古墳　竪櫛出土状況
　　5．八幡ヶ谷古墳　埋葬施設上部　埴輪出土状況　6．八幡ヶ谷古墳　西周溝　埴輪出土状況
図版52　八幡ヶ谷古墳　出土遺物1
図版53　八幡ヶ谷古墳　出土遺物2（1号棺）
図版54　八幡ヶ谷古墳　出土遺物3（1号棺）
図版55　八幡ヶ谷古墳　出土遺物4（1号棺）
図版56　八幡ヶ谷古墳　出土遺物5（1号棺）
図版57　八幡ヶ谷古墳　出土遺物6（1号棺）
図版58　八幡ヶ谷古墳　出土遺物7（1号棺）
図版59　八幡ヶ谷古墳　出土遺物8（1号棺）
図版60　八幡ヶ谷古墳　出土遺物9（1号棺）
図版61　八幡ヶ谷古墳　出土遺物10（2号棺）
図版62　八幡ヶ谷古墳　出土遺物11（2号棺）
図版63　八幡ヶ谷古墳　出土遺物12（2号棺）
図版64　八幡ヶ谷古墳　出土遺物13（2号棺）
図版65　八幡ヶ谷古墳　出土遺物14
図版66　八幡ヶ谷古墳　出土遺物15
図版67　1．下平川八幡神社西遺跡　1区　完掘状況　2．下平川八幡神社西遺跡　1区　完掘状況
図版68　1．下平川八幡神社西遺跡　1区ＳＥ01　遺物出土状況
　　2．下平川八幡神社西遺跡　1区ＳＥ02　完掘状況
　　3．下平川八幡神社西遺跡　1区ＳＥ03　遺物出土状況
　　4．下平川八幡神社西遺跡　1区　青磁出土状況
図版69　1．下平川八幡神社西遺跡　2区　完掘状況
　　2．下平川八幡神社西遺跡　2区　山茶碗出土状況
　　3．下平川八幡神社西遺跡　2区　山茶碗出土状況
図版70　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物1（1区）
図版71　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物2（2区）
図版72　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物3
図版73　1．下平川八幡谷遺跡　1区　遺物出土状況　2．下平川八幡谷遺跡　2区　完掘状況
図版74　1．下平川八幡谷遺跡　2区ＳＤ01　完掘状況　2．下平川八幡谷遺跡　2区ＳＤ01　山茶碗出土状況
図版75　1．下平川八幡谷遺跡　1区　土錘出土状況　2．下平川八幡谷遺跡　1区　銭貨出土状況
　　3．下平川八幡谷遺跡　2区　山茶碗出土状況　4．下平川八幡谷遺跡　2区ＳＤ01　山茶碗出土状況
図版76　下平川八幡谷遺跡　出土遺物1（2区ＳＤ01）
図版77　下平川八幡谷遺跡　出土遺物2
図版78　下平川八幡谷遺跡　出土遺物3

# 第Ⅰ章　調査の経過

## 第１節　調査の経過

県道掛川浜岡線は掛川市と御前崎市をほぼ南北に結ぶ路線である。静岡県を東西に走る国道１号線と国道150号線を結び、途中、東名高速道路の菊川ＩＣ、ＪＲ菊川駅近くを通過する幹線道路である。しかし、交通渋滞の慢性化、周辺地域への影響、現道の老朽などの問題が生じてきていた。そのような状況下、菊川ＩＣより南でバイパス整備が始められ、旧菊川町部分は平成15年度に完成している。旧小笠町部分も平成16年度より事業が行われてきた。

下平川周辺の計画路線内、丘陵上には志味堂横穴群、瑞泉寺古墳、八幡ヶ谷横穴群が周知の遺跡として登録されていた。また、平成16年度に静岡県教育委員会文化課による試掘調査が行われ、谷部にも遺跡の存在が確認され、下平川八幡神社西遺跡、下平川八幡谷遺跡として登録された。

以上の経過を受けて袋井土木事務所と教育委員会文化課が協議を重ねた結果、平成18年度以降に、静岡県袋井土木事務所の委託により、静岡県教育委員会文化課指導のもと、(財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所が発掘調査を行うこととなった。

平成18年度には下平川八幡谷遺跡（１区）と下平川八幡神社西遺跡（１区）の本調査とともに、丘陵上および斜面の確認調査を行った。その結果、八幡ヶ谷横穴群では横穴は確認されなかったが、丘陵頂部に古墳１基を、志味堂横穴群の丘陵上からは古墳時代の遺物が出土し、古墳が存在すると推測された。

平成19年度には志味堂横穴群と丘陵上の古墳、そして、下平川八幡谷遺跡２区を調査した。調査期間中に下平川八幡神社西遺跡（１区）の北側谷部を教育委員会文化課が調査を行い、遺跡が広がっている事が確認されたため、２区として追加で調査を行うこととなった。

平成20年度は保存処理、資料整理を行い、報告書を刊行した。

## 第２節　発掘作業の経過

平成18・19年度の全体の工程表を表１に示す。

**表１　調査工程表**

| 遺　跡　名 | 平成18年度 | | | | 平成19年度 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 志味堂古墳群・横穴群 | | 確認調査 | | | | | （古墳群） | | 本調査 | | （横穴群） | | | | |
| 瑞泉寺１号墳 | | 確認調査 | | | | | 本調査 | | | | | | | | |
| 八幡ヶ谷古墳<br>（八幡ヶ谷横穴群） | | 確認調査 | | | | | | | | | 本調査 | | | | |
| 下平川八幡神社西遺跡 | | | １区 | | | | | | ２区 | | | | | | |
| 下平川八幡谷遺跡 | | １区 | | | | | | | | | ２区 | | | | |

平成18年度は10月より準備工を開始し、12月より下平川八幡谷遺跡１区の本調査、八幡ヶ谷横穴群、瑞泉寺古墳、志味堂横穴群の確認調査に着手した。

確認調査は調査範囲内にトレンチを設定し、人力により掘り下げて遺構の有無を確認した。横穴群は存在が考えられる南斜面の下草、落ち葉等を除去して開口している横穴を探すとともに、トレンチを設定して人力で調査した。

その結果、志味堂横穴群では調査開始前に開口を確認した５基以外に、東区と西区でそれぞれ１基を確認した。また、丘陵頂部、東区で袋状鉄斧が、西区で須恵器片が出土し、古墳の存在が推測された。その後それぞれ「志味堂１号墳」、「志味堂２号墳」と命名された。

瑞泉寺古墳は埋葬施設と考えられる遺構が検出され、古墳であることが追認された。その後、菊川市教育委員会の遺跡台帳と照合した結果、すでに登録されていた瑞泉寺古墳は用地外であることが判明し、調査によって発見された新古墳を「瑞泉寺１号墳」、既知の古墳を「瑞泉寺２号墳」とすることが決まった。

八幡ヶ谷横穴群では斜面部では横穴墓は確認されず、丘陵頂部で埋葬施設と認められる遺構と遺物が出土し、古墳であると想定された。後に「八幡ヶ谷古墳」と名付けられた。

それぞれのトレンチは実測、記録写真を撮影した後に埋め戻し、２月末に調査を終了した。

確認調査と並行して、下平川八幡谷遺跡１区の本調査を行った。バックフォーによる表土除去の後、人力において包含層を掘り下げ、遺構の検出・掘り下げを行った。遺構の実測、写真撮影等は順次行った。２月第２週からは重機により埋め戻しを行うとともに、下平川八幡神社西遺跡１区の調査を同様に進め、委託で写真測量、空中写真撮影を行い、３月末に現地を撤収した。

平成19年度は５月から準備工を行い、志味堂古墳群の調査を開始した。その後は用地の買収、伐採等の進捗状況に対応しながら、表１に示すように、各遺跡の調査を行った。

瑞泉寺１号墳、八幡ヶ谷古墳では発掘調査前に地形測量を、各遺跡とも調査終了時には写真測量、空中写真撮影などを委託で行った。

12月８日には現地説明会を、その後実測などを行い、平成20年１月に調査を終了、撤収した。

発掘作業と並行してほぼ全期間にわたって現地において基礎整理作業を行った。内容は出土遺物の洗浄・注記等である。

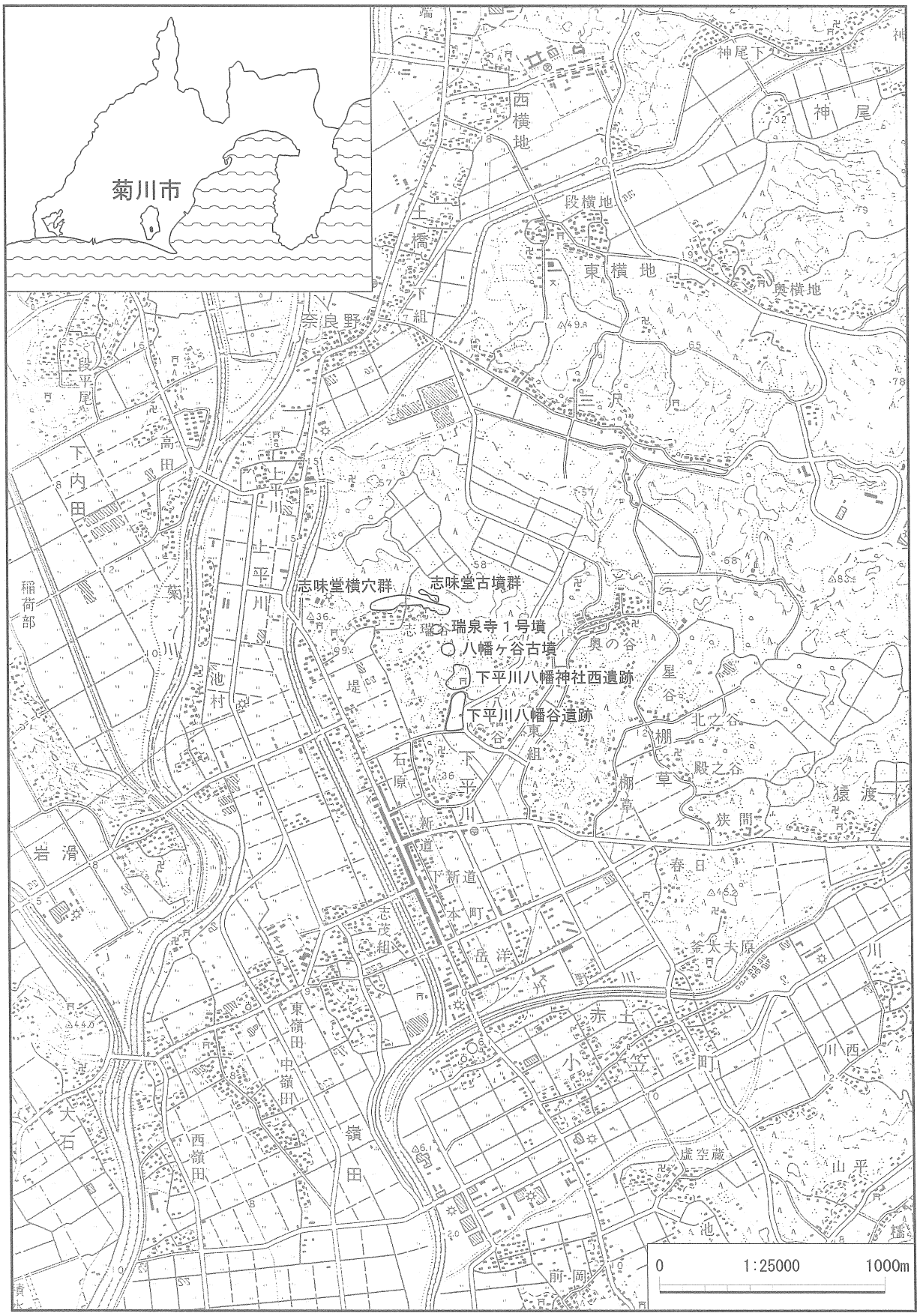
## 第３節　資料整理作業の経過

資料整理等の作業は平成20年５月より平成21年３月まで、報告書作成は島田整理事務所において、鉄製品の保存処理は当研究所本部で、漆製品の保存処理は清水整理事務所で行った。

作業は図面・写真整理、遺物の分類・仕分けを行い、遺物接合、遺構版下原図の作成にかかった。また、出土金属製品、木製品の保存処理作業も行った。遺物の実測・拓本採取を行い、版下原図を作成した後、遺構とともにトレース作業を行った。その後、遺物の観察表作成、遺物写真撮影、写真図版版組、原稿執筆を行った。

遺物写真は４×５判（白黒・カラーリバーサル）、６×７判（白黒・カラーリバーサル）を用いて撮影した。

一連の作業を終え、遺物・図面・写真等を収納し平成21年３月に当報告書を刊行して作業を終了した。




第１図　遺跡位置図（国土地理院発行、１：25,000地形図「下平川」を複写して加筆）

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理的環境

静岡県菊川市は静岡県西部、旧国名でいう遠江の東寄りに位置する。

今回の調査地である、菊川市下平川は平成の大合併以前は小笠町に属し、旧小笠町は遠州灘に注ぐ菊川中流域を占めていた。下平川地区は旧小笠町の北部にあたり、菊川、牛渕川が形成する平野の縁辺部である。調査遺跡周辺は、牧之原台地より派生する丘陵が北東から南西方向に延び、それらは浸食により細かな枝状に分岐している。

調査区周辺の地形を示したのが第２図である。志味堂古墳群、瑞泉寺１号墳、八幡ヶ谷古墳はそれぞれ別の小丘陵の頂部に存在し、標高は40～50mである。志味堂古墳群は今回の調査地点の中で最も北に位置し、東から西へ延びる丘陵上にあり、南斜面には志味堂横穴群が存在する。瑞泉寺１号墳はその南、東から西へ延びる丘陵の頂部に、八幡ヶ谷古墳はやや弧を描きながら南北に延びる丘陵上に存在する。

一方、下平川八幡神社西遺跡と下平川八幡谷遺跡は低地に立地している。八幡ヶ谷古墳のある丘陵の東、黒沢川の支流によって浸食された谷部にあたる。北側の谷奥が下平川八幡神社西遺跡、南側の谷中央部付近が下平川八幡谷遺跡である。調査前の標高は８～11mであった。

地質的には丘陵部は掛川層群の砂岩と泥岩の互層からなる。基盤となるこの層は軟質であり、谷の開析が進み、細かく複雑な谷を形成し、また尾根はやせ尾根となっている。丘陵上、丘陵斜面は杉が植林され山林となっている所が多いが、一部は茶畑として利用されている。解析された谷には、黒色・灰色の粘土層が厚く堆積し、近年まで水田として利用されていた。

## 第２節　歴史的環境

下平川近辺を中心に、周辺の主な遺跡を示したのが第３図・表２である。遺跡は図に示した以外にも多く存在するが、旧小笠町内では詳細が判明している遺跡は少ない。よって、発掘調査などにより詳細が判明している遺跡を中心に時代ごとに分けてみてみる。

### ⑴　旧石器・縄文・弥生時代

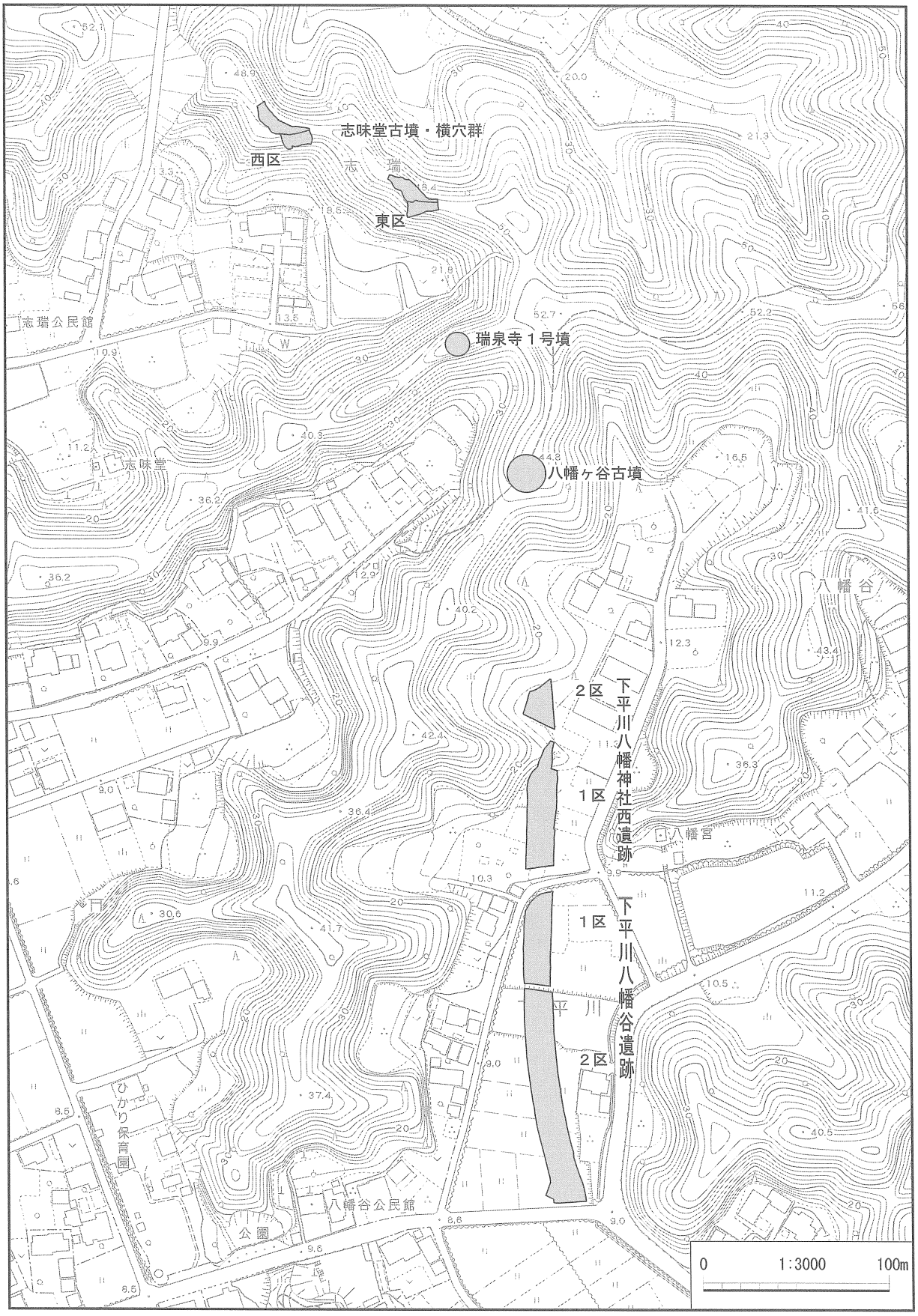
旧石器時代の遺跡は菊川流域でもほとんどわかっていないが、三沢西原遺跡（13）によってわずかにうかがい知ることができる。発掘調査によって、旧石器時代の石器群がブロックとして検出されている。また、縄文時代早期～中期、そして弥生時代後期から古墳前期の住居跡などが発見され、丘陵上に安定して生活していたことが判明した。

釜太夫遺跡（33）では縄文時代の石器、弥生土器が表採されている。

弥生時代の遺跡として嶺田遺跡（36）が特筆される。弥生時代中期の「嶺田式」の標式遺跡として知られているが、過去の調査において遺物は出土するものの、住居などの集落域が確認されていない。1957年ごろ岳洋中学の西土堤で住居跡が確認されたという記述がある（栗田1959）が詳細は不明である。丹野川と黒沢川の合流地点の微高地に立地した、中心的な集落であろうと思われる。

一方、発掘調査が行われた遺跡に東原田遺跡（29）があげられる。最盛期は弥生時代後期であるが、中期から古墳時代初頭にかけて自然堤防上に立地した集落遺跡である。

弥生時代中期には稲作の導入とともに平野部の自然堤防上への進出が見られるが、後期以降になると、三沢西原遺跡のような丘陵上に戻る遺跡と、東原田遺跡のように継続する遺跡の２つのパターンが存在




第２図　遺跡周辺地形図（菊川市都市計画図、菊川－36　１：2,500を複写して加筆）

するようである。

(2)　古墳時代

古墳時代の古墳としては、沖積地中央に存在した上平川大塚１号墳（22)、上平川大塚２号墳（21）が特筆される。この２古墳は完全に消滅した結果、混同されている例が多くあるので、年代を追って確認してみる。

上平川の「大塚古墳」が全国に知られるようになったのは、大正９・10年、土取りによって鏡などの遺物が出土したことを後藤守一が人類学雑誌に報告したことに始まる(後藤1922)。報告では「大塚古墳」は、「遠江国小笠郡平田村上平川字大塚」に存在し、「大塚山」と呼ばれていると記述している。後藤は「本古墳」の「北一町」に存在し、火葬場に使われている小丘陵地も前方後円墳である可能性を指摘している。

昭和５年の静岡県史では「2.5m前後の丘岡をなして一部残存している」と記載され、「110m北」の火葬場についてもふれている（静岡県1930)。

その後、「大塚古墳」は土取りが進んで消滅したのであろう。昭和35年の掛川西高校郷土研究部による文では、「大塚前方後円墳…前方部と思われる火葬場」と記され、「大塚古墳」が完全に消滅したことにより北に存在していた火葬場を「大塚古墳」と認識している。

昭和61年の朝日神社古墳（37）の報告書では「上平川大塚古墳」と「上平川北古墳」と紹介され（渡辺1986)、この呼称は平成２年発行の静岡県史にも引き継がれている。

一方、平成元年発行の静岡県文化財地名表では初めて「２号墳」の名を使用し、南を「上平川大塚古墳」、北を「上平川大塚２号墳」としている。

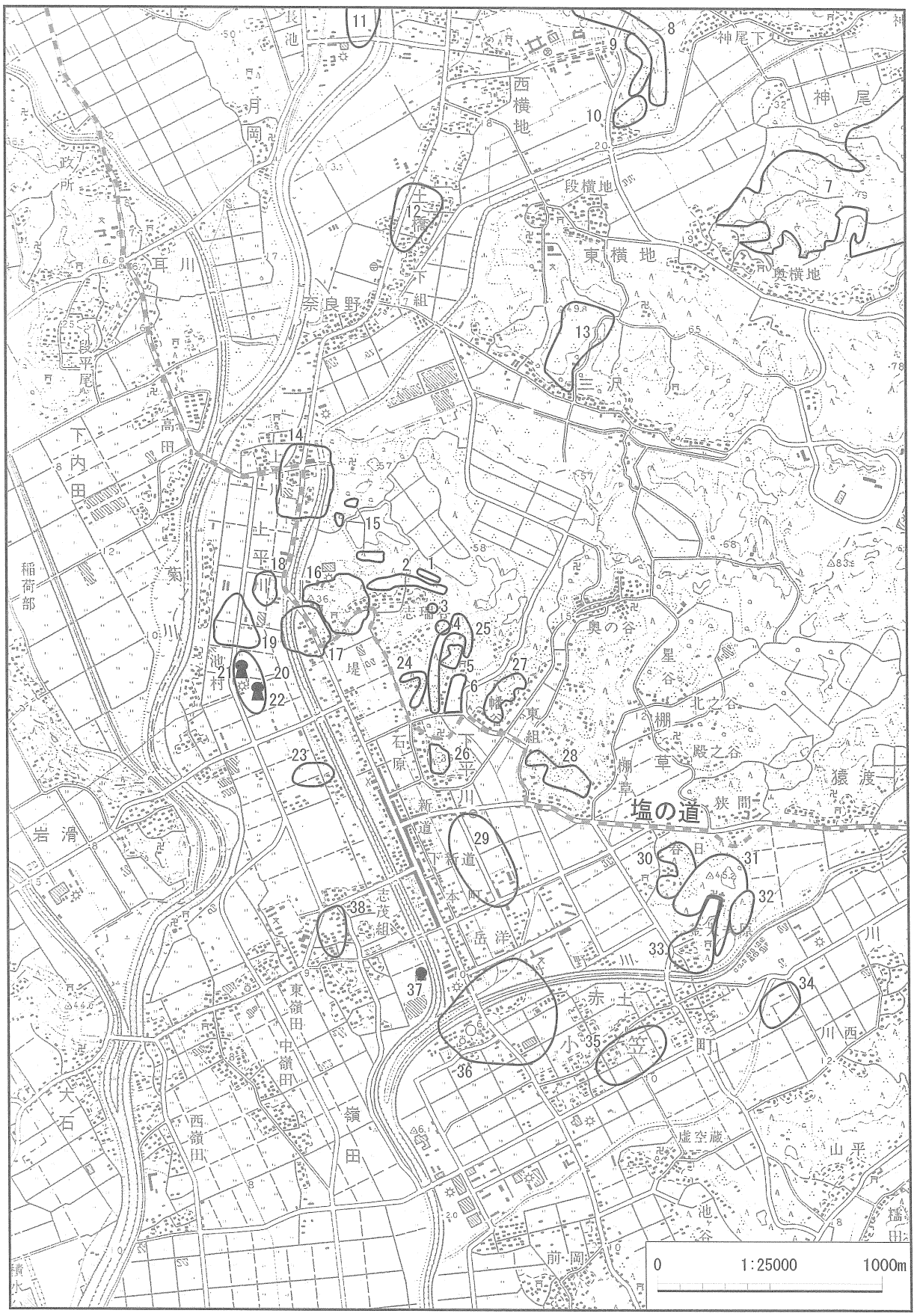
現在、菊川市では南に存在した古墳を「上平川大塚１号墳」、北に存在した古墳を「上平川大塚２号墳」と登録しており、本書でもこの呼称を使用する。

なお、静岡県教育委員会がホームページ上で公開している「静岡県埋蔵文化財包蔵地情報管理サイト」では、平成20年段階で南に位置する「上平川大塚１号墳古墳」の出土遺物は記載されておらず、北に位置する「上平川大塚２号墳古墳」の出土遺物に三角縁神獣鏡などが記されている。

後藤の報告に戻ると、上平川大塚１号墳から三角縁四神四獣鏡、四獣鏡、三角縁神獣鏡残片の鏡３面、勾玉、管玉、小玉、刀身残片が出土したと記されている。埋葬施設は礫郭と推測され、朱も認められる。

**表２　遺跡地名表**

| 番号 | 遺　跡　名 | 時代 | 番号 | 遺　跡　名 | 時代 | 番号 | 遺　跡　名 | 時代 | 番号 | 遺　跡　名 | 時代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 志味堂古墳群 | 古墳 | 11 | 宮ノ西遺跡 | 弥生～中世 | 21 | 上平川大塚２号墳 | 古墳 | 31 | 釜太夫横穴群 | 古墳 |
| 2 | 志味堂横穴群 | 古墳 | 12 | 土橋遺跡 | 弥生～近世 | 22 | 上平川大塚１号墳 | 古墳 | 32 | 赤土上ノ段遺跡 | 古墳～中世 |
| 3 | 瑞泉寺古墳群 | 古墳 | 13 | 三沢西原遺跡 | 旧石器～古墳・中世 | 23 | 下平川六反田遺跡 | 平安～中世 | 33 | 釜太夫遺跡 | 縄文～中世 |
| 4 | 八幡ヶ谷古墳 | 古墳 | 14 | 上平川遺跡 | 弥生・古墳 | 24 | 宇洞横穴群 | 古墳 | 34 | 八丁遺跡 | 古墳 |
| 5 | 下平川八幡神社西遺跡 | 中世～近世 | 15 | 大鹿横穴群 | 古墳 | 25 | 八幡ヶ谷横穴群 | 古墳 | 35 | 赤土政所遺跡 | 弥生～中世 |
| 6 | 下平川八幡谷遺跡 | 縄文～中世 | 16 | 堤城跡 | 中世 | 26 | 好運寺山古墳 | 古墳 | 36 | 嶺田遺跡 | 弥生～近世 |
| 7 | 横地城跡 | 中世 | 17 | 堤遺跡 | 弥生・古墳・中世 | 27 | 東組横穴群 | 古墳 | 37 | 朝日神社古墳 | 古墳 |
| 8 | 宇藤古墳群 | 古墳 | 18 | 城向遺跡 | 古墳 | 28 | 井ノ木海戸横穴群 | 古墳 | 38 | 黒田家代官屋敷 | 弥生～奈良・中世 |
| 9 | 宇藤横穴群A・B・C群 | 古墳 | 19 | 猪森遺跡 | 古墳・中世 | 29 | 川田・東原田遺跡 | 弥生～中世 | | | |
| 10 | 宇藤横穴群D群 | 古墳 | 20 | 上平川政所遺跡 | 弥生～中世 | 30 | 春日山横穴群 | 古墳 | | | |




第３図　周辺遺跡分布図（国土地理院発行、１：25,000地形図「下平川」を複写して加筆）

墳丘規模は20m前後の小型の前方後円墳、築造時期は４世紀後半と推測され、当時の菊川流域の有力首長であると認められる。出土した三角縁神獣鏡は京都府椿井大塚山古墳出土鏡と同氾であることから注目をされ、菊川の地と近畿とのつながりを示している。

２号墳も後藤の報告からは同規模の前方後円墳と考えられているが、遺物の出土も知られておらず、詳細は全く不明である。

上平川大塚１号墳に後続する首長墓として舟久保古墳が知られている。立地は異なり、丘陵上に位置している。全長49mの前方後円墳とされている。調査による出土遺物はないが、中期前半（５世紀前半）に属すると思われる。５世紀末から６世紀初頭には再び低湿地に朝日神社古墳が築かれている。発掘調査により全長19.8mの帆立貝型前方後円墳と認められている。

沖積地上に古墳が築かれるのは、４世紀後半の上平川大塚１・２号墳と５世紀末以後の朝日神社古墳の間に空白がある。知られることなく消滅した古墳が存在した可能性は否定できず、またそれぞれの時期が確実ではないのだが、東南の丘陵に存在する舟久保古墳（５世紀前半）、菊川上流域の丘陵上には庚申塚古墳（５世紀中頃）、大徳寺古墳（５世紀後半）と空白を埋めるように丘陵上に前方後円墳が存在することは注目に値する。菊川流域の首長系譜に変動があったことを示していると考えられる。

朝日神社古墳以降は、当地域での造墓は古墳から横穴墓に変化し、６世紀前半から出現した横穴は６世紀後半に最盛期を迎え、７世紀後半には衰退する。

旧菊川町域では、宇藤古墳群・横穴群（８・９・10）の調査がなされ、５世紀中葉から７世紀にかけて古墳から横穴へと移行した様子が明らかになっている。その他にも開口して知られている横穴群は多いが、旧小笠町域では大鹿横穴群（15）、釜太夫横穴群（31）が調査され、徐々に横穴墓の様相が明らかになってきている。

集落遺跡としては、前期の集落が三沢西原遺跡など丘陵上で知られている。後期では宮ノ西遺跡（11）、土橋遺跡（12）で集落が展開するほか、八丁遺跡（34）、赤土政所遺跡（35）、嶺田遺跡からは遺物が出土し、平野部微高地上に集落が存在したことを示していよう。

### (3) 古代

古代、菊川市周辺は遠江国城飼郡に属し、江戸時代に編まれた掛川誌稿には東西横地とともに上下平川の地は荒木郷であると記されている（中村1997）。

発掘調査によって遺構・遺物が見つかっている遺跡も多少は知られているが、集落などの詳しい様相は明らかではない。

その中で最近、宮ノ西遺跡からは掘立柱建物跡、墨書土器、緑釉陶器などが見つかり注目されている。また、今回の調査と同じ事業で平成20年度から赤土政所遺跡の調査が行われているが、古墳時代から古代の集落域を示す遺構、遺物が見つかっている。墨書土器、掘立柱建物跡など注目に値するものも検出されている。いずれも正式な報告を待たねばならないが、他の地域同様、水運の便がよい平野部微高地上に官衙関連遺跡が存在する可能性が考えられよう。

### (4) 中世以降

中世では横地周辺に多くの遺跡が展開するが、土地の名を冠する横地氏による開発、支配を示すものである。横地城（７）は文明８（1476）年、今川義忠により落城する。

下平川には堤城跡（16）が存在し、松井氏が今川氏から永正10（1513）年に下平川の地を与えられ移住したとの説がある（菊川市2007）。その松井氏は現在の浜松市天竜区の二俣城に移り、堤城は廃城になったようである。廃城は享禄２（1529）年という説があり、堤城の存続は非常に短い期間ということ

になる。

その後、元亀２（1571）年から天正９（1581）年にかけての徳川氏と武田氏による高天神城の攻防まで約100年間に、東遠江の支配体制はめまぐるしく変化しており、下平川周辺においても影響は免れなかったであろう。

発掘調査の成果としては、川田・東原田遺跡（29）では12～13世紀の生活の痕跡が見つかっている。他に赤土地区に釜太夫遺跡、赤土上ノ段遺跡（32）、赤土政所遺跡などが存在する。

周辺の歴史をしるすものとして、八幡ヶ谷の出口近くに好運寺がある。天正年間に焼失し、天正13（1585）年に黒田正次により再興されたと伝えられる（寺伝）。

また、江戸時代に旗本本多家の代官として下平川周辺を支配した家は黒田家（38）である。越前黒田荘より出て永禄年間（1558～70）に下平川の地に住むようになったと伝えられる。平野部中央に屋敷跡が現在でも残されていて、自然堤防上に立地し、堀、水路を利用して物資の運搬を行ったことが記録されている。

正確な記録はないが、黒田正次はこの黒田家と同族であると推測してもよいであろう。

(5)　その他

遺跡ではないが、この地域を語る重要なものとして「塩の道」がある。この道は牧之原市（旧相良町）から長野県塩尻市まで、さらに新潟県糸魚川市へと本州を南北に貫く道である。時代によってルートが変わっていることは考えられるが、現在認められているルートは下平川を通っており、下平川八幡谷遺跡の南、丘陵部の西側と調査遺跡のすぐ近くである。また、遺跡周辺の丘陵には現在切り通しとなっている所がいくつかあり、丘陵を越える道がいくつも存在していたことが知られる。その中のいくつかは公道となっていたことから、多くの利用があったはずである。

また、志味堂の北には大鹿池が存在する。古くは笛吹池とも呼ばれ、灌漑用に近世に整備された菊川流域でも有数の貯水量を有する池である（菊川市2007）。そのような池がこの地に作られたことは、下平川周辺が地形的に水利上、要となる地点であることを示しているのではないだろうか。近世以降においては交通、水利において重要な地であることは明らかである。それをどこまで遡って認めることができるかは簡単には結論付けにくいが、三角縁神獣鏡を持っていた上平川大塚１号墳の存在は、古墳時代においても要地であったことを想像させる。

# 第Ⅲ章　調査の方法と成果

## 第１節　調査の方法

(1)　現地調査

現地は立地的に丘陵上の遺跡と谷部の平地の遺跡に分けられる。立地の違いは遺跡としての性格の差も反映しているため、調査の方法、手順もそれに応じて選択した。

**○丘陵上の遺跡（志味堂古墳群・志味堂横穴群・瑞泉寺１号墳・八幡ヶ谷古墳）**

立木の伐採の後、古墳であることが確実な瑞泉寺１号墳と八幡ヶ谷古墳は地形測量を委託で行った後に発掘調査を開始した。

丘陵はやせた尾根で斜面は急である。調査の安全を期すために通路の整備、転落防止ネットの設置を行った。掘削によって出た廃土は工事の用地内斜面下に落とすことになったが、用地外に流失する可能性が考えられる地点では土留めを設置するなどの対策を行った。

丘陵上の遺跡は重機が進入できないために掘削はすべて人力で行った。鍬、鋤簾などを用いて表土・包含層を除去したのち、基盤層上で遺構を検出し、遺構掘削と作業を進めた。

志味堂１号墳、瑞泉寺１号墳、八幡ヶ谷古墳の埋葬施設、および志味堂横穴群の玄室内は玉類、金属製品などの微少な遺物が出土することが想定された。人力による遺構掘削時においても検出されてはいたが、直径数㎜の玉類や暗い横穴内では見逃す可能性の方が高いことは明らかであった。よって、比較的量が少ない遺構（志味堂古墳群・瑞泉寺１号墳・志味堂横穴群の一部）はすべての覆土を、覆土が厚い遺構（八幡ヶ谷古墳・志味堂横穴群の一部）では遺物の出土が見込まれる下層部分の土を土嚢に入れて運び出し、１㎜から１㎝までのふるいを適宜使用して微細遺物の検出に努めた。その結果、玉類、金属製品、土器片など多くの遺物を検出することができた。

**○平地の遺跡（下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡）**

谷部の遺跡は重機を用いて表土除去を行った。使用する重機は一部に狭い調査区があったためと近隣の住宅に配慮して、0.45㎥と0.7㎥のバックフォーを適宜選択した。

包含層除去は鍬・鋤簾等を用い人力で行い、遺構検出、遺構掘削と行った。

調査区のグリッド設定は世界測地系を用い、下平川八幡神社西遺跡と下平川八幡谷遺跡を合わせて設定した。当初、下平川八幡神社西遺跡２区は計画されていなかったため、１区北西を原点Ａ１（X=-143,080、Y=-37,560）とし、国土座標の軸線を基準に西から東にＡ・Ｂ・Ｃ…、北から南に１・２・３…と10m間隔で設定し、数字とアルファベットを組み合わせてグリッド名とした。下平川八幡神社西遺跡２区は南から北へ、-1・-2と設定した。（第62図）

**○全遺跡共通**

丘陵上・低地の遺跡ともに記録類の作成には大きな差が無く、以下のように行った。

図面については、遺構平面図は１/10・土層図は１/20を基本とし、遺物出土状況図などは必要に応じて縮尺を変えて作成した。

現地調査での記録写真については、４×５判（白黒・カラーリバーサル）、６×７判（白黒・カラーリバーサル）、35㎜判（カラーリバーサル・カラーネガ）を使用し、適宜ローリングタワー、高所作業車を用いて撮影した。空中写真を６×６判（白黒・カラーリバーサル）を用いラジコンヘリコプターにて撮

影した。

基準点測量・空中写真測量・空中写真撮影は委託で行った。

(2) 資料整理・報告書作成

資料整理は遺構図面の整理・修正を行った後、開始した。遺物の土器・石器などは現地で洗浄・注記・台帳作成を済ませた。

金属製品、漆製品は当研究所保存処理室において、X線写真などの記録をとりながら錆の除去、接合、強化処理などを施した。

出土遺構ごとの分類を行った後、土器の接合を行った。遺物を選別し、実測・拓本採取・トレースした。復原・観察表の作成を行いながら、遺物図版版下を作成した。遺物写真を撮影した後、遺構写真を含め写真図版版組を行った。

遺構は図面を整理、修正を行ったのち、版組をし、トレース作業を行った。

トレース作業は、製図用のペンを使って行ったものと、パソコン上で描画ソフトを使って作成したものがある。ペンでトレースしたものをスキャナで読み込みデジタル化する作業を委託で行い、文字の入力などの編集はパソコン上で市販の編集ソフトを用いて行った。

以上の作業と並行し、原稿執筆、編集作業を行い、入稿、刊行した。

最後に遺物・図面・写真等を収納し静岡県教育委員会文化課へ引き渡した。

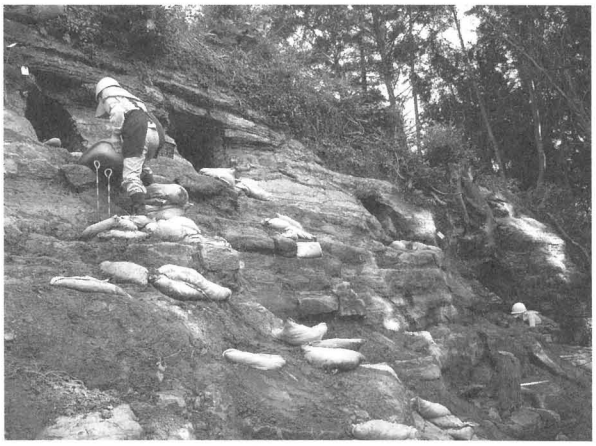


写真1　志味堂横穴群　発掘作業状況

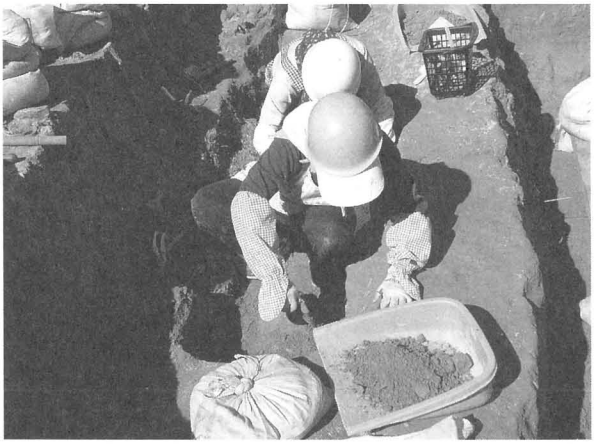


写真2　八幡ヶ谷古墳　発掘作業状況

写真3　下平川八幡神社西遺跡　発掘作業状況

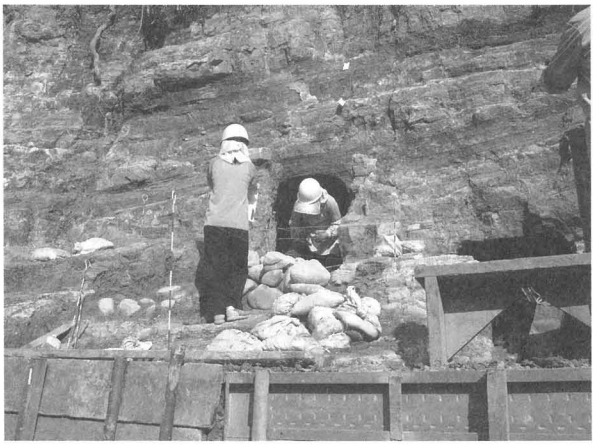


写真4　志味堂横穴群　実測作業状況

## 第２節　志味堂古墳群の遺構と遺物

志味堂古墳群・横穴群の調査区は東区と西区に分かれており、東区で古墳１基と横穴墓７基、西区で古墳１基と不明土坑１基、横穴墓３基を検出した。(第４～６図)

横穴墓は志味堂横穴群として次節に示すが東区がＢ群、西区がＣ群である。

東南東から西北西に向かって延びるやせた丘陵上、東区の古墳が志味堂１号墳、西区の古墳が志味堂２号墳である。

東区と西区の中間地点及び西区西側の丘陵頂部は確認調査時にトレンチを設定して調査を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。中間地点の南斜面、第４図で崖の表現がなされている部分でも横穴墓は検出されなかった。東区は工事の用地境に位置し、東側は用地外である。

西区では２号墳の北西部分も整った形に見えるが、遺構・遺物ともに検出されず古墳とは認定できなかった。

### (1)　志味堂１号墳（第７図　巻頭図版３　図版２）

東区丘陵上、頂部に位置する。頂部の標高は約47m、谷部との比高差は約29mである。

基盤は掛川層群である砂岩と泥岩からなり、約10cmの表土層、基盤の礫を含む明褐色土層が10～20cm存在する。これらの層を除去し、基盤層上面において遺構検出を行った。

頂部中心からわずかに南よりに、第１埋葬施設、そのさらに南に第２埋葬施設を検出した。

頂部から北西側にＳＤ01とした溝状の落ち込みを検出した。幅50cm、長さ２ｍほどで、周溝であると考えられるが、攪乱である可能性も否定できない。南東側では、頂部から１ｍ以上下がった地点で、削りだしたような痕跡を検出した。ただし、方向が尾根筋に近いことから墳形を整える為とは考えにくい。時期は不明であるが、道を整備するための加工、ただの攪乱などが考えられよう。

以上のことから、１号墳は丘陵頂部を削りだして整形した直径９ｍほどの円墳と推定できる。

・第１埋葬施設（第８図　図版３）

尾根のほぼ中心線上に位置することから、この古墳の主たる被葬者であると考えられる。

検出できた深さは数cmである。幅は40cm、検出された長さは140cmで、東側端部は不明である。方位は尾根筋に沿う方向で、北から約24°西に傾いている。

土層の観察から割竹形木棺と考えられる。

副葬品は刀子１本、鉄鏃13本、刀１振である。

まず、刀が切先を北に向け棺中央よりやや東に置かれ、刀の切先付近の上に先端を同じ方向に向けて、刀子、その上に鉄鏃13本が重なって置かれていた。

副葬品の状況から、頭位は南であると思われる。

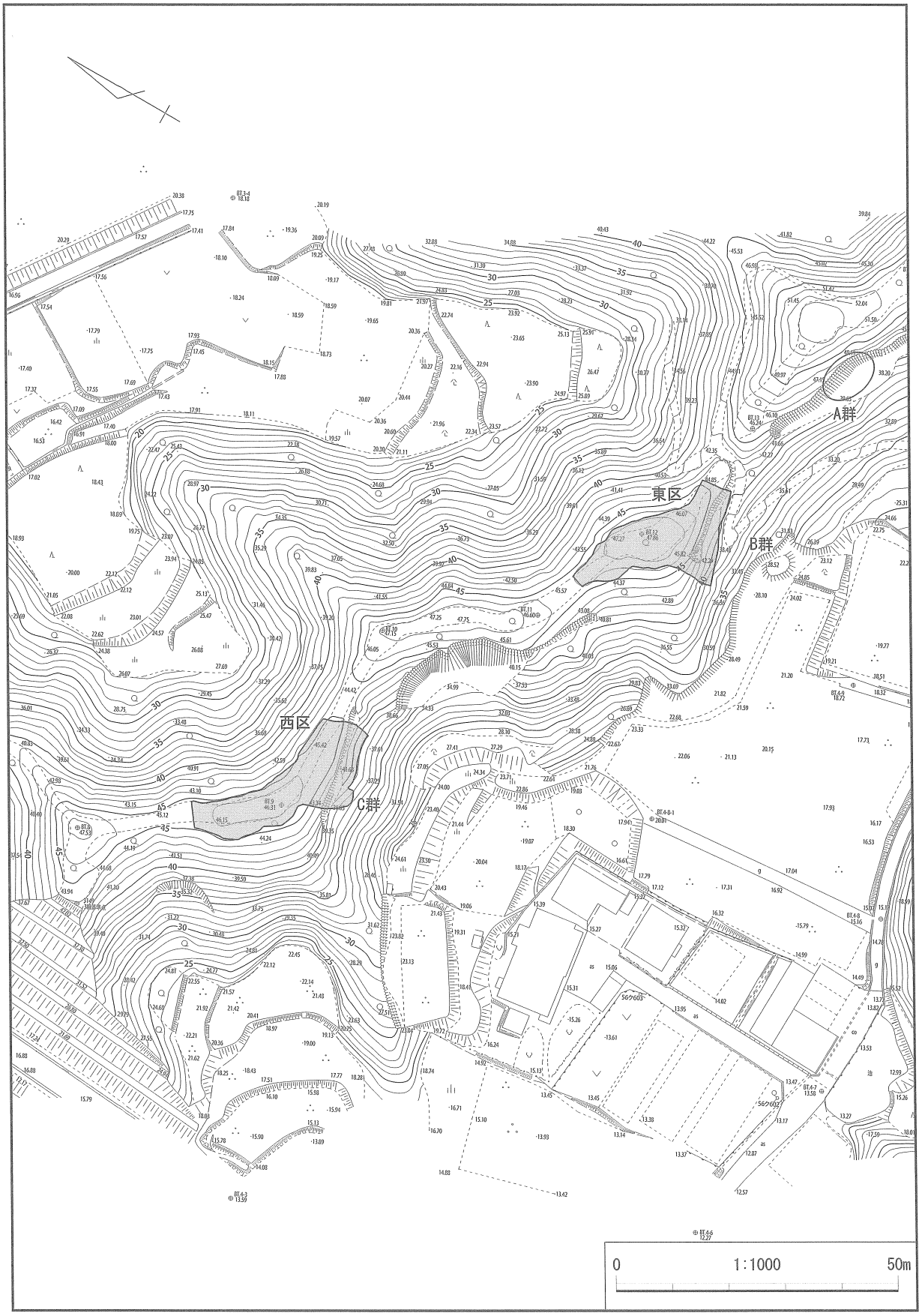
第１埋葬施設出土遺物（第９図　図版６～８）

第１埋葬施設からは、刀子１本、鉄鏃13本、刀１振が出土している。

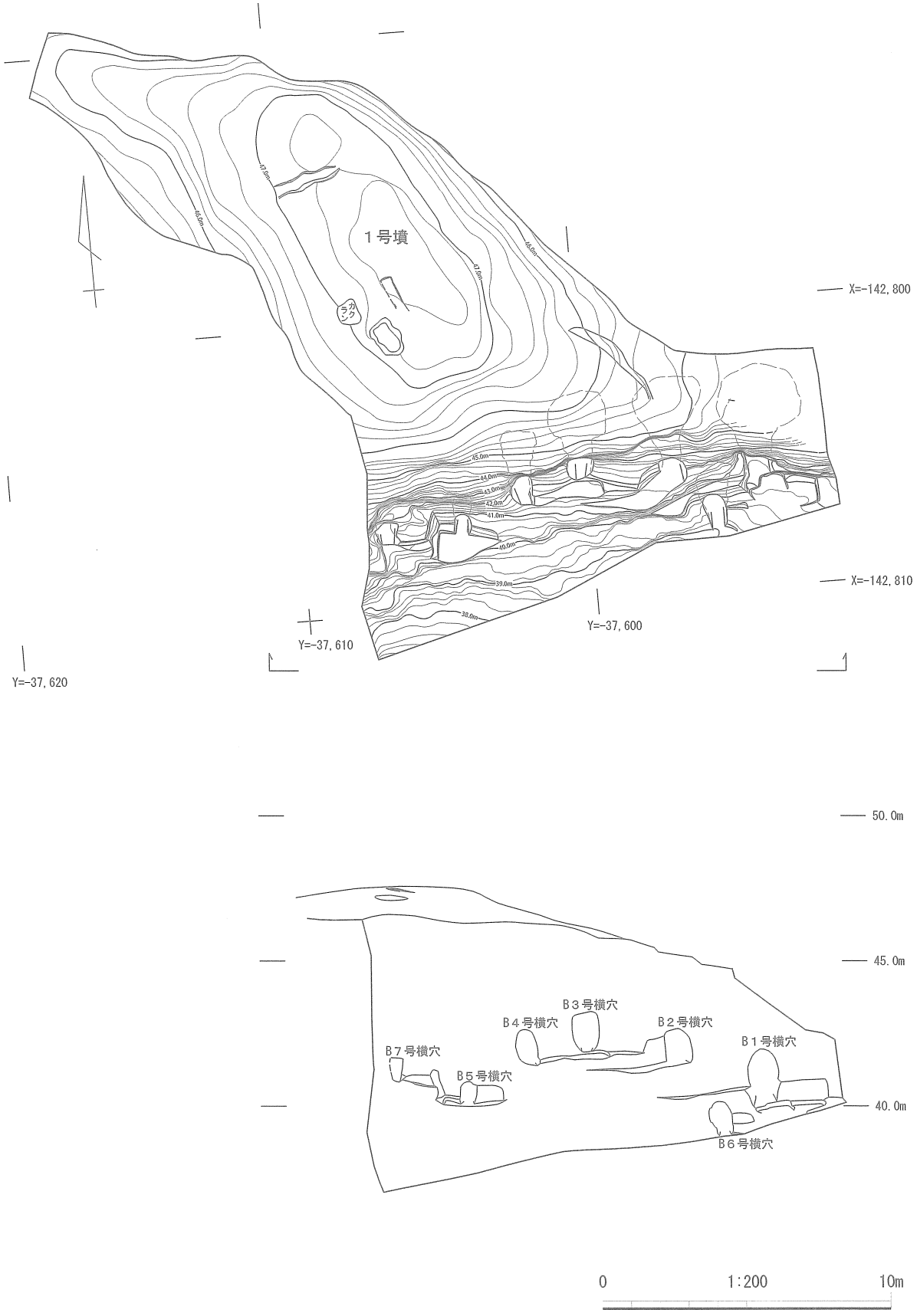
刀子９－１は茎部に木質を残している。

鉄鏃９′－２～14はすべて長頸鏃で、平根式が４本、尖根式が９本である。

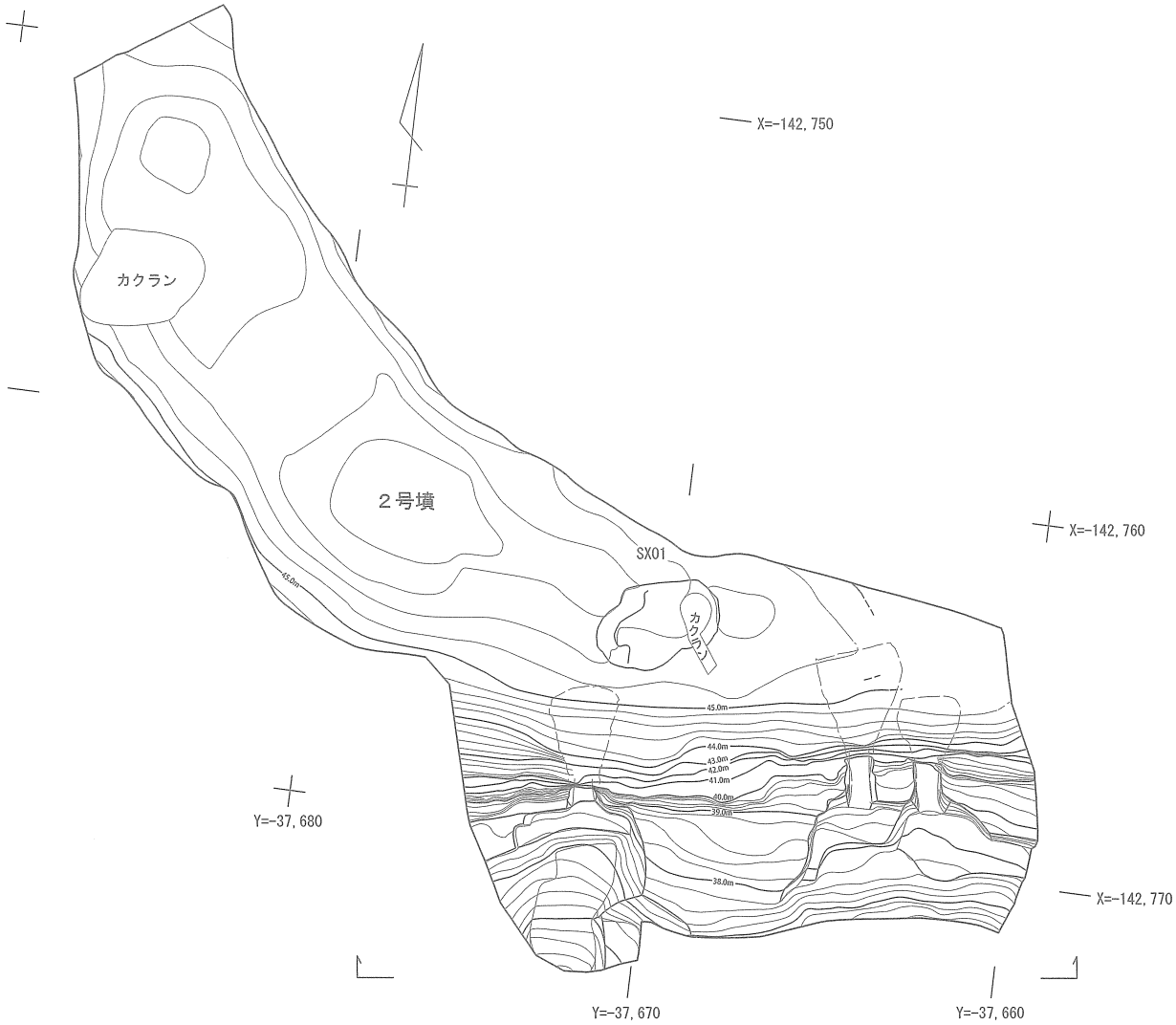
平根式の鏃身形態は腸抉柳葉式で、２と３の２本は独立の片逆刺があり、４と５にはなく、鏃身がややくびれている。４本とも逆刺は重抉である。独立片逆刺鏃の類例には、長野県上池ノ平５号墳、愛知県船山古墳があげられる。

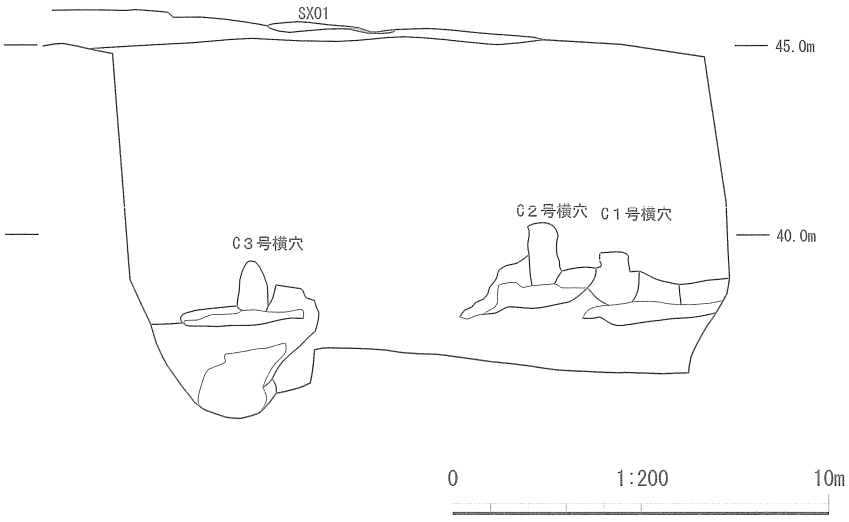



第４図　志味堂古墳群・横穴群　地形図

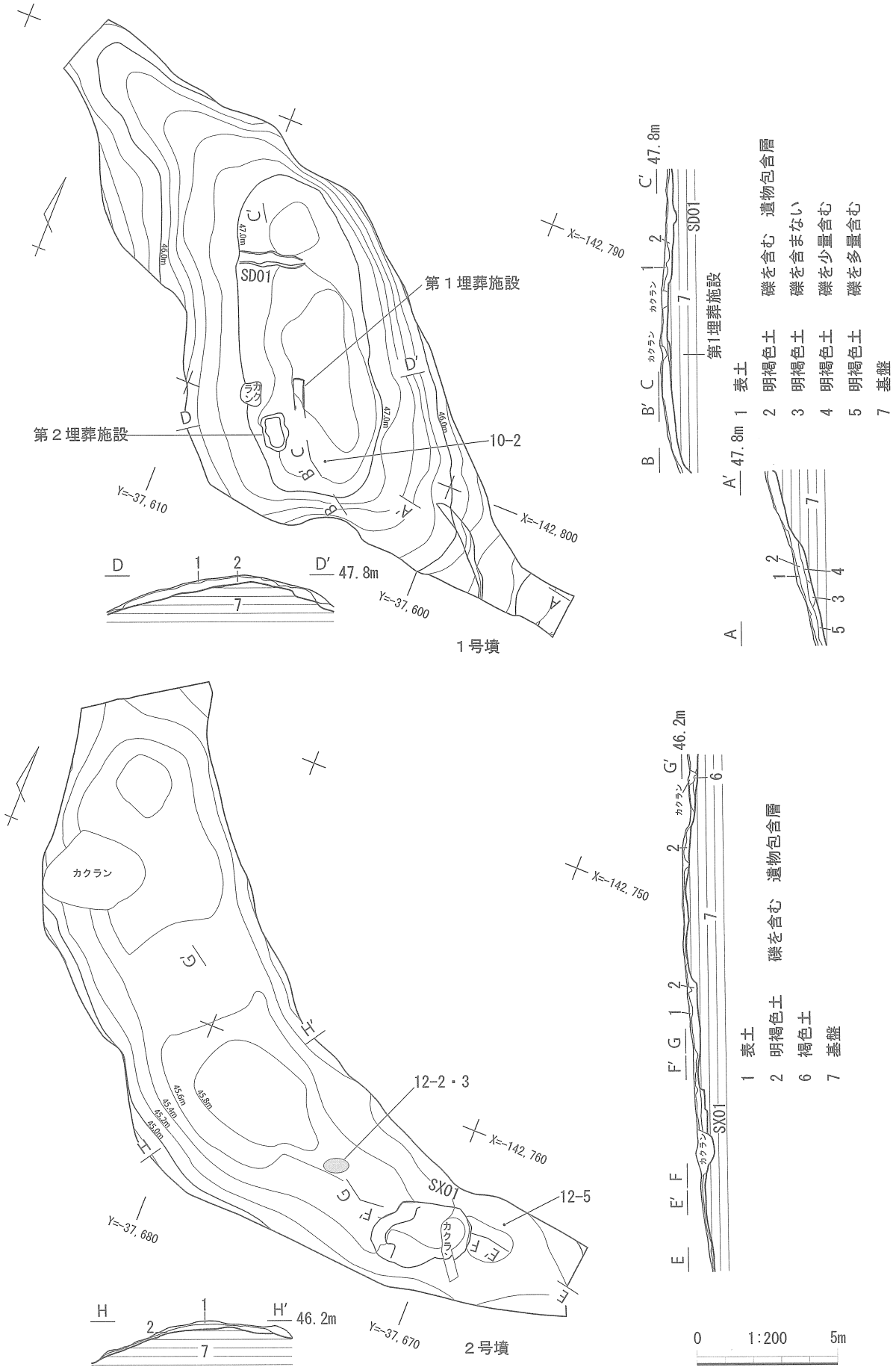



第5図　志味堂古墳群・横穴群　東区　平面・立面図

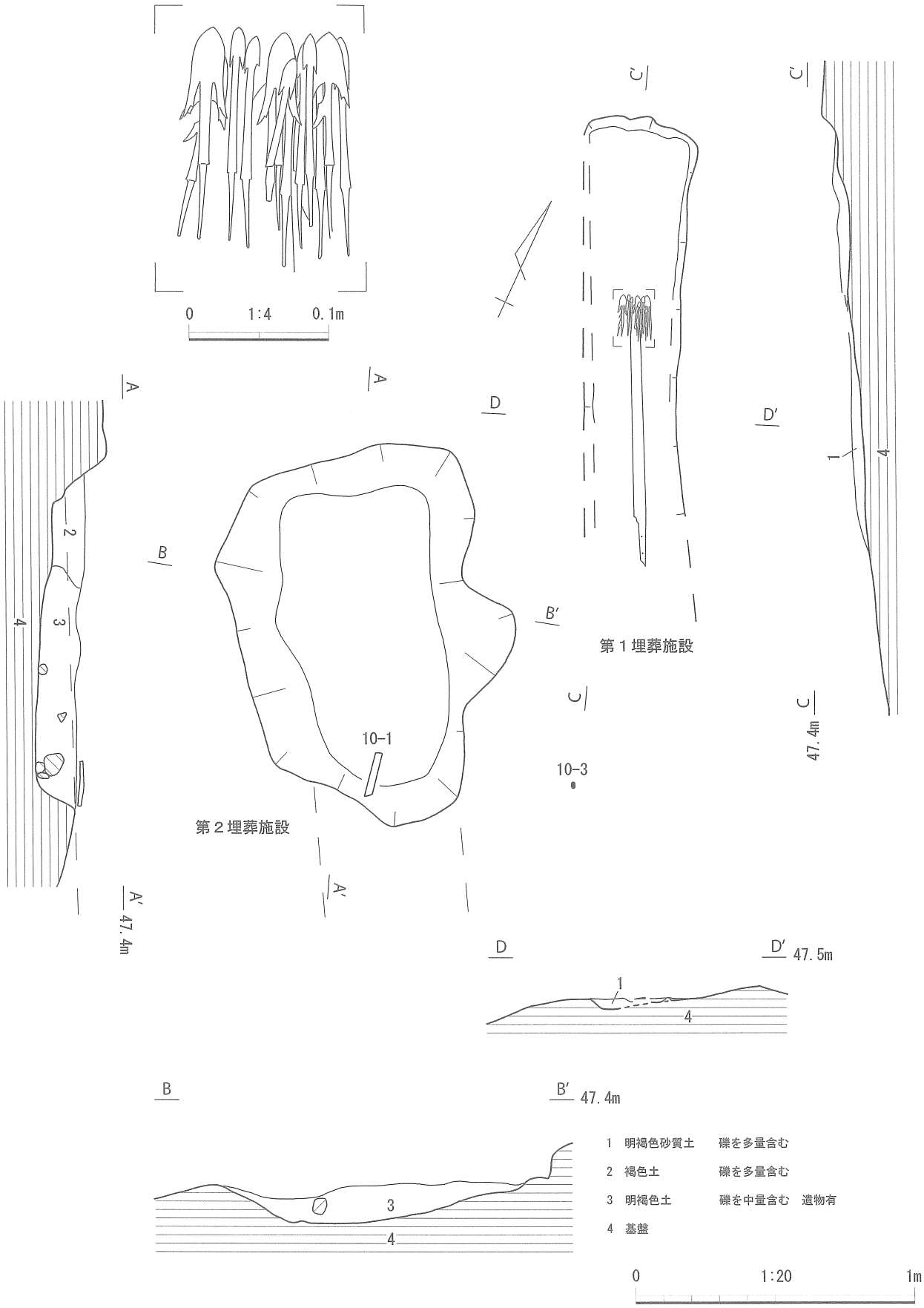



第６図　志味堂古墳群・横穴群　西区　平面・立面図




第７図　志味堂古墳群　実測図



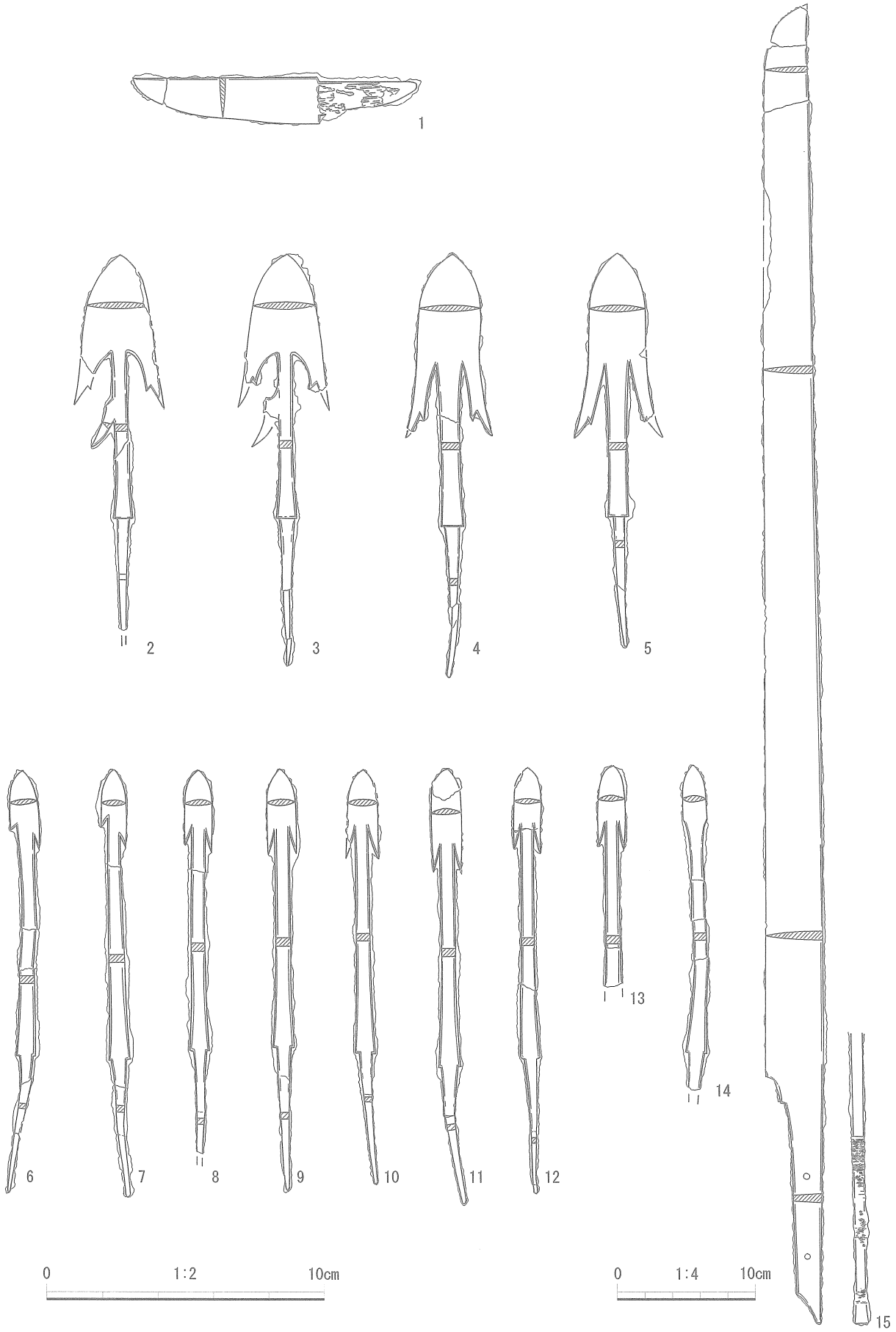

第８図　志味堂１号墳　埋葬施設実測図

尖根式はみな柳葉式に属する。６と７は段違い関、14は撫関と３種が存在する。
段違い関の類例としては香川県川上神社古墳、兵庫県王野大塚古墳があげられる。
いずれにも茎部に木質などの痕跡は残っていない。
刀９-15は先端部をわずかに欠損しているが、長さ95.5cmである。鎬は無く、関が二段、茎尻は隅抉尻である。
目釘は２カ所、茎の背側に把巻の紐の痕跡が残っている。

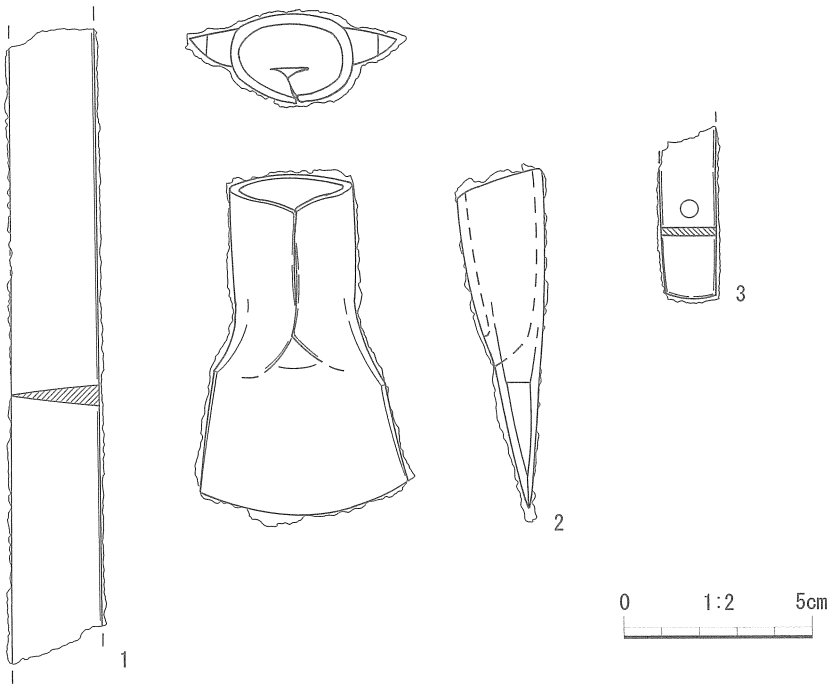
鏃の形態から埋葬時期は中期後葉と考えられる。
鉄鏃は刀、刀子の上に置かれていた。出土状態を詳しくみると、平根式が尖根式の間に挟まれたような状態であった。平根式のうち３と５が隣り合っていたことから、独立片逆刺の有無は関係なく、４本で１セットと扱われたと想像できる。そこから尖根式が４本と５本の２セット、さらに返りのない14を除いて考えると、４本のセットで尖根式の間に平根式を挟んで置かれた可能性を指摘できる。
出土時には多少崩れていると考えて復元すると、６，７，９，11が下で８，10，12，13が上であった可能性が考えられる。
尖根式の中で段違い関２本は離れていたが、間にあったのが刀子、返り無し14と９である。
刀子、14が中心付近に刀に接して出土していることから、刀、刀子と14、段違い関を含む４本、平根式４本、尖根式４本の順で置かれたと、かなり推定を含んでいるが想像できる。

・第２埋葬施設（第８図　図版３）
第１埋葬施設の南側、約50cm離れて検出された。両端が欠損した刀が出土している。
刀が欠損していることと、土層の状況から攪乱である可能性も捨てきれない。しかし、確認したプランが第１主体部とほぼ平行していて、刀が遺構のプランにほぼ平行・水平であることから、埋葬施設で刀もあまり動いていないと考えたい。
丘陵全体は砂岩と泥岩の互層であるが、ごく一部の層は砂層である。全体的に地層が傾斜しているために、所々の丘陵上に砂層が現れており、この遺構が検出されたのがそのような地点である。周囲の砂よりもさらに柔らかい遺構内に多くの根が入ることによって、プランおよび土層が乱され、明確に遺構を検出することができなかったと考える。
覆土には底部付近にも基盤層を形成している礫が含まれる。埋葬施設掘削時においても柔らかい砂層を掘りすぎてしまい、礫を含んだ土で床面をならした後に棺を収めたのではないだろうか。
幅80cm、長さ130cm、深さ15cmを検出したが、実際はより小さかったと考えられる。

第２埋葬施設・埋葬施設外出土遺物（第10図　図版８）
第２埋葬施設から出土した刀10-１は刀身部の破片で約17cmが残存していた。断面形状は直線的な三角形で、木質は残っていない。
埋葬施設周辺からは刀の茎が出土したほか、確認調査時に袋状鉄斧が出土している。
刀の茎10-３は第２埋葬施設の東約50cmの位置から出土している。刀10-１と同一個体の可能性が考えられる。Ｘ線写真では目釘の穴が認められる。
袋状鉄斧10-２は２つの埋葬施設の東南、約1.5mの位置から出土している。いずれの埋葬施設も東端部分が不明であり、どちらの埋葬施設に伴うものか、または第３の埋葬施設が存在したのかは不明である。袋部の合わせ目は密着しており、刃部は撥形に開き、弧状である。
また、周辺からは図化できないほどの小破片ではあるが、土師器が出土している。




第９図　志味堂１号墳　出土遺物実測図１（第１埋葬施設）




第10図　志味堂１号墳　出土遺物実測図２（第２埋葬施設・埋葬施設外）

⑵　志味堂２号墳（第７図　図版４）

２号墳も丘陵頂部に位置する。埋葬施設は検出されなかったが、表土・明褐色土層を除去すると比較的整えられた形状をしていることと、以下に述べるような遺構・遺物が周囲から検出されたことから古墳として報告する。

頂部の標高は約46m、谷部からの比高差は約28mである。古墳であれば直径７ｍほどの円墳と推定される。

頂部から７ｍほど離れた東側に不明土坑ＳＸ01を検出した。同じく約４ｍの地点からは須恵器の瓿12-３が破片の状態でまとまって出土した。

ＳＸ01（第11図　図版５）

２号墳とした丘陵頂部から７ｍ離れた尾根の主軸上、やや低くなった地点で検出された。根による攪乱が激しく明確なプランは不明であるが、長径3.7m、短径2.2mの楕円形をしている。検出した深さは10cmほどである。底が２段になっているがこれは基盤である岩盤の性質からなったもので特に意味はないであろう。

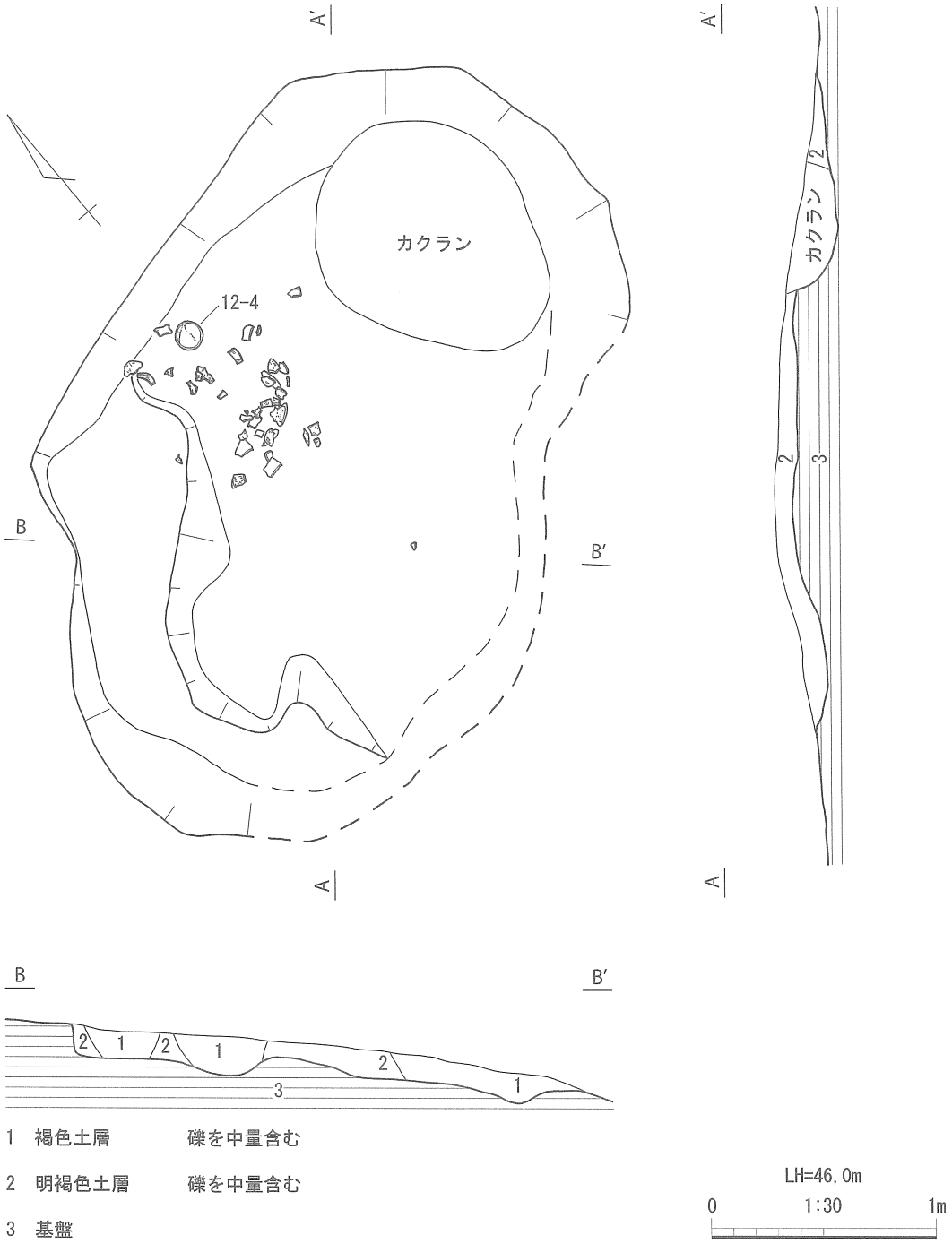
ＳＸ01内からは土師器の杯12-４と須恵器の横瓶12-１が出土した。

土師器杯は完形で土坑内に置かれたものと思われる。横瓶は細かな破片として遺構内に散らばっていた。何らかの祭祀に伴うものであろう。

志味堂２号墳出土遺物（第12図　図版９）

土師器杯12-４は摩滅が激しく調整は不明である。

須恵器横瓶12-１は左右の対称性がわずかに崩れた、やや卵形をした胴部のみで、頸部付近より上を失っている。失われていた破片も多く、最大長は推定である。全体を叩きにより整形した後、工具痕をナデにより消しているが、一部に残っている。図の左半分に縦方向の回転ナデを荒く施している。内面にもわずかに縦方向のナデが確認できる。また、図に示した左端部付近はほとんど生焼けであることか



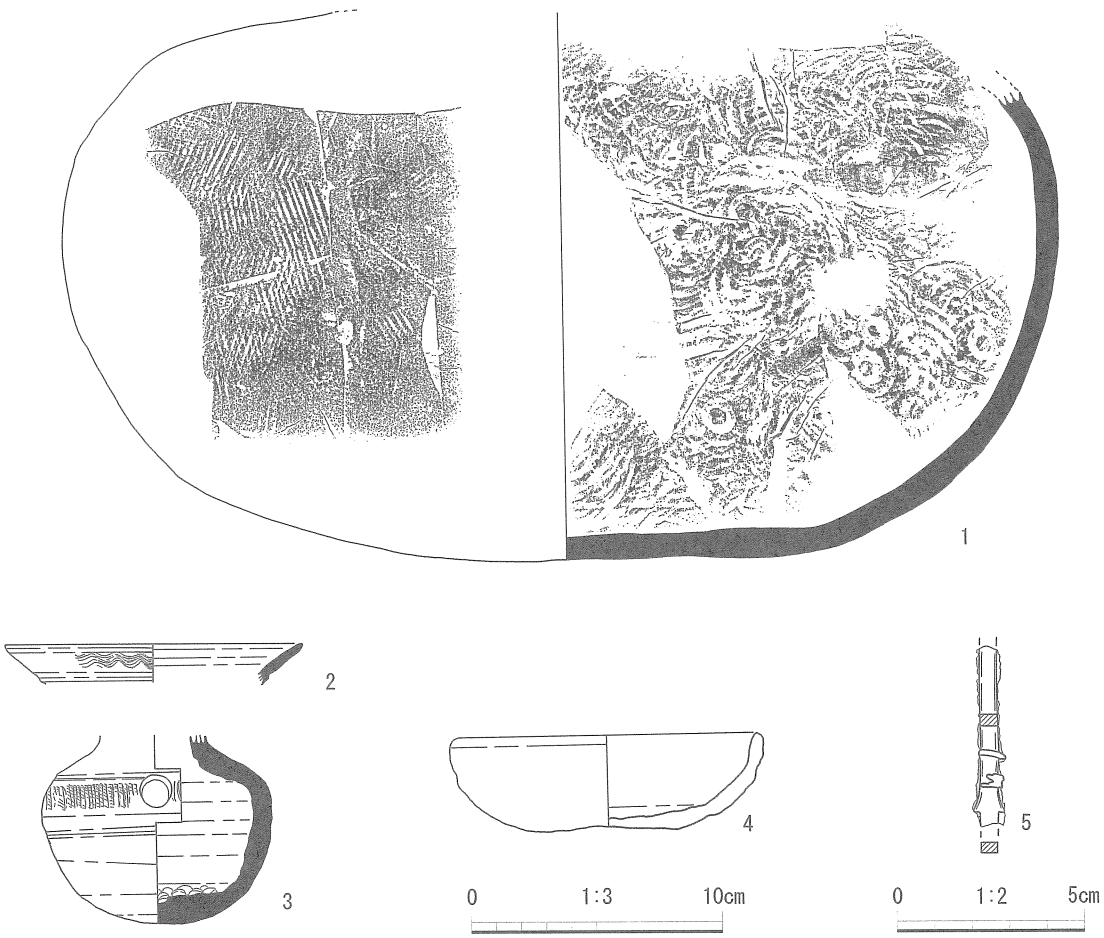

第11図　志味堂２号墳　ＳＸ01　実測図

ら、その部分を床に着けた状態で焼成されたことがわかる。６世紀後半ごろと考えられる。

ＳＸ01と２号墳の間で出土した須恵器甕片が12-２・３である。

12-３は頸部以上が失われていた。全体的には暗青灰色を呈しているが、一部鈍い赤褐色の部分がある。回転ナデによる仕上げを施し、底部は横方向にナデている。注口の上下に一条ずつ沈線を巡らせ、間に櫛状工具による刺突文を密に施している。内面底部には直径８㎜ほどの円形の工具痕が多く残っている。こちらも６世紀後半ごろに比定できる。

12-２は須恵器口縁部の小破片である。外面に波状文が施され、その下には段が作られている。甕で12-３と同一個体の可能性が考えられる。12-２以外に頸部以上の破片が見られないことから、意識的に




第12図　志味堂２号墳　出土遺物実測図

分離された可能性を指摘できよう。

ＳＸ01の北東約２ｍの地点から鉄鏃破片12-５が出土した。長頸鏃の頸部で台形関に分類できよう。

(3)　小結

志味堂古墳群では埋葬施設を２基持った１号墳と埋葬施設が検出できなかった２号墳の調査を行った。１号墳は副葬品から中期（５世紀）後葉に築かれた円墳と認められる。２号墳は古墳ではない可能性もあるが、６世紀後半の遺物を伴う土坑があることから、その時期に何らかの祭祀的行為が営まれたことは確実である。

また、丘陵南斜面に存在する横穴群を考慮に入れると、墳丘を持つ横穴墓の墳丘部分とみなすことも考えられるのだが、Ｃ３号横穴と２号墳とした高まりとでは離れている印象を受ける。また、後に示すように横穴からは出土したのは６世紀末以降の遺物であり、積極的に肯定できない。ただし、Ｃ３号横穴の西側は調査区外で調査を行っていない。開口しているものはないが、埋没している横穴が存在する可能性は否定できない。

確認調査の結果、丘陵上に遺構がある地点では南斜面に横穴墓が存在し、逆に丘陵上になにもない地点では横穴墓も存在しないという対応関係が認められる。調査区の東に志味堂横穴群Ａ群が存在しているが、その上の丘陵頂部も地形的には古墳の可能性が考えられ、ここでも対応関係が推定される。

横穴を築く際には、丘陵上の古墳の存在が意識されていたことが推測される。

## 第３節　志味堂横穴群の遺構と遺物

志味堂横穴群の調査区は東区と西区に分かれており、東区で横穴墓７基、西区で横穴墓３基を検出した。(第４～６図)

調査区を外れた東区のさらに東、谷の最深部に横穴墓が３基開口しており、この群がＡ群、東区の７基がＢ群、西区の３基がＣ群である。(第４図)

各横穴の玄室の形態、玄室・羨道などの計測値を表３に示す。

**表３　志味堂横穴群　計測値一覧表**

| 横穴名 | 墓前域 | 玄室形態 | | 玄室（m） | | | | | 羨道（m） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 平面形 | 断面形 | 長さ | 最大幅 | 最大高 | 床面積 | その他 | 長さ | 最大幅 |
| Ｂ１号横穴 | 単独 | 横長楕円形 | ドーム | 2.3 | 2.9 | 1.3 | 6.0 | | 1.9 | 1.7 |
| Ｂ２号横穴 | 共有？ | 横長楕円形 | ドーム | 2.1 | 2.5 | 1.1 | 3.7 | | 1.2 | 1.1 |
| Ｂ３号横穴 | | 横長楕円形？ | ドーム | 1.7 | 2.1 | 1.3 | 2.9 | | 1.2 | 1.3 |
| Ｂ４号横穴 | | 台形 | ドーム | 1.6 | 1.3 | 1.1 | 1.5 | | 1.1 | 0.8 |
| Ｂ５号横穴 | 単独 | 台形 | ドーム | 1.4 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 棺台0.4×0.6 | － | － |
| Ｂ６号横穴 | 単独 | 台形？ | ドーム | 1.2 | 1.2 | 1.0 | 0.8 | | 0.8 | 0.7 |
| Ｂ７号横穴 | 単独 | 台形？ | ドーム？ | 1.0 | 1.3 | 0.6 | 0.5 | | － | － |
| Ｃ１号横穴 | 共有？ | 横長楕円形？ | ドーム？ | 2.0 | 1.8 | 1.2 | 2.0 | | 1.3 | 0.7 |
| Ｃ２号横穴 | | 横長楕円形？ | ドーム | 2.7 | 2.4 | 1.7 | 4.7 | | 1.5 | 0.9 |
| Ｃ３号横穴 | 単独 | 台形？ | ドーム | 2.2 | 1.9 | 1.2 | 3.0 | | 0.9 | 1.0 |

なお、各横穴の実測図に示した工具痕は奥壁、側壁において比較的依存状態がよい部分のみを図化している。

### (1)　志味堂横穴群Ｂ群（第５図　巻頭図版４　図版10)

Ｂ群が位置していた地点は高さ約５ｍ、幅約15ｍにわたってほぼ垂直に岩盤が露出し、Ｂ１～４号横穴が調査以前に開口していた。Ｂ５～７号横穴はいずれも小型の横穴であり、完全に埋没していた。

標高は40～45ｍ、Ｂ１、６号横穴は現状で山道と同じ高さの地点であり、Ｂ２～５、７号横穴は壁の上段、道から２～３ｍ高い位置に作られている。丘陵尾根上からは５～７ｍ下である。

Ｂ２～４号横穴では墓前域と呼べる空間は無く、調査時はかろうじて人が一人立てる状態であった。壁面の崩落を考えても築造時には１ｍほどの空間しかなかったと考えられる。

・Ｂ１号横穴（第13・14図　図版11～13)

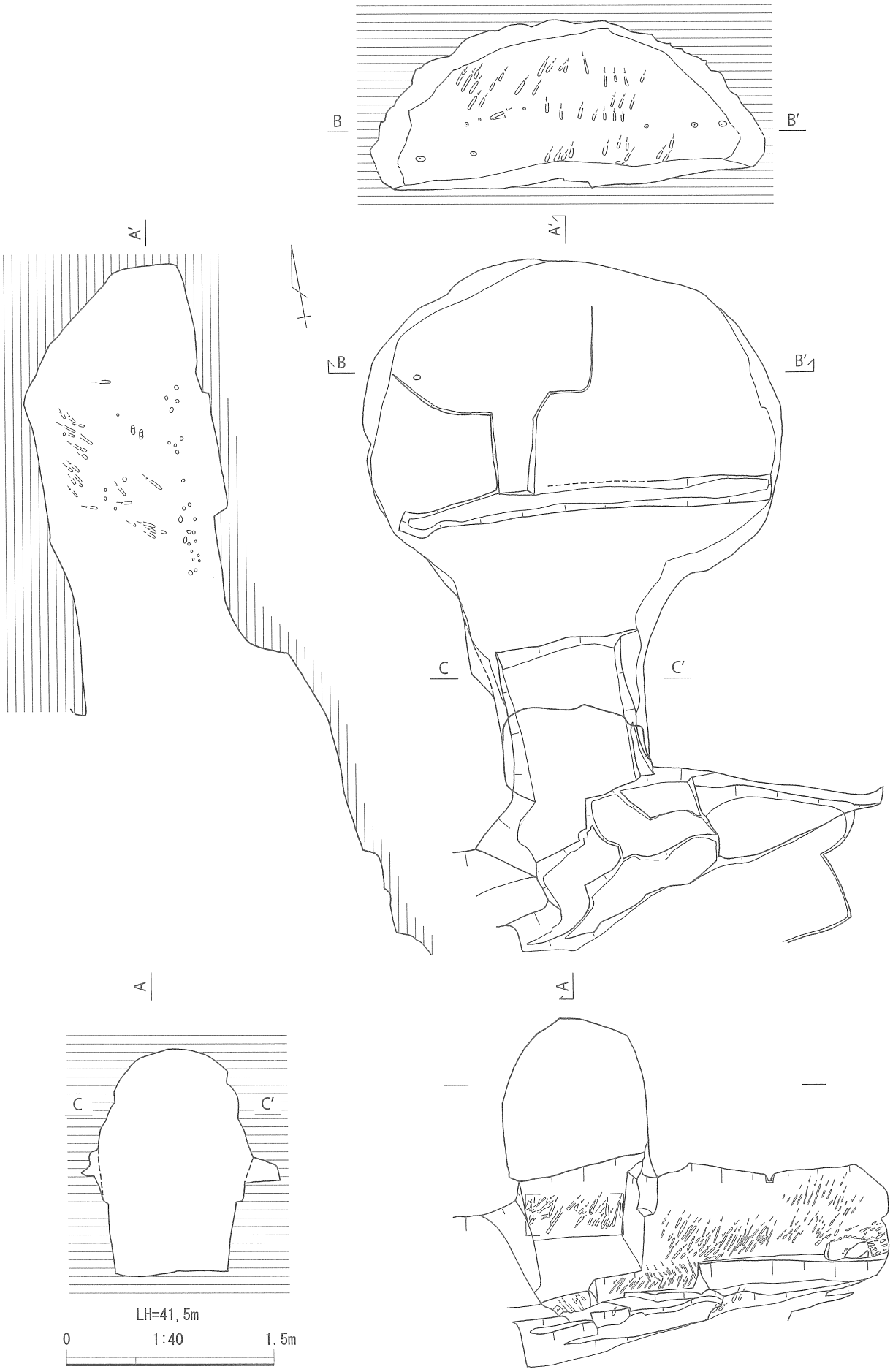
Ｂ群の東端に位置している。７ｍ東側は切り通しになっており、前面が山道となっていた。調査以前には完全に開口し、覆土もほとんど無い状態であった。羨道部が玄室より50㎝ほど下がった段になっていて、その部分のみが埋没していた。閉塞石は残っていなかった。墓前域は用地境にあたるために全体を調査していない。

Ｂ群の中ではもっとも大きい横穴である。平面形は横長楕円形でドーム形の天井である。

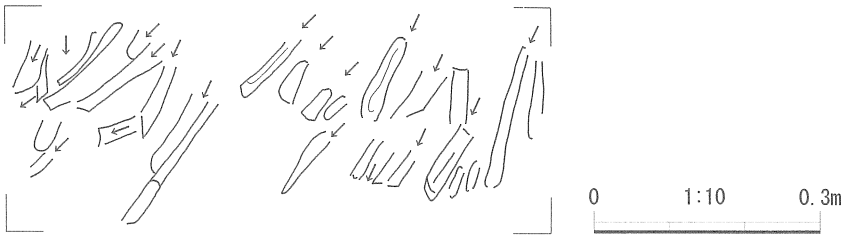
玄室中央よりやや手前に幅約20㎝、深さ約10㎝の溝が掘られている。溝から奥にもわずかな段差がみられるが、意図したものというよりは岩盤の性質によるものであろう。

玄室内の鑿状の工具痕は右上から左下に明瞭に残る。10～20㎝間隔で、仕上げたような痕跡は見られず、剥離痕も目立つ。天井、床面にも工具痕が残っている。

墓前域もいくつかの段に分かれているが、こちらも岩盤の性質によるものであろうが、小さな段でも




第13図　志味堂横穴群　Ｂ１号横穴　実測図




第14図　志味堂横穴群　Ｂ１号横穴　工具痕実測図

工具痕がみられることからある程度整えようとしたのであろう。

入り口下、墓前域正面壁に明瞭に工具痕が残る。右上から左下に向かい、工具の幅は２㎝、長さは20㎝ぐらいが多い。間隔は５㎝ほどで玄室内よりも密で、丁寧に掘られている印象である。

出土遺物は土師器・須恵器の少破片のみで、図化できたものはなかった。

・Ｂ２号横穴（第15図　図版14・15）

Ｂ１号横穴の西約３ｍ、1.5ｍほど高い位置にある。平面形は横長楕円形、ドーム形の天井である。

調査以前に開口していた。閉塞石は１段分ほど残っていたが、玄室側、羨門側は原位置を保っていない。

玄室の壁には、幅1.5㎝の鑿状工具痕（10㎝ほどの間隔）と幅4.5㎝の工具痕（長さ15㎝以下）の２種類がみられる。方向は上から下である。鑿状工具で岩盤を割るように掘削した後、幅広の工具で仕上げたのであろうが、剥離の跡が目立っている。天井部では仕上げのような痕跡はない。

羨道部にも鑿のような工具痕が残る。仕上げの跡はほとんどわからないが、幅３㎝ほどの痕跡がわずかにみえる。右上から左下に向かっている。

Ｂ２号横穴出土遺物（第16図　図版24）

出土遺物の土器類は土師器・須恵器の少破片で図化できたものはなかった。金属製品には以下のものがある。

刀子16-１は茎部分と刃部が約1.5㎝残っている。

16-５は刀の柄の破片である。全面に木質が残る。

16-６は鍔であるが、全体像はつかめない。

16-２～４は鉄鏃の破片である。16-２は平根式の鏃身であるが鏃身関部がほぼ直角であること以外は不明である。16-３は尖根三角形式で、鏃身関がわずかに鋭角である。16-４は頸部の破片である。

耳環16-７は銅芯のみが残り、金、銀などの箔は残存していない。

16-８は残存長が約９㎝で、棒状を呈している。破損が激しく、本来の外面はほとんど残っていない。わずかに残っている部分から、直径１㎝ほどの円形のものであったことが推測されるのみである。

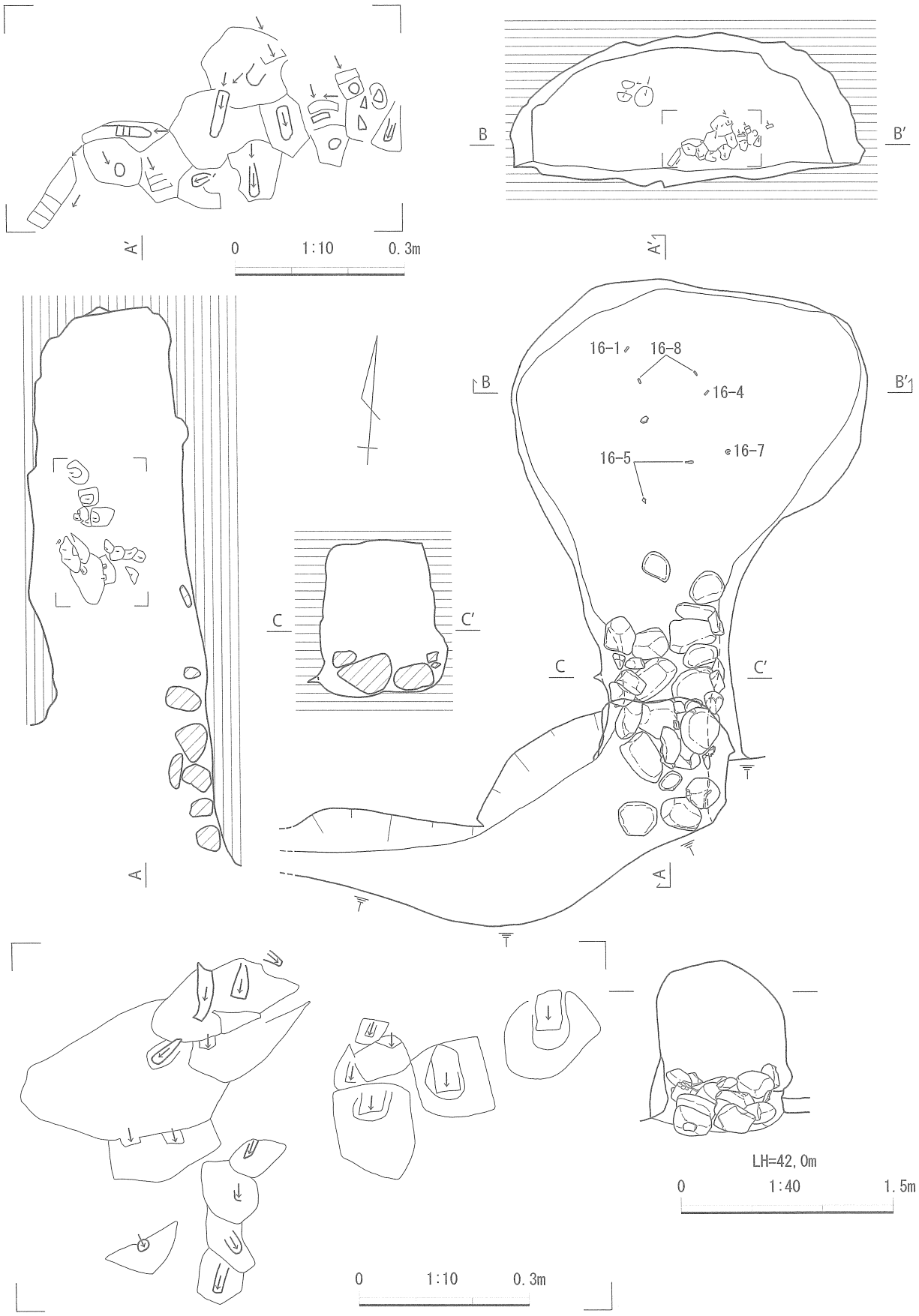
・Ｂ３号横穴（第17図　図版16～18）

Ｂ２号横穴の西、約３ｍ離れ、ほぼ同じ高さに位置する。調査以前に開口していた。

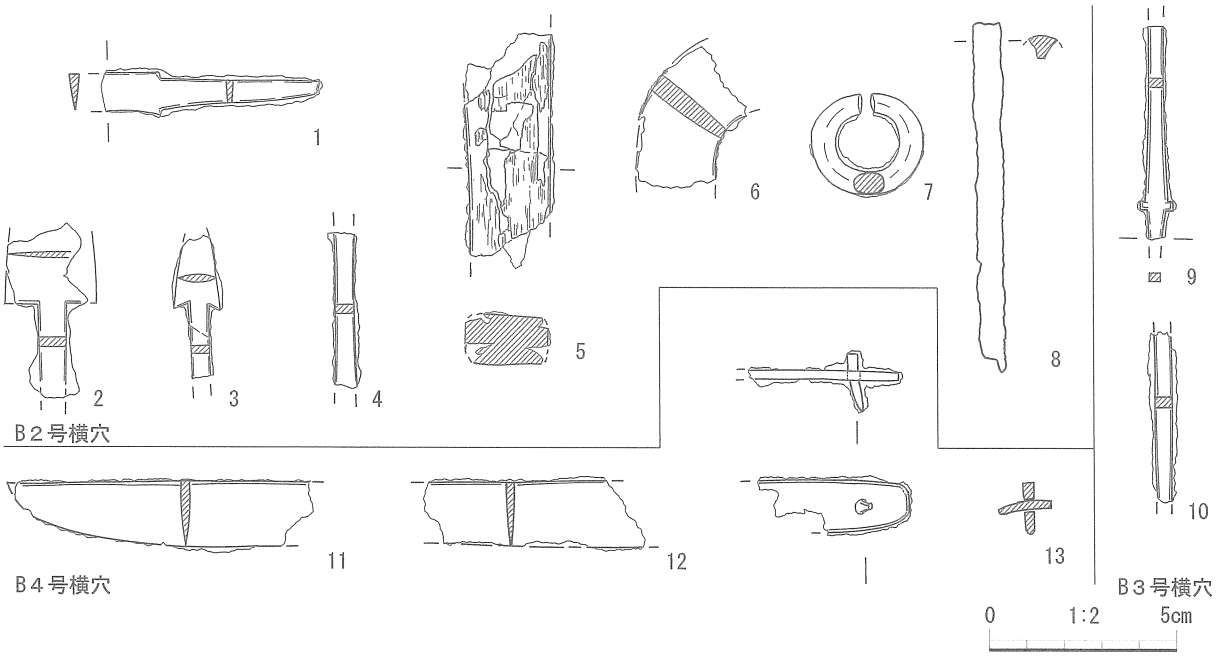
平面形は東壁が直線的だが、西側は丸く、横長楕円形になるであろうか。断面はほぼ半円形のドーム形である。閉塞石が残っていたのはごく一部であり、原位置を保っているかは不確実である。

玄室中央よりやや手前、東側にある幅、深さともに約５㎝の溝状の部分は、人為的に掘られたものであろうが、その他の段差が人為的であるかは不明である。

玄室内、幅２㎝の鑿状工具痕が右上から左下へ、10㎝の間隔でみられる。鑿状工具を壁に沿うように




第15図　志味堂横穴群　B２号横穴　実測図




第16図　志味堂横穴群　Ｂ２・３・４号横穴　出土遺物実測図（金属製品）

使用して仕上げているようである。天井は岩盤の割れた面をそのままにしている。床にも工具痕がわずかに残る。

羨道部は出口付近にのみ、幅４cmほど横方向、横穴外から内に向かって、やや斜め下へ向かう工具の痕跡が認められた。

Ｂ３号横穴出土遺物（第16・18図　図版23・24）

出土土器は小破片ばかりであったが、接合の結果図化できたものは他の横穴に比べ多く、第18図に示した。

18-１、２は土師器で１は皿もしくは盤、２は盤である。全面に赤彩が施され、１は内外面ともに横方向のミガキが見られる。同一個体の可能性もある。

３～13は須恵器で、３は坏蓋である。外面にわずかに自然釉が付着している。

４～９は坏身で、４～７は無台坏、８と９は高台坏である。４、６、７は底部を回転ヘラ削りにより仕上げている。８は屈曲して直線的に立ち上がる。９は四角く開いた高台が付く。

10、11は高杯である。10は半球形の坏部の破片であり、内面に自然釉がまばらに付着している。11は脚部の端である。

12は高台のついた底部である。内面に自然釉が付着している。壺もしくは甕と考えられる。13は盤の口縁部である。

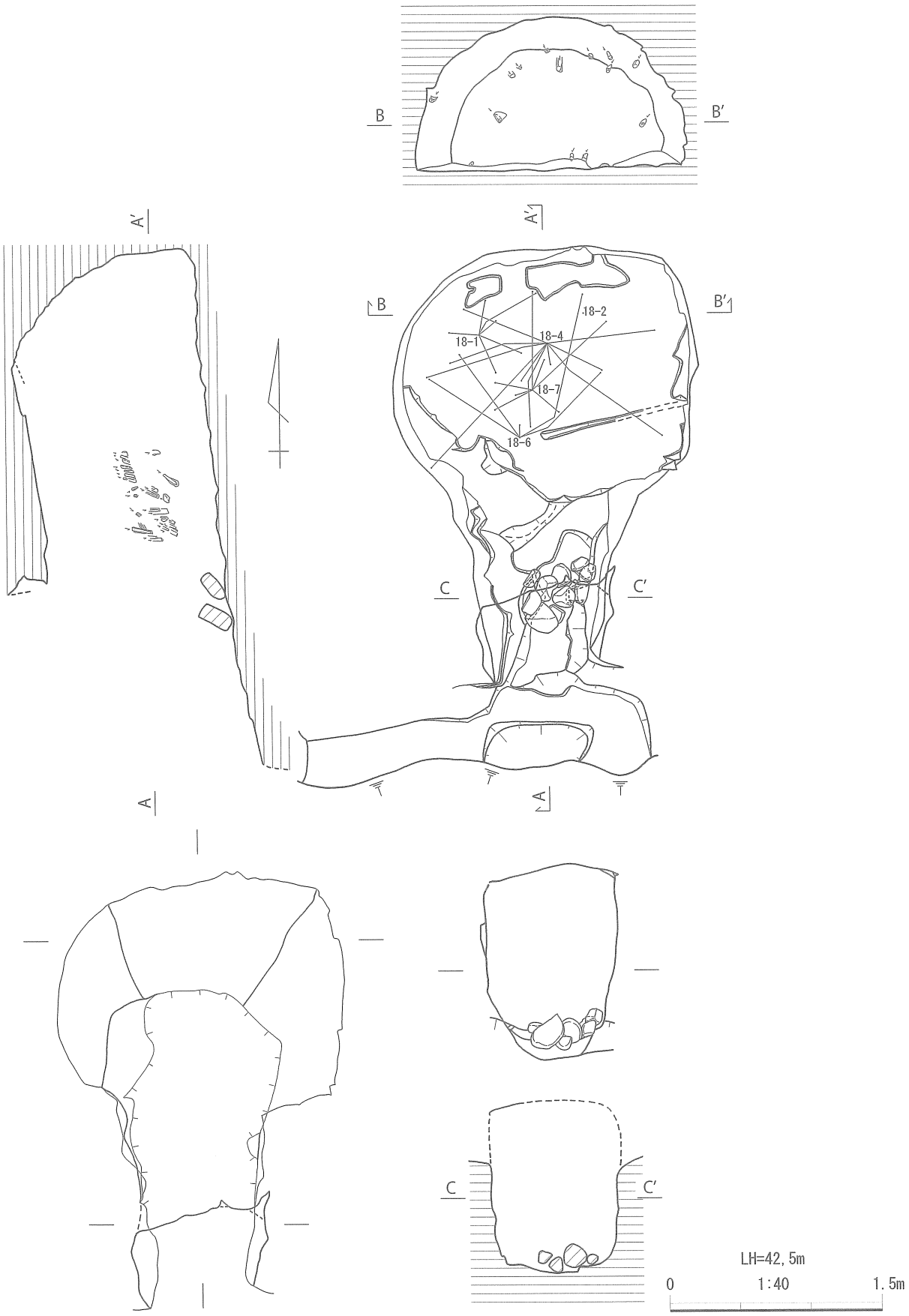
以上の土器群はおおむね７世紀末から８世紀初頭に比定できるが、９～11は８世紀中頃の可能性もある。

図化していないが、他にフラスコ瓶と思われる壺系の胴部片が出土している。

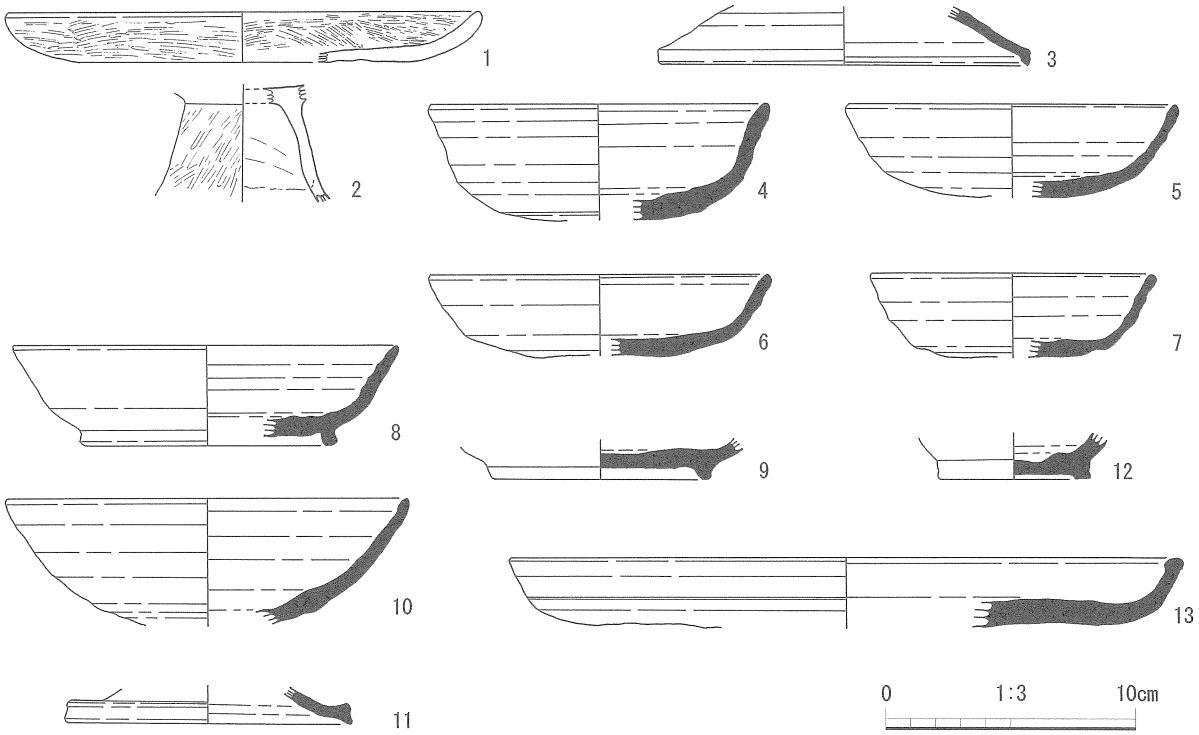
金属製品には鉄鏃の破片が２点ある。ともに頸部の破片であるが、16-９は棘関であることがわかる。

他に留め具のような破片が出土している。

調査以前に開口し、少破片の遺物が散乱している状態であった。よって正確な開始年代、追葬の状況は求めがたいが、７世紀の末から８世紀中頃にかけて複数回の埋葬が行われたことがうかがわれる。




第17図　志味堂横穴群　B３号横穴　実測図



第18図　志味堂横穴群　Ｂ３号横穴　出土遺物実測図（土器）

・Ｂ４号横穴（第19図　図版19・20）

Ｂ３号横穴の西、約２ｍ離れ、ほぼ同じ高さに位置する。

玄室と羨道の境はなく、平面形は台形である。天井は少し崩落しているが、断面はドーム形とみなせる。

閉塞石は１段目が残っていた。一部を除いて原位置を保っていると思われる。

工具痕は右上から左下に向かい、10～20㎝間隔である。床面にも工具跡が残る。

Ｂ５～７号横穴ほどではないが、玄室が小さいことから改葬墓である可能性が考えられる。埋葬形態の違いは、調査以前にすでに開口していたとはいえ、覆土をふるいがけした結果土器類は検出されず、下に示す刀のみが出土したことにも現れているかもしれない。

Ｂ４号横穴出土遺物（第16図　図版24）

出土したのは、金属製品で刀の破片が３点のみである。

16-11が切先、16-12は刃部、16-13は茎部である。同一個体である可能性が考えられるが、全体像は不明である。16-13には目釘が残る。

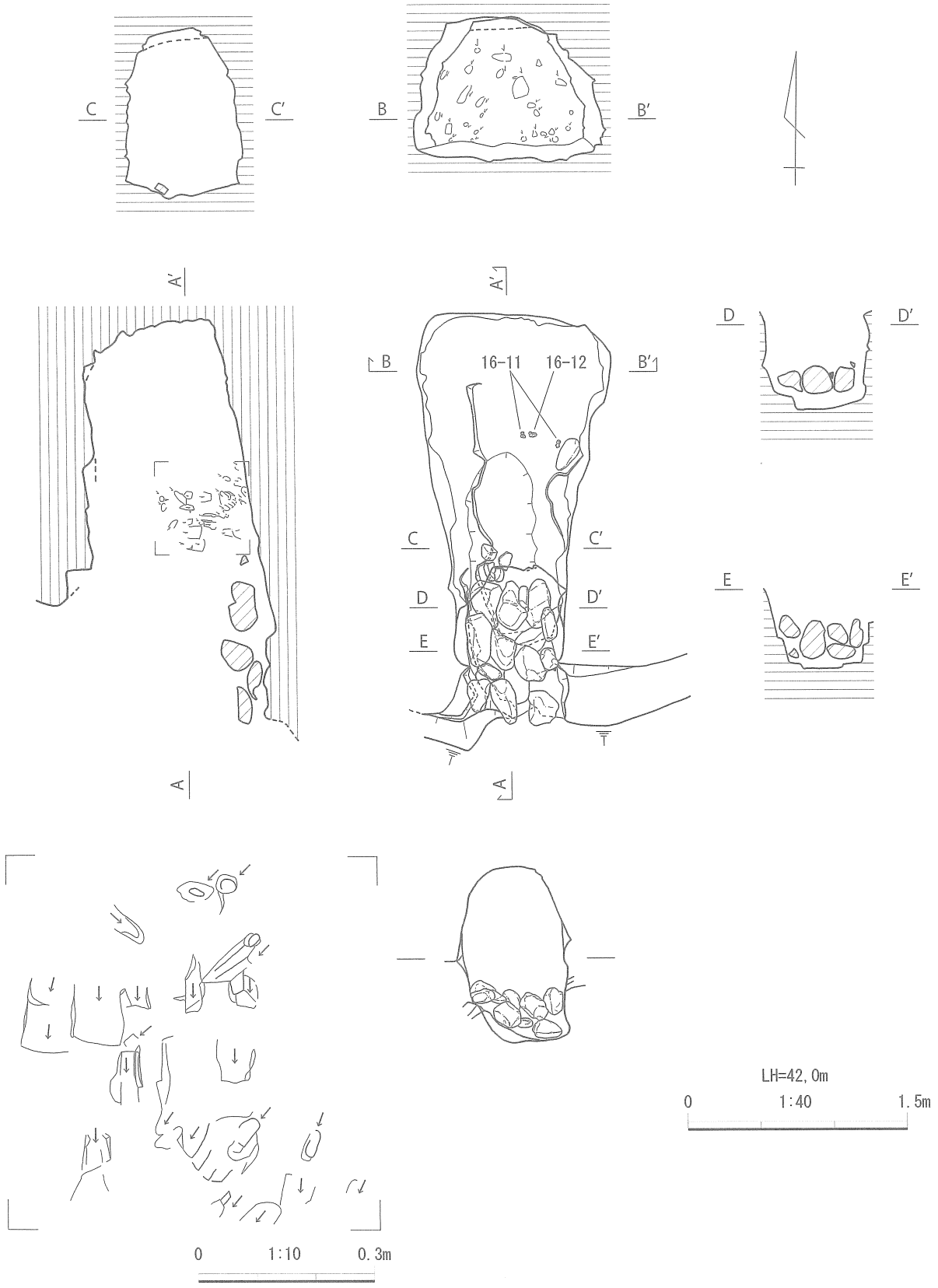
・Ｂ５号横穴（第20図　図版21）

Ｂ４号横穴の西、約２ｍ離れ、１段下がって、１ｍほど下に位置する。いわゆるミニ横穴墓である。調査以前には完全に埋没していた。閉塞石はみられなかった。

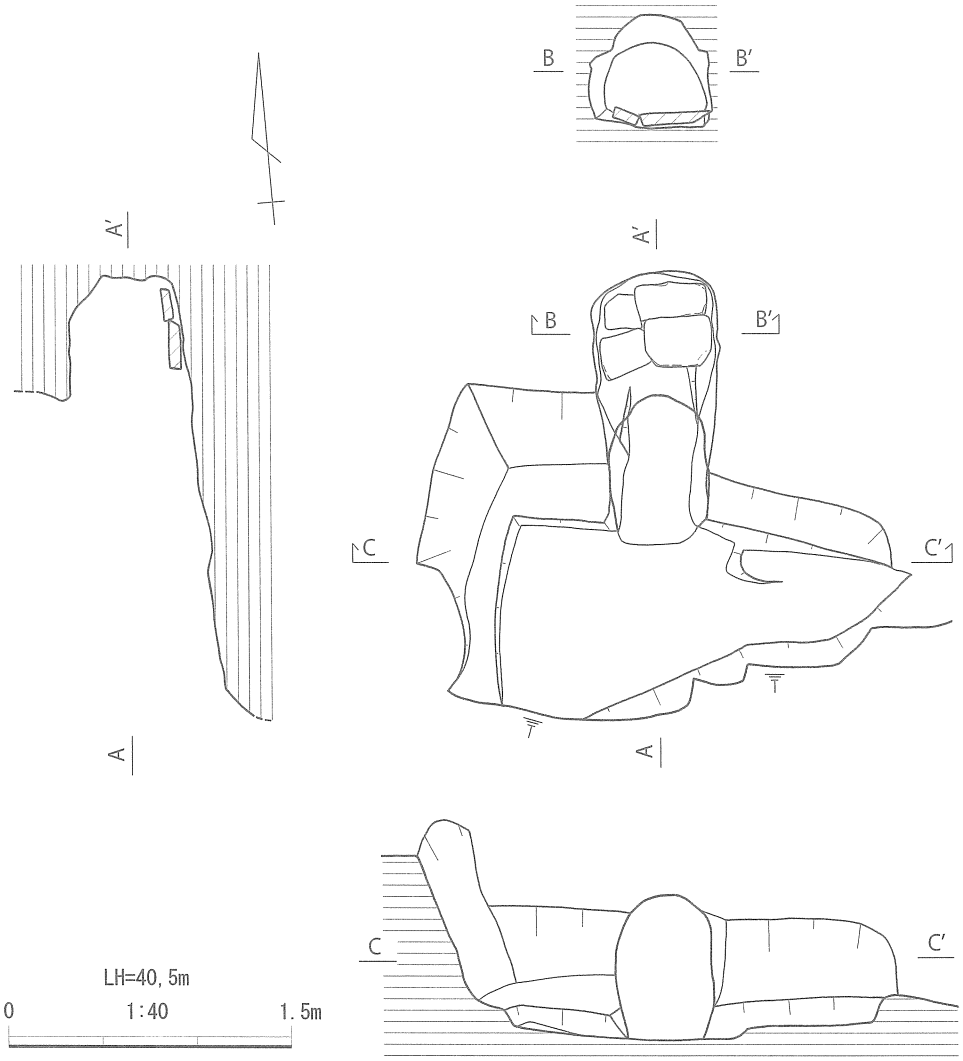
玄室と羨道の境はなく、平面形はわずかに台形状である。断面はドーム形である。

玄室内に棺台の石が４枚検出された。丘陵を形成している泥岩である。厚さは約５㎝、20～40センチの板状の四角い石を４枚組み合わせて、約40×60㎝の台を作っている。石には加工痕はみられなかった。

壁の加工痕は観察できなかった。全体を通じてでもあるが、埋没していた部分の方が加工痕の残りは悪い場合が多かった。




第19図　志味堂横穴群　Ｂ４号横穴　実測図




第20図　志味堂横穴群　Ｂ５号横穴　実測図

墓前域が２×１ｍほど検出されたが、崩落があったことを考慮すれば本来はもう少し広かったであろう。

羨門両側の岩壁を削り、四角い空間を作ろうと意識したと思われる。

遺物は全く検出されなかった。棺台の石が乱れていないことから盗掘はあったとしても緩いものであったと考えられる。また、前庭部がほぼ水平に作られていることから、閉塞石、副葬品の土器類があれば多少は出土したと考えられる。埋葬時から閉塞石は無く、棺・副葬品は有機質のものだけであったと思われる。

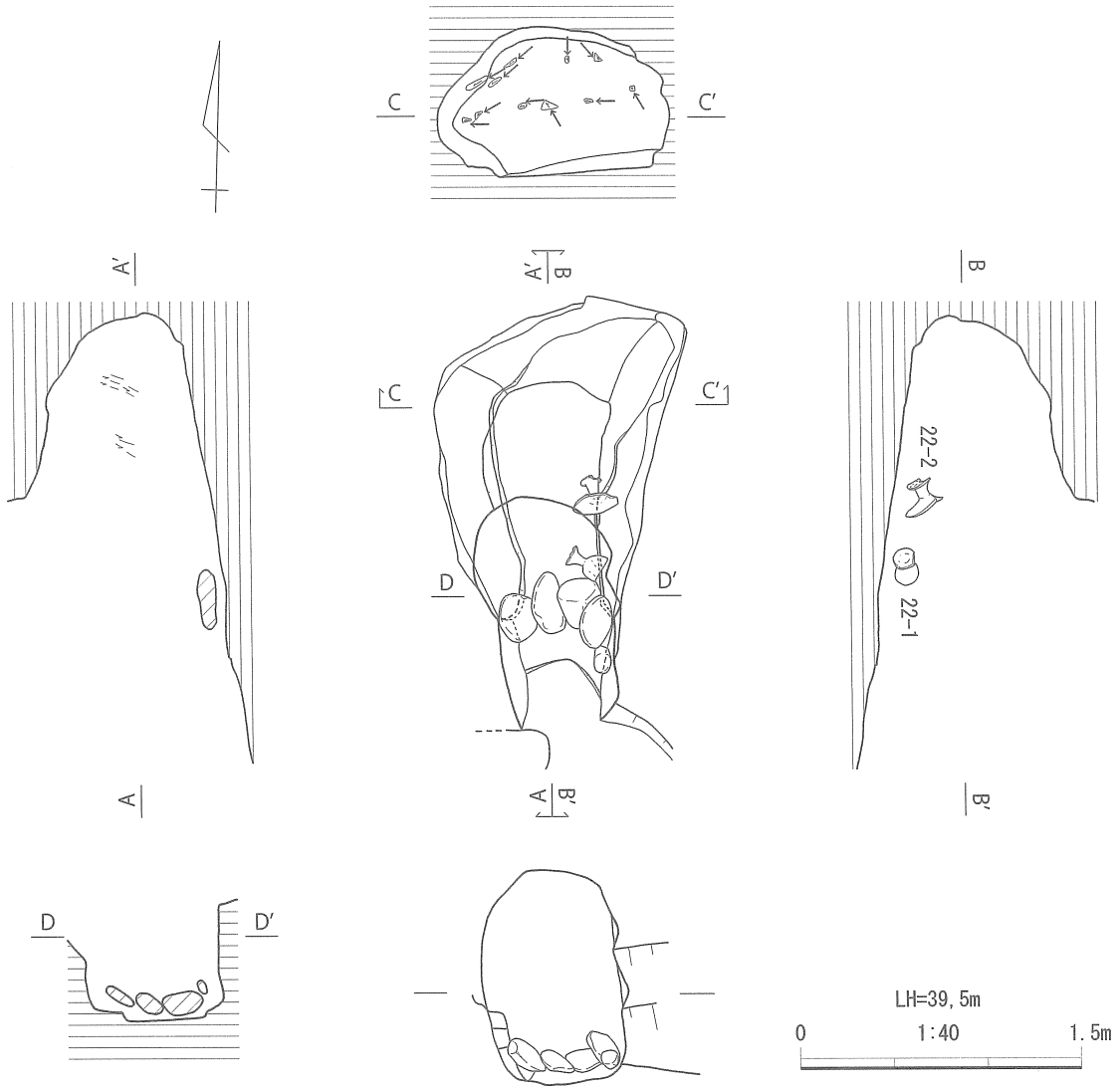
・Ｂ６号横穴（第21図　図版22）

Ｂ１号横穴の西、約1.5m離れ、１段下がって、１ｍほど下に位置する。山道のすぐ脇にあたるが、調査以前には完全に埋没していた。

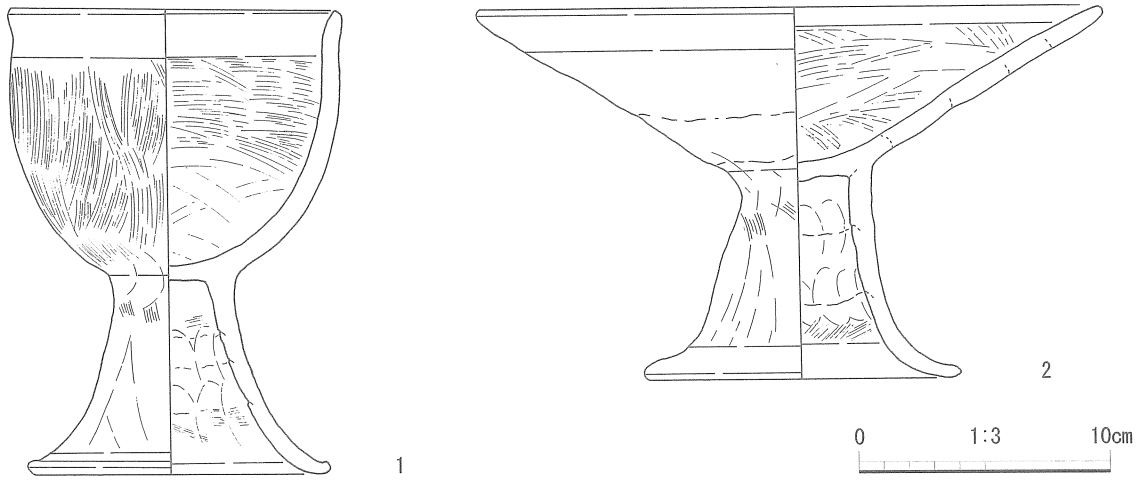
羨門から奥壁中央までが約２ｍと小さく、ミニ横穴墓としてよいであろう。平面形態は東奥に広がっていて、いびつな台形をしている。

閉塞石は１段、30㎝前後の石４個と15㎝ほどの小さな石１個が残っていた。

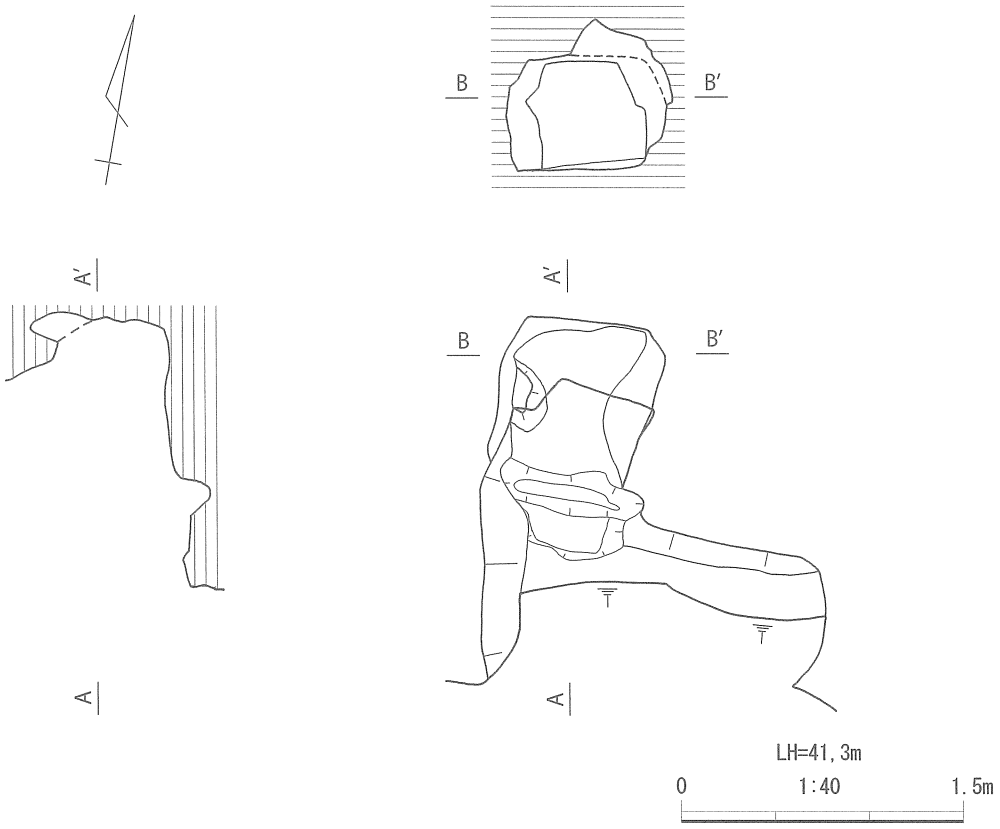
土師器の高坏と高盤が各１点、ほぼ完形で出土している。玄室東側の羨門寄りでほぼ原位置をとどめ




第21図　志味堂横穴群　B 6 号横穴　実測図




第22図　志味堂横穴群　B 6 号横穴　出土遺物実測図




第23図　志味堂横穴群　Ｂ７号横穴　実測図

ていると考えられる。

工具痕は約20cm間隔で右上から左下が主体であるが、奥壁では様々な方向がみられる。発掘時もそうであったが、寝そべるような体勢でなければ掘削できなかったであろう。また、長い柄の工具で外側から掘削した可能性も考えられよう。

土師器がほぼ完形で残されたことから盗掘を受けたとは考えにくい。現代の山道に面していたことから露出していた閉塞石だけが抜き取られたと考えたい。

Ｂ６号横穴出土遺物（第22図　図版25）

土師器で１は高坏、２は高盤である。分類上器種名は異なるが、脚部に大きな違いはみられない。

１は坏部が盌状で内外面ともにハケ調整である。２は坏部が直線的に広がり、内面は横方向のミガキが施されている。ともに８世紀後半に位置づけられる。

・Ｂ７号横穴（第23図　図版22）

Ｂ５号横穴の西、約2.5m離れ、１段上がって、１ｍほど上に位置する。ミニ横穴墓である。調査以前には完全に埋没していた。閉塞石はみられなかった。

木の根などにより、だいぶ崩れている。玄室内の東壁はほとんど崩落し、奥壁・西壁の奥側がかろうじて残っている状態であった。よって平面形は不明確ではあるが、台形もしくはほぼ正方形であったのではないだろうか。断面もドームというよりはほぼ正方形に近いと推定される。

明確な墓前域は検出されなかった。幅1.5mほどの空間を作ったような形跡がわずかに認められたが、横穴は中心ではなく、その西端にあたってしまう。崩落による可能性が考えられる。

遺物は何も検出されなかった。

工具痕は観察できなかった。羨門部分の床に溝のようなものを検出した。基盤層の柔らかい部分に根が入ったと思われるが、遺構であり閉塞石の代わりに板を用いた可能性も考えられる。

(2) 志味堂横穴群Ｃ群（第６図　巻頭図版４　図版26）

Ｃ群が位置していた地点は高さ約５ｍ、幅約20ｍにわたってほぼ垂直に岩盤が露出し、Ｃ３号横穴が調査以前に完全に開口していた。Ｃ２号横穴は確認調査時に下草、落ち葉などを除去したところ、わずかに開口しているのを発見した。Ｃ１号横穴は完全に埋没していた。

標高は38～39ｍとほぼ同じ高さに作られている。丘陵尾根上からは７～８ｍ下である。

Ｃ１・２号横穴はほぼ同じ高さに並び、Ｃ３号横穴は西に約８ｍ離れている。

Ｃ３号横穴の西側にも岩壁は続いているが、調査区外である。開口している横穴は確認できなかったが、小型の横穴が埋没している可能性はある。

・Ｃ１号横穴（第24・25図　図版27～29）

Ｃ群の中で東に位置する。調査以前には入口は埋没し、玄室内も厚く土が流入していた。

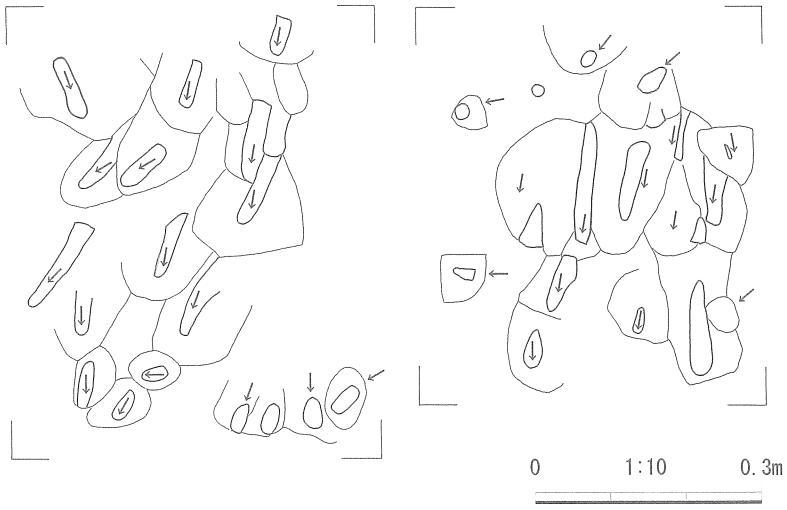
平面形態は奥壁が直線的ではあるが、横長楕円形に近いものである。断面はドーム形よりは台形に近い。岩盤が板状に割れやすい性質であるために直線的になってしまったものと考えられる。

羨道部の上半は壁面が崩落している。その結果、閉塞石を除くことなく横穴に入ることができたため、閉塞石の残存状況はよいものであった。30～40㎝の石を根石とし、拳大までの石を使用して積み上げている。石はいずれも河原石で加工した痕跡は認められなかった。

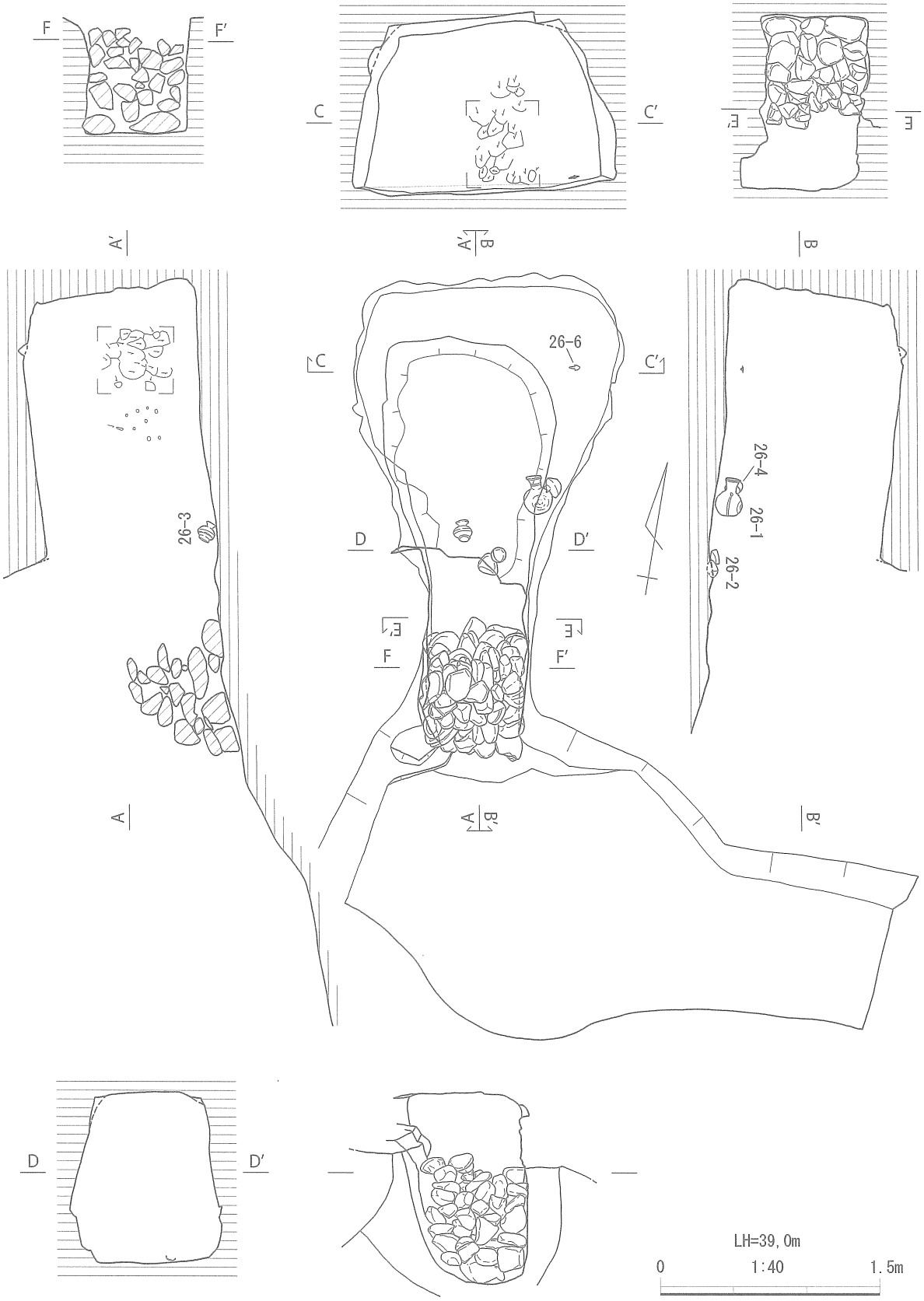
玄室の東よりに鉄鏃が、羨道との境付近に須恵器が４点検出された。盗掘を受けた範囲が玄室付近のみで羨道付近に及ばなかったために残されていたものであろう。

工具痕は幅２㎝、厚さ1.5㎝で、基本的に右上から左下へ掘削している。羨道部の加工痕は不明瞭であるが、４～５㎝幅工具痕がわずかに観察された。玄室の壁では剥離面が目立ち。西壁では壁に垂直に近い方向で打ち込んでいる部分がみられた。

墓前域は羨道部より50㎝ほど下がった面である。東側は崖面につながり、2.5ｍほどが本来の幅であったと思われる。長さは1.8ｍ分検出された。




第24図　志味堂横穴群　Ｃ１号横穴　工具痕実測図




第25図　志味堂横穴群　Ｃ１号横穴　実測図

Ｃ１号横穴出土遺物（第26図　図版36・37）

出土遺物は掘削時に検出した以外に、埋土をふるいがけした結果、鉄鏃を３点検出した。

26-１はフラスコ瓶である。胴部片面（制作時の底部にあたる部分）はヘラ削り、反対側には放射状に文様が施されているが、不明瞭である。底部には外径14cm、幅２cmの環状に焼台の跡が残る。口縁部内面および肩部には自然釉が多く付着している。

26-２と３はセットの脚付短頸壺と蓋である。蓋は天井部に放射状に櫛状工具による刺突が施されている。壺は底部をヘラ削りで仕上げ、脚の接合部をナデている。胴部には蓋と同じ櫛状工具による刺突を施している。かぶせた状態で焼成された結果、蓋外面と壺肩部には自然釉が全面に付着している。

26-４は平瓶である。胴部過半はヘラ削り調整である。肩部には自然釉が多くかかっている。胴部に口頸部を接合した後に回転ナデ整形を行っている。

４点の須恵器はいずれも７世紀前半と考えられ、埋葬の時期を知ることができるが、開始であるのか追葬であるのかは判断できない。

金属製品に鉄鏃４点がある。

26-５～７は平根五角形式である。26-８は茎先端部付近であるが、５か７と同一個体の可能性がある。６と７は鏃身関部が鋭角であるが、５はほぼ直角である。三点とも関部は棘関である。

・Ｃ２号横穴（第27図　図版30・31）

Ｃ１号横穴の西、約２ｍ離れ、50cmほど上に位置する。調査以前にはわずかに開口し、玄室内には土が流入していた。

平面形は奥壁が直線的だが、横長楕円形になるであろうか。Ｃ１号横穴同様、岩盤の性質の影響を受けていると考えられる。東側が広くなっており、拡張している可能性も考えられる。断面はほぼ半円形のドーム形である。

Ｃ１号横穴同様、羨道部上半はほとんど崩落していたが、残っていた閉塞石は根石と２、３段目ほどまでである。

工具痕もＣ１号横穴と同様で、幅５cmほどの工具痕も一部で観察できた。

玄室床中央に穴があるが、出土遺物から後世に墓として利用された可能性が指摘できる。

墓前域は明確な面ではないが、横穴の主軸線より西約1.2mのところから、岩盤を削ることによって、空間を作っている。全体では幅2.5mほどを検出した。Ｃ１号横穴の墓前域とは段があり、明確な共有とはいえないが、空間としては一体である。

Ｃ２号横穴出土遺物（第28図　図版37）

出土遺物は土器類の他に金属製品と玉類がある。

28-１は土師器の高盤の口縁部片である。赤彩が施され、内面は放射状の暗文が、外面は横方向のミガキが施されている。

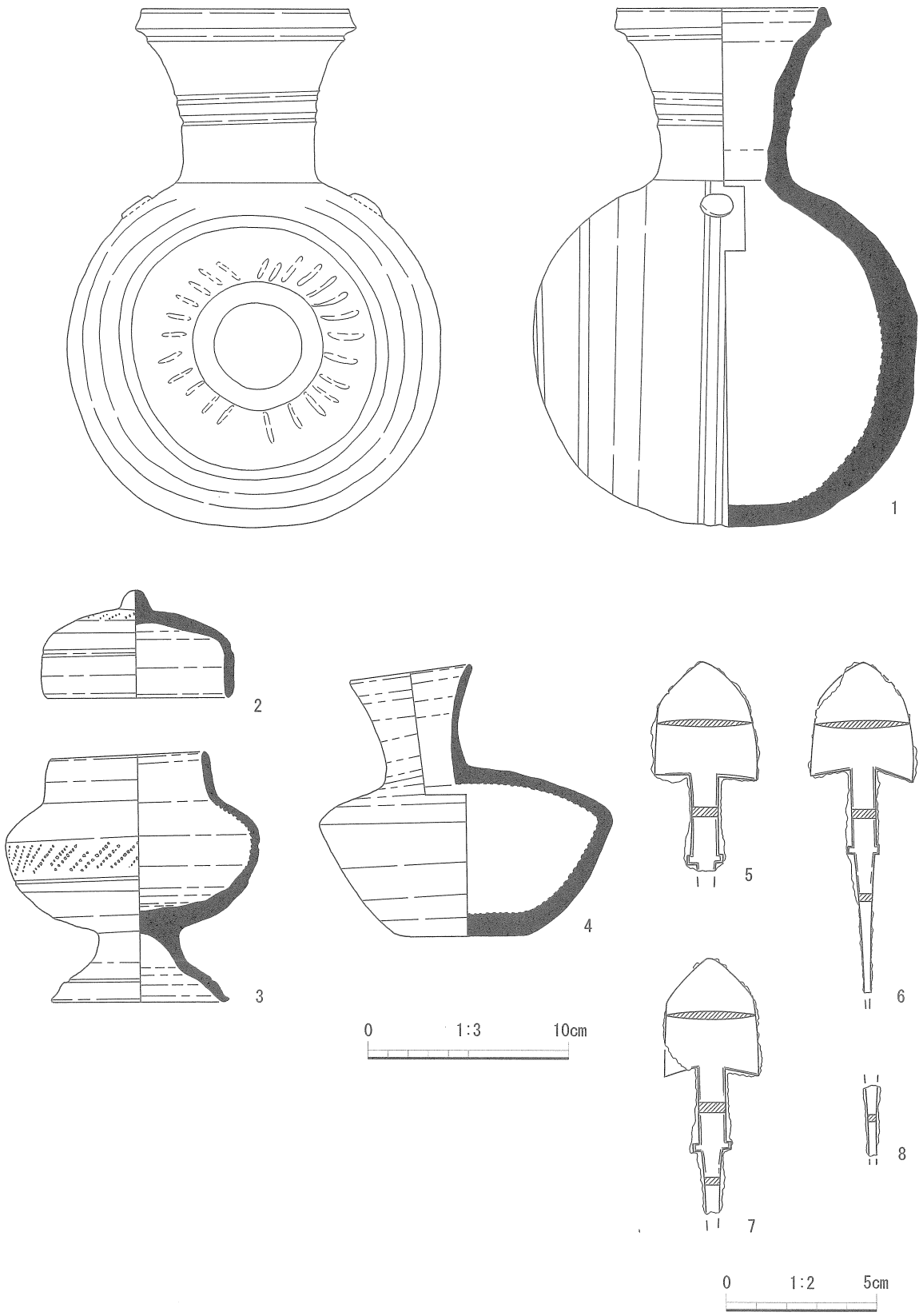
28-２～４は須恵器で、２は坏蓋の口縁部小片である。３は坏身である。やや湾曲した底部から直線的に立ち上がる。４は高台坏である。ヘラ削りの底部に開いて高台が付けられている。

以上の遺物から７世紀末から８世紀初頭にかけて、埋葬が行われたことがわかる。

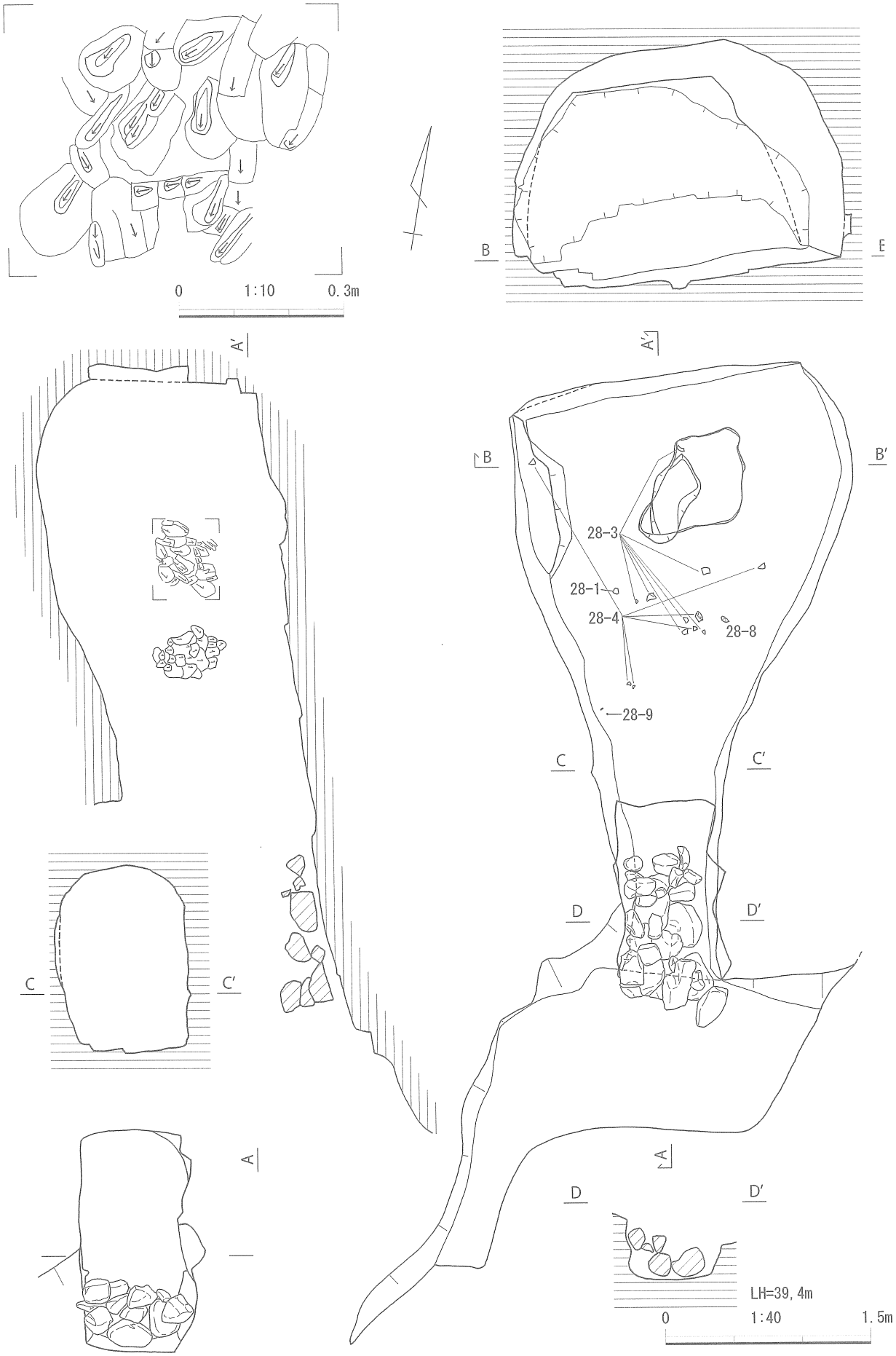
28-５～７は灰釉陶器から山茶碗への変換期の小碗・碗である。11世紀末から12世紀前半にかけてに比定できる。この時期に横穴を利用して埋葬が行われたと考えられる。

金属製品に鍔の破片28-８がある。残存しているのは半分以下であり、全体の形は卵形をしている。

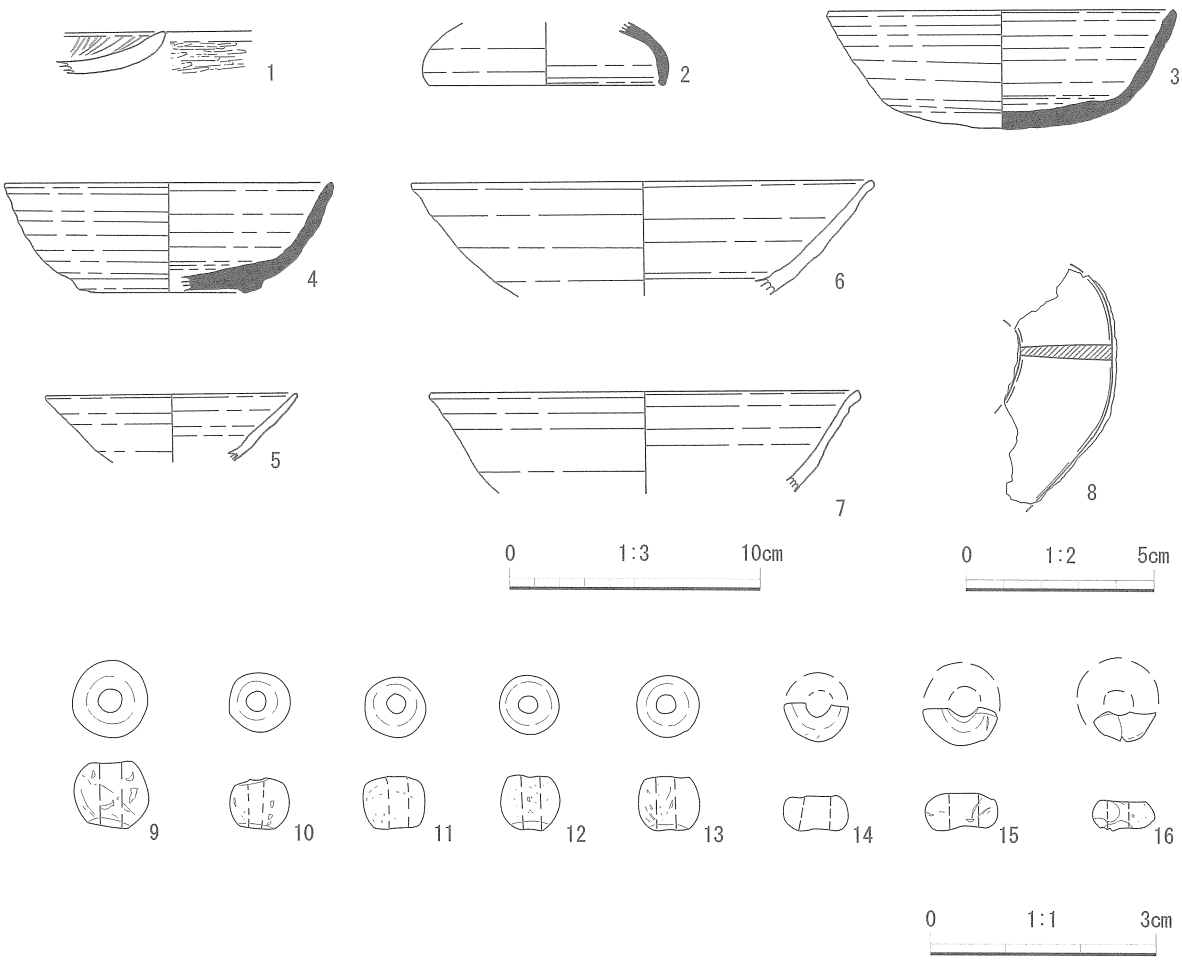
玉類が８点出土しているが、出土位置は散らばっていて副葬時の状況は不明である。




第26図　志味堂横穴群　Ｃ１号横穴　出土遺物実測図




第27図　志味堂横穴群　C２号横穴　実測図




第28図　志味堂横穴群　Ｃ２号横穴　出土遺物実測図

28-９～13はガラス製の丸玉である。いずれも黒っぽく透明感はほとんどない。11と13は孔の片側が凹面になっている。28-14～16は石製でみな半分近く欠損している。白色または淡緑色を呈し、石材は不明であるが碧玉である可能性がある。

・Ｃ３号横穴（第29・30図　図版32～35）

Ｃ２号横穴の西、約８ｍ離れ、50cmほど下に位置する。調査以前には完全に開口し、玄室内には覆土がほとんど存在していなかった。付近の住民の話では、かつて芋を保存するのに使用したということである。

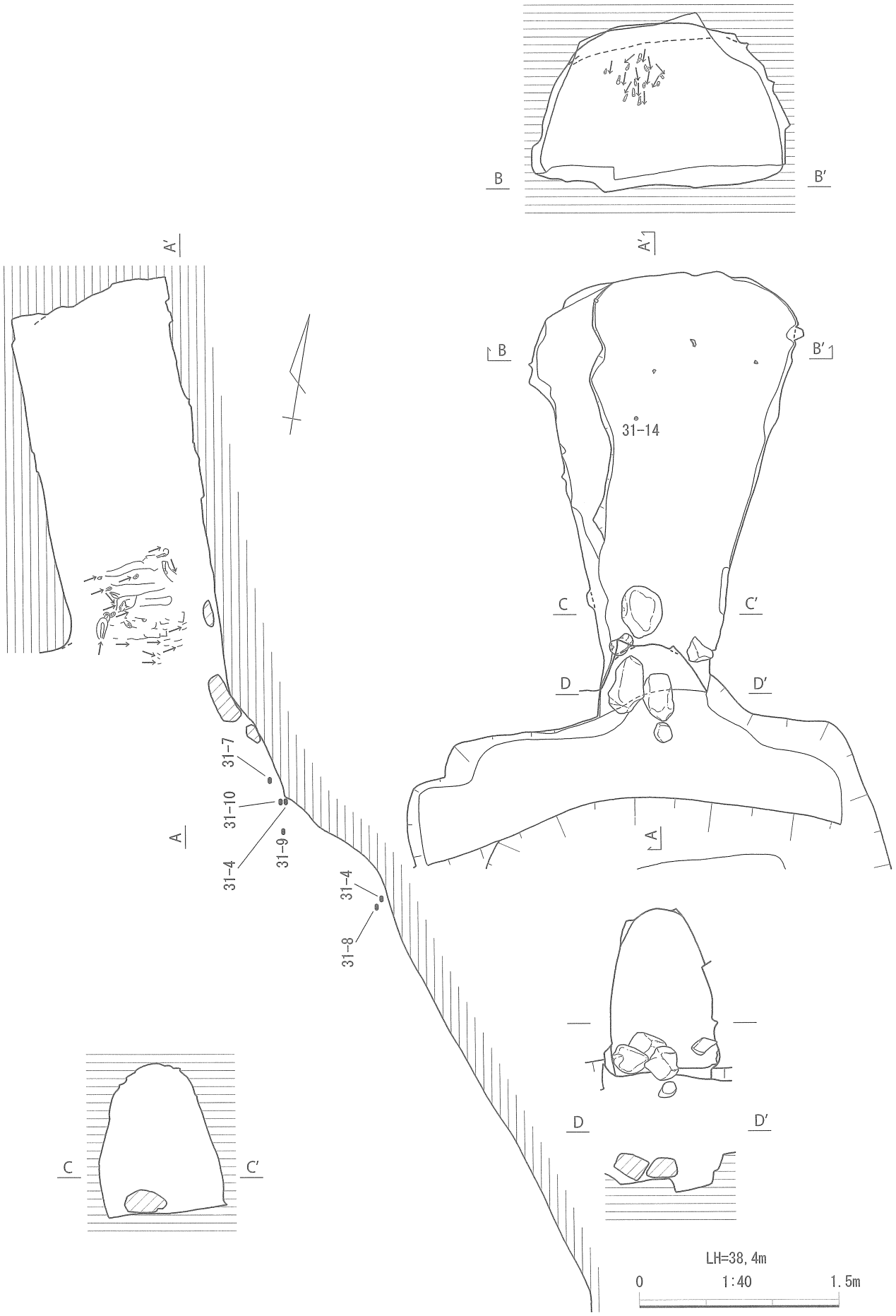
平面形は奥壁がやや丸いが、ほぼ台形である。断面はドーム形である。

閉塞石がわずかに残っており、根石の一部と考えられる。石は40cm以上あり、今回調査した横穴の中ではもっとも大きい石を使用している。

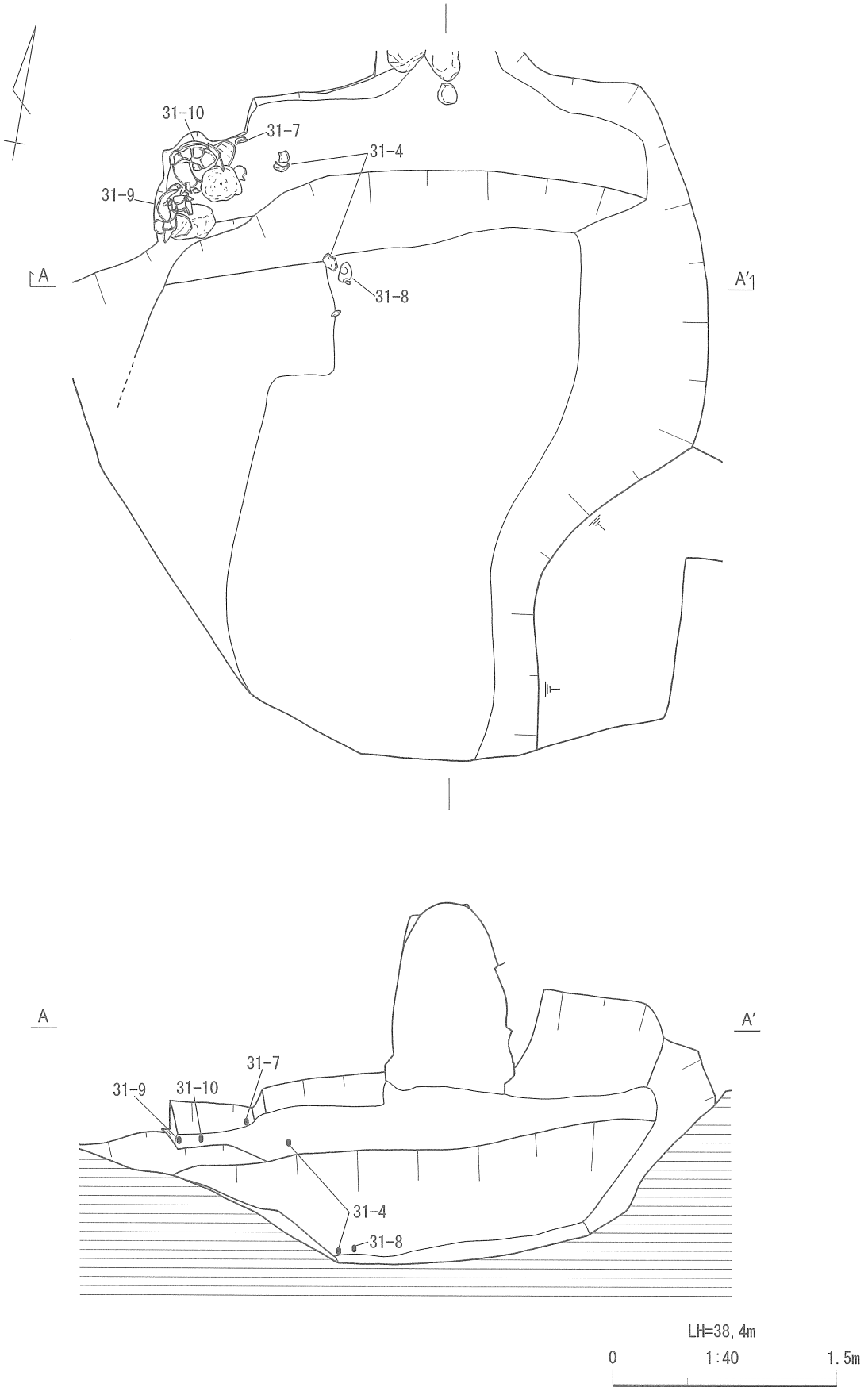
工具痕は奥壁で明瞭に残る、幅２cm、厚さ1.5cm、長さは最長で８cmほどである。右上から、左下へ、縦横ともに約10cmの間隔で並んでいる。仕上げの工具の痕跡が羨道部でよく残っており、７cm幅、東壁では20cmの長さが上下２段になっている様子が観察できた。玄室には仕上げの跡はほとんどみられなかった。

玄室内からは須恵器坏身、鉄鏃、刀子、耳環が出土しているが、ほとんどがふるいによって検出した。

横穴前面は平場が無く、幅約４ｍの溝状に斜面下に下がっている。調査区の境であったため３ｍほどしか検出できていない。墓道である可能性が考えられる。




第29図　志味堂横穴群　Ｃ３号横穴　実測図




第30図　志味堂横穴群　C３号横穴墓前域　実測図

玄門前、西側にわずかな平場に石を配置して、須恵器平瓶２個（31-９、31-10）を置いている。他に、短頸壺（31-３・４）も近くに置かれたものであろう。石は閉塞石と同じであり、追葬時に外した石を利用し、墓前域での祭祀を行ったのではないだろうか。

Ｃ３号横穴出土遺物（第31図　図版37・38）

玄室内の遺物は耳環などの金属製品と図化できないほどの小破片であった。図に示した土器は須恵器でほとんどが墓前域から出土したものである。

31-１は坏身、底部はヘラ削りである。31-２は無台の坏である。８世紀後葉の遺物であろう。

31-３と４は蓋と短頸壺である。壺は底部を欠いており、脚が付くかもしれない。蓋外面と壺の肩部に自然釉が多くかかり、一部に癒着した痕跡があることから、蓋をした状態で焼かれたことがわかる。

31-５は壺の底部と考えられる。残存部分はすべてヘラ削りである。

31-６・７はともに瓿の口縁部片である。６は堅く焼き締まって稜線等の角がシャープである。７は明瞭な稜線はない。ともに内面に自然釉が付着している。

31-８・10は平瓶、９は大型の広口壺と考えられる。

31-８は胴部下半を回転ヘラ削りで仕上げている。肩部には自然釉が付着している。

31-９は球形の胴部をもち、底部には火襷がある。頸部はほんの一部分が残っているだけであり、頸部の径は不明であり、器種の特定ができない。内面にはヘラ状工具の痕跡が残る。

31-10は肩部には自然釉が厚くかかり調整痕が見えないが、胴部外面下半はタタキ目がきれいに残る。所々に横方向のナデが見られる。内面は丁寧な回転ナデで仕上げられている。

須恵器は31-２を除いて７世紀中頃と推定される。

金属製品は玄室内から出土したものである。

31-12は刀子の茎先端部分である。全体に木質が残る。

31-11は鉄鏃破片で、鏃身部である。平根五角形式である。破損が激しいが、Ｃ２号墓のものよりも小型である。

31-13は鉄鏃茎部の先端部分である。

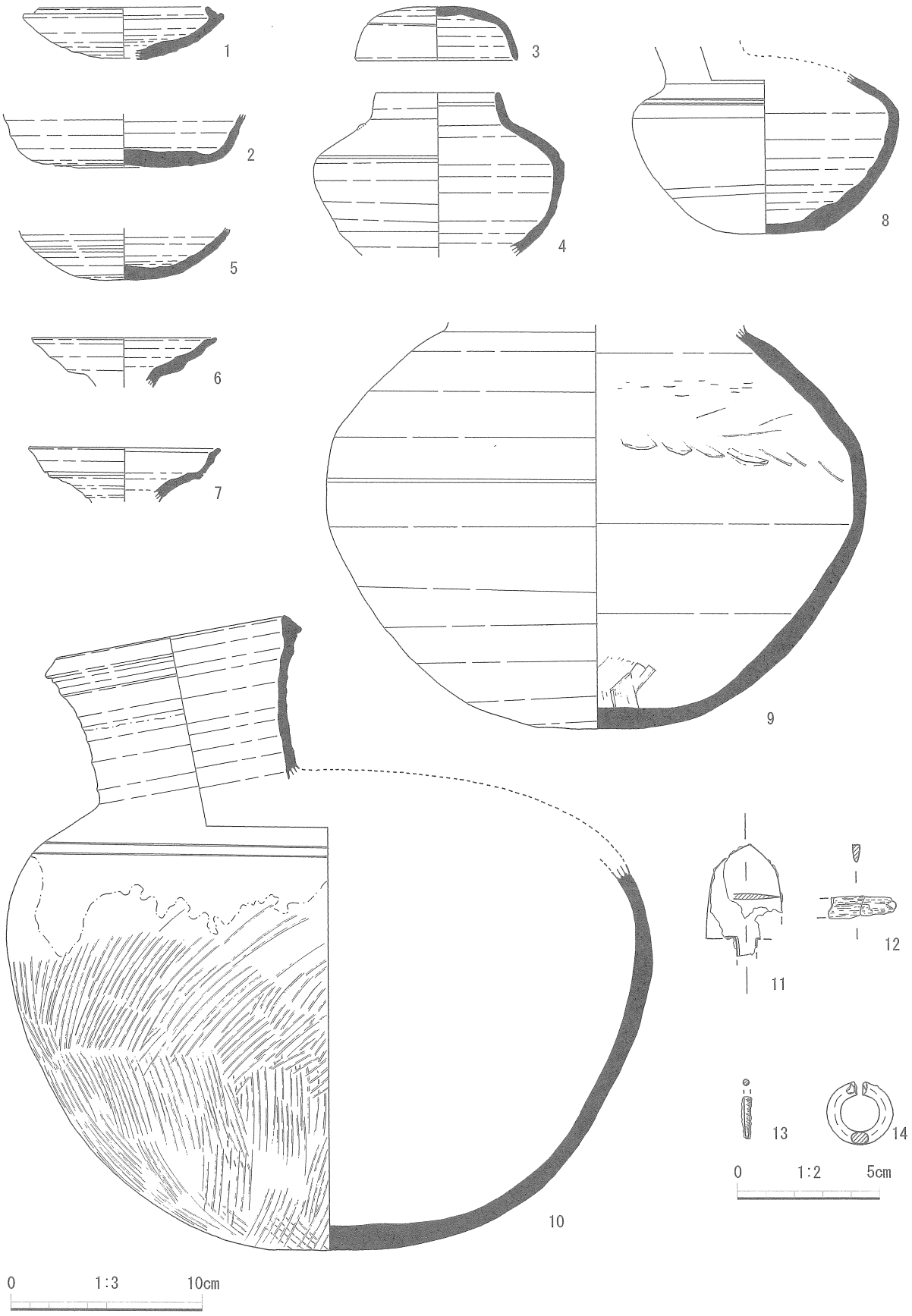
耳環31-14は銅芯金張で金箔が多く残るが、やや白っぽい。

遺物から７世紀中頃と８世紀後葉に埋葬が行われたと考えられる。

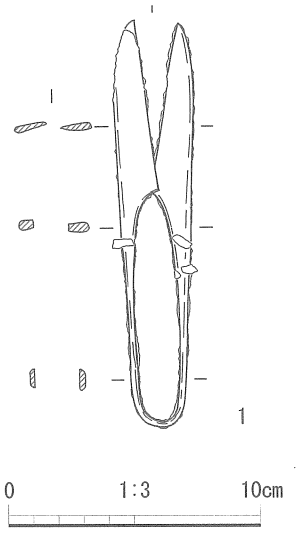
・遺構外出土遺物（第32図　図版37）

遺構外出土の土器には須恵器・土師器の小破片があったが、図化できたものはなかった。

他に第32図に示した握り鋏がある。出土位置が不明であるが、錆の状況から横穴内に長期間埋まっていたと考えられる。類例を探すと、奈良・平安時代では刃が外側についているタイプが見られる（坂詰他1999）。福岡県の例であるが12世紀後半には現代と変わらない形の鋏が墓に副葬されている（榎本2004）。ひるがえって横穴内出土の遺物をみると、Ｃ２号横穴において11世紀末から12世紀前半の遺物が出土しているだけで、他の時代の遺物は見られない。よって、この鋏も12世紀ごろに横穴を墓として利用する際に持ち込まれたものと推測できる。




第31図　志味堂横穴群　Ｃ３号横穴　出土遺物実測図




第32図　志味堂横穴群　出土遺物実測図（鉄製品）

(3)　小結

東区のＢ群では７基、西区のＣ群では３基の横穴が存在した。

全体的には出土遺物から、７世紀前半が開始時期、７世紀中頃～８世紀初めが盛行、８世紀後半に衰退という流れがみえてこよう。

横穴内はほとんどが開口しており、遺物も小破片が散乱している状況であった。各横穴の掘削順、追葬の状況などは、あやふやな推定の域を出ないが、以下のように考えられよう。

・Ｂ群　　位置、大きさからＢ１号横穴が最初であろう。小型になっているＢ２・３・４号横穴が次の段階で、７世紀後半～８世紀にかけてとみなせる。Ｂ６・５・７号横穴になるとさらに小型化し、ミニ横穴といわれるものになっている。８世紀後半である。

位置からはＢ１号横穴とＢ６号横穴、Ｂ２～５号横穴とＢ７号横穴の２つのグループに分けられよう。

Ｂ１号横穴の羨道部の段差が特筆される。関東の影響を受けているのであろう。

・Ｃ群　　墓前域の空間を共有するＣ１・２号横穴とＣ３号横穴の２つのグループに分けられよう。Ｃ１号横穴とＣ２号横穴では１号が先行すると考えられる。１号は７世紀前半には埋葬が行われている。２号は７世紀中頃～８世紀にかけてであろう。

Ｃ３号横穴は、７世紀前半～中頃に築かれ、８世紀後葉まで追葬が行われ、最も長く使われている。

３号の西側、調査区外に開口している横穴はないが、小型の横穴などが存在する可能性は否定できない。

また、Ｃ２号横穴では11世紀末から12世紀前半に墓として利用されたと考えられる。

横穴の大きさはＣ群の方が大きく、Ｂ群は小型化し、ミニ横穴も存在している。

閉塞石はみな自然な河原石で河原などから採集したと考えられる円礫である。小さいものは直径10～20㎝で４kgほど、大きいものは直径40㎝ほどで20kg以上ある。

横穴の掘削の様子を全体的に眺めてみると、Ｂ群よりＣ群の方が丁寧に仕上げている印象がある。Ｃ群では幅７㎝幅の工具で壁面を削り、鑿の痕跡を消している様子が一部で観察できた。Ｂ群ではそのような工具痕は観察できずに、鑿状工具で岩を割るように掘削した痕跡が明瞭に残っている。

鑿の痕跡はほとんどが右斜め上から左下方向で、右利きの人物が掘削していることがわかる。

調査区外であるＡ群を含めても、方位がほぼ同じである。狭い谷の奥であることから、同じ規範に則った、近い集団であろう。

## 第４節　瑞泉寺１号墳の遺構と遺物

瑞泉寺１・２号墳および八幡ヶ谷古墳周辺を示したのが第33図である。

瑞泉寺１号墳の実測図は第34～36図である。

瑞泉寺１号墳はほぼ東西に延びるやせた丘陵上の頂部に位置する。頂部の標高は約43m、谷部との比高差は約20mである。その西約50mの頂部に瑞泉寺２号墳が存在する。

基盤は掛川層群である砂岩と泥岩からなり、表土層は非常に薄く、約20㎝ですぐに基盤層となる。基盤層上面において遺構検出を行った。

盛土の存在は確認できなかった。削り出した分の土を盛った可能性はあるが、流出してしまったのであろう。また、谷側も崩落が進み不整形となっている。

東西の尾根筋に溝状の落ち込みを検出したが、ともに明瞭ではなく、攪乱である可能性は否定できない。

以上のことから瑞泉寺１号墳は直径約14mの円墳とみなすことができよう。

埋葬施設は尾根筋に並行する方向、南北に並んで２基検出され、北側を第１埋葬施設、南側を第２埋葬施設とした。

### ⑴　埋葬施設（第35・36図　巻頭図版５　図版39～41）

・第１埋葬施設

尾根のほぼ中央に位置し、長さ3.7m、幅0.9m、検出した深さは最大で約20㎝である。基盤層である岩盤を掘り込み、さらに内側中央部は１段下がり、全体として２段になっている。土層の観察結果と合わせ、割竹形木棺を納めたものと考えられる。木棺は長さ2.9m、直径は50～60㎝と推定される。

副葬品には鉄製の農工具と武器、玉類がある。玉類はすべて覆土をふるいにかけて検出した。

鉄剣は切先を南西方向に向け、中央からは北寄りに置かれていた。刃部は水平で底に近い位置であるが、茎部分は20㎝ほど浮いた状態であった。棺内に副葬されていたのが、根により茎部だけが上に移動してしまった可能性が高い。

棺の南東端付近で鎌・袋状鉄斧・鉇・鑿・キサゲ状工具・刀子・鉄鏃が出土した。いずれも墓壙の底に位置し、棺内に納められたと考えられる。ふるい掛けにより勾玉など玉類が18点出土している。

副葬品の状況から頭位は北東であろう。

・第２埋葬施設

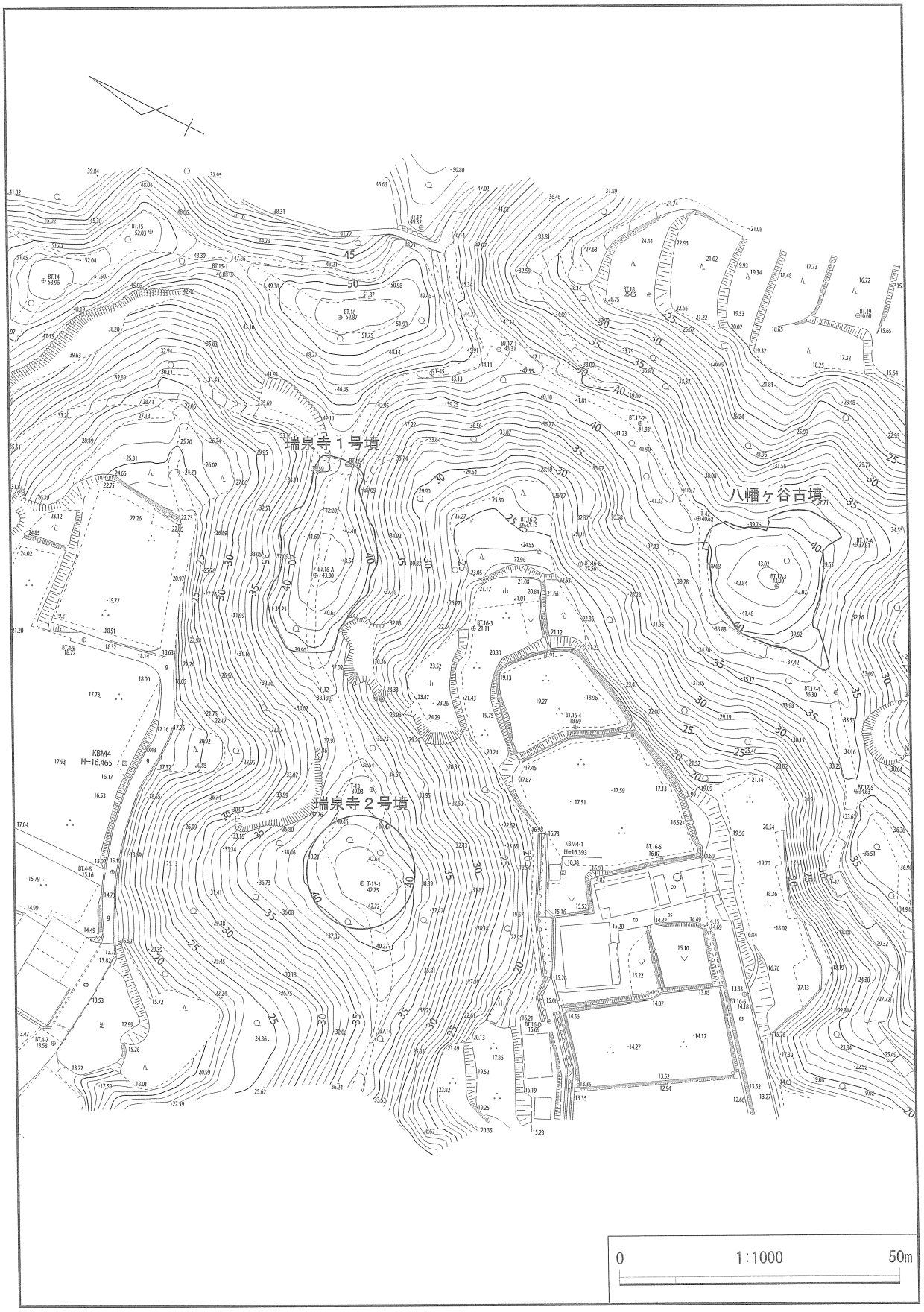
攪乱が大きく、東側約半分の状況は不確実ではあるが、第１埋葬施設と同様、２段墓壙である。規模は上段が長さ約2.7m、幅約0.8m、下段が長さ2.1m、幅0.5mとやや小さい。棺も同様に割竹形木棺であろう。

副葬品は刀子が１点、銅鏡１面、竪櫛１点と多量の玉類である。鏡と刀子は棺内に副葬されたと考えられる。玉類は多数がふるいによる検出であるために埋葬された状況は不明である。

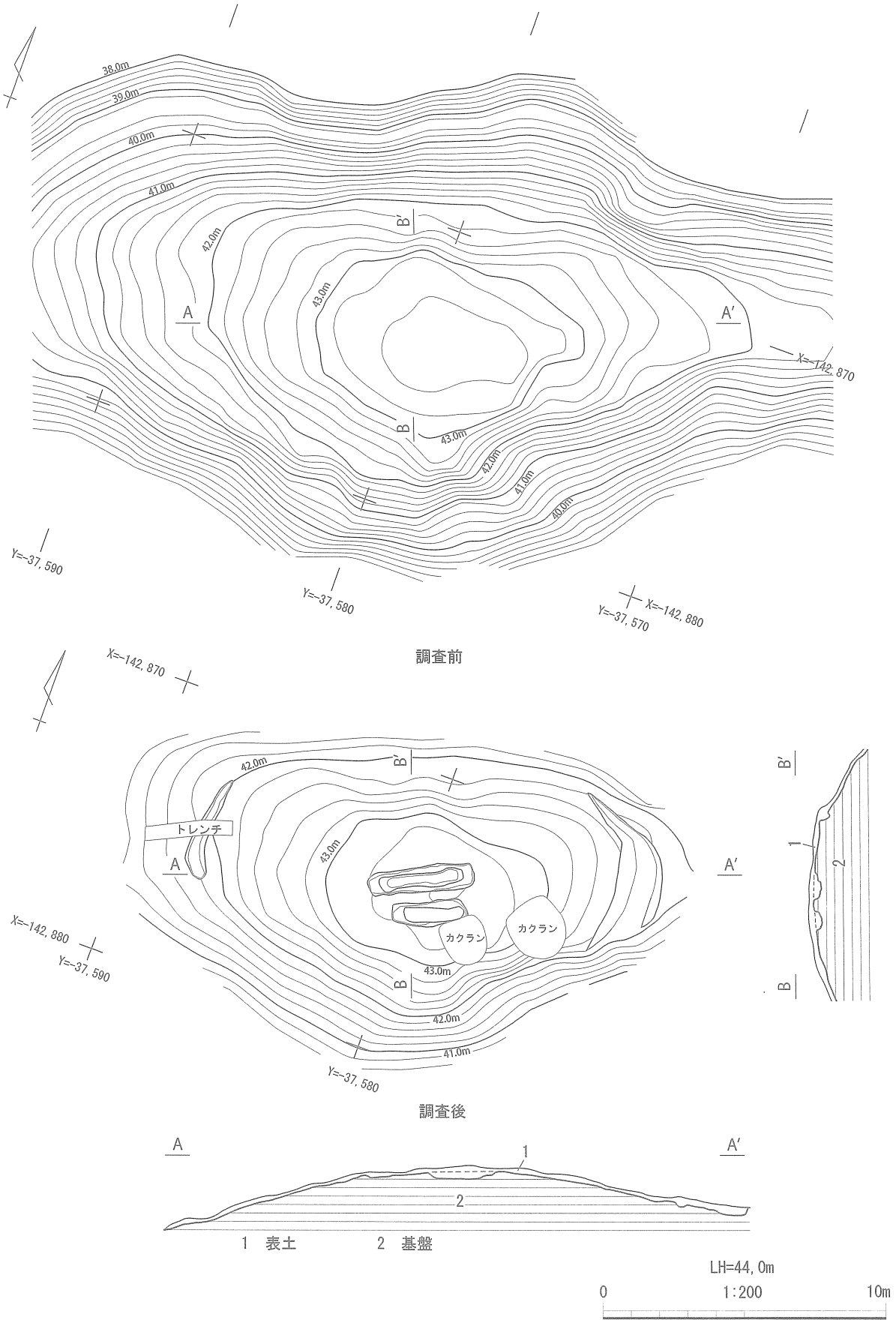
位置がわかるものはほとんど中央から北東よりで出土しており、頭位が第１埋葬施設同様、北東であると思われる。

### ⑵　埋葬施設出土遺物（第37図　巻頭図版６・７　図版42・43）

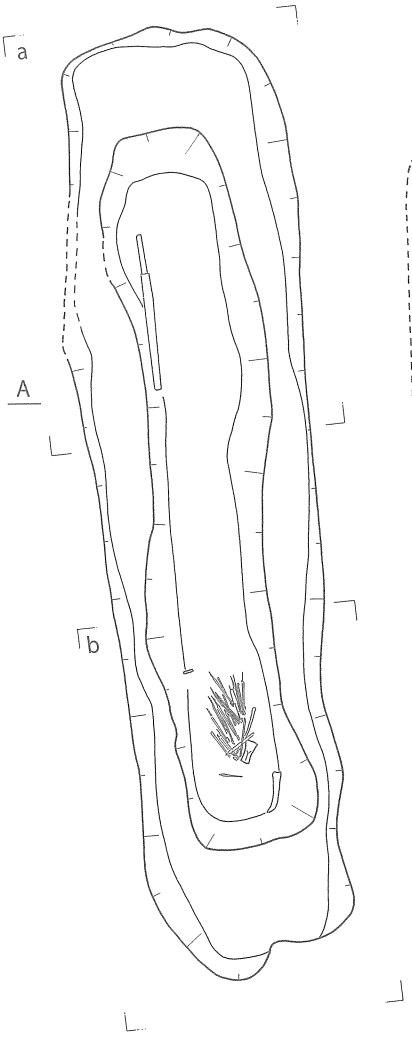
・第１埋葬施設



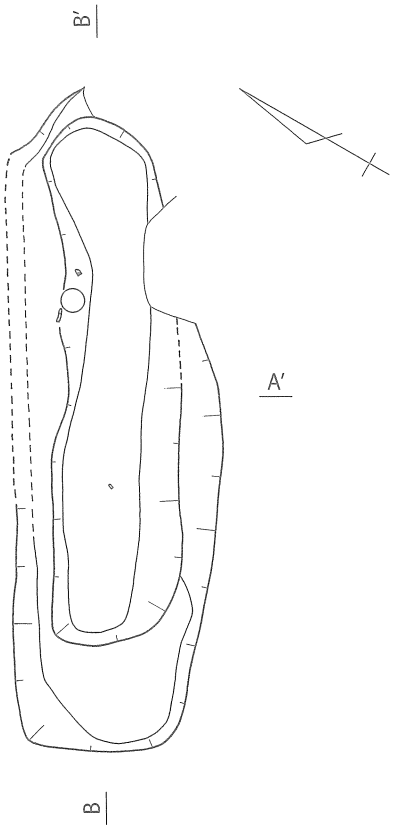

第33図　瑞泉寺１号墳・八幡ヶ谷古墳　地形図



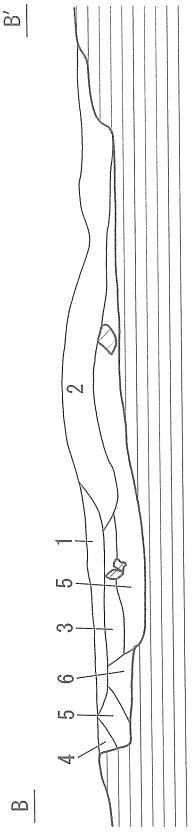

第34図　瑞泉寺1号墳　実測図

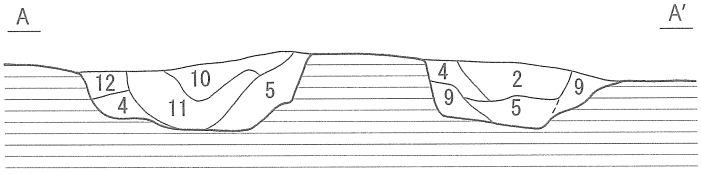



第１埋葬施設




第２埋葬施設



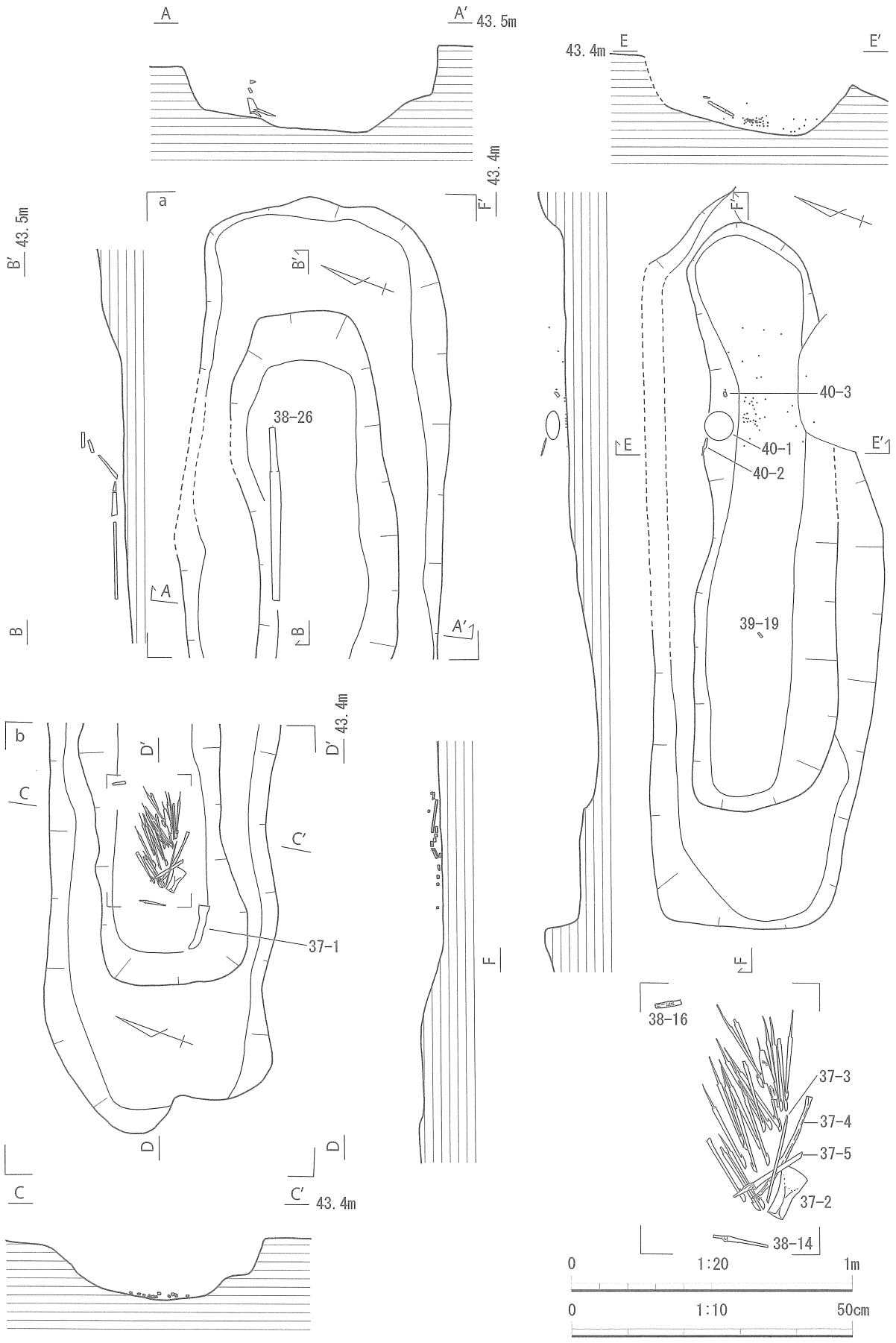




| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 黄褐色砂質土 | 礫を中量含む | 9 | 明褐色土 | 礫を少量含む |
| 2 | 明褐色土 | 礫を中量含む | 10 | 明褐色土 | 礫を少量含む |
| 3 | 明褐色土 | 礫を少量含む | 11 | 明褐色土 | 礫を多量に含む |
| 4 | 明褐色土 | 礫を中量含む | 12 | 明褐色土 | 礫を多量に含む |
| 5 | 明褐色土 | 礫を中量含む | 13 | 明褐色土 | 礫を少量に含む |
| 6 | 明褐色土 | 礫を少量含む | 14 | 明褐色土 | 礫を少量に含む |
| 7 | 明褐色土 | 礫を中量含む | 15 | 基盤 | |
| 8 | 褐色土 | 礫を少量含む | | | |

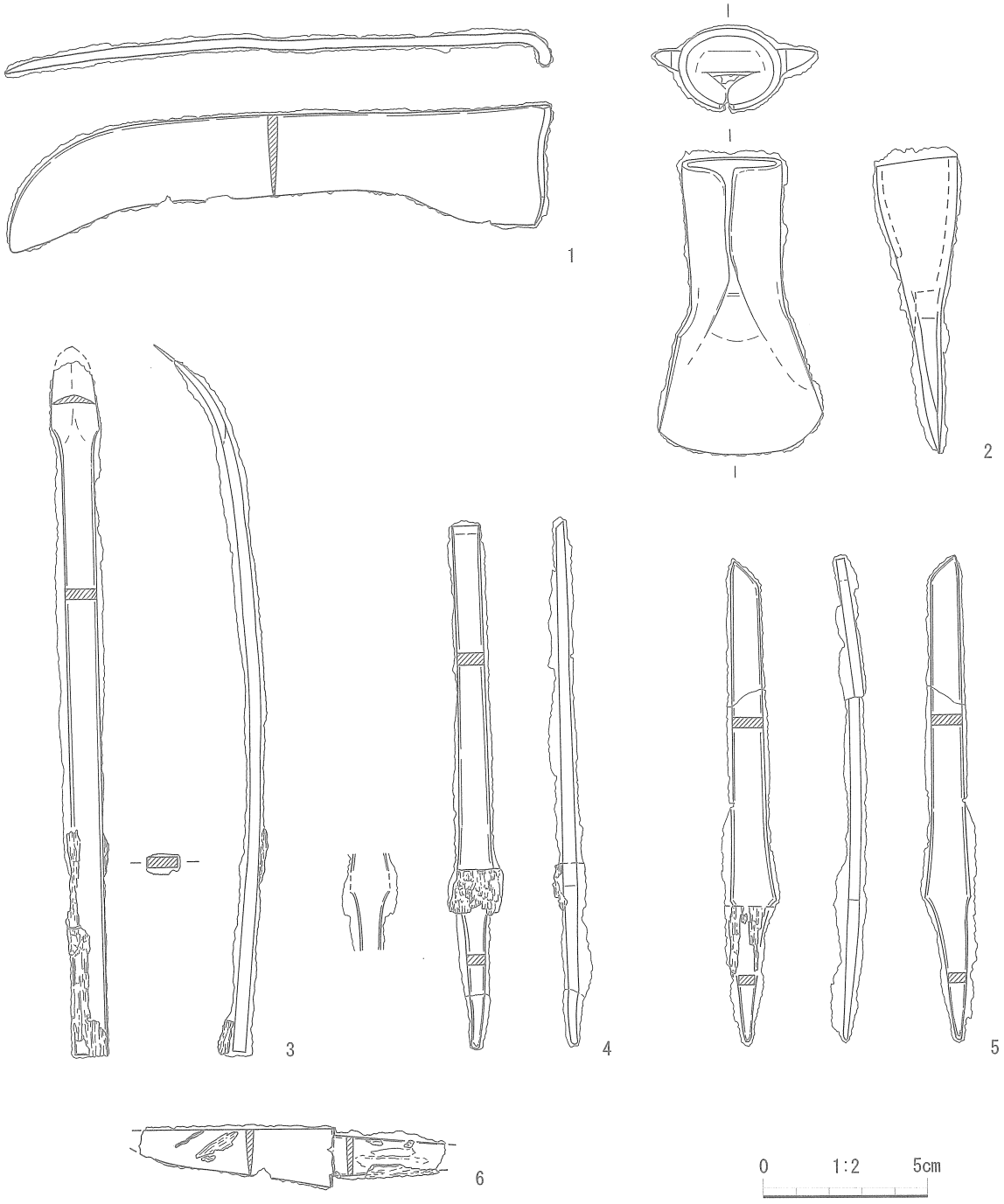
LH=43, 5m

0　1:30　1m

第35図　瑞泉寺１号墳　埋葬施設実測図




第36図　瑞泉寺１号墳　遺物出土状況実測図
（平面図中　剣38-26は復元している）




第37図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図１（第１埋葬施設・農工具）

鎌（37-１）

先端が棺の隅に近くに、他の工具類とはやや離れて副葬されていた。背側はほぼ直線的で、刃側は全体的には湾曲しているが、中心付近は直線的である。柄の部分に木質等は観察できない。

袋状鉄斧（37-２）

他の工具類、鉄鏃とほぼ重なるように出土した。袋部の合わせ目はほぼ密着している。刃部は撥形に開き、弧状を呈している。

鉇・鑿・キサゲ状工具（37-３・４・５）

３点が交差するようにして出土した。

37-3は鉈で刃部は大きく外反し、幅が広くなる。先端が欠損している。鎬は不明瞭で、裏透きの跡はみられない。軸部には木質が残る。

37-4は鑿で刃部に向かってわずかに薄くなっている。茎部は先端が尖る。基部の軸側に1.2cmほどの幅で木質が残る。

37-5はキサゲ状工具である。寸法、形状は鑿に近いが茎部付近は幅が広くなっている。柄の木質が少し残る。

刀子（37-6）

鉄鏃の上にのせられていた。切先、茎部の両端をわずかに欠く。茎部には木質を残す。刃部に付着した木質は他の遺物のものと思われる。

鉄鏃（38-1～25）

関の部分で数えると21本分出土した。埋葬施設西端付近、先を西に向けてほぼひとかたまりに、鉈、鉄斧などの工具類と接して棺内に置かれていた。

21点中1点（38-14）は鏃身部を失っている。すべて尖根式と考えられ、1点（38-1）が柳葉式である以外、19点は片刃箭式である。

柳葉式が鏃身1.6cmと小さいのに対し、片刃箭式は2.5cm前後とやや長い。全長は17cm前後とそろっている。

矢柄の木質部を残している個体が多く、特に38-22は茎部の破片ではあるがよく残存している。両端部には樹皮状のもので巻いてある痕跡が残る。矢柄の直径は10mmほどである。38-10では茎にきわめて細い糸状の痕跡が残る。矢柄に装着する前に茎に糸を巻いていたと考えられる。

形態から5世紀後葉に位置づけられよう。

剣（38-26）

先端部を欠損し、残存長は62.4cmである。完形で65cmほどと推定できる。鎬はない。

関部分に7～10mm幅で3段の痕跡があり、鞘口・把縁の装具の痕跡と考えられる。

茎側面片側には糸巻きの痕跡が残る。茎には目釘孔が2つ存在する。

全体的に木質が残っている。鞘に入れた状態で棺内に納められていたと推定される。

玉類（第39図　巻頭図版7）

第1埋葬施設より出土したのが1～18で、すべてふるい掛けによって検出した。

39-1は勾玉である。やや扁平で特に頭の部分は非常に薄くなっている。仕上げは雑で全体的に研磨痕が残り、特に背・腹側は顕著である。材質は質の悪い翡翠か滑石の可能性が考えられる。

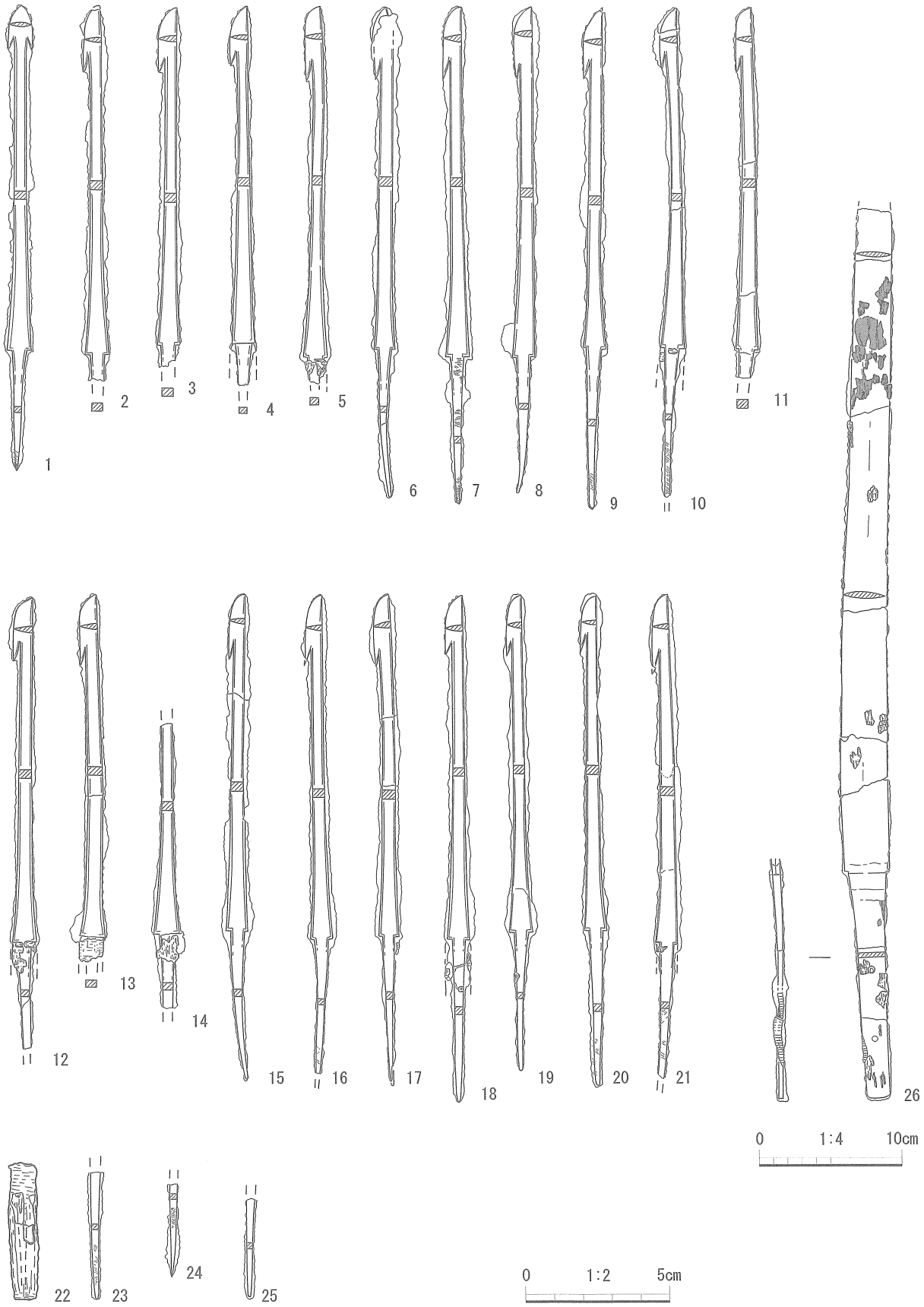
39-2～12は臼玉である。短い円筒形でわずかに中央がふくれているが、稜線は明瞭ではない。直径4mm、厚さ2～3mmほどである。石材は不明である。

39-13～18がガラス製の小玉である。青色でやや扁平である。直径2～4mm、厚さ2mmほどである。

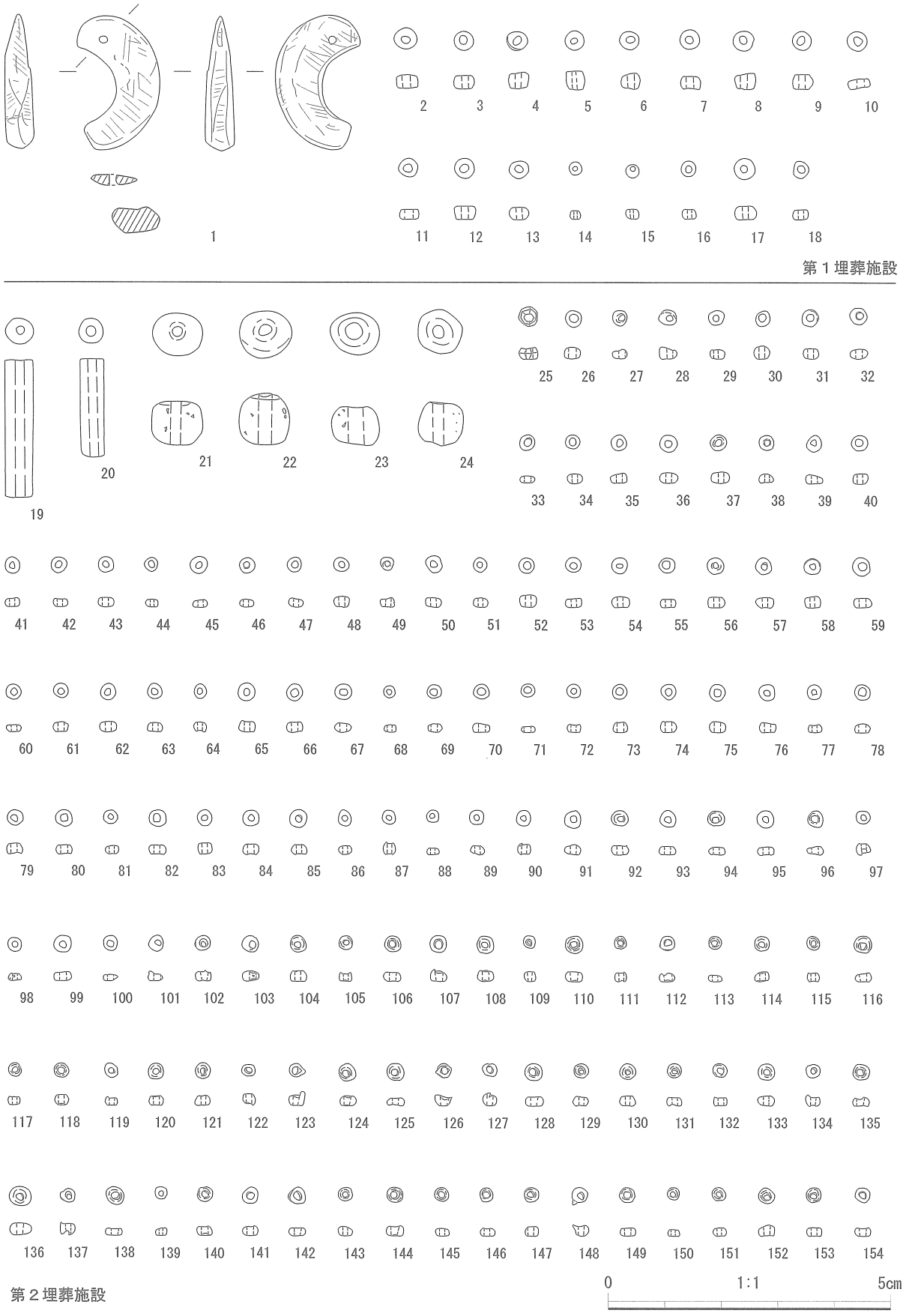
・第2埋葬施設

刀子（40-2）

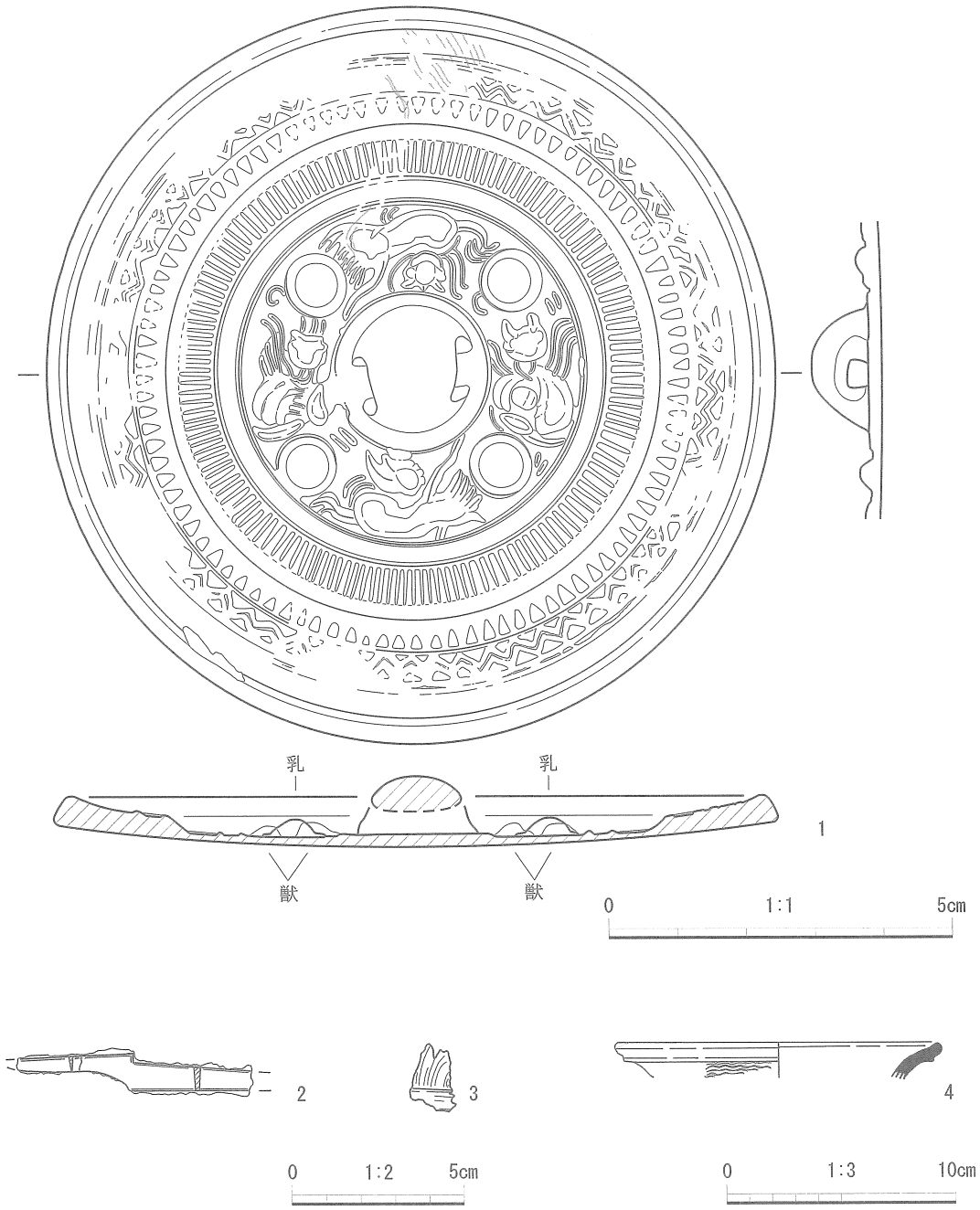
刃部は幅5mmで内湾している。茎よりも刃部の幅の方が狭くなっている。使用、研ぎを繰り返すことによって、著しく刃部が摩滅していったのであろう。




第38図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図２（第１埋葬施設・武器）




第39図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図３（玉類）




**第40図　瑞泉寺１号墳　出土遺物実測図４（第２埋葬施設・埋葬施設外）**

銅鏡（第40図　巻頭図版７　図版45）

変形神獣鏡で直径は10.7㎝、重量は134.72ｇである。

所々にひびが入っているが、完形品である。全体に錆の暗緑色を呈している。出土時は緑青の錆に覆われていて、背面にひもの痕跡が錆として残っていた。そのために、ひもの痕跡を残す部分の錆は落としていない。

鈕は半球形、鈕孔は長方形である。内区は４つの乳で区分され、神像と神獣が２体ずつ表されている。鈕座は稜線がしっかりしているのに対し、乳座では不明瞭である。

神像、神獣ともに図像としては退化している。神像は全体的には線対称に描かれているが、多くの表現が異なっている。冠が左では３本、右では２本の突起を表現している。東王父と西王母を表現しているのであろう。神獣は同じ方向を向き、点対称である。胴体は左を向き、ほとんど同じであるが、頭部の表現は異なっている。実測図で上方になっている１体は２本の角状の突起を持つが、下方は長い１本

の突起が目立つ他にもいくつかの突起がある。
内区から外に向かって順に、無文、櫛歯文、厚くなる部分の斜面が無文、鋸歯文、波文となる。
鈕や文様の高い部分などは全体的に光沢があり、いわゆる「手ずれ」が顕著である。一番外側の波文では文様が見えなくなっている部分もある。
背面に残っていた紐の痕跡からは、きわめて細い糸が何本も鈕に結ばれていたことがわかる。

玉類（39-19～154）
管玉は２点出土している。１点は埋葬施設西側、被葬者の足元付近から出土している。移動している可能性もあるが、腰飾りとも考えられよう。
丸玉２点、ガラス製小玉41点は鏡付近から出土しており、首飾りと推定できるが、撹乱が激しく、どのような形で副葬されたかは不明といわざるを得ない。
ふるい掛けによる検出を含めた総数では、管玉２点、丸玉４点、臼玉１点、小玉129点である。
管玉は長さの違いはあるが、ともに直径５㎜、丁寧に研磨され、片側穿孔である。細粒凝灰岩製である。
丸玉は直径、厚さとも８㎜ほどで、両端はわずかに平坦面になっている。濃青色のガラス製である。
臼玉、小玉は第１埋葬施設出土のもととほぼ同じである。
埋葬施設はともに深さ約10㎝しか残っていない、さらに第２埋葬施設は撹乱が激しい。第１埋葬施設の臼玉が第２に、第２の小玉が第１に混ざってしまった可能性も否定できない。

漆製品
竪櫛（40-３）
１点出土している。櫛歯は残存していなく、U字型に曲げた頭部の半分近くが残存していた。
鏡の東側からの出土で、被葬者の頭に装着した状態で埋葬されたと推定できる。
全体像を推定すると幅は2.5㎝程度と思われる。

⑶　埋葬施設外出土遺物
確認調査時に墳頂部より須恵器片40-４が出土している。壺または甕の口縁部小破片で全体像は伺えないが、突帯と波状文が施されている。
５世紀後半～６世紀初頭ごろと考えられ、鉄鏃の年代とも矛盾しないが、やや新しいとも考えられる。その場合、埋葬後の祭祀に使用された可能性が想定できよう。

⑷　小結
瑞泉寺１号墳は埋葬施設を２基もった円墳である。ともに割竹形木棺の直葬であろう。
大きさ、墳丘に対する位置から第１埋葬施設が主たる被葬者であると考えられるが、埋葬の順序は不明である。
築造時期は鉄鏃の形態などから古墳時代中期後葉と考えられる。
この古墳の特徴としては２つの埋葬施設間で副葬品の差が大きいことがあげられる。第１埋葬施設では鉄剣・鉄鏃の武具と農工具であり、第２埋葬施設では鏡と刀子である。
玉類をみると、ガラス小玉、臼玉はともに出土しているが、第１埋葬施設では勾玉と臼玉、第２埋葬施設では管玉と丸玉と主となる玉に違いがある。
このような副葬品の差が被葬者の性格の差を反映していることは明らかであり、性別の差も一つの要素である可能性は高いと思われる。

## 第５節　八幡ヶ谷古墳の遺構と遺物

八幡ヶ谷古墳の実測図は第41～42図である。八幡ヶ谷墳は北東から南西方向に延びるやせた丘陵上の頂部に位置する。頂部の標高は約43m、谷部との比高差は約20mである。

基盤は他の古墳と同様、掛川層群である砂岩と泥岩からなり、表土層は20～60cmで、基盤層上面において遺構検出を行った。

墳丘の高さは３mほどで、盛土は確認できなかった。西側は山道の開削によって、南東と北東は谷の崩落により、墳丘の明確な平面形をとらえられなかった。 南北の尾根筋には墳丘を削り出している様子がうかがえる。西側にやや平坦な面があり、墓壇の可能性がある。以上から推定すると、主丘で約22m、基壇を入れると約25mの不正円形の古墳と推定復元できる（第61図）。

(1)　埋葬施設（第43～48図　巻頭図版８・９　図版46～51）

埋葬施設は墳丘中央に5.0m×3.2mの墓壙を設定し、さらに棺を埋葬するための墓壙を２基掘り込んでいる。北東側の墓壙は4.2m×1.1m、検出面からの深さが1.2mと大きく、主たる被葬者と認められるため、１号棺と名付けた。南西側を２号棺とし、3.9m×0.8m、検出面からの深さは0.8mである。方位は真北から42°西に振れている。

土層の観察からは２号棺が先に埋葬されたと認められる。

１、２号棺とも床面には３cm以下の礫が薄く敷き詰められていた。壁際には粘土が認められ、棺は組み合わせ式木棺であることがわかる。粘土の状況、土層の観察結果などから棺の内寸は１号棺で長さ3.2m、幅45cmほど、２号棺で長さ2.4m、幅40cmほどと推定される。２号棺では礫に棺の痕跡と考えられる段差が認められた。副葬品の状況から頭位は南東であろう。

(2)　出土遺物（第49～60図　巻頭図版10～13　図版52～66）

副葬品など出土遺物を整理すると以下のようである。

１号棺

棺内　直刃鎌、袋状鉄斧、鉄鏃、刀、竪櫛

棺外　刀、剣（槍）、巴形銅器、盾

２号棺

棺内　直刃鎌、曲刃鎌、袋状鉄斧、刀、剣、竪櫛

棺外　剣（槍）

棺外・墳丘

埴輪、土師器、須恵器

・１号棺

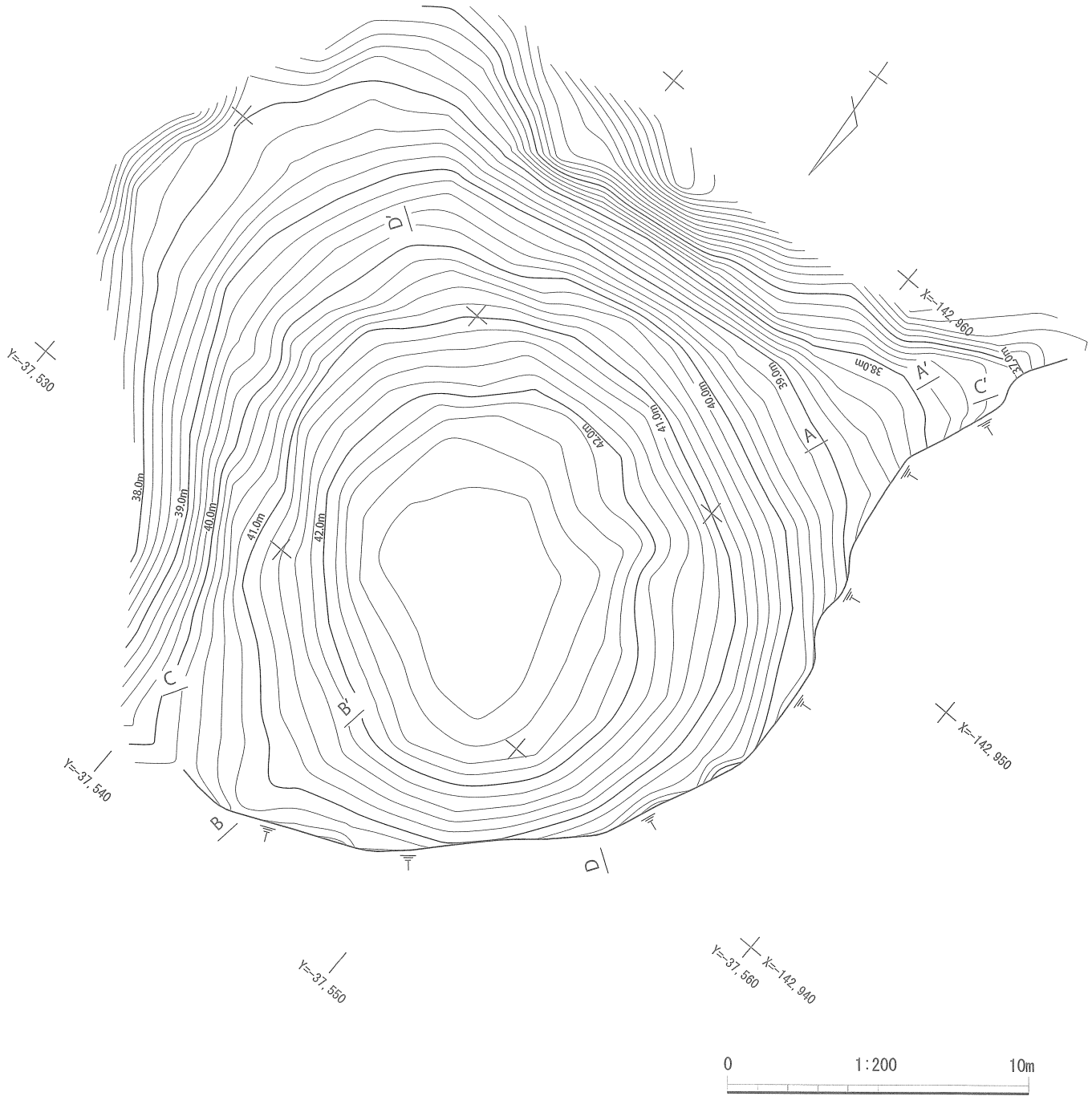
副葬品は鉄製品、青銅製品、漆製品がある。

鎌（49-１・２）

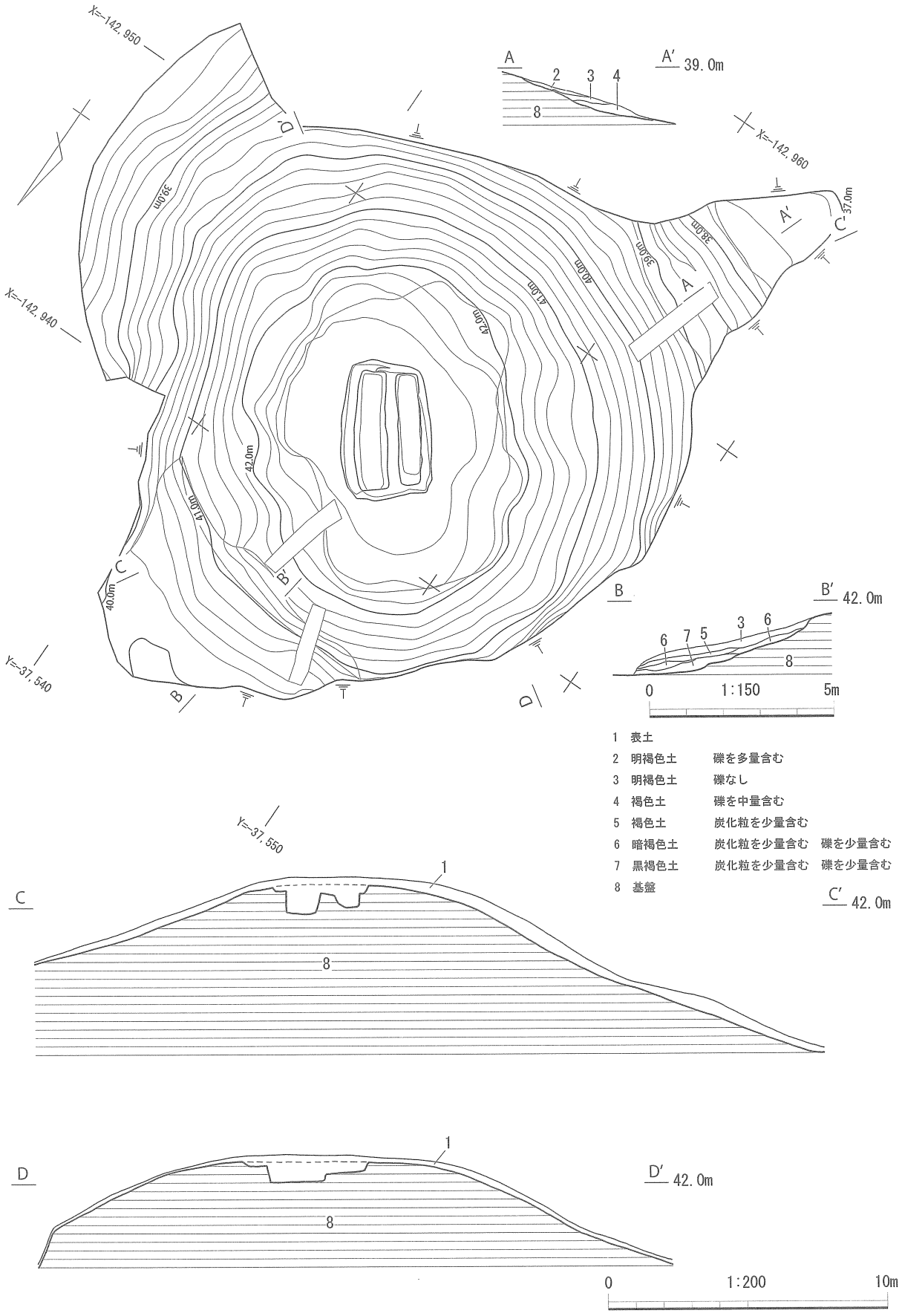
鎌は２点出土している。ともに直刃鎌であるが、実用品とは認めがたい。

49-１の折り返し部は３mmほどが曲げられている。刃側、背側ともにほぼ直線であるが、基部から先端に向けて細くなっている。折り返しの裏側に幅２cmでわずかに木質が残る。木質の残存状況から、把に挟み込んで装着したと考えられる。

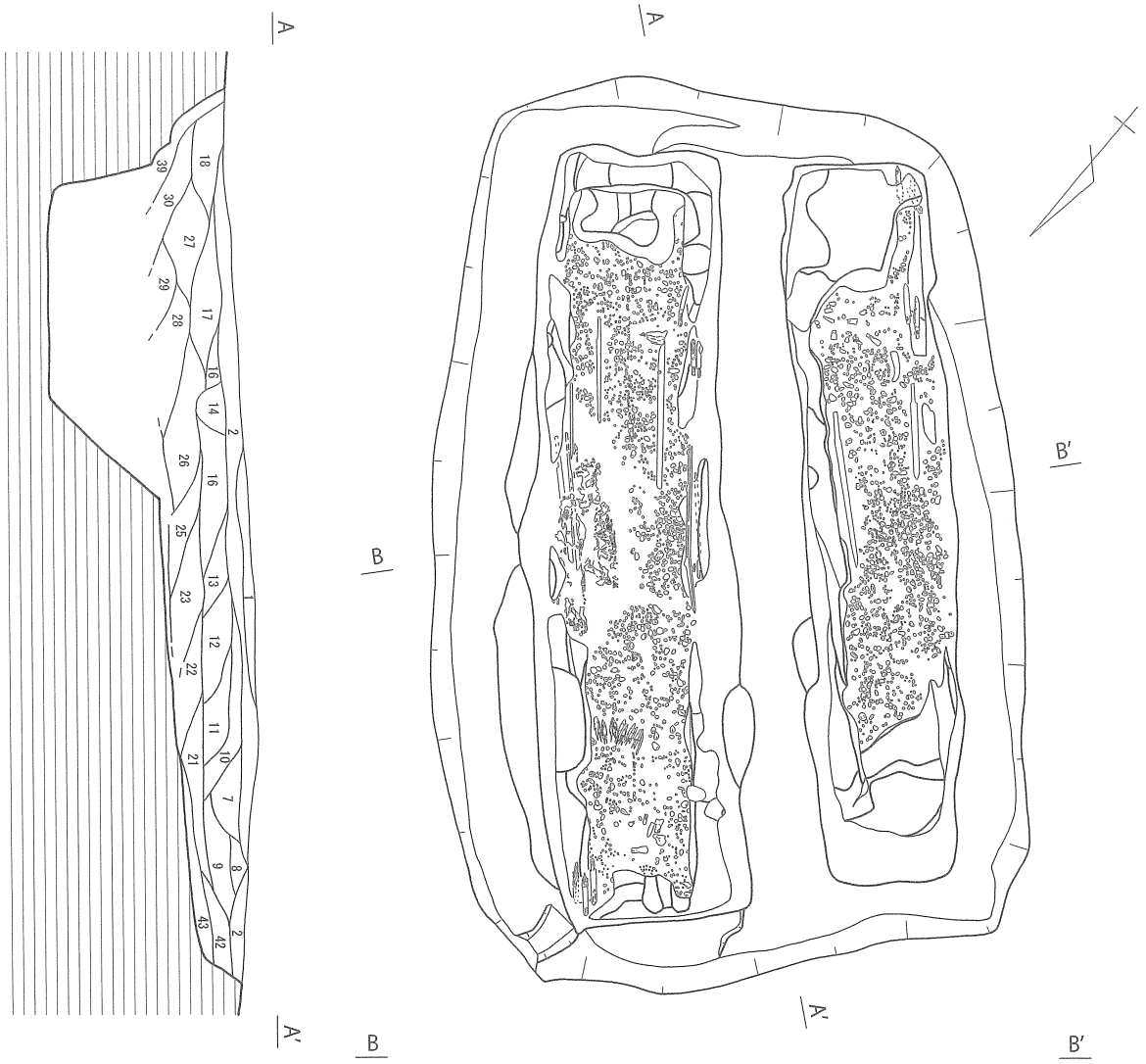
49-２の折り返し部は刃部と直行し、背側、刃側ともに直線的である。基部の両面に幅２cmで木質が残

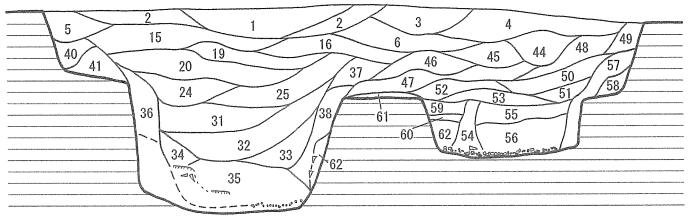



第41図　八幡ヶ谷古墳　調査前測量図




第42図 八幡ヶ谷古墳 実測図



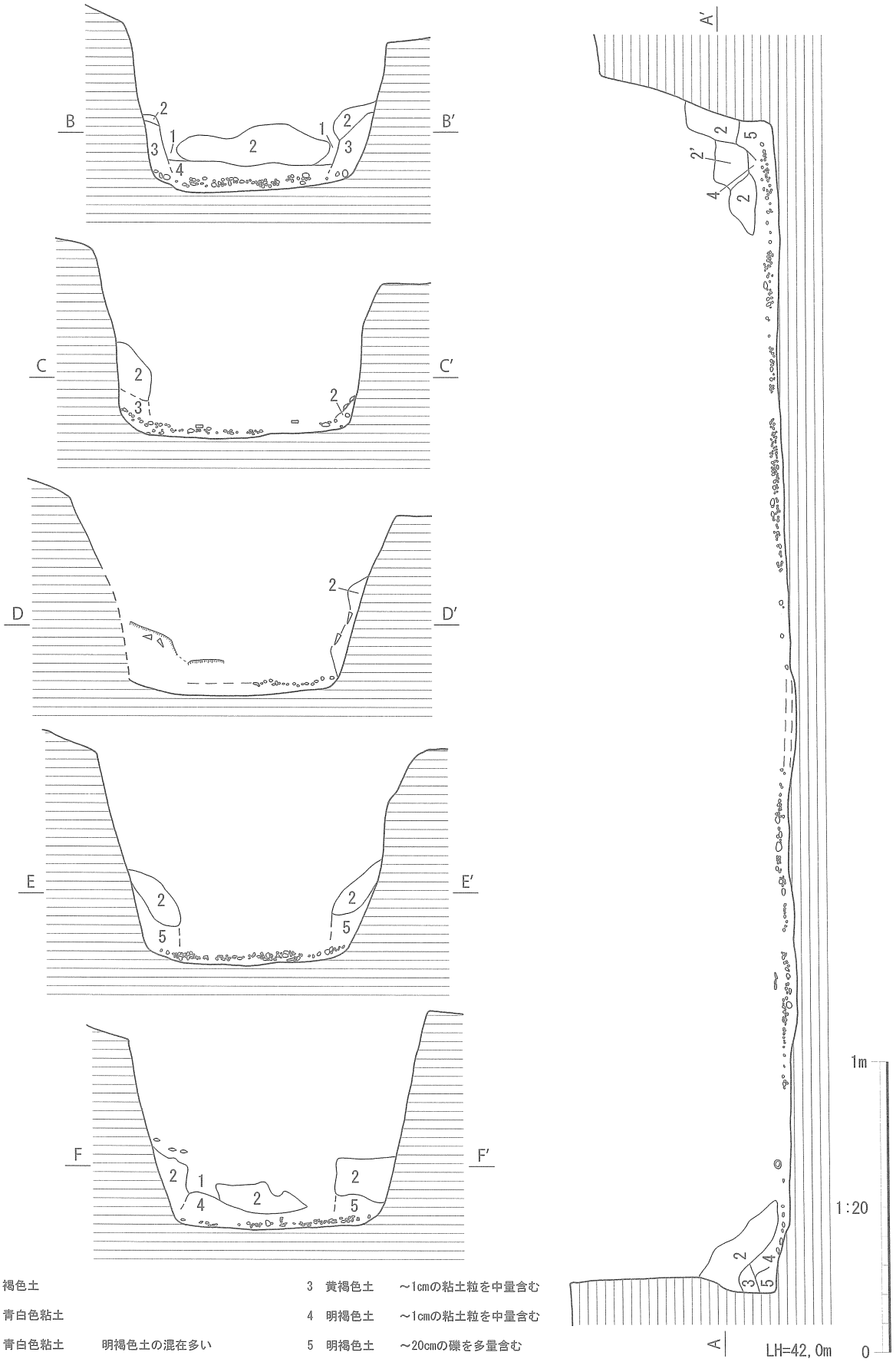
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色土 | ～10cmの礫を中量含む |
| 2 | 褐色土 | ～10cmの礫を少量含む |
| 3 | 暗黄褐色土 | ～5cmの礫を少量含む |
| 4 | 褐色土 | ～5cmの礫を少量含む |
| 5 | 茶褐色砂質土 | ～5cmの礫を少量含む |
| 6 | 黄褐色土 | ～10cmの礫を中量含む |
| 7 | 暗褐色土 | ～5cmの礫を少量含む |
| 8 | 黄褐色土 | ～5cmの礫を少量含む |
| 9 | 明褐色土 | ～5cmの礫を中量含む |
| 10 | 明褐色土 | ～5cmの礫を中量含む |
| 11 | 明黄褐色土 | ～20cmの礫を多量含む |
| 12 | 明褐色土 | ～20cmの礫を多量含む |
| 13 | 褐色土 | ～5cmの礫を少量含む |
| 14 | 暗褐色土 | ～5cmの礫を少量含む |
| 15 | 明黄褐色土 | ～20cmの礫粒を中量含む |
| 16 | 黄褐色土 | ～10cmの礫粒を中量含む |
| 17 | 明黄褐色土 | ～10cmの礫粒を多量含む |
| 18 | 黄褐色土 | ～5cmの礫粒を少量含む |
| 19 | 褐色土 | ～10cmの礫粒を少量含む |
| 20 | 明黄褐色土 | ～20cmの礫粒を多量含む |
| 21 | 明黄褐色土 | ～5cmの礫粒を中量含む |
| 22 | 黄褐色土 | ～20cmの礫粒を中量含む |
| 23 | 褐色土 | ～20cmの礫粒を多量含む |
| 24 | 淡赤黄褐色土 | ～5cmの礫粒を中量含む |
| 25 | 暗黄褐色土 | ～10cmの礫粒を多量含む |
| 26 | 淡赤黄褐色土 | ～20cmの礫粒を中量含む |
| 27 | 明褐色土 | ～5cmの礫粒を中量含む |
| 28 | 褐色土 | ～5cmの礫粒を少量含む |
| 29 | 褐色土 | ～5cmの礫粒を多量含む |
| 30 | 黄褐色土 | ～20cmの礫粒を多量含む |
| 31 | 淡赤黄褐色土 | ～10cmの礫粒を多量含む |
| 32 | 淡赤明黄褐色土 | ～20cmの礫粒を多量含む |
| 33 | 淡赤黄褐色土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 34 | 明褐色砂質土 | ～2cmの礫粒を多量含む |
| 35 | 褐色土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 36 | 明褐色砂質土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 37 | 褐色土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 38 | 明褐色砂質土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 39 | 暗黄褐色砂質土 | ～5cmの礫粒を少量含む |
| 40 | 淡赤褐色土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 41 | 褐色土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 42 | 明黄褐色土 | ～5cmの礫粒を中量含む |
| 43 | 明褐色土 | ～10cmの礫粒を中量含む |
| 44 | 褐色土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 45 | 暗褐色土 | ～5cmの礫粒を中量含む |
| 46 | 黄褐色土 | ～5cmの礫粒を少量含む |
| 47 | 明黄褐色土 | ～5cmの礫粒を中量含む |
| 48 | 暗黄褐色土 | ～5cmの礫粒を少量含む |
| 49 | 褐色砂質土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 50 | 褐色土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 51 | 暗褐色土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 52 | 明黄褐色土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 53 | 黄褐色土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 54 | 暗褐色土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 55 | 黄褐色土 | ～5cmの礫粒を多量含む |
| 56 | 褐色土 | ～10cmの礫粒を多量含む |
| 57 | 淡赤褐色砂質土 | ～2cmの礫粒を少量含む |
| 58 | 褐色砂質土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 59 | 淡赤黄褐色土 | ～2cmの礫粒を中量含む |
| 60 | 青白色粘土 | |
| 61 | 淡黄灰色砂層 | |
| 62 | 青白色粘土 | |

LH=43, 0m

0　1:40　2m

第43図　八幡ヶ谷古墳　埋葬施設平面・土層断面図

第44図　八幡ヶ谷古墳　1号棺　平面図




1　褐色土
2　青白色粘土
2′　青白色粘土　　明褐色土の混在多い
3　黄褐色土　　～1cmの粘土粒を中量含む
4　明褐色土　　～1cmの粘土粒を中量含む
5　明褐色土　　～20cmの礫を多量含む

第45図　八幡ヶ谷古墳　1号棺　断面図

第46図　八幡ヶ谷古墳　1号棺　盾出土状況実測図

る。刃部とほぼ直行ではあるが、わずかに鈍角である。

袋状鉄斧（49-4～6）

袋状鉄斧は3点出土している。すべて刃部は薄く、明瞭な刃もみられない、実用品ではないであろう。

49-4の袋部は破損が激しく合わせ目の様子は不明である。内部に約2㎝の長さで木質が残る。

49-5の刃部は半分ほど欠損している。袋部は端部が合わさっているが、左右でずれを生じている。内部には木質がよく残っている。2.4×1㎝の楕円形をした柄が1.5㎝ほど挿入されていたことがわかる。

49-6は袋部に長さ2㎝ほど木質が残る。

刀子（49-3）

刀子は1点である。刃部長が約4㎝と短い、茎部には木質が残る。

鉄鏃（50-1～51-37）

鉄鏃は37本がひとかたまりになって置かれていた。棺の北隅付近に矢先を南東に向けている。

錆により分離できないものも多く、詳細な観察が困難であるが、すべて二段腸抉式の一種で、上段の逆刺が片側のみにある。

大きさのばらつきは少なく、全長で11㎝、鏃身が5㎝ほどである。

茎に関がありいわゆる2段関である。茎部には木質が残っている個体も多く、矢柄は直径8㎜、出土位置から長さは50～60㎝と推測できる。また、1㎜ほどの樹皮で縛っている痕跡も一部で見られる。

類例は奈良・三陵墓西古墳、熊本・将軍塚古墳に知られている（鈴木一2003）。この型式から古墳時代中期初頭～前葉の年代が得られる。

刀（52-1～53-2）

刀は総数で5振出土している。うち52-1と52-2は棺内に他の3本は棺外に副葬されていた。墓壙の長軸に並行に、切先はすべて北方向に納められていた。

52-1は棺内南西側に、刃を木棺中央（被葬者）に向けて置かれていた。切先は欠損し、残存長78.0㎝、推定長82㎝ほどである。断面楔形の平造り、目釘孔は1ヶ所。茎部断面は腹側がやや薄い台形状となる。茎尻は隅抉尻である。また茎尻に漆膜が残っており、漆塗りの把頭が装着されていたことがわかる。幅2㎝程度の帯状の部分が2ヶ所あり、それぞれが段をなしているのであろう。奈良県布留遺跡例に近い形態と思われる。関付近にも漆膜が残存し、把縁装具の存在がわかるが、詳細は不明である。

刃部に木質は見られない。他の刀剣類における木質の残存状況と比較すると、鞘が無かった可能性が考えられる。

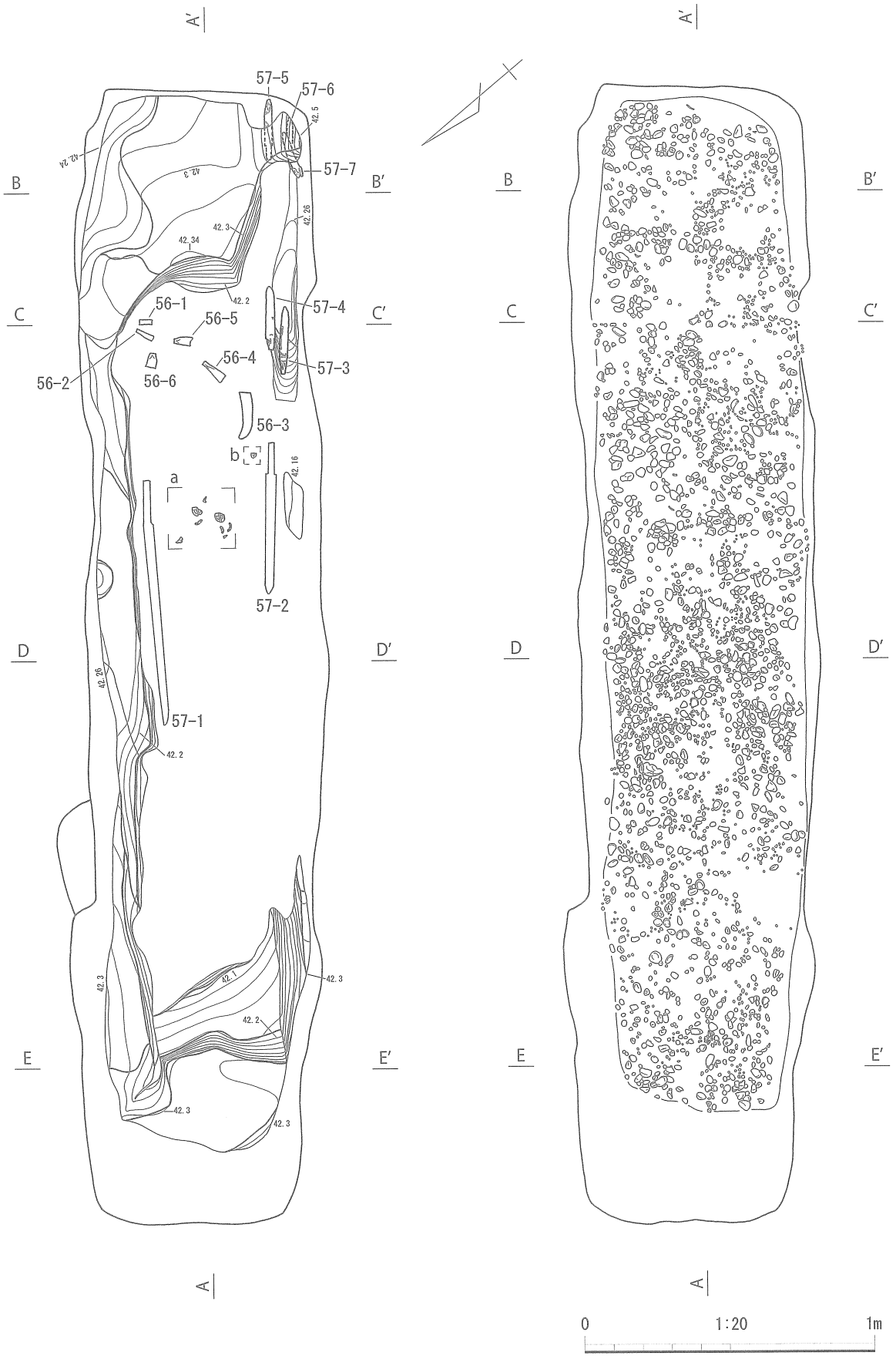
52-2は棺内南東側に、刃を外側に向けて置かれていた。全長57.5㎝、断面楔形の平造りである。目釘孔は2ヶ所である。刃部に木質が残ることから、鞘に入れられた状態で副葬されている。現状の重量が149.1gと他の刀剣類と比較して非常に軽く、長さを考慮しても質が劣るようである。

背側に竪櫛（55-3）が付着している。竪櫛が被葬者の頭に装着された状態で、刀が頭付近に置かれたものと推測される。

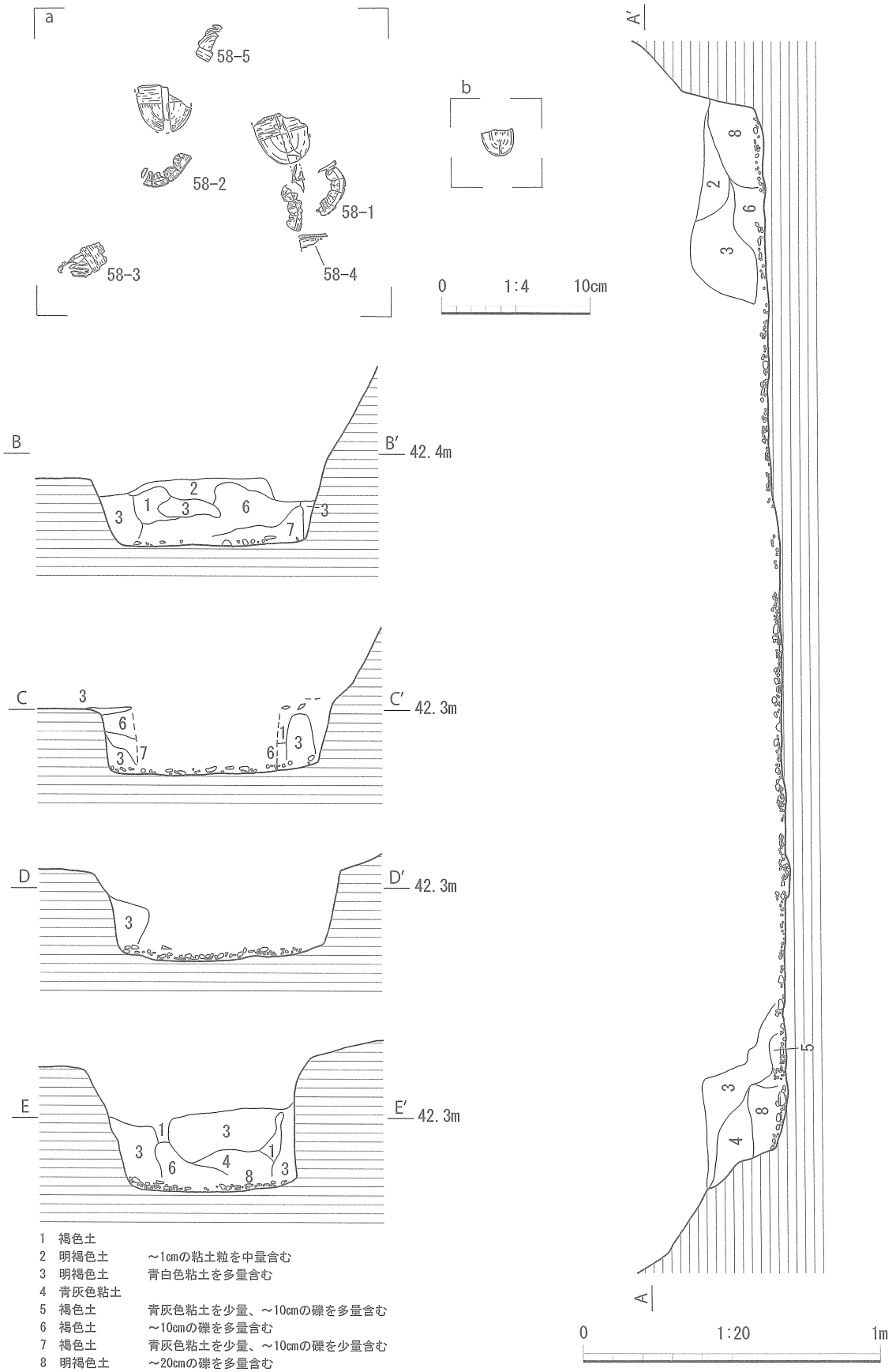
52-3は墓壙の西側、刃を木棺中央に向けて出土した。

全長90㎝。断面楔形の平造りであるが、ややふくらみがある。茎部断面は腹側がやや薄い台形状となる。

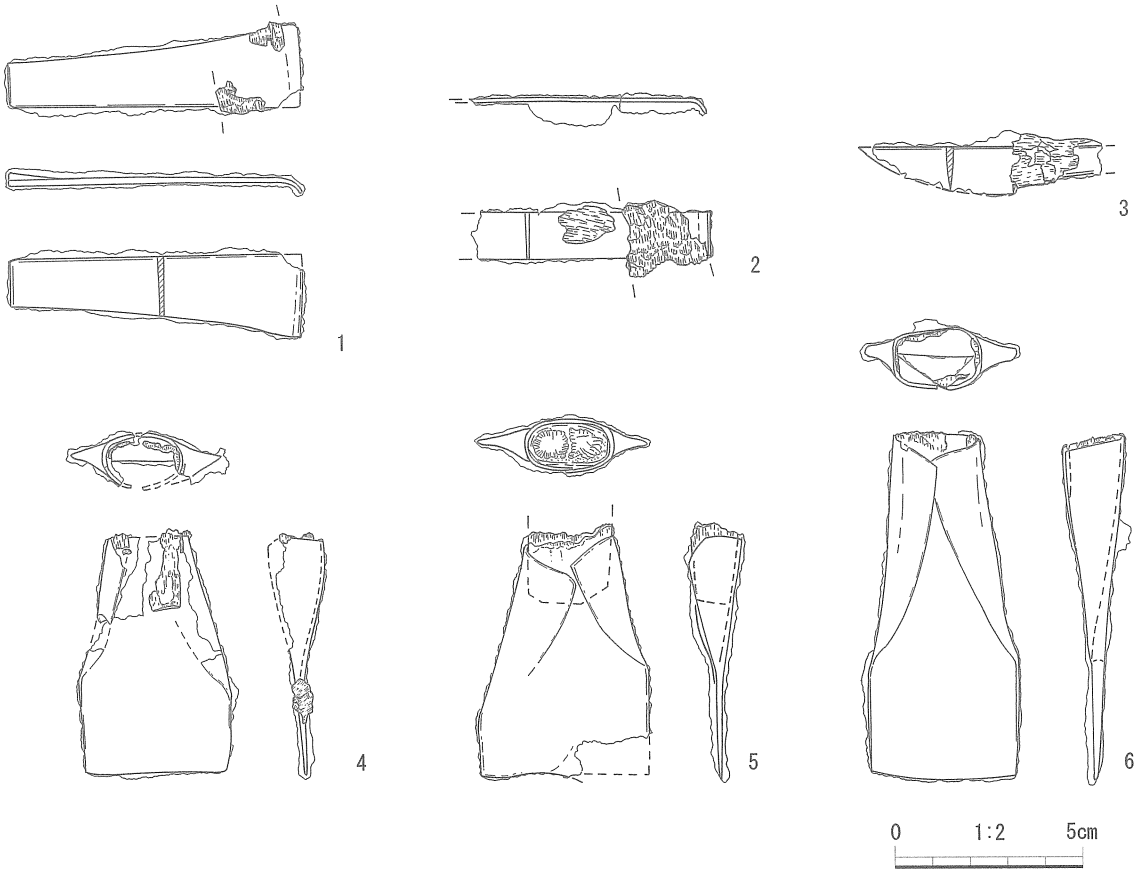
鞘の木質がよく残り、一部で表面まで残っているため、鞘が厚さ1㎝ほどであることがわかる。関の




第47図　八幡ヶ谷古墳　2号棺　平面図




第48図　八幡ヶ谷古墳　2号棺　断面図




**第49図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図１（１号棺・農工具）**

部分には装具の漆膜が残り、直弧文が施されていることが観察できる。把には把巻き繊維が残り、２本１組の紐が巻かれている様子がうかがえる。把の中央部は細くなっている。目釘は２カ所でともに木質と思われる釘が残る。

53-１は盾の下、墓壙壁際で刃を棺側に向けて出土した。

全長82.0cm、断面楔形の平造りである。茎部断面は腹側がやや薄い台形状となる。目釘孔は２ヶ所、ともに目釘がのこり、木質と思われる。把には把巻の繊維の痕跡がよく残る。X線写真による観察では２本の糸を組んだ紐を使用していることがわかる。把尻に装具の一部が幅６㎜で残存している。

所々に漆が付着しているが、盾の一部である。

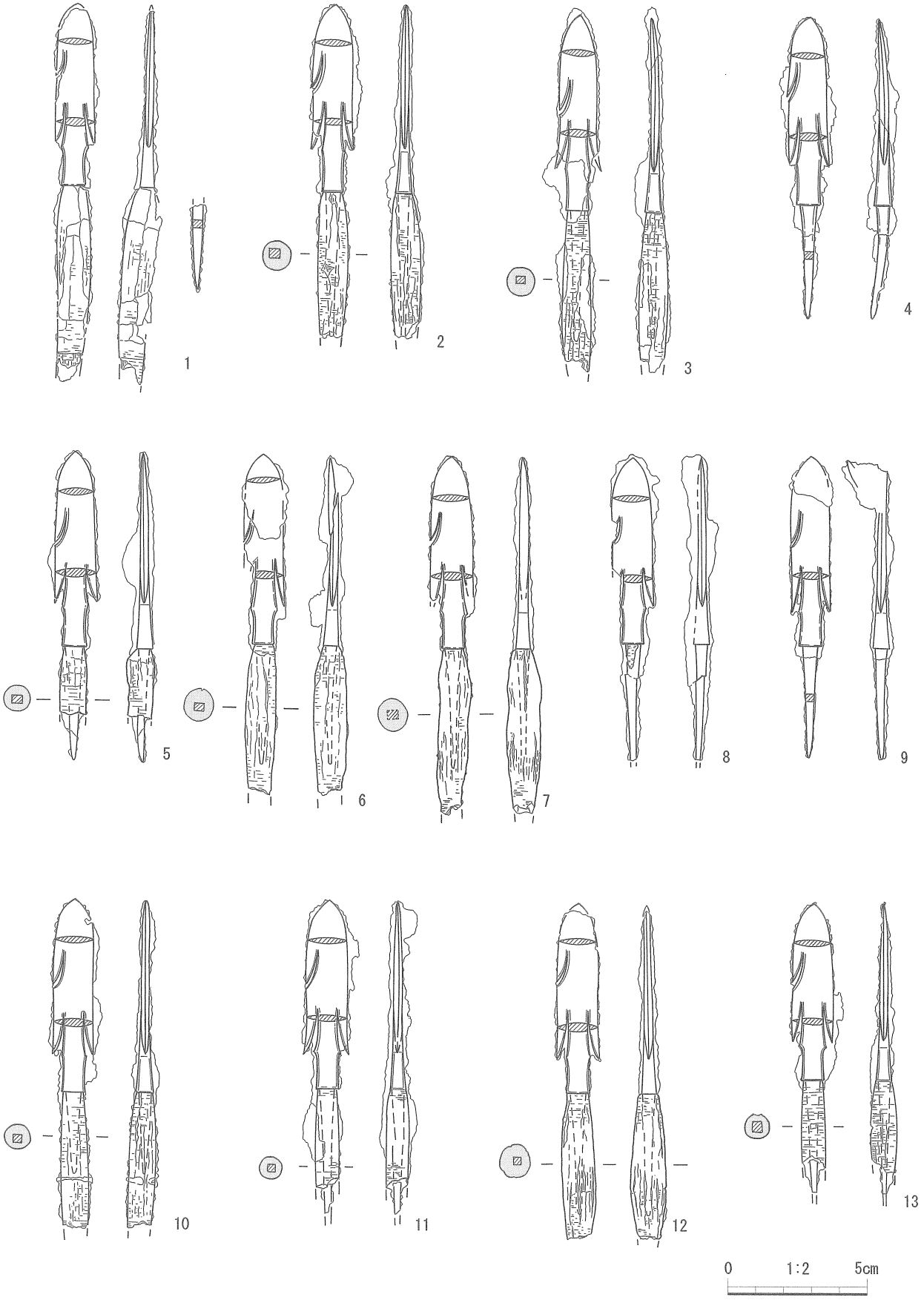
53-２も盾の下、墓壙壁際に刃を外側に向けて出土した。

全長60.8cm。刃部は断面が楔形の平造りである。茎部断面は腹側がやや薄い台形状となる。目釘孔は２ヶ所あり、ともに目釘が残る。全体に木質がよく残り、木製鞘に納められていた。関付近、背側に漆が付着しているが、盾の一部であろう。関部には幅1.9cmで木質が残存しない部分がある。鞘口・把縁の装具の痕跡と思われる。

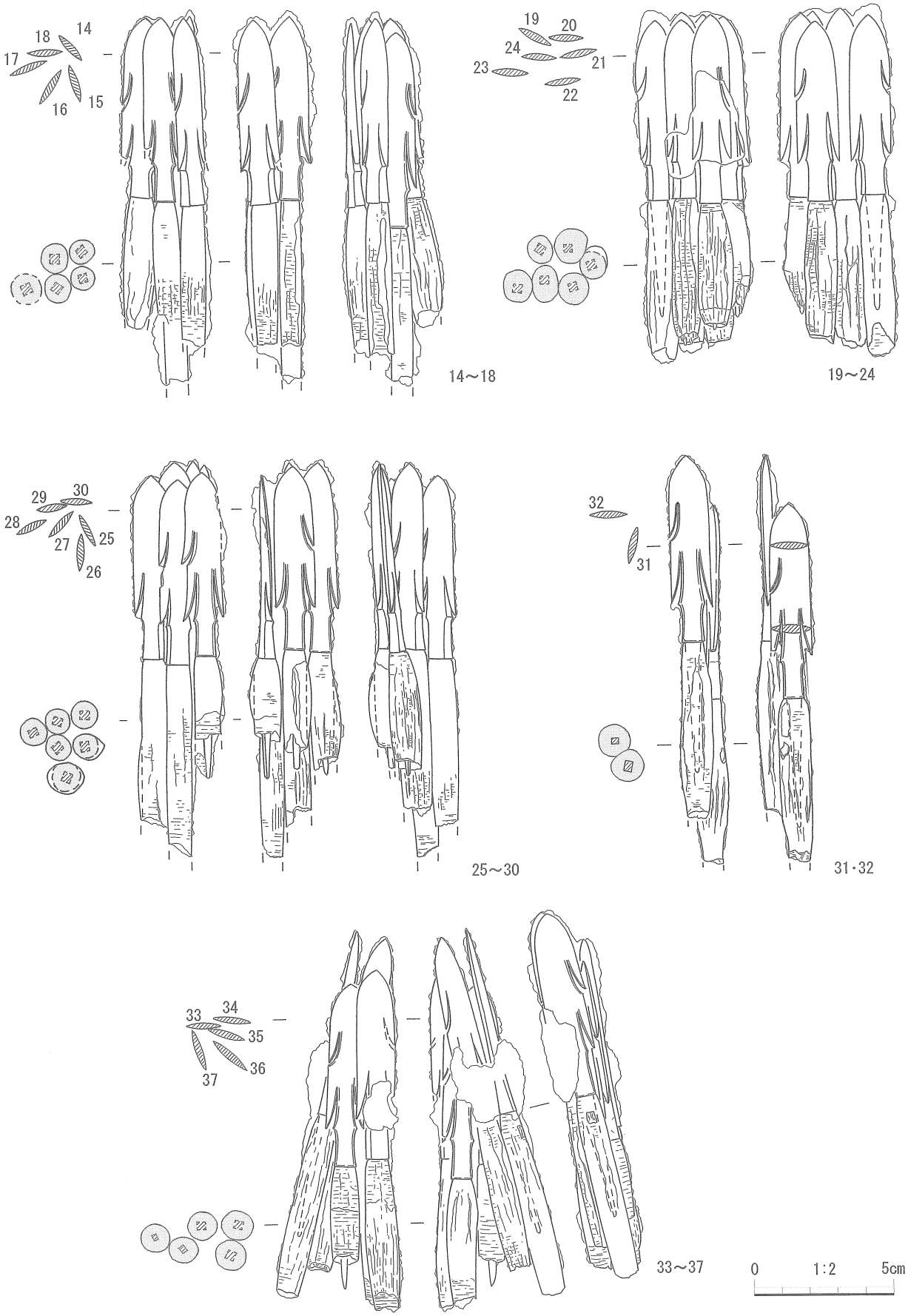
剣（54-１～８）

剣は８振出土している。54-１・54-２は棺外中央脇に刀とともに、その他は隅に３振ずつまとまって出土している。54-３～８は長さが17.2～24.1cmと短く、出土状態からは長柄が付いた槍であった可能性が考えられる。鎬はみな不明瞭であり、確認できたものでも痕跡がわずかに観察できる程度である。

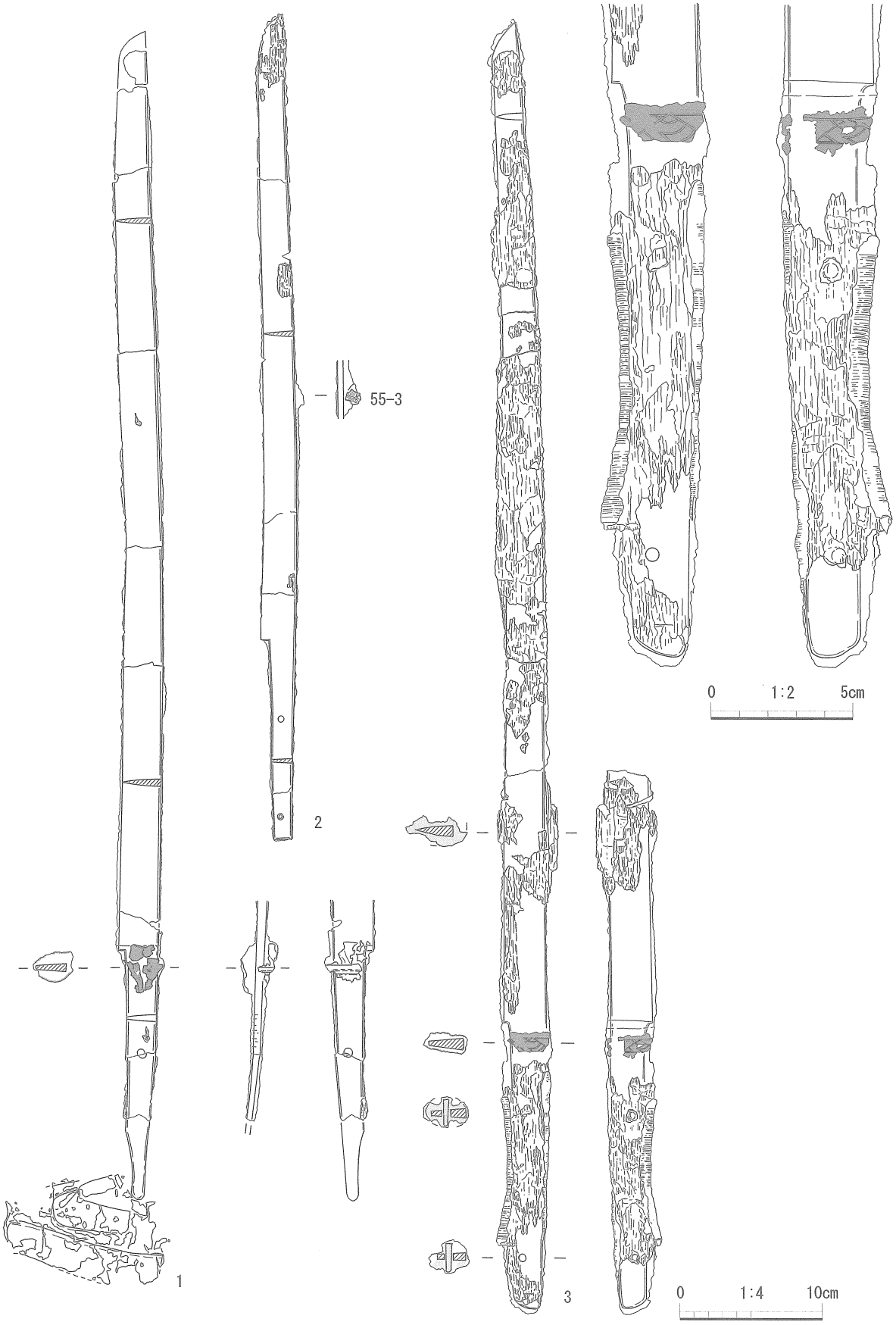
54-１は墓壙西側、切先を北方向に向けて出土した。



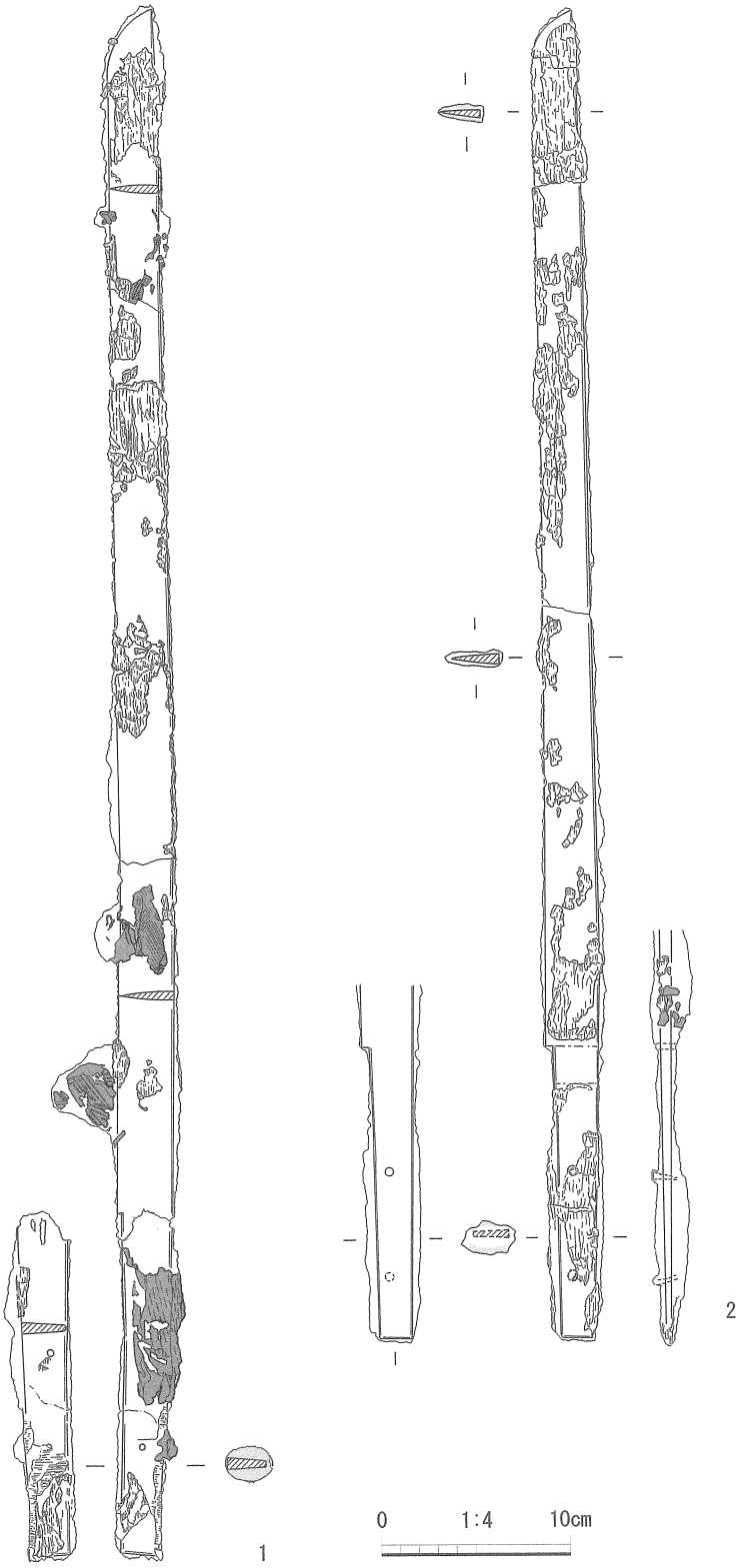

第50図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図２（１号棺・鉄鏃１）




第51図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図３（１号棺・鉄鏃２）




第52図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図４（１号棺・刀）




第53図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図５（１号棺・刀）

全長は54.1cmで柄・鞘の木質が多く残る。関部に幅７㎜と８㎜の漆が塗られた部品が確認できる。鞘口・把縁の装具が鞘、把とは別部材で装着されていたと認められる。目釘は２ヶ所。ともに木釘が残存している。

54-２は墓壙東側、切先を北方向に向けて出土した。先端は盾の下に入っていた。

全長46.2cmである。把・鞘の木質が多く残るが、関の所に幅２cmで木質の残存しない部分がある。把縁装具の痕跡と思われる。茎尻にも木質が見られず、装具の痕跡を示すものかもしれない。鞘縁から２cmの所に鞘口として区別する段差が設けられている。目釘は２ヶ所。刃部に付着している漆膜は盾の一部である。

54-３～５は頭側、54-６～８は足の方から出土している。

54-３は鞘、把の木質が残る。関部分は観察できない。

54-４はやや幅広である。鞘がわずかに、把は多く木質が残る。目釘は１ヶ所で木質であろう。

54-５は鞘、把ともに木質がよく残り、把が直裁であることがわかる。

54-６は木質がよく残り表面が観察できず、鎬は不明である。直裁の把で、把縁に幅１cm、最大で２㎜の段差があり、漆が残っている。把の断面は楕円形である。

54-７も鞘、把ともに木質がよく残るために、表面の観察がよくできない。目釘１本が残っている。把は一木造りである。

54-８も木質が多く残る。茎部では関から４㎜下で直線的に終わっていることから、直裁式の把が付くことがわかる。鞘の木質が長さ９cm、幅３cm、厚さ１cmほど残っている。鞘は断面が楕円形で、短径が３cmぐらいと想像できる。

巴形銅器（第55図　巻頭図版11　図版53）

刀52-１の下、墓壙の壁際から１点出土している。

左捩りで脚は２本が残存し、４本に復元できる。推定径は４cmで、他の類例と比較して小型品に相当する。円錐の体部は直径1.1cmと、座の径1.8cmに比べて円錐部がやや小さく、座の段が目立つ。

磐田市松林山古墳、銚子塚古墳に続き、県内では５例目である。

漆製品

盾（第46図　巻頭図版11）

漆部分がわずかに残ったもので、残存状況が悪く全体像ははっきりしない。棺上に置かれ、棺の腐敗にともなって落ち込んだ際に分解し、裏表、左右などの入れ替わりが生じている可能性が考えられる。

上辺が山形か直線かも不明である。外区に鋸歯文、内区にも鋸歯または菱形の模様がわずかに観察される。一部には紫色に見える部分があり赤彩されていた可能性が高い。

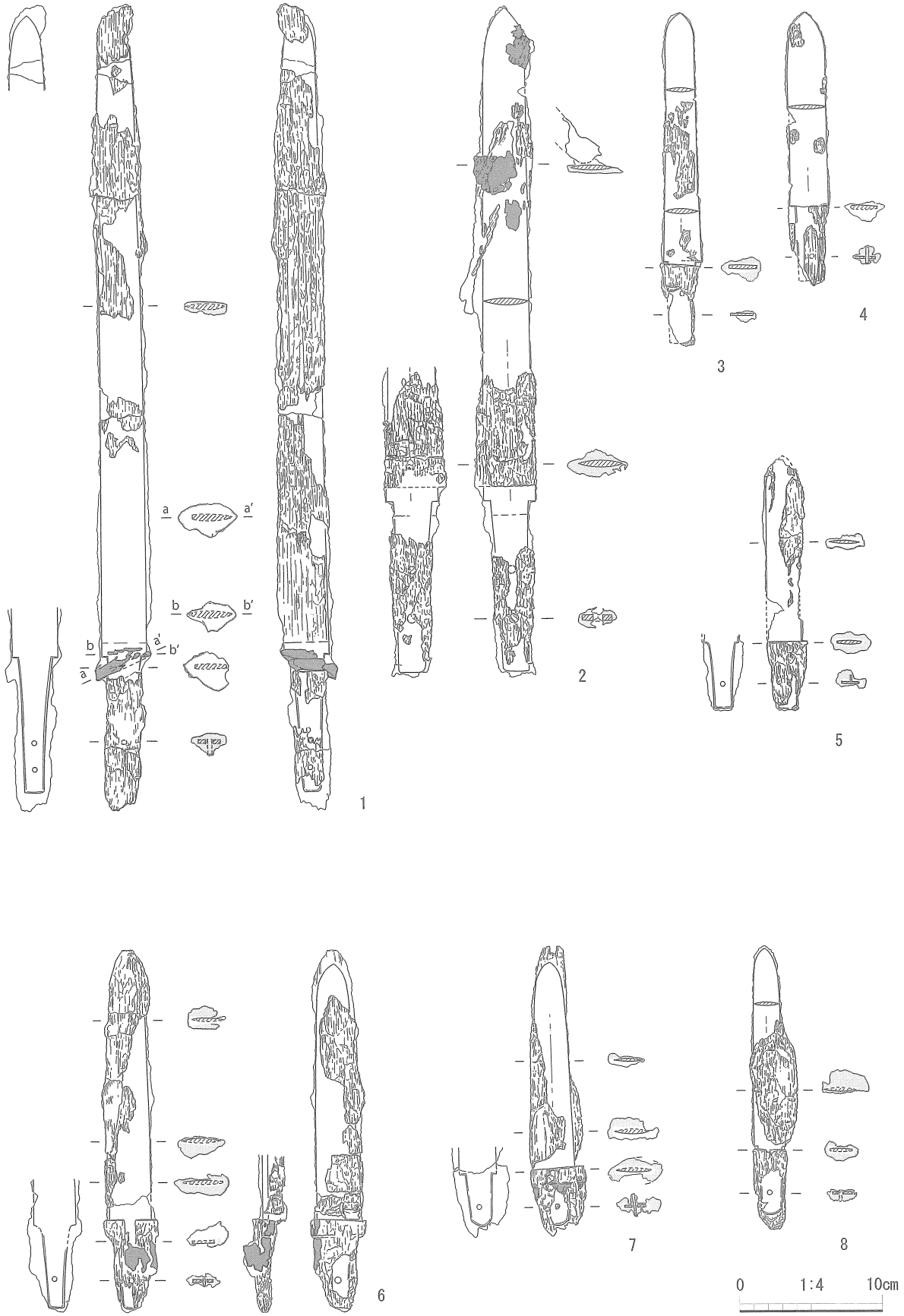
２㎜幅のひも状の皮を編み込んで作られたと考えられる。

竪櫛（第55図　巻頭図版12　図版51）

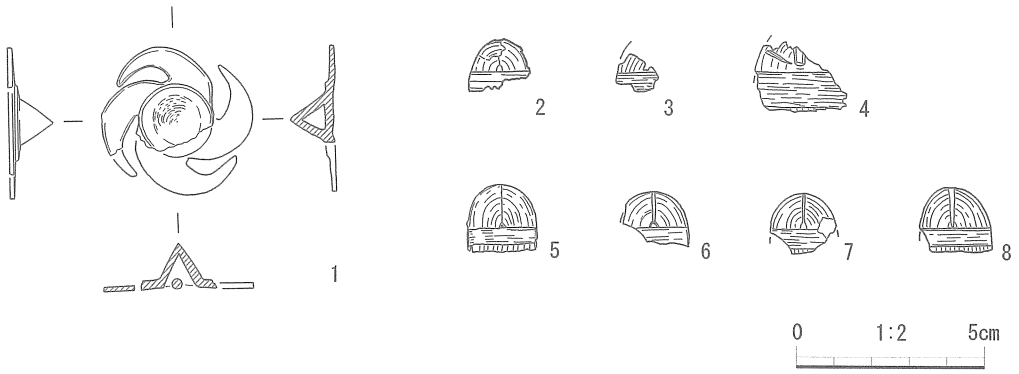
７点出土している。いずれも櫛歯は残存していなく、U字型に曲げた頭部が残っていた。

55-２は刀52-１の把頭のすぐ横に、55-３は刀52-２に付着して出土している。約30cm離れているが被葬者の頭に装着した状態で埋葬されたと推定できる。他の５点は棺の南隅にまとめて置かれていたのであろう。

55-２が幅1.6cm、55-３は推定幅２cm、55-５～８は幅が1.8～２cmとほぼ同じ大きさである。８本前後の歯を曲げて作っている。




第54図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図６（１号棺・剣）




第55図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図７（１号棺・巴形銅器・竪櫛）

55-４は推定幅2.5cmとやや大きく、中央に幅３㎜の部品の痕跡があることから複合竪櫛の可能性が考えられ、55-５～８とセットであったかもしれない。

・２号棺

副葬品には鉄製品、漆製品がある。

鎌（56-１～３）

鎌は３点出土している。

56-１は両端を欠いているが直刃鎌であろう。背側は直線であるが、刃側はわずかに曲線的である。

56-２も直刃鎌である。先端は直線、折り返し部は刃部と直行している。背側はほぼ直線、刃側はゆるやかな曲線を描いている。基部に幅1.7cmで木質が残り背と直行する柄が装着されていたことがわかる。直刃鎌２点はいずれも薄くて刃も鈍く、実用的とは考えられない。

56-３は曲刃鎌である。背側は直線的、刃側は緩やかな弧を描き、先端が大きく曲がる。

折り返し部に刃と平行する木質が付着している。柄との間に打ち込まれた楔であると考えられる。

袋状鉄斧（56-４～６）

袋状鉄斧は３点出土している。

56-４は厚さ約２㎜、５と６は厚さが約１㎜の鉄板を曲げて作られており、袋部の合わせ目は端部付近が接しているだけである。56-６の刃部はわずかに弧を描いている。また、袋部にはかすかに木質部が観察できる。

それぞれ長さは異なっているが、幅はみな3.5cm前後である。ともに実用品ではないであろう。

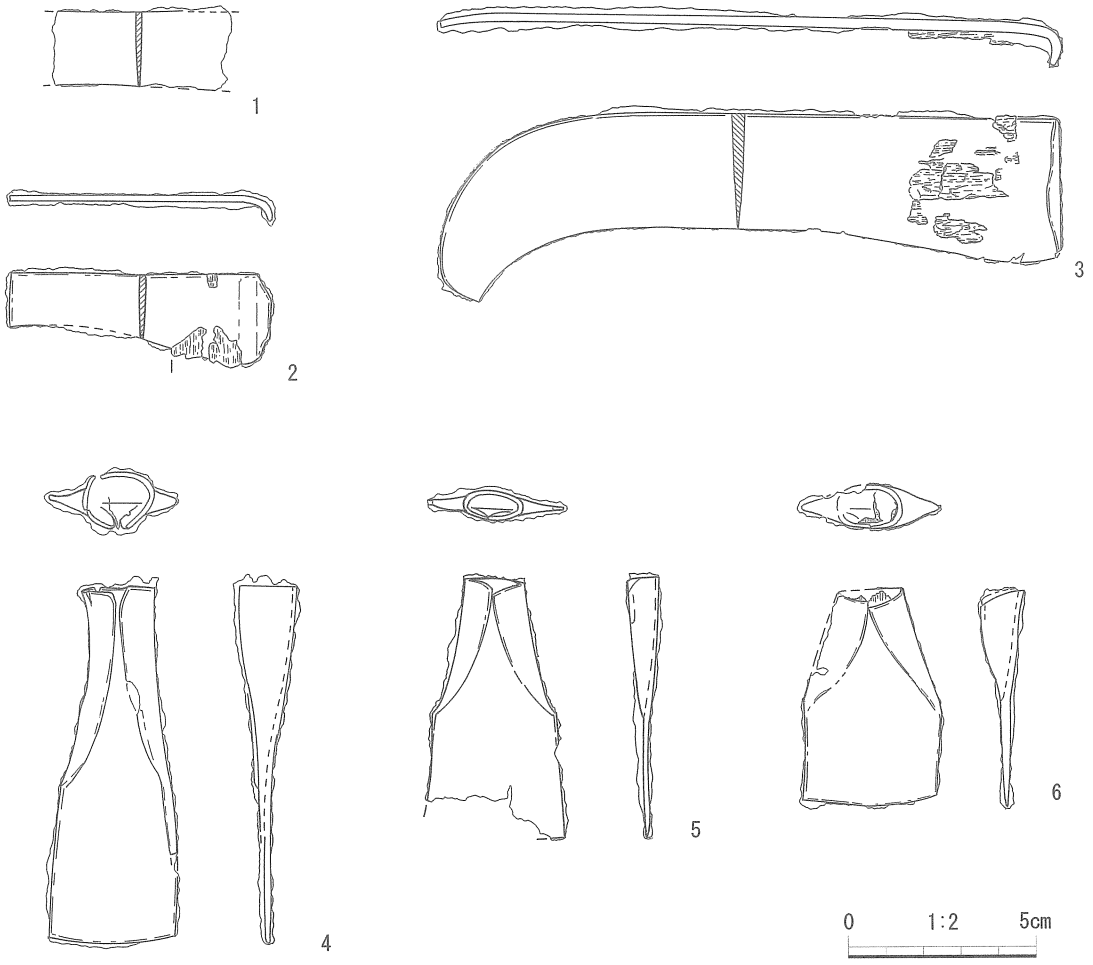
刀（57-１）

中央東側に切先を北西、刃部を内側に向けて出土した。

全長83.5cm。断面楔形の平造り、目釘孔は２カ所である。

幅1.3cmの鞘口の痕跡は明瞭に、把縁の漆はわずかに残存する。出土時には把尻付近に漆が残存していたが、取り上げることはできなかった。漆塗りの把が装着されていたことがわかる。

茎の背側には把巻きの繊維の痕跡が残る。




第56図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図８（２号棺・農工具）

剣（57-２～７）

剣は６振出土している。57-２は棺内出土である。それ以外は棺外で、16.7～24.8cmと短く、１号棺の剣と同様に、出土状態から長柄がつく槍である可能性もある。鎬はほとんど観察できないが、57-３では鎬がある可能性を指摘できる。

57-２は中央西側に切先を北西に向けて出土した。全長53.0cmである。刃部に対して茎部がやや屈折している。目釘孔は２カ所である。

刃部には木質が多量に残存しているが、関付近に幅1.3cmで木質が残っていない。把側には錆の盛り上がりがあり、鞘口および把縁の装具の痕跡であろう。鞘は２×４cmほどの楕円形と推測できる。

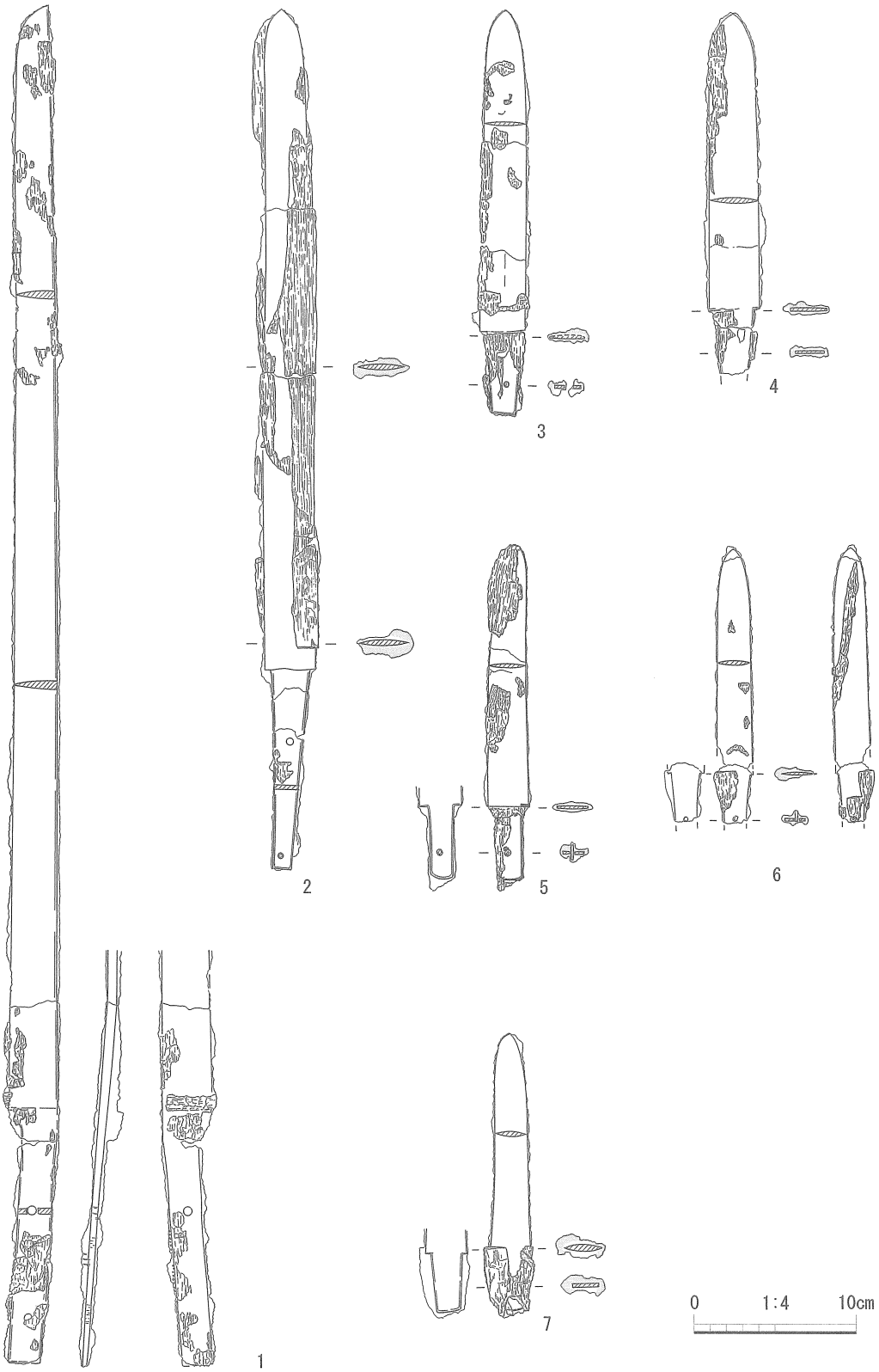
57-３は鞘、把ともに木質がわずかに残る。直裁の把で、目釘は１ヶ所である。

57-４は茎端部が欠損している。他に比べ幅広で、薄い。鞘、把ともに木質が少し残る。柄は直裁で、関から3.5cmの刃部にも直線的な木質の切れ目がある。

57-５は直線的な茎部をもつ。端部は斜めである。目釘は１ヶ所で、把の直裁の痕跡がみられる。

57-６は目釘が残るが、それ以下が欠損している。鞘、把の木質が残り、目釘より１cmと３cmの所に直線的な木質の切れ目がある。

57-７は把の木質がよく残り、楕円形の把で直裁である。目釘は不明である。




第57図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図９（２号棺・刀剣）

漆製品

竪櫛（第58図　巻頭図版13）

複合竪櫛が含まれるため正確な点数を把握するのは難しいが、６個体以上あり、うち３点が複合竪櫛である。１点は遺存状態が悪く取り上げることができなかった。実測図は、複合竪櫛と思われる個体ごとの出土状況をそのまま図化した。

すべて櫛歯は残存していなく、U字型に曲げた頭部が残っていた。

58-２には小型竪櫛４点、58-１では確実なもので４点、さらに３点の小型竪櫛も接続していた可能性がある。大きさ、配置の様子から、小型竪櫛は８個か９個が付いていたと推定できる。58-３は形からは複合竪櫛と考えられるが、付属の小型竪櫛は不明である。

複合竪櫛の本体は幅４cmほど、高さ3.5cmぐらいである。歯の数は12本ほどをまとめて曲げた24本ほどと考えられる。中央部に直径４mmほどの連結部品がある。小型竪櫛は幅、高さとも１cm前後である。歯は５本×２の10本ぐらいだろうか。

その他58-４と58-５は遺存状態が悪く全体像がはっきりしない。小型ではなく、複合竪櫛の本体である可能性も否定できない。

(3)　埋葬施設外出土遺物（第60図　図版65・66）

埋葬施設の埋土内および墳丘表土から土器片、埴輪片が出土した。

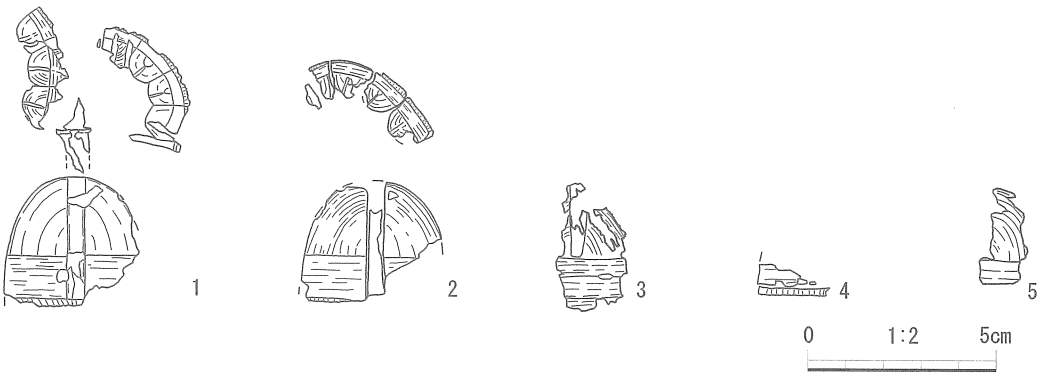
土師器の高杯60-４・５は確認調査時に埋葬施設内の検出面付近で出土している。

須恵器片60-６・７は墳丘南西側から出土している。７世紀以降の遺物で古墳の埋葬に伴うものとは認められない。

壺60-１・２と埴輪片のうち60-14・15は埋葬施設の上層からの出土であり、墳丘上にあったものが、棺の腐朽による陥没で落ち込んだと考えられるが、60-８・13は下層に位置しているので、埋土の中に破片の状態で混ざったものであろう。

埴輪で形が判明するのは壺形埴輪のみであるが、他の形もあるかもしれない。60-８～11は胴部、12は底部、13～18は突帯部分である。

胎土からは60-９・11・13・14が同一個体である可能性を指摘できる。60-12と17も質は似ているが、小型の別個体であろう。表面の調整はほとんどが摩滅のため不明であるが、内面の粘土接合痕と一部の突帯に横方向のナデが観察できる。




第58図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図10（２号棺・竪櫛）

(4)　小結

東西に２人の人物が埋葬されていたが、埋葬施設の深さ、副葬品の量などから、主たる被葬者は東側の１号棺の人物である。

棺の構造、埋葬方法はほぼ同じである。頭位はともに南東であるが、基準が方位・尾根方向ではなく、別にあるようである。

副葬品の量は異なるが、共通項として鎌、斧の農工具、刀剣、竪櫛がある。

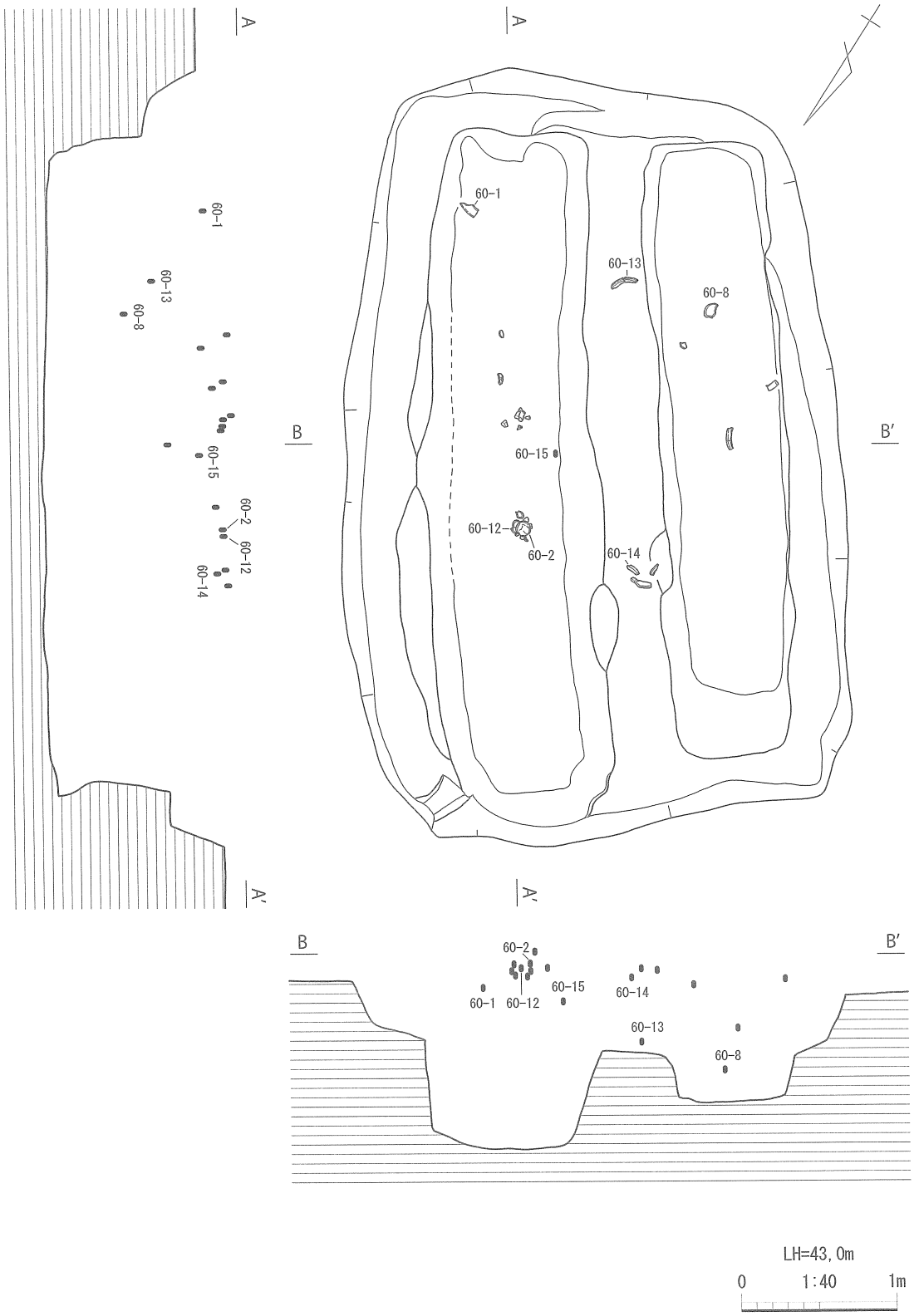
斧は各３点であるが、袋状鉄斧、直刃鎌とも実用品ではない。

刀の数には差があるが、剣は40cm以上の確実に剣と認められるものが、１、２号棺に各１振、という点で同じである。ただし棺内と棺外という点は異なっている。

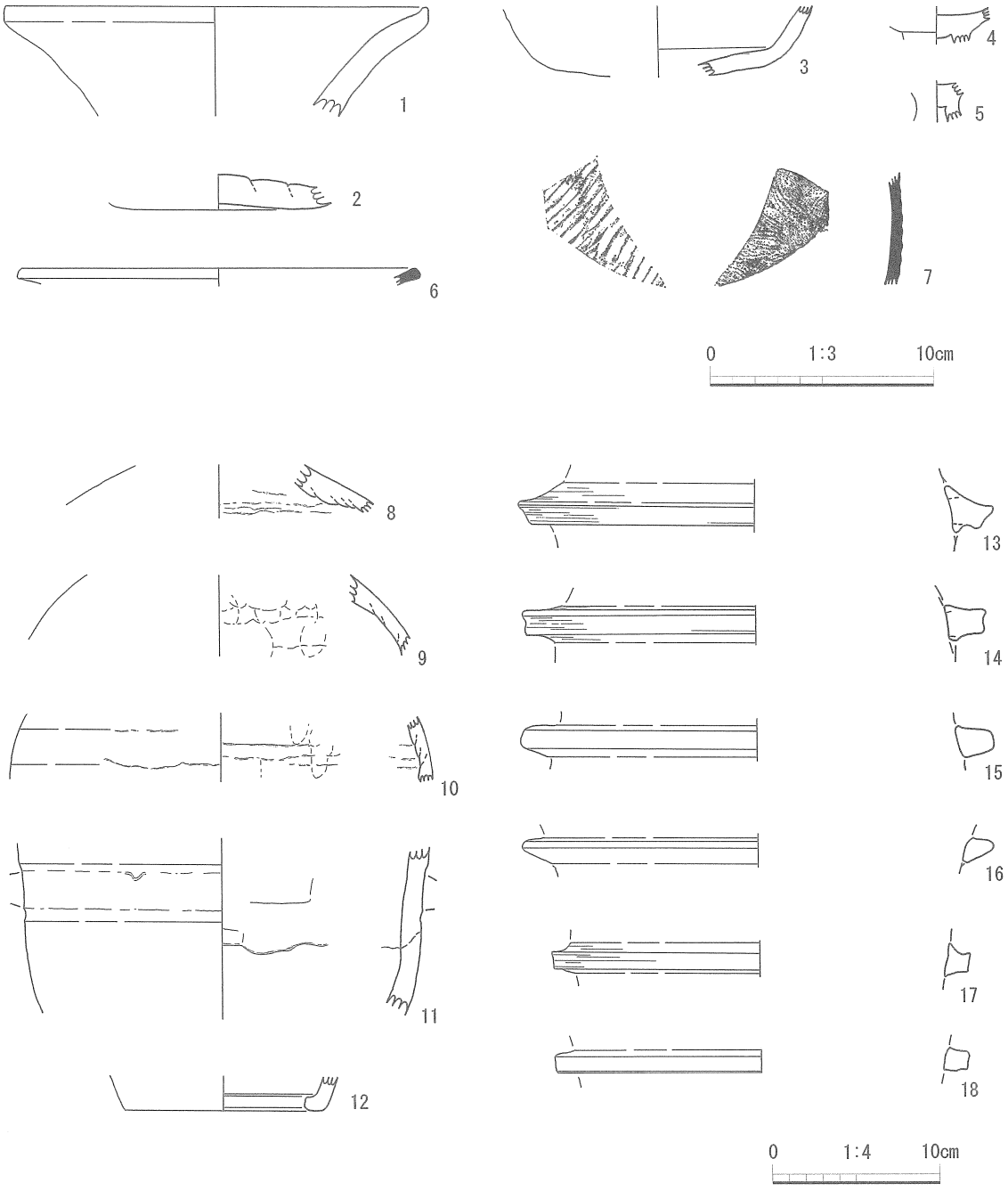
他に副葬位置の違いは、２号棺では頭付近に集中している点である。

25cm以下の槍である可能性がある剣は１号では３振ずつ南北、対角に置かれているが、２号棺では南に５振が置かれている。１号棺では足元にある農耕具も２号棺では頭側である。

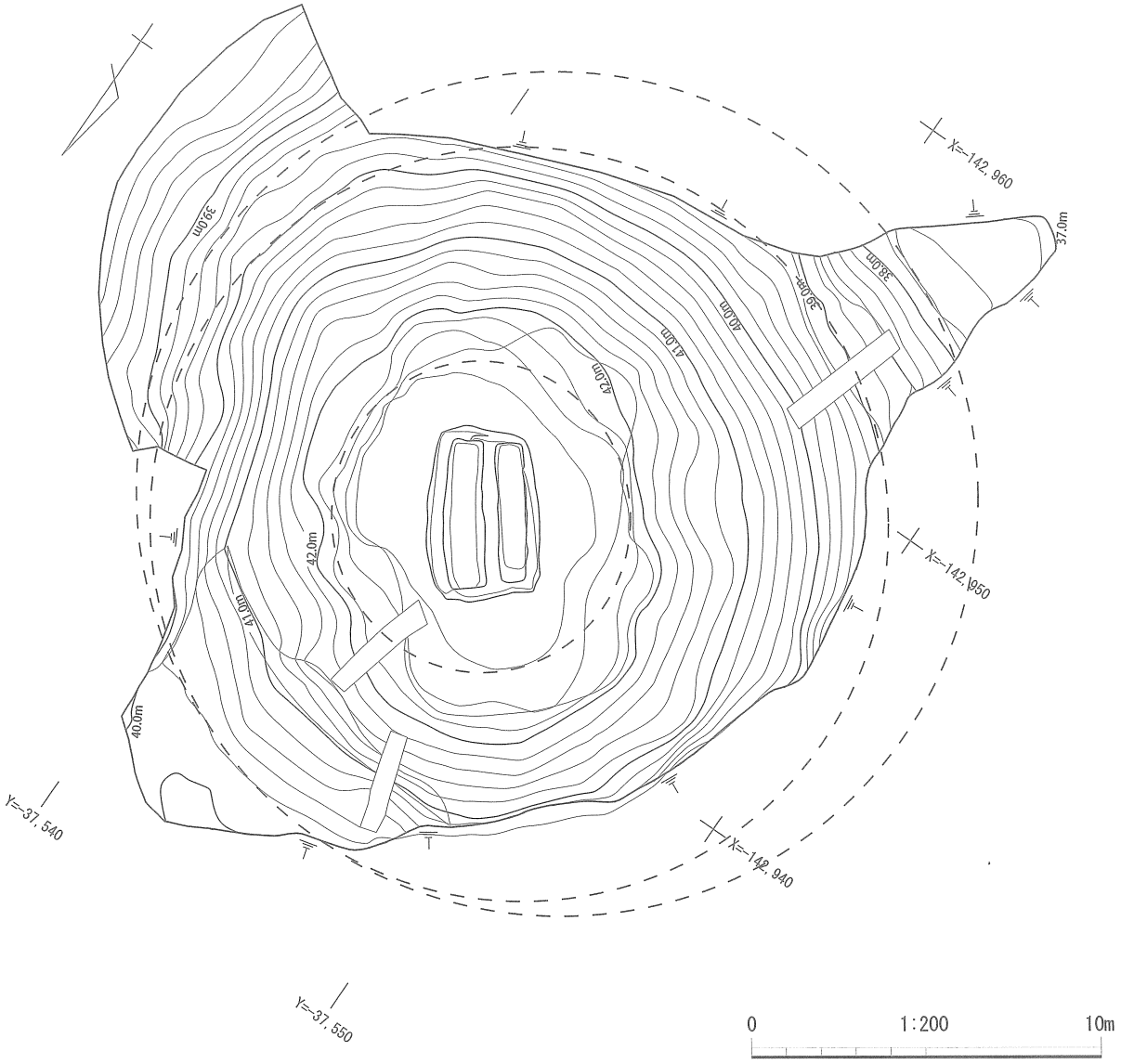
埋葬の時期は遺物全体から、古墳時代中期初頭～前葉と認められる。すると、２号棺にみられる曲刃鎌が一般的に副葬されるようになるのが中期中葉からであることがひっかかるが、２段腸抉式鉄鏃、盾と巴形銅器、直弧文が施された刀剣類、壺形埴輪など他地域との交流を伺わせる遺物が多いことから、この被葬者はいち早く曲刃鎌も手に入れたのではないかと推測すれば理解可能ではないだろうか。




第59図　八幡ヶ谷古墳　埋葬施設上層　埴輪・土師器出土状況実測図




第60図　八幡ヶ谷古墳　出土遺物実測図11（土器・埴輪）




第61図　八幡ヶ谷古墳　墳丘推定復元図

## 第６節　下平川八幡神社西遺跡の遺構と遺物

下平川八幡谷の谷は、南に開いた小さな谷であるが、谷の奥は２つに分かれている。北から延びて谷を分ける丘陵の先端に八幡神社が存在し、その西側が下平川八幡神社西遺跡である。

下平川八幡神社西遺跡は西側の丘陵から伸びる小さな尾根により北と南に分けられる。尾根の南側が１区で北側が２区である（第62図）。

１区での基盤層は基本的に丘陵に近い場所では岩盤、谷部分ではしまりのない黒色粘土である。一部には中間的な黒色シルトの所もあった。２区では岩盤上で遺構を検出した。

### ⑴　遺構（第63～65図　図版67～69）

・１区

１区では井戸３基、土坑１基、溝11条と多数のピットが検出された。これらの遺構の時期はほとんどが近世、18世紀以降と考えられるが、遺構からの遺物の出土量が少なく、しかも小破片がほとんどであるために各遺構の正確な時期決定は困難であった。

中世の遺構である可能性を指摘できるのは、ＳＤ01・08・09・11であり、中でもＳＤ09は可能性が高い。しかし、覆土に近世の遺物が無いことからの推測であり、溝の方向は近世である他の溝とほぼ一致していることから、近世の可能性も捨てきれない。

中世の可能性が考えられる遺構はすべて、グリッドのＢ・Ｃ－３・４周辺であり、その部分を引き出した図が第64図である。この地点は確実な近世の遺構が無く、北側と南側の検出面に70㎝近い標高差が存在することから、近世では建物が存在しない空間であり斜面が存在したと考えられる。

ＳＤ09からは山茶碗、青磁碗の破片など13世紀後葉までの遺物が出土しており、そのころまでに埋没したと考えられる。

井戸は３基とも近世に属する。ＳＥ01では井戸枠に曲物を使用している。ＳＥ02では枠は検出されず、ともに図化できる遺物は無かったが、連続して作られたと考えられる。

ＳＥ03からは板・簾状の編物の他、17・18世紀の遺物が出土しており、時期を知る手がかりとなる。

土坑ＳＫ01からは磁器の破片が出土しているが、近世の遺構で廃棄土坑であろう。

溝はいずれも北から20°東に振った方向、またはそれに直交する。この方向は現在の土地区画の方向と一致し、地形に規定されたものであろう。

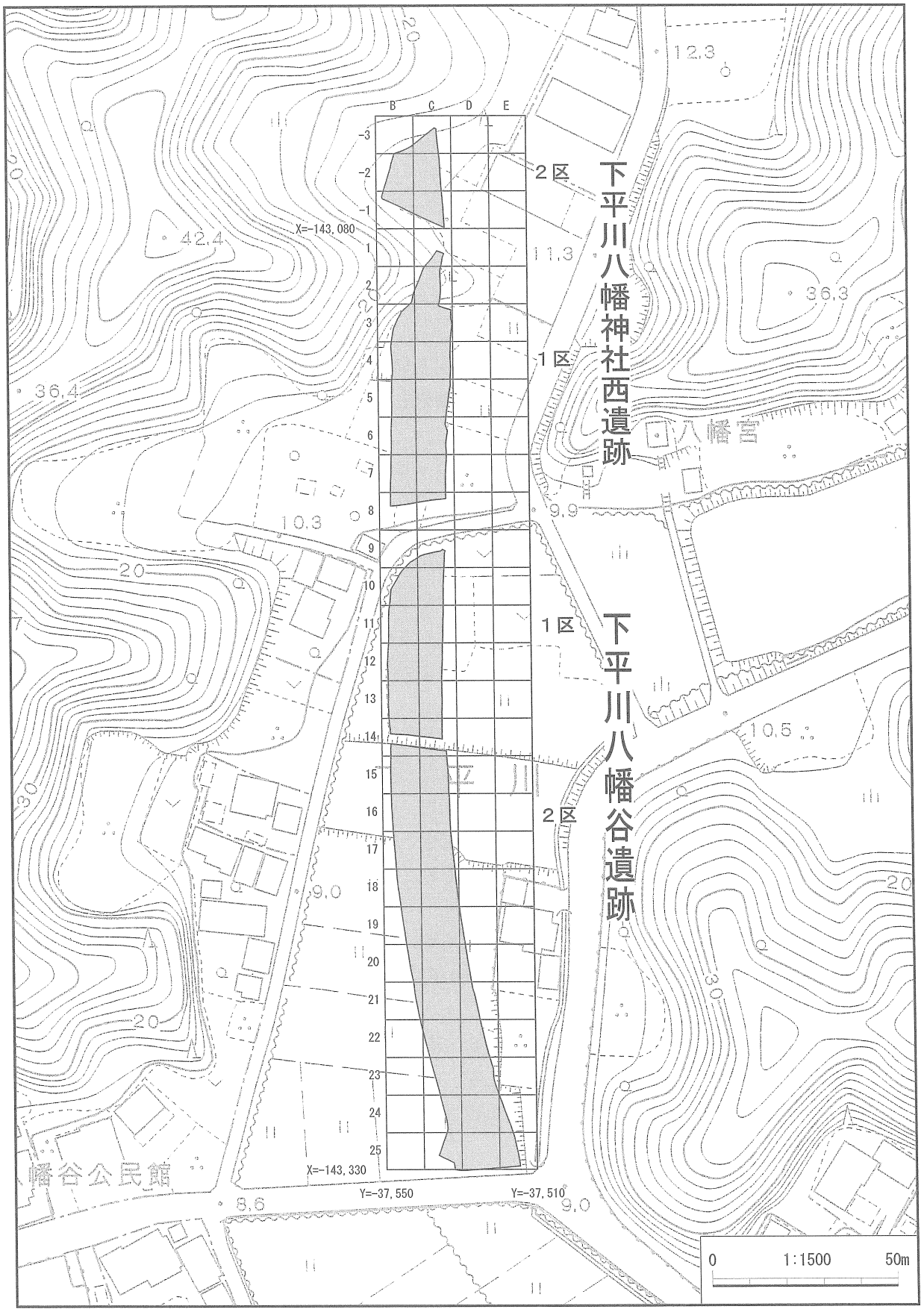
近世には調査区北側のＳＤ07で囲まれた区画と、南側のＳＤ10などで囲まれた区画が存在し、中に居住空間があったと考えられる。南側区画では複数回の更新が行われているが、ピットが少なく、建物の状況は不明である。

ピットは多く見つかっていて、溝、等高線と平行・直行方向にピットが並んでいる様子が観察できる。建物が存在したはずであり、図上で復元を試みたが、明確な建物を認めることはできなかった。調査区は近年まで水田として利用されていたことから近世以降の削平により、検出できなかった遺構があるためであろう。

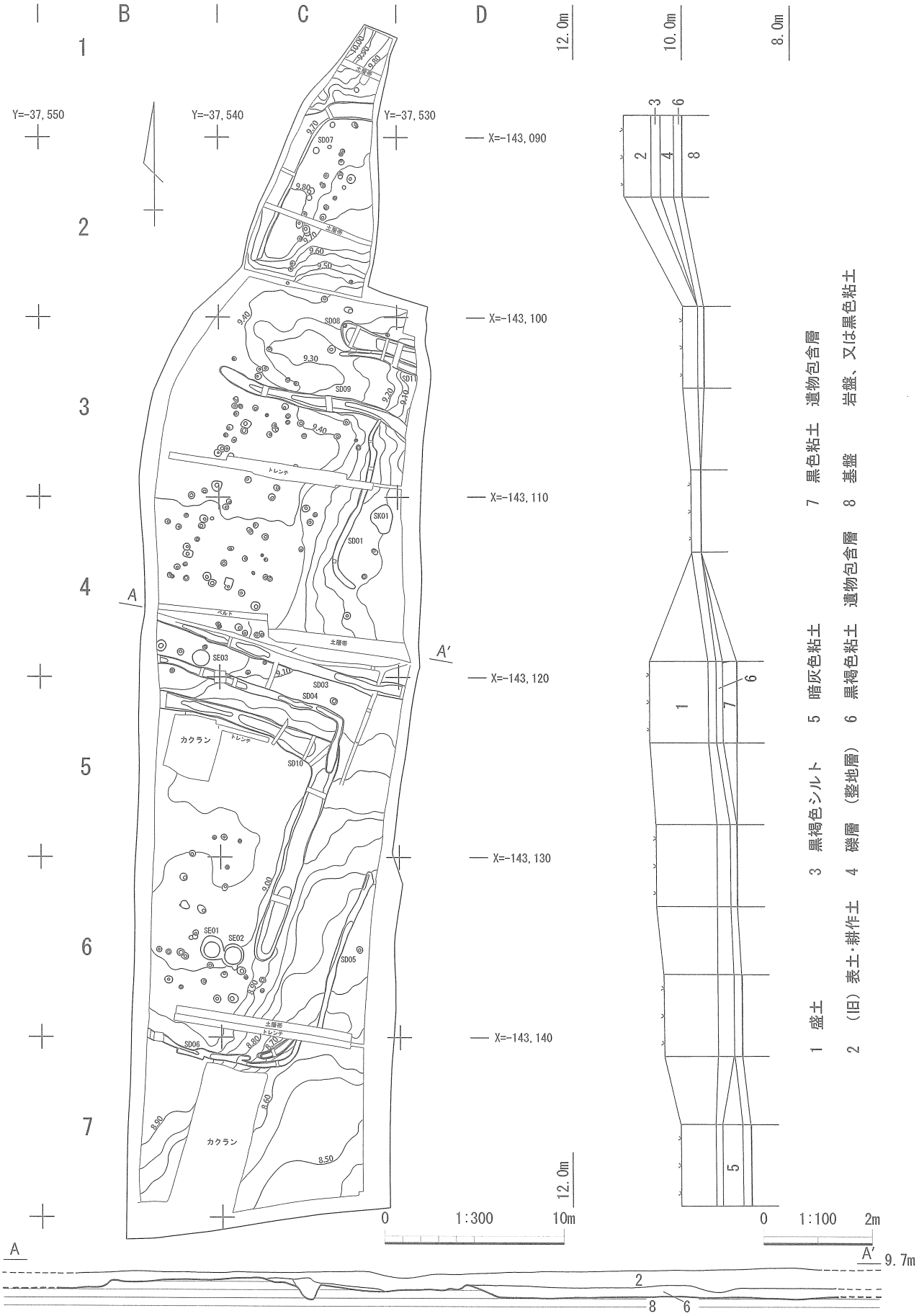
・２区

２区で検出されたのはすべて自然流路である。

多くの流路が複雑に重なり合い、広く土坑状の窪みになっている部分もあるが、基本的には谷の奥から出口へ向かう方向、北西から南東方向である。谷の中で流路が何度も変化している様子を示していよう。

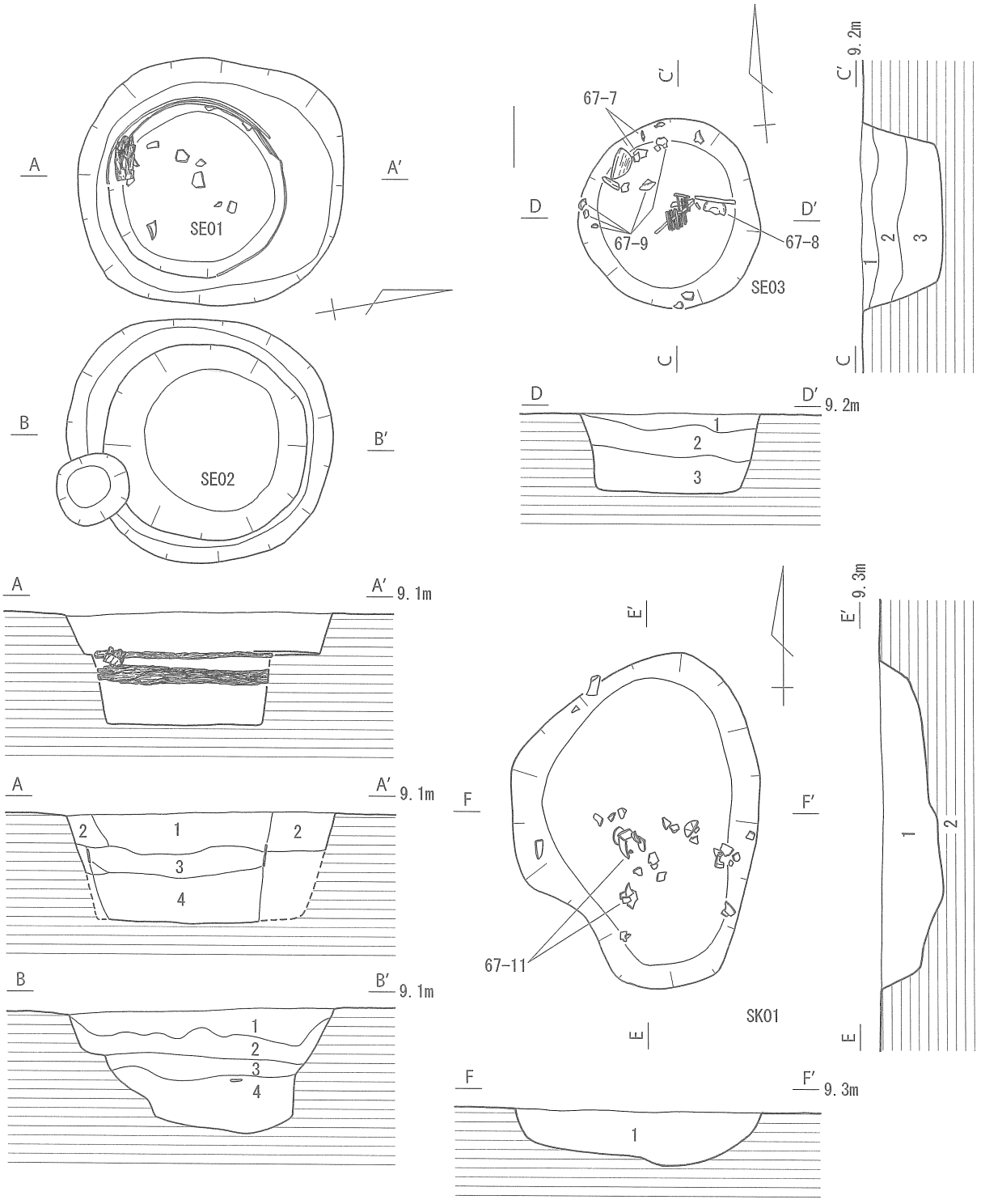



第62図　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　グリッド配置図
（菊川市都市計画図、菊川－36　1：2,500を複写して加筆）




第63図　下平川八幡神社西遺跡　1区　遺構全体図

第64図　下平川八幡神社西遺跡　1区　中世遺構概略図




SE01
1　オリーブ黒色シルト
2　オリーブ黒色シルト
3　黒褐色粘土
4　黒色粘土　礫を含む

SE02
1　オリーブ黒色シルト
2　黒褐色粘土
3　オリーブ黒色シルト
4　黒色粘土　礫を含む

SE03
1　オリーブ黒色粘土
2　黒褐色粘土
3　黒褐色粘土　2より固くしまる　礫を含む

SK01
1　黒色粘土　礫を含む

0　1:30　1m

第65図　下平川八幡神社西遺跡　１区　ＳＥ01・02・03・ＳＫ01実測図

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 表土 | | 9 | 黒褐色粘土 | 礫を多量含む | 17 | 暗灰色粘土 | 礫を少量含む　(自然流路) |
| 2 | 暗褐色粘土 | 礫を多量含む | 10 | 褐色粘土 | 礫を非常に多く含む<br>整地層　遺物包含層 | 18 | 暗褐色粘土 | 礫を中量含む　(自然流路) |
| 3 | 褐色粘土 | 礫を多量含む | 11 | 暗灰色粘土 | 礫を少量含む　遺物包含層 | 19 | 暗褐色粘土 | 礫を中量含む　(自然流路) |
| 4 | 黒褐色粘土 | 礫を少量含む | 12 | 暗褐色粘土 | しまりなし | 20 | 黒褐色粘土 | 礫を中量含む　(自然流路) |
| 5 | 暗褐色粘土 | 礫を多量含む | 13 | 黒褐色粘土 | 礫を多量含む | 21 | 黒褐色粘土 | 礫を中量含む　(自然流路) |
| 6 | 暗褐色粘土 | 礫を多量含む | 14 | 暗褐色粘土 | 礫を中量含む | 22 | 暗褐色粘土 | 礫を少量含む　(自然流路) |
| 7 | 黒褐色粘土 | 礫を少量含む | 15 | 黒褐色粘土 | 礫を少量含む | 23 | 黒褐色粘土 | 礫を多量含む　(自然流路) |
| 8 | 黒褐色粘土 | 礫を少量含む | 16 | 黒褐色粘土 | 礫を多量含む　(自然流路) | 24 | 基盤 | |

第66図　下平川八幡神社西遺跡　2区　遺構全体図

遺構検出面のわずかに上に岩盤の礫を多く含む層があり、その層および、下層から中近世の遺物が出土している。18世紀以降に丘陵を削り、小さな谷を埋めて利用したのであろう。小さいながらも谷の中央であり、谷からの水や湿気も多く、住むには適していない。現代と同様、畑などとして利用されたと考えられる。

⑵　出土遺物（第67～71図　図版70～72）

・土器

１区出土の土器類を図67～69に示す。

67-１～６がＳＤ09出土である。67-６は青磁碗。67-２～６はいずれも13世紀頃の遺物であり、溝の時期を示していると考えられる。

67-７～９がＳＥ03、67-10がＳＰ42、67-11がＳＫ01出土である。

遺構以外では、図化していないが高杯の脚部の破片があり、古墳時代中期と考えられる。

67-12～16はかわらけである。67-12は注口がある。67-12～13は13世紀、67-14は18世紀、67-15、16は19世紀に比定できる。

67-17は灰釉陶器、四耳壺の口縁部片である。

67-18～28、68-１～26は中世陶器、いわゆる山茶碗の碗・小碗・小皿である。

多くは尾張知多産であり、湖西・渥美産、地元東遠産がそれに次ぐが、東濃産（67-26・27、68-26）が一定量あることが注目される。時期的には12世紀中葉～14世紀初頭が中心である。

碗67-21は底部に砥石のように利用された痕跡がある。一つは幅２㎜、深さ３㎜の溝となっている。もう一方は、幅５㎜から１㎝ほどの浅い溝が重なり合っている様子が観察できる。ともに研磨痕であろうが、どのように使用したのかは不明である。

68-29は卸皿である。外面下半はヘラ削りで、注口を作っている。

68-30は志戸呂の徳利である。口縁部の破片は熱を受けている。

１区からは69-１～10の磁器が出土している。そのうち１～８が龍泉窯系の青磁碗である。69-９は青磁盤、69-10は白磁皿である。

69-４が近世の溝ＳＤ03からである以外は包含層から出土している。

磁器類は小破片のため時期が特定できないものも多いが、全体を眺めると12世紀後半から14世紀中頃までに及ぶ。小破片の中には他の器種が含まれている可能性はあるが、碗が主体となっていることが特徴としてあげられる。

２区出土の土器類を図70に示す。

16～18世紀の遺物が主であるが、12世紀前半の山茶碗70-５も出土している。

70-１～３はかわらけで、４は灯明皿である。

70-９は全面に灰釉が施されている丸皿である。

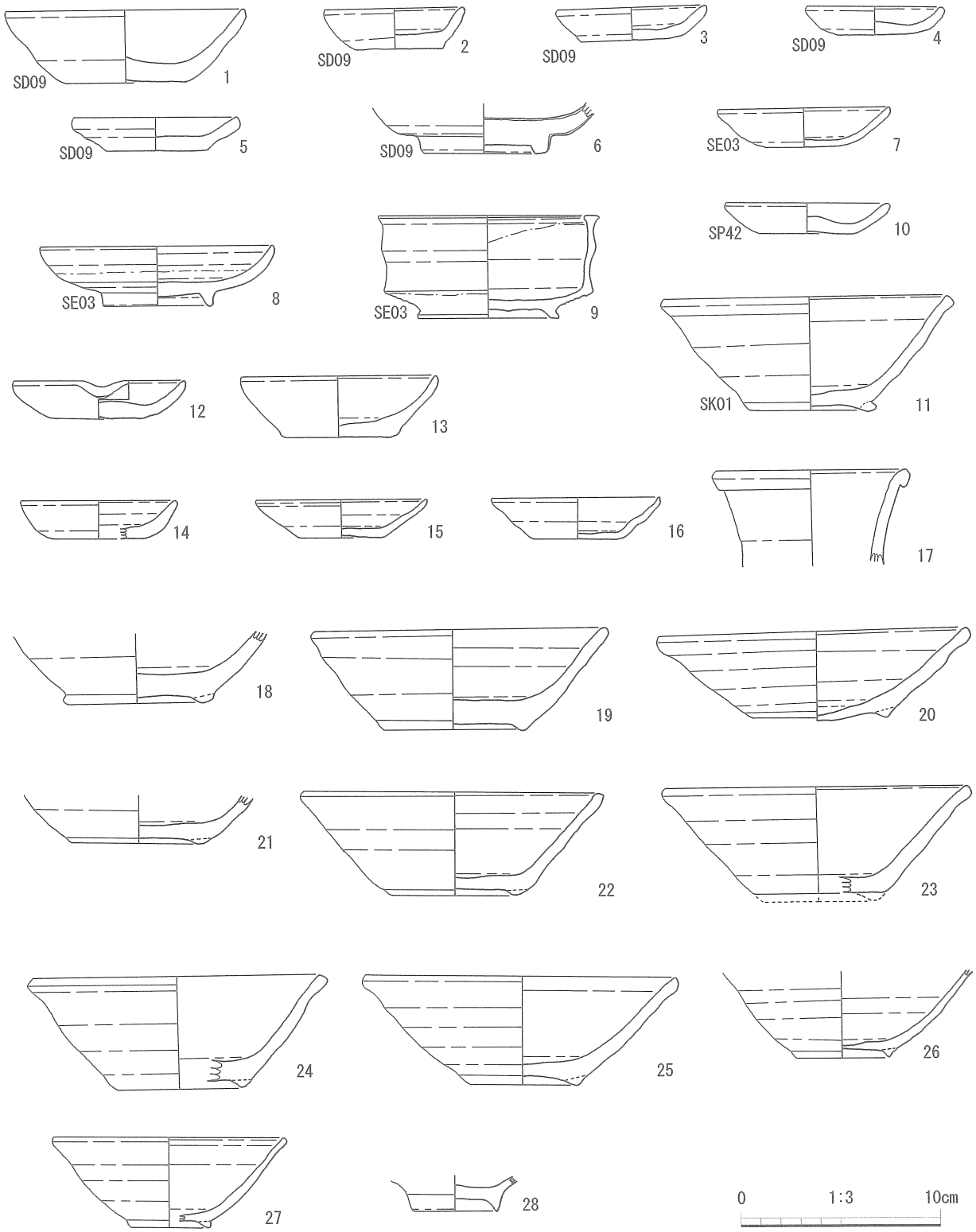
70-11・14は志戸呂産の擂鉢と香炉である。

70-13は志野の徳利である。口縁部を欠いているが、胴部に薄と沢潟を描いている。

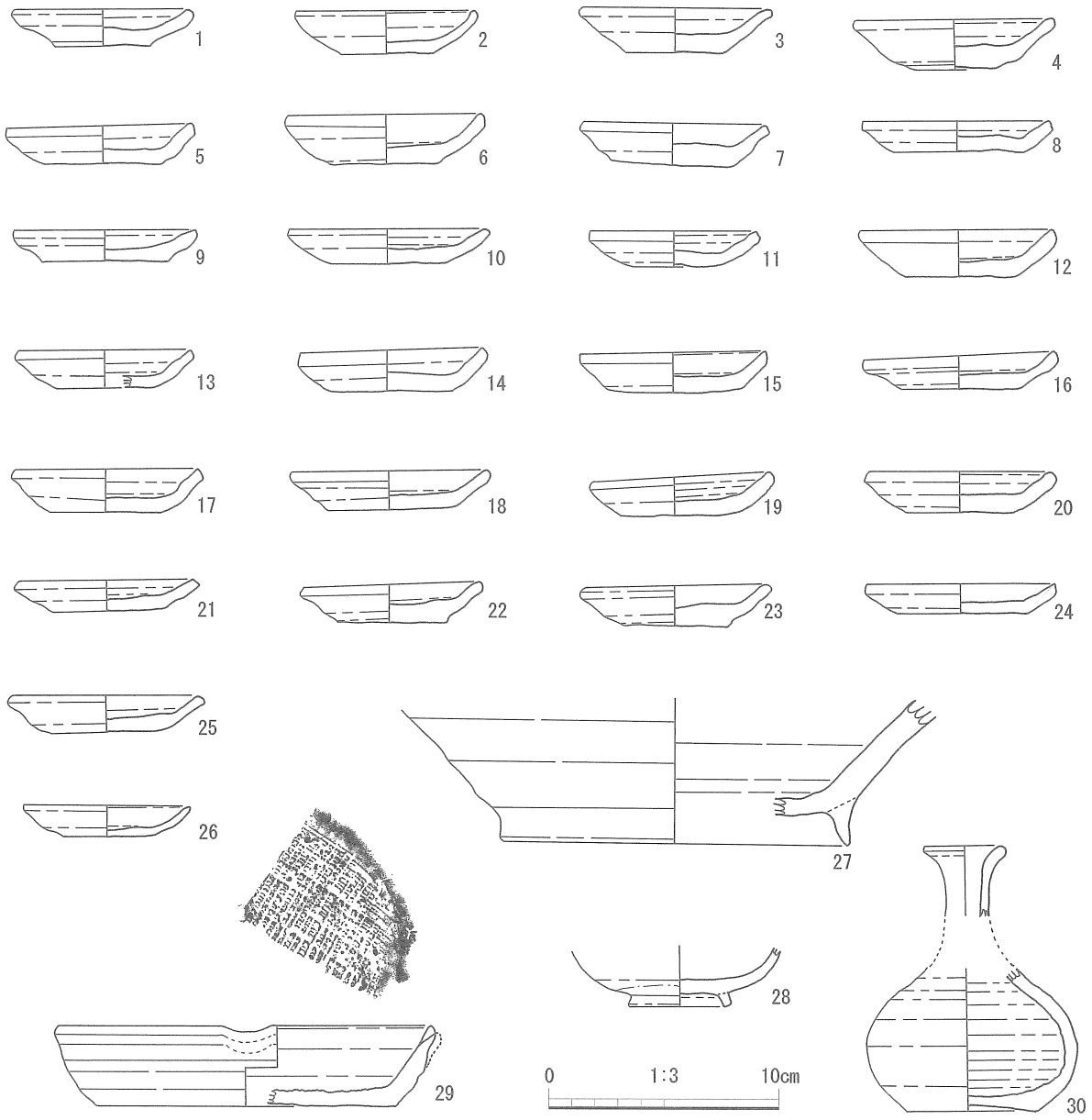
・石器・金属製品（第71図　図版72）

土器類の他に１区から砥石３点、銭１枚が、また図化していないがキセルの吸口、雁首各１点が出土している。２区からは銭貨３枚が出土している。

71-１・２は棒状の砥石である。71-２はＳＥ03から出土している。直線的な３面には加工痕と思われ




第67図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図１（１区土器）



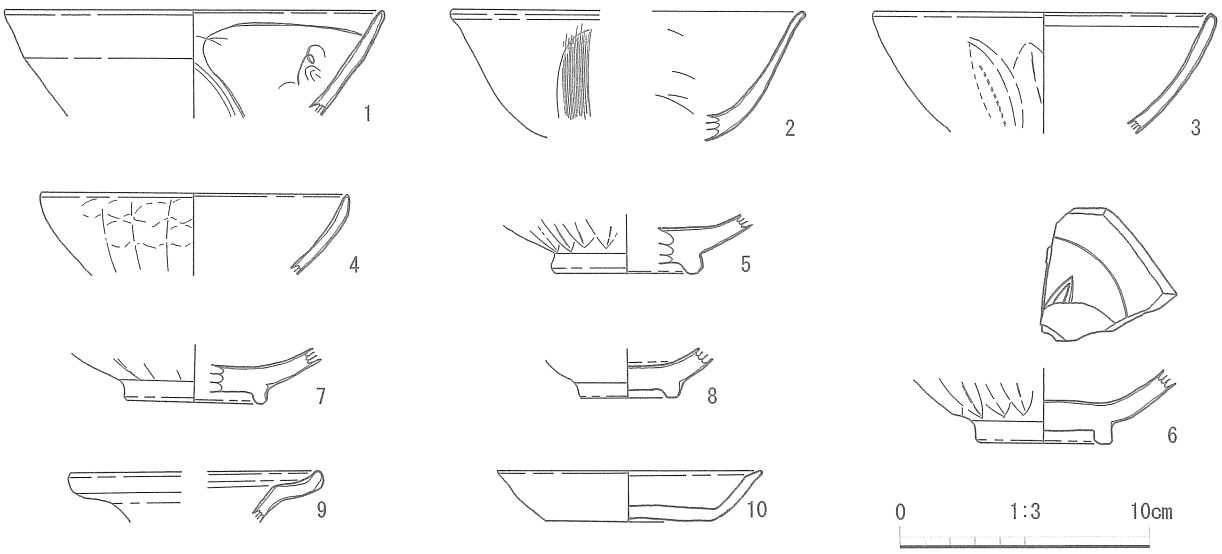

第68図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図２（１区土器）

るハケメ状の痕跡が残り、湾曲した面が使用面である。71-１は４面に研磨痕が残る。

71-３は板状であるが、欠損が多く本来の大きさは不明である。側面にも研磨痕があり、欠損した後も使用している。

銭貨は１区出土が元豊通宝(71-４)で、２区は皇宋通宝(71-５)と淳化元宝(71-６)と寛永通宝(71-７)である。淳化元宝と寛永通宝は重なって出土している。近世墓を壊していると考えられよう。

寛永通宝以外は北宋銭である。




第69図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図３（１区磁器）

(3)　小結

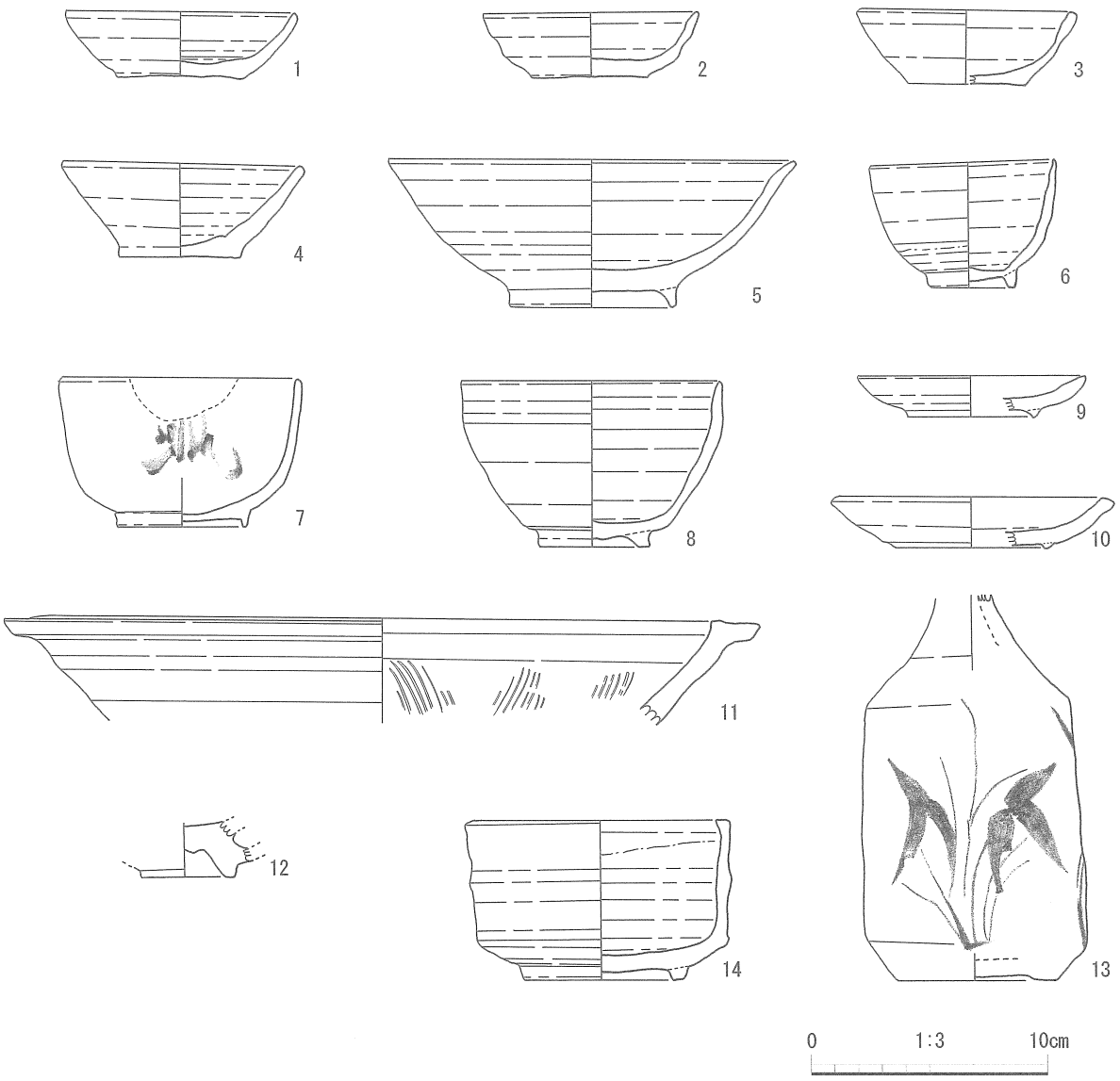
１区では古墳時代、10世紀、そして12世紀の遺物もわずかにみられるが、13世紀代がピークで、特に後葉の遺物が多く出土している。また後に記す下平川八幡谷遺跡とあわせ、貿易陶磁が77点出土していることが注目される。

中世と断定できる遺構はないが、磁器の出土状況から有力者の居住域が１区もしくは周辺に存在したと推測できる。

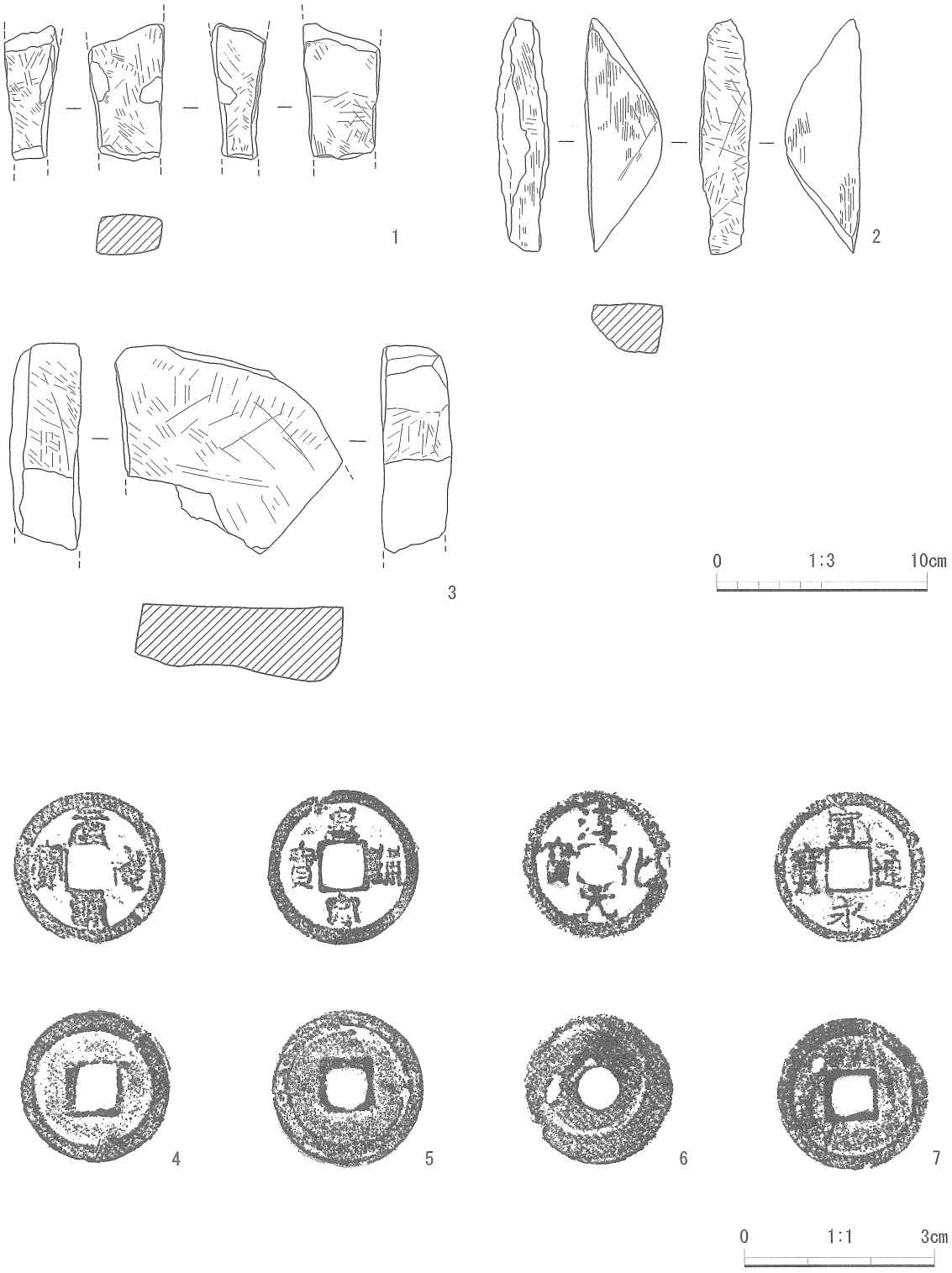
山茶碗では地元である東遠江産が少なく、知多産が主流であることが特筆できよう。

14世紀になると遺跡は急速に衰退したようで、回復するのは16世紀後半である。19世紀まで遺物が散見される。溝に囲まれた空間が２ヶ所、うち１区画は井戸をもち、井戸内の出土遺物から18世紀ごろと考えられる。

２区は近世まで谷であり、18世紀後半ごろに埋められたが、居住空間とはならなかったようである。出土遺物の中に、志野の徳利、香炉など富裕層でなければ持てないであろう遺物があることから、17～18世紀にも有力者が付近に居を構えていたのであろう。




第70図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図４（２区土器）




第71図　下平川八幡神社西遺跡　出土遺物実測図５（石器・銭貨）

## 第７節　下平川八幡谷遺跡の遺構と遺物

下平川八幡谷遺跡は下平川八幡神社西遺跡の南に接し、「八幡谷」の谷のほぼ中央に位置する。北からの小さな谷と北東からの谷の合流点にあたり、東にはやや大きい丘陵が張り出してきており、谷としては大きく湾曲した地点になる。

１区が北側約１／３、２区が南側約２／３であるが、調査の工程上１区と２区に分けて行ったのであって、地形的には一体であるため、以下の記述では調査区を分けずに記す。

基本的な土層は八幡神社西遺跡の南端からの連続である。丘陵に近い南端東側では地表面から80㎝で岩盤となり、上面で遺構を検出した。谷部分ではしまりのない黒色粘土が連続し、遺物および礫の有無で分けられた。遺物の少ない遺跡中央部では層の差は不明瞭であった。

### ⑴　遺構（第72～74図　図版73～75）

遺構が検出されたのは遺跡の南端付近のみであり、中央から北では遺構は検出されなかった。

検出された遺構は溝１条と自然流路である。

自然流路は覆土に古墳時代～古代の遺物を含み、中世の遺物を含まないことから、中世以前に埋没したと考えられる。もっとも大きな流路は東から西へと流れ、そこから分かれるように南の方向へと小さな流路が複雑に重なりながら検出された。中心の流路は東側の丘陵の小さな谷から八幡谷中央へと流れ出る流路であろう。

溝ＳＤ01はほぼ直線で、幅１～1.8m、長さ15m、最大深さ40㎝が検出された。溝内覆土からは完形に近い山茶碗が比較的多く出土し、遺物の年代から溝として機能していたのは13世紀代と思われる。居住域を区切る区画溝としての性格が考えられ、その場合、溝の東側が想定されるのだが、ピットなどは検出されなかった。

居住域に当たると思われる部分の調査範囲が狭いために検出されなかったとも思われるが、調査区外は現在でも一段高く茶畑に利用されていて、調査区内は水田として利用されていたことから、耕作により削平された可能性が高いと考えられる。

### ⑵　出土遺物（第75・76図　巻頭図版14　図版76～78）

中世の溝ＳＤ01から出土した遺物が75-１～11である。

75-１が10世紀後半の灰釉陶器の碗である他は、山茶碗の碗と皿である。13世紀の遺物である。

75-６は底部に墨書があるが、一部欠損しているために判読しがたい。

中世の溝以外からは、古墳時代から奈良時代の須恵器、土師器、中近世の土器、土錘、縄文時代の石器、石臼、銭貨が出土した。

75-12～18が古墳時代から古代の土器である。包含層または自然流路内から出土している。

75-12は小型の高杯、75-13は台付甕でともに古墳時代中期のものであろう。

75-14～17は須恵器であるが、７～８世紀に比定できる。

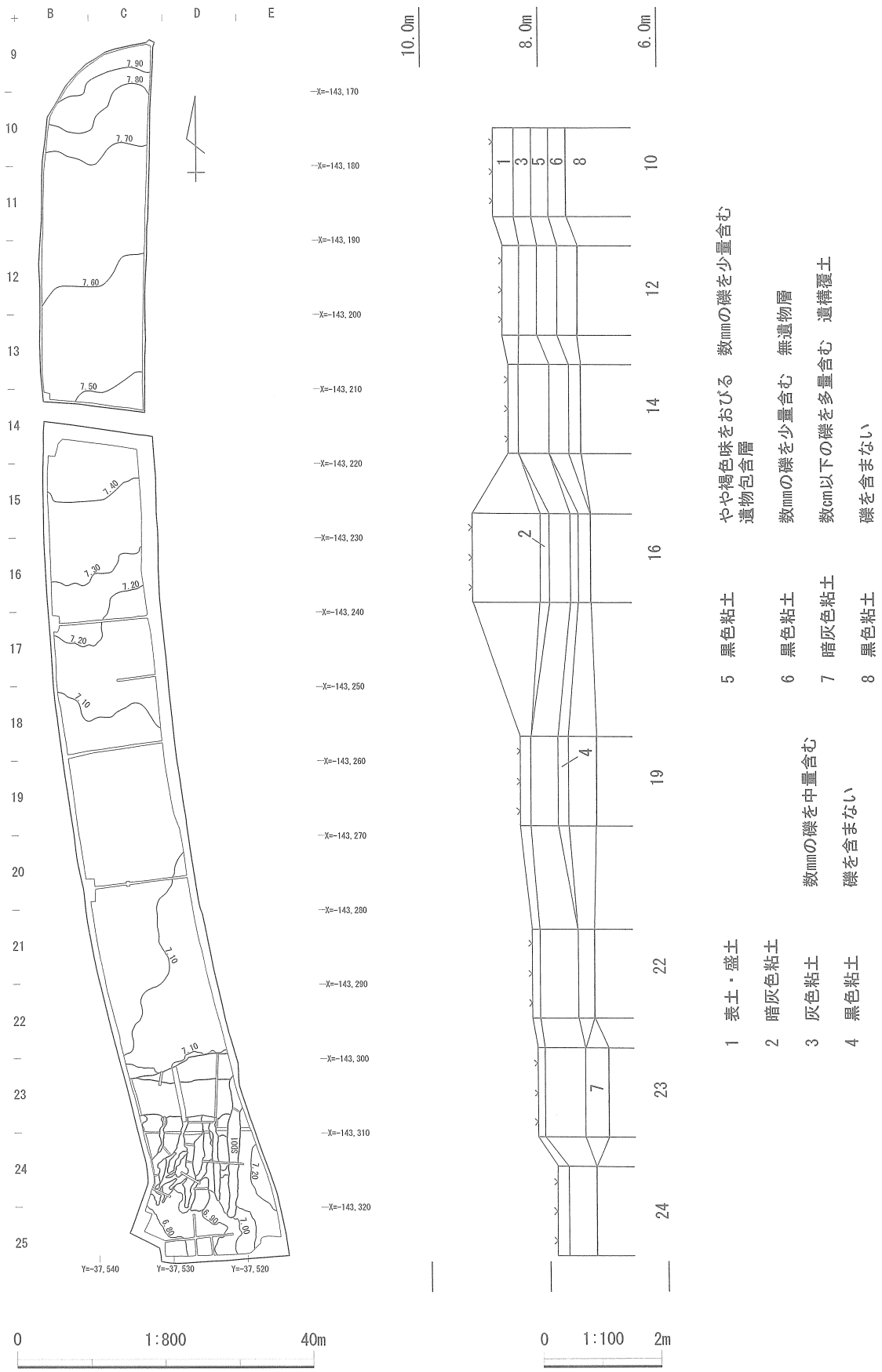
75-18は灰釉陶器の小碗である。

75-19～23は包含層出土の山茶碗類である。12～13世紀のものである。

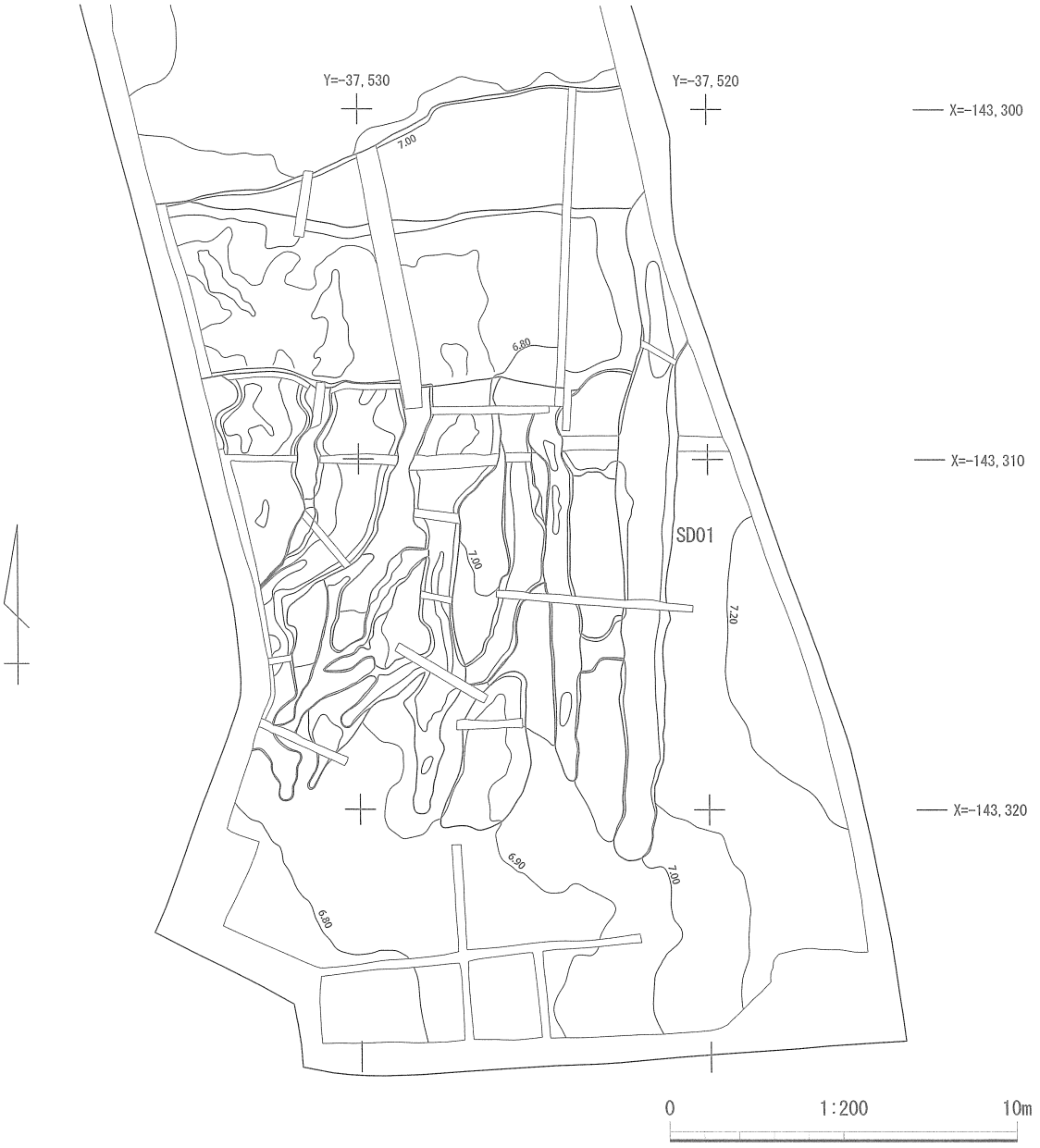
75-24は渥美・湖西産の鉢である。12世紀後半のものである。

75-25は志戸呂産の広口壺である。16世紀末～17世紀初頭に比定できる。「天」の字が線刻され、割れた後に熱を受けている。

第76図に磁器を示した。76-１～４は龍泉窯系の青磁碗、76-５は白磁碗である。




第72図　下平川八幡谷遺跡　遺構全体図




第73図　下平川八幡谷遺跡　2区　南端遺構全体図

76-1・2・4は13世紀中葉～14世紀前葉、76-3は15世紀後葉～16世紀前葉、76-5は12世紀～13世紀初頭に比定できる。

いずれも調査区北端周辺からの出土であり、下平川八幡神社西遺跡1区の磁器群と一連のものと理解できる。

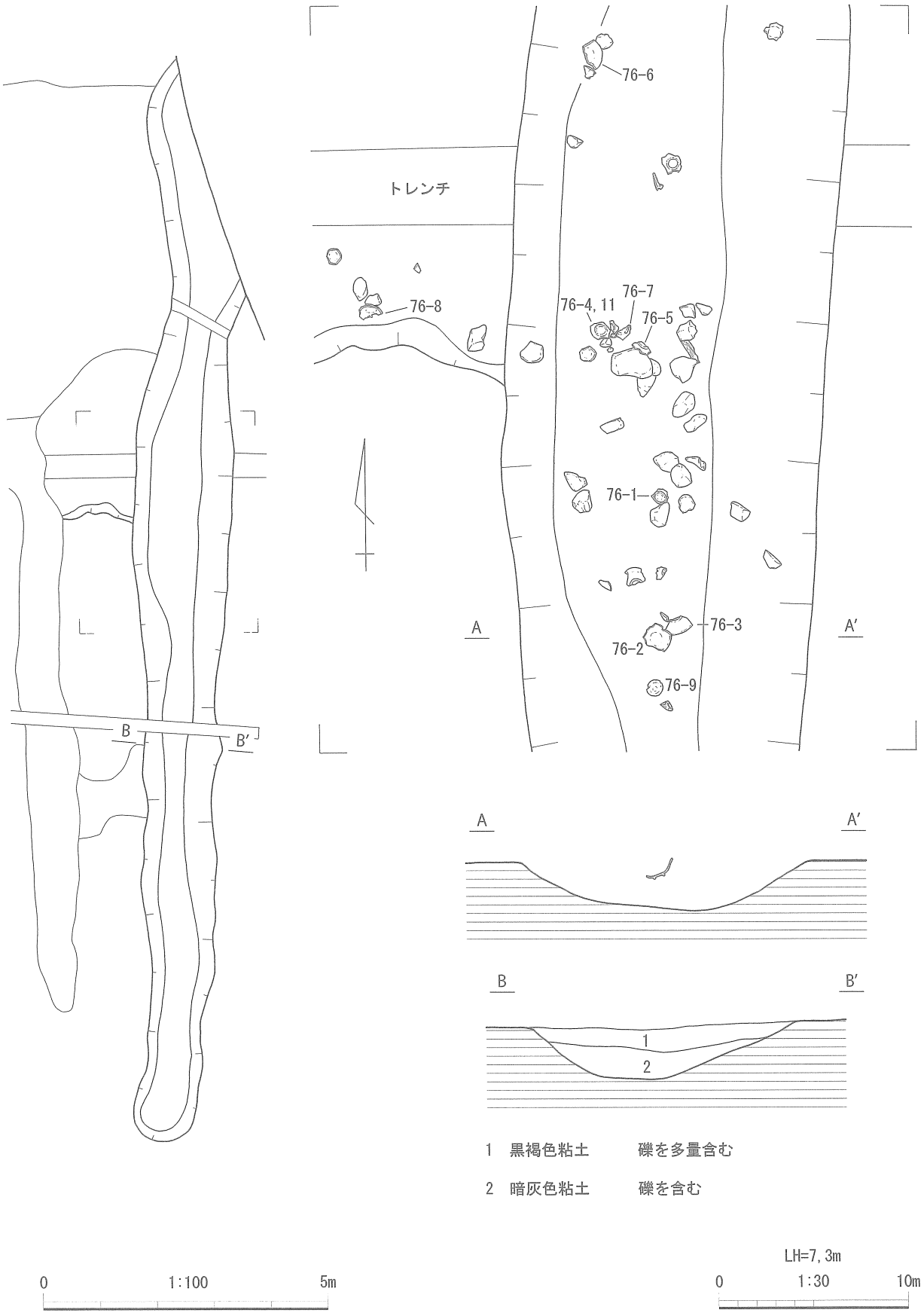
土製品では土錘が2点出土している。時期は不明だが、出土位置、層位から中世の可能性が高い。ともに陶質で、長さ3㎝、直径1.5㎝前後と小型である。

第77図に示したのが石器、金属製品である。

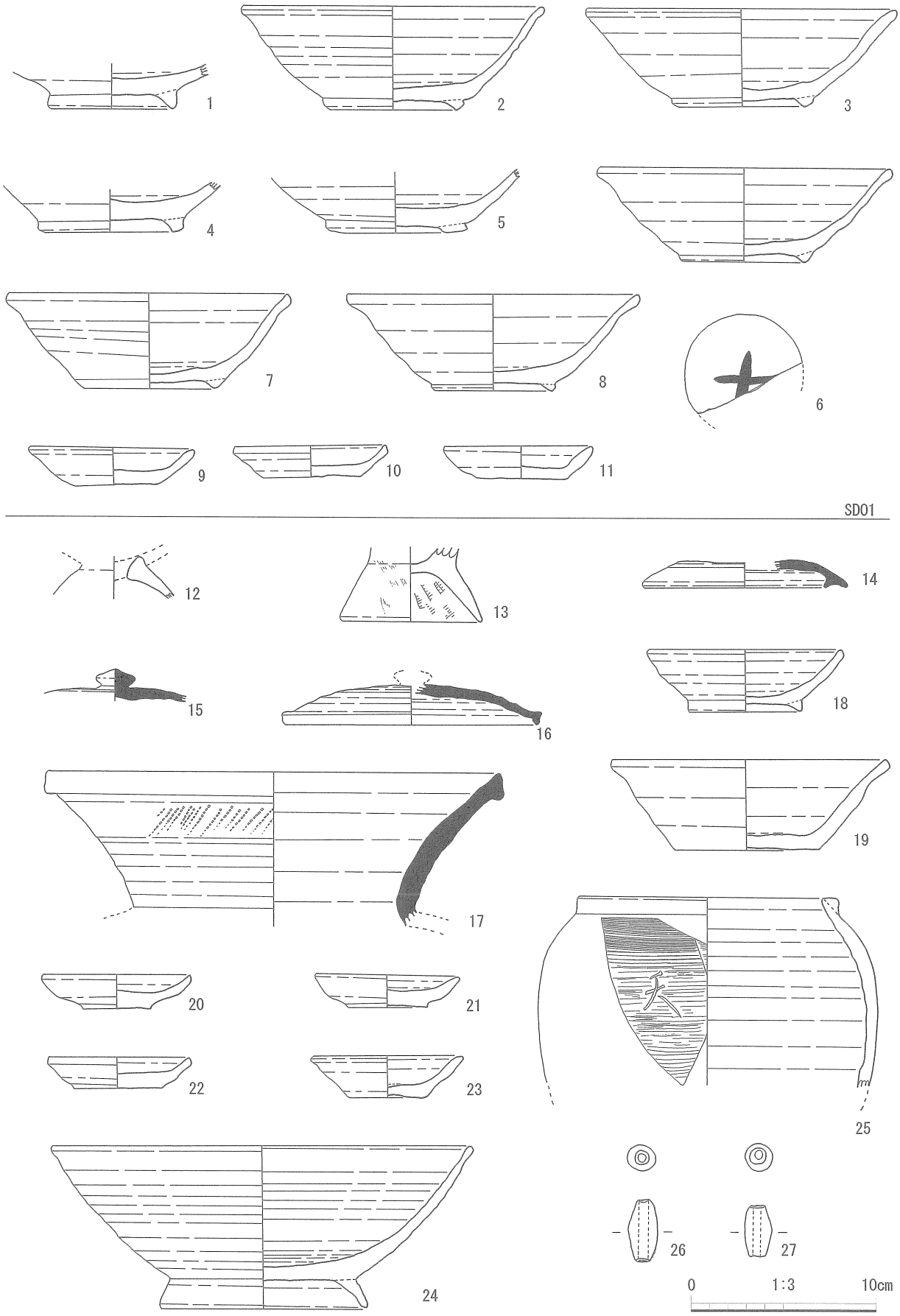
77-1は石匙である。基部先端は欠損している。片面は材を取り出したときの剥離面をほとんどそのまま使用している。

77-2は礫石錘である。扁平な円礫を長軸方向の両端を打ち欠いて作っている。

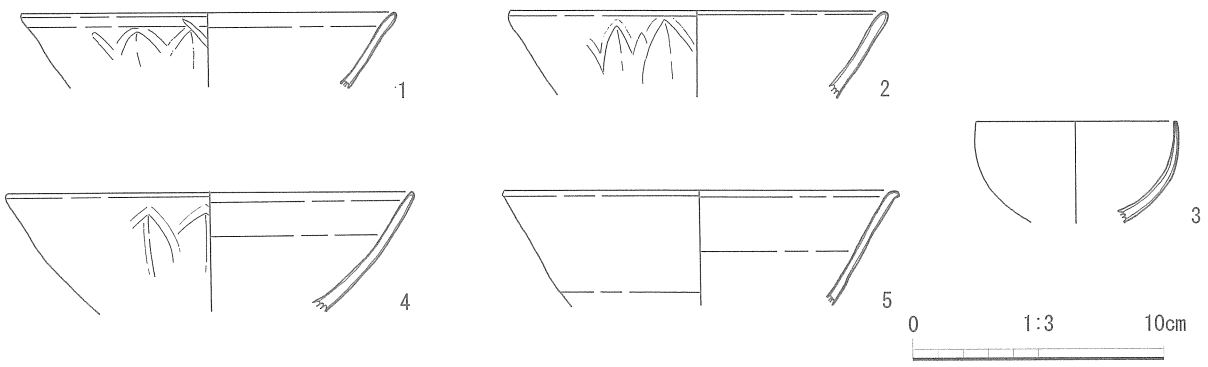
77-3・4は敲石とした。77-3は片面に敲打痕があるがあまり使われていないようである。77-4は半




第74図　下平川八幡谷遺跡　2区　SD01実測図




第75図　下平川八幡谷遺跡　出土遺物実測図１（土器・土製品）




第76図　下平川八幡谷遺跡　出土遺物実測図２（磁器）

分ほどに割れていて、残っている端部に顕著な敲打痕があるほか、残っている面には研磨痕があり、様々な用途に用いられている。

77-５は石臼の破片である。復元した直径は9.5cmと非常に小型である。供給口があることから上臼である。臼面の形態はこぼれ目型に属する。供給口は中心から３cmの所にあり、その外側で摩滅が進んでいる。側面にも刻み目がある。臼を回転させるための挽木の取り付け方が、臼本体に穴を開けて装着するのではなく、側面に「たが」で締めていたことがわかる。割れた後に被熱している。

時期、用途は不明である。供給口の径が６mmであることから、対象物はそれ以下の物である。また、供給口が中心よりもかなり外側にあり、臼が小さく軽いことから、あまり堅くないものを荒くひいたのではないかと想像できる。

銭貨は皇宋通宝（77-６）が１点出土している。

(3)　小結

下平川八幡谷遺跡の調査区では広い範囲で遺構は検出されず、南端でわずかに中世の溝が１条と中世以前の自然流路が検出されただけである。

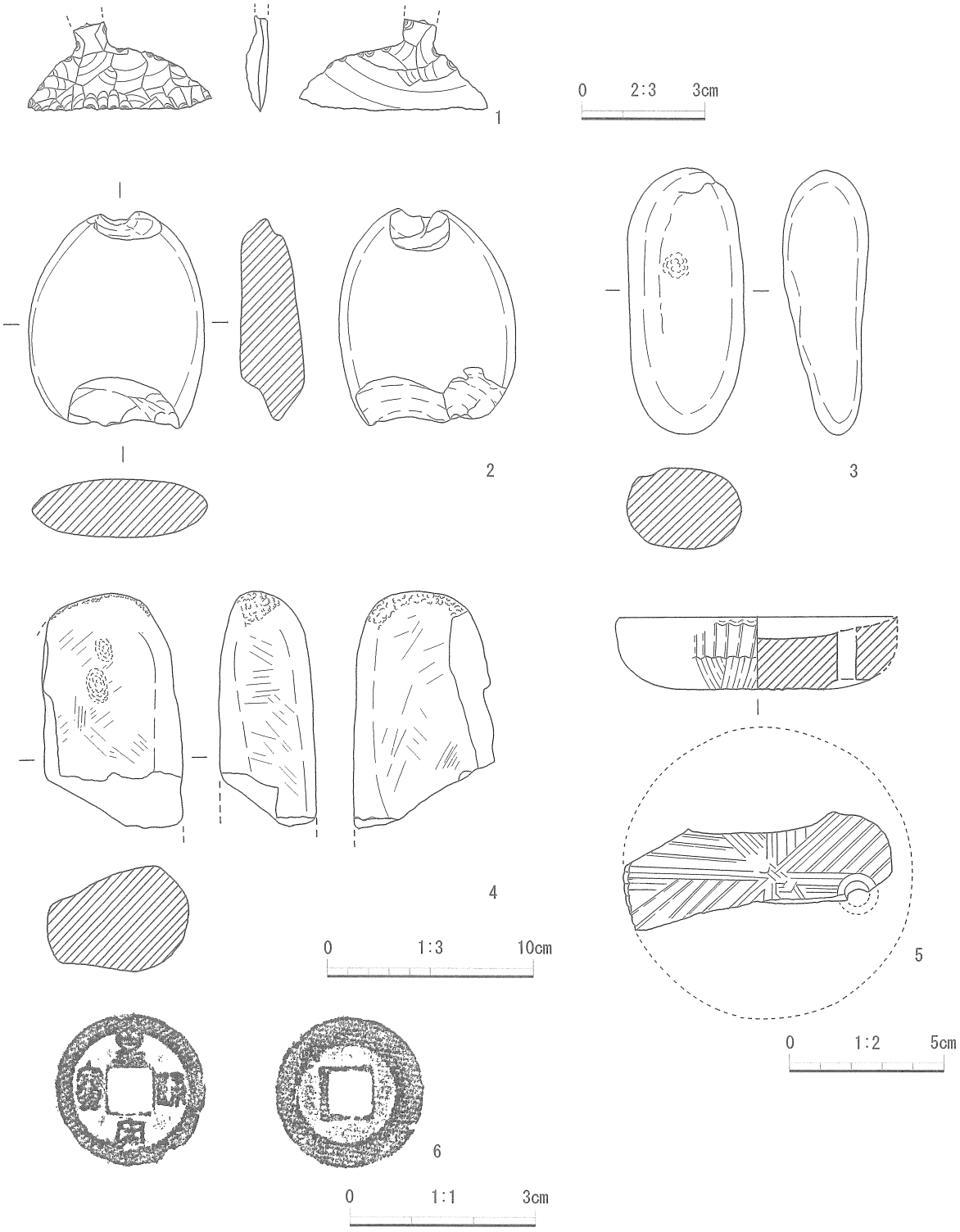
遺構外出土の主な出土位置を示したが第78図である。数としては少ないが、南端付近で縄文時代、古墳時代中期、古代の遺物が出土している。周辺に集落が存在した可能性が考えられ、縄文時代では東に存在する丘陵上、古墳時代と古代では丘陵裾部が候補となろう。

中世の遺物は北端付近および遺構が検出された南端で出土量が比較的多く、中央部では少ない。遺跡中央はやや低く、北東からの谷と北からの谷が合流する谷の中央部に当たる。しまりのない黒色粘土が堆積していたこと、明確な流路跡は検出されなかったことから、湿地のような状態であったと考えられる。

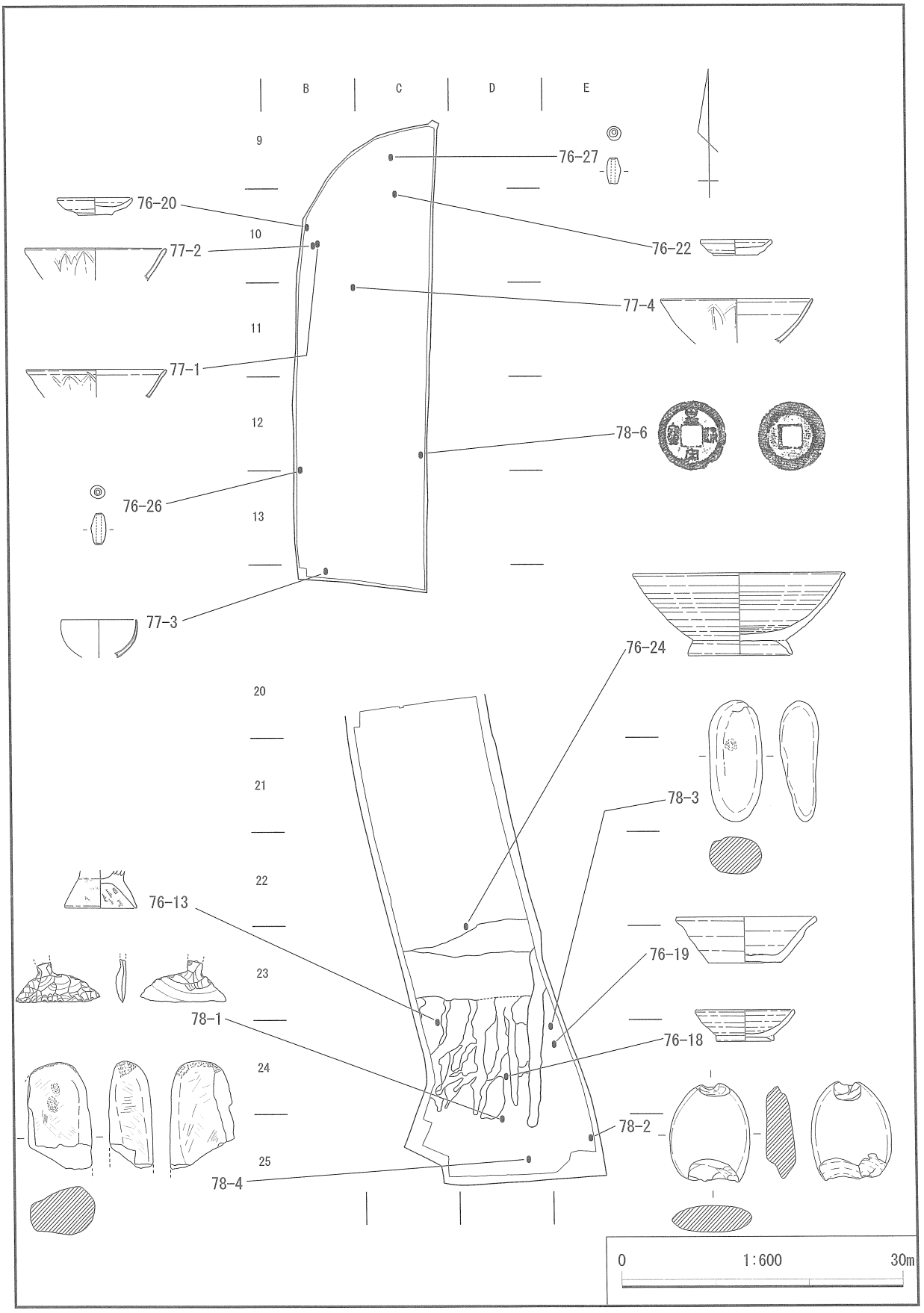
検出した遺構は溝１条であるが、遺跡南端では丘陵裾部に12～13世紀にかけて屋敷地が存在していたことが判明した。

遺跡の北側では、中世以降の遺物しか検出されなかったことから、谷の奥、丘陵裾部に集落が営まれたのは中世からと考えられる。当時の景観としては現在とあまり変わらず、丘陵裾に点々と居住域が存在したのではないだろうか。

下平川八幡神社西遺跡で顕著であった近世の遺物が、細い道を挟んだ１区ではほとんど出土していない。このことから、現在遺跡の境となっている道は、近世段階でも境界として働いており、その線を越えた大きな土の動きは無かったようである。




第77図　下平川八幡谷遺跡　出土遺物実測図３（石器・銭貨）




第78図　下平川八幡谷遺跡　遺物出土位置図

## 表４　出土遺物観察表１（志味堂古墳群　鉄製品）

（　）は残存値
☆は推定値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 出土位置・遺構 | | 計測値(cm) 長 | 鏃身・刃部長 | 幅 | 厚 | 重量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 1 | 8 | 刀子 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 10.5 | － | 1.8 | 0.5 | 11.06 | |
| 9 | 2 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | (13.6) | 5.5 | ☆3.3 | 0.6 | 11.57 | 平根独立片逆刺鏃 |
| 9 | 3 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 14.8 | ☆5.5 | ☆3.3 | 0.6 | 12.54 | 平根独立片逆刺鏃 |
| 9 | 4 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 15.3 | 6.6 | ☆3.1 | 0.7 | 14.01 | 平根柳葉式 |
| 9 | 5 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 14.2 | 6.7 | ☆3.2 | 0.9 | 12.77 | 平根柳葉式 |
| 9 | 6 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 15.3 | 3.0 | 1.2 | 0.5 | 8.63 | 尖根柳葉式段違い関 |
| 9 | 7 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 15.4 | 2.9 | 1.1 | 0.5 | 8.59 | 尖根柳葉式段違い関 |
| 9 | 8 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | (13.8) | 3.0 | 1.1 | 0.5 | 8.67 | 尖根柳葉式 |
| 9 | 9 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 15.2 | 3.1 | 1.1 | 0.5 | 9.52 | 尖根柳葉式 |
| 9 | 10 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 14.9 | 3.3 | 1.2 | 0.5 | 8.26 | 尖根柳葉式 |
| 9 | 11 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 15.8 | ☆3.8 | 0.9 | 0.4 | 10.15 | 尖根柳葉式 |
| 9 | 12 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 15.4 | 3.1 | 1.1 | 0.4 | 8.21 | 尖根柳葉式 |
| 9 | 13 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | (7.9) | 3.1 | 1.1 | 0.4 | 4.9 | 尖根柳葉式 |
| 9 | 14 | 6 | 鉄鏃 | １号墳 | 第１埋葬施設 | (11.7) | 2.0 | 0.9 | 0.4 | 6.97 | 尖根柳葉式撫関 |
| 9 | 15 | 8 | 刀 | １号墳 | 第１埋葬施設 | 95.5 | ☆77.6 | 4.2 | 0.6 | 890 | |
| 10 | 1 | 8 | 刀 | １号墳 | 第２埋葬施設 | (16.7) | － | 2.6 | 0.6 | 74.44 | 刃部片 |
| 10 | 2 | 8 | 袋状鉄斧 | １号墳 | 確認調査トレンチ | 9.0 | － | 5.6 | 2.5 | 140.46 | |
| 10 | 3 | 8 | 刀 | １号墳 | 表土層 | 4.5 | － | 1.6 | 0.4 | 5.44 | 茎部片 |
| 12 | 5 | 9 | 鉄鏃 | ２号墳 | 表土層 | (4.8) | － | 0.7 | 0.4 | 3.26 | 頸部片 |

## 表５　出土遺物観察表２（志味堂古墳群　土器）

径の（　）は推定値
高さの（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） 口径 | 高さ | 胴部最大径 | 底径 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 時期 | 部位 | 残存(%) | 備考 | 反転 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 1 | 9 | 須恵器 | 横瓶 | 西区 | ＳＸ01 | － | (21.8) | (39.6) | － | 暗赤灰～燈 | 密　色白粒子を含む | 良好 | ６Ｃ末 | 胴部 | 40% | | ○ |
| 12 | 2 | 9 | 須恵器 | 甕 | 西区 | ２号墳 | (11.8) | (1.5) | － | － | 灰 | 密　茶色粒子を含む | 良好 | ６Ｃ末 | 口縁部 | ５％ | 在地 | ○ |
| 12 | 3 | 9 | 須恵器 | 甕 | 西区 | ２号墳 | － | (7.4) | 9.1 | － | にぶい赤褐 | 密　色白粒子を含む | 良好 | ６Ｃ末 | 胴部 | 50% | 在地 | － |
| 12 | 4 | 9 | 土師器 | 坏 | 西区 | ＳＸ01 | (11.8) | (3.8) | － | 5.7 | 橙 | 密 | 良好 | ６Ｃ末 | | 60% | 模倣坏 | － |

## 表６　出土遺物観察表３（志味堂横穴群　金属製品）

（　）は残存値
☆は推定値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） 長 | 鏃身・刃部長 | 幅 | 厚 | 重量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 1 | 24 | 刀子 | Ｂ２号横穴 | (5.85) | － | 1.1 | 0.6 | 6.77 | |
| 16 | 2 | 24 | 鉄鏃 | Ｂ２号横穴 | (4.2) | (2.1) | 2.2 | 0.2 | 4.16 | 平根式 |
| 16 | 3 | 24 | 鉄鏃 | Ｂ２号横穴 | (3.7) | (1.9) | 1.3 | 0.2 | 2.44 | 尖根三角形式 |
| 16 | 4 | 24 | 鉄鏃 | Ｂ２号横穴 | (4.1) | － | 0.5 | 0.3 | 3.06 | |
| 16 | 5 | 24 | 刀 | Ｂ２号横穴 | (6.4) | － | 2.3 | 1.5 | 40.45 | |
| 16 | 6 | 24 | 鍔 | Ｂ２号横穴 | (3.7) | － | (3.0) | 0.6 | 17.40 | |
| 16 | 7 | 24 | 耳環 | Ｂ２号横穴 | 3.0 | － | － | 0.5 | 19.53 | |
| 16 | 8 | 24 | 不明 | Ｂ２号横穴 | (9.2) | － | 0.8 | 0.6 | 5.99 | |
| 16 | 9 | 24 | 鉄鏃 | Ｂ３号横穴 | (5.6) | － | 0.9 | 0.4 | 3.09 | |
| 16 | 10 | 24 | 鉄鏃 | Ｂ３号横穴 | (4.55) | － | 0.8 | 0.6 | 3.68 | |
| 16 | 11 | 24 | 刀 | Ｂ４号横穴 | (7.9) | － | 1.7 | 0.5 | 9.61 | |
| 16 | 12 | 24 | 刀 | Ｂ４号横穴 | (5.4) | － | 1.9 | 0.25 | 5.86 | |
| 16 | 13 | 24 | 刀 | Ｂ４号横穴 | (4.0) | － | 1.4 | 0.6 | 5.10 | 目釘有り |
| 26 | 5 | 37 | 鉄鏃 | Ｃ１号横穴 | (6.9) | 3.9 | 3.6 | 0.9 | 20.21 | 平根五角形式 |
| 26 | 6 | 37 | 鉄鏃 | Ｃ１号横穴 | (10.9) | 4.0 | 3.5 | 0.8 | 19.51 | 平根五角形式 |
| 26 | 7 | 37 | 鉄鏃 | Ｃ１号横穴 | (8.5) | 3.9 | ☆3.2 | 0.8 | 18.39 | 平根五角形式 |
| 26 | 8 | － | 鉄鏃 | Ｃ１号横穴 | (2.3) | － | 0.4 | 0.2 | 0.91 | |
| 28 | 8 | 37 | 鍔 | Ｃ２号横穴 | (6.3) | － | (2.8) | 0.6 | 22.34 | |
| 31 | 11 | － | 鉄鏃 | Ｃ３号横穴 | (3.9) | ☆3.3 | (2.5) | 0.25 | 4.48 | |
| 31 | 12 | － | 刀子 | Ｃ３号横穴 | (2.4) | － | 0.8 | 0.3 | 1.34 | |
| 31 | 13 | － | 鉄鏃 | Ｃ３号横穴 | (1.5) | － | 0.2 | 0.25 | 0.23 | |
| 31 | 14 | 37 | 耳環 | Ｃ３号横穴 | 2.4 | － | － | 0.4 | 8.62 | |
| 32 | 1 | 37 | 鋏 | 表採 | 16.0 | － | 3.2 | 0.8 | 34.19 | |

## 表７　出土遺物観察表４（志味堂横穴群　土器）

径の（　）は推定値
高さの（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値(cm) 口径 | 高さ | 胴部最大径 | 底径 | 高台径 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 時期 | 部位 | 残存(%) | 備考 | 反転 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 1 | 23 | 土師器 | 皿 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (18.7) | 2.0 | － | － | － | にぶい橙(赤彩) | 密白色微砂粒、ウンモ含有 | 良好 | ７Ｃ末？ | 口縁部 | 30% | | ○ |
| 18 | 2 | 23 | 土師器 | 高盤 | 東区 | Ｂ３号横穴 | － | (4.7) | － | － | － | 橙(赤彩) | 密灰色砂粒、ウンモ含有 | 良好 | ７Ｃ末？ | 脚部 | 10% | | ○ |
| 18 | 3 | 23 | 須恵器 | 坏蓋 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (14.6) | (2.3) | － | － | － | 灰 | 密白色微粒子含有 | 良好 | ８ｃ前葉？ | 口縁部 | 20% | | ○ |
| 18 | 4 | 23 | 須恵器 | 坏身 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (13.4) | (4.6) | － | － | － | 灰 | 密白色微砂粒含有 | 良好 | ７Ｃ末～８Ｃ初頭 | 口縁部～底部 | 40% | | ○ |
| 18 | 5 | － | 須恵器 | 坏身 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (13.0) | (3.7) | － | － | － | 灰 | 密白色微砂粒含有 | 良好 | ７Ｃ末 | 口縁部～底部 | 10% | | ○ |
| 18 | 6 | 23 | 須恵器 | 坏身 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (13.4) | 3.3 | － | － | － | 灰 | 密白色微粒子含有 | 良好 | ７Ｃ末～８Ｃ初頭 | 口縁部～底部 | 40% | | ○ |
| 18 | 7 | 24 | 須恵器 | 坏身 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (11.0) | 3.3 | － | － | － | 灰 | 密白色微砂粒含有 | 良好 | ７Ｃ末 | 口縁部～底部 | 50% | | ○ |
| 18 | 8 | 24 | 須恵器 | 有台坏 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (15.2) | 3.95 | － | － | (9.7) | 灰白 | 密白色微粒子含有内面鉄分吹き出しあり | 良好 | ７Ｃ末～８Ｃ初頭 | 口縁部～底部 | 50% | | ○ |
| 18 | 9 | 23 | 須恵器 | 有台坏 | 東区 | Ｂ３号横穴 | － | (1.3) | － | － | (8.6) | 灰白 | 密白色微粒子含有 | 良好 | ８ｃ中頃？ | 底部 | 30% | | ○ |
| 18 | 10 | 24 | 須恵器 | 高坏 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (15.8) | (5.0) | － | － | － | 灰 | 密白色微砂粒含有 | 良好 | ８Ｃ前～中？ | 口縁部 | 30% | | ○ |
| 18 | 11 | － | 須恵器 | 高坏 | 東区 | Ｂ３号横穴 | － | (1.5) | － | (11.2) | － | 灰 | 密白色微粒子含有 | 良好 | ８Ｃ前～中？ | 脚部 | 10% | | ○ |
| 18 | 12 | 23 | 須恵器 | (長頸)壺 | 東区 | Ｂ３号横穴 | － | (1.8) | － | － | (5.9) | 灰 | 密白色微粒子含有 | 良好 | ７Ｃ末～８Ｃ | 底部 | 20% | | ○ |
| 18 | 13 | 23,24 | 須恵器 | 高盤 | 東区 | Ｂ３号横穴 | (26.3) | (2.75) | － | － | － | 灰 | 密白色灰色微粒子含有 | 良好 | ８ｃ前葉？ | 口縁部 | 10% | | ○ |
| 22 | 1 | 25 | 土師器 | 高坏 | 東区 | Ｂ６号横穴 | 12.7 | 18.2 | － | 11.0 | － | 浅黄橙 | 密白色灰色微砂粒、ウンモ含有 | 良好 | ８Ｃ後半 | | 95% | | |
| 22 | 2 | 25 | 土師器 | 高盤 | 東区 | Ｂ６号横穴 | 24.3 | 14.5 | － | 12.0 | － | 浅黄橙 | 密白色茶色砂粒粒子、ウンモ含有 | 良好 | ８Ｃ後半 | | 80% | | |
| 26 | 1 | 36 | 須恵器 | フラスコ形瓶 | 西区 | Ｃ１号横穴 | 10.3 | 25.6 | 19.1 | － | － | 灰白 | 白色微砂粒含有 | 良好 | ７Ｃ前半 | | 100% | | |
| 26 | 2 | 36 | 須恵器 | 壺蓋 | 西区 | Ｃ１号横穴 | 9.1 | 5.3 | － | － | － | 灰 | 密白色粒子含有 | 良好 | ７Ｃ前半 | | 100% | | |
| 26 | 3 | 36 | 須恵器 | 有蓋脚付短頸壺 | 西区 | Ｃ１号横穴 | 7.6 | 12.2 | 12.5 | 8.6 | － | 灰 | 密白色粒子含有 | 良好 | ７Ｃ前半 | | 95% | | |
| 26 | 4 | 36 | 須恵器 | 平瓶 | 西区 | Ｃ１号横穴 | (6.0) | 13.1 | 14.4 | 5.3 | － | 灰 | 密(白色粒子含有) | 良好 | ７Ｃ前半 | | 90% | | |
| 28 | 1 | 37 | 土師器 | 高盤 | 西区 | Ｃ２号横穴 | － | (1.6) | － | － | － | 赤褐(赤彩) | 密ウンモ、粒子含有 | 良好 | ７Ｃ末～８Ｃ初頭 | 口縁部 | ５％ | 暗紋(内面)ミガキ(外面) | － |
| 28 | 2 | | 須恵器 | 坏蓋 | 西区 | Ｃ２号横穴 | (9.2) | (2.45) | － | － | － | 灰 | 密 | 良好 | ７Ｃ中頃？ | 口縁部 | ５％ | | ○ |
| 28 | 3 | 37 | 須恵器 | 坏身 | 西区 | Ｃ２号横穴 | 13.6 | 4.65 | － | － | － | 灰白 | 密 | 良好 | ７Ｃ末～８Ｃ初頭 | | 80% | | － |
| 28 | 4 | 37 | 須恵器 | 坏身 | 西区 | Ｃ２号横穴 | (12.9) | 4.2 | － | － | (6.0) | 灰白 | 密 | 良好 | ７Ｃ末～８Ｃ初頭 | 口縁部～底部 | 45% | | ○ |
| 28 | 5 | | 山茶碗 | 小碗 | 西区 | Ｃ２号横穴墓前域 | (9.8) | (2.6) | － | － | － | 灰白 | 密 | 良好 | 11c末？ | 口縁部 | ５％ | | ○ |
| 28 | 6 | | 山茶碗 | 碗 | 西区 | Ｃ２号横穴 | 18.2 | (4.5) | － | － | － | 灰白 | 密 | 良好 | 12c前半？ | 口縁部 | 30% | | － |
| 28 | 7 | | 山茶碗 | 碗 | 西区 | Ｃ２号横穴 | (16.8) | (3.95) | － | － | － | 灰白 | 密 | 良好 | 11c末？ | 口縁部 | 20% | | ○ |
| 31 | 1 | 38 | 須恵器 | 坏身 | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | (8.6) | (2.6) | － | － | － | 灰 | 密 | 良好 | ７Ｃ前～中頃 | 口縁部～底部 | 10% | | ○ |
| 31 | 2 | 38 | 須恵器 | 坏身 | 西区 | Ｃ３号横穴 | － | (2.8) | － | － | － | 灰 | 密 | 良好 | ８Ｃ後葉 | 胴部～底部 | 35% | | ○ |
| 31 | 3 | 38 | 須恵器 | 短頸壺(蓋) | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | (8.4) | 2.8 | － | － | － | 灰白 | 密白色砂粒含有 | 良好 | ７Ｃ中頃 | | 70% | | － |
| 31 | 4 | 38 | 須恵器 | 短頸壺 | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | 6.5 | (8.5) | 13.1 | － | － | 灰白 | 密内側に５㎜程の白色小礫含有 | 良好 | ７Ｃ中頃 | 口縁部～胴部 | 60% | | － |
| 31 | 5 | 38 | 須恵器 | 壺、フラスコ？ | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | － | (2.8) | － | － | － | 灰白 | 密 | 良好 鉄分吹き出しあり | ７Ｃ中頃 | 底部～胴部 | 40% | | ○ |
| 31 | 6 | 38 | 須恵器 | 甕 | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | (9.6) | (2.6) | － | － | － | 灰白 | 密 | 良好 | ７Ｃ中頃 | 口縁部 | 10% | | ○ |
| 31 | 7 | 38 | 須恵器 | 甕 | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | (9.8) | (2.85) | － | － | － | 暗灰 | 密 | 良好 | ７Ｃ中頃 | 口縁部 | 40% | | ○ |
| 31 | 8 | 38 | 須恵器 | 平瓶 | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | － | 9.8 | 13.95 | 5.5 | － | 灰 | 密白色微粒子含有鉄分吹き出しあり | 良好 | ７Ｃ中頃 | 胴部～底部 | 60% | | |
| 31 | 9 | 38 | 須恵器 | 平瓶(広口壺？) | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | － | (21.1) | (28.2) | 3.7 | － | 灰 | 密白色黒色粒子含有 | 良好 | ７Ｃ中頃 | 胴部～底部 | 50% | | ○ |
| 31 | 10 | 38 | 須恵器 | 平瓶 | 西区 | Ｃ３号横穴墓前域 | (12.0) | (33.0) | 33.6 | － | － | 灰白 | 密白色黒色微粒子含有 | 良好 | ７Ｃ中頃 | 口縁部・胴部～底部 | 70% | | |

## 表８　出土遺物観察表５（志味堂横穴群　玉類）

（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 形態 | 材質 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） 直径 | 全長 | 孔径 | 重さ(g) | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 9 | 37 | 丸玉 | ガラス | 西区 | Ｃ２号 | 1.0 | 0.9 | 0.4 | 1.24 | 黒 | |
| 28 | 10 | 37 | 丸玉 | ガラス | 西区 | Ｃ２号 | 0.8 | 0.7 | 0.3 | 0.69 | 黒 | |
| 28 | 11 | 37 | 丸玉 | ガラス | 西区 | Ｃ２号 | 0.8 | 0.7 | 0.3 | 0.70 | 黒 | |
| 28 | 12 | 37 | 丸玉 | ガラス | 西区 | Ｃ２号 | 0.8 | 0.7 | 0.3 | 0.77 | 黒 | |
| 28 | 13 | 37 | 丸玉 | ガラス | 西区 | Ｃ２号 | 0.85 | 0.7 | 0.3 | 0.78 | 黒 | |
| 28 | 14 | 37 | 丸玉 | 不明 | 西区 | Ｃ２号 | 0.8 | 0.4 | 0.3 | 0.31 | 淡緑色 | |
| 28 | 15 | 37 | 丸玉 | 不明 | 西区 | Ｃ２号 | 1.0 | 0.45 | 0.3 | 0.46 | 淡緑色 | |
| 28 | 16 | 37 | 丸玉 | 不明 | 西区 | Ｃ２号 | (0.8) | 0.4 | 0.3 | 0.10 | 白 | |

## 表９　出土遺物観察表６（瑞泉寺１号墳　金属製品）

（　）は残存値
☆は推定値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長 | 鏃身・刃部長 | 幅 | 厚 | 重量 | |
| 37 | 1 | 42 | 鎌 | 第１埋葬施設 | 16.7 | 14.0 | 3.6 | 0.3 | 40.98 | |
| 37 | 2 | 42 | 袋状鉄斧 | 第１埋葬施設 | 9.0 | － | 5.0 | 2.5 | 102.79 | |
| 37 | 4 | 42 | 鉈 | 第１埋葬施設 | 21.4 | ☆2.5 | 1.5 | 0.4 | 36.40 | |
| 37 | 3 | 42 | 鑿 | 第１埋葬施設 | 15.9 | 0.8 | 1.1 | 0.4 | 27.47 | |
| 37 | 5 | 42 | キサゲ状工具 | 第１埋葬施設 | 14.6 | 0.3 | 1.4 | 0.3 | 20.61 | |
| 37 | 6 | 42 | 刀子 | 第１埋葬施設 | 9.3 | (5.8) | 2.0 | 0.2 | 12.58 | |
| 38 | 1 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 16.2 | 1.6 | 0.9 | 0.25 | 10.71 | 柳葉式 |
| 38 | 2 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (12.9) | ☆2.3 | 0.6 | 0.25 | 11.58 | 片刃箭式 |
| 38 | 3 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (15.9) | 2.3 | 0.7 | 0.25 | 12.73 | 片刃箭式 |
| 38 | 4 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (16.6) | 2.1 | 0.7 | 0.25 | 10.78 | 片刃箭式 |
| 38 | 5 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (13.2) | 2.7 | 0.7 | 0.2 | 11.94 | 片刃箭式 |
| 38 | 6 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.1 | 2.5 | 0.8 | 0.3 | 13.49 | 片刃箭式 |
| 38 | 7 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.3 | 2.6 | 0.7 | 0.25 | 12.65 | 片刃箭式 |
| 38 | 8 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.0 | 2.7 | 0.7 | 0.3 | 13.55 | 片刃箭式 |
| 38 | 9 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.4 | 2.5 | 0.7 | 0.25 | 12.47 | 片刃箭式 |
| 38 | 10 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (17.0) | 2.2 | 0.7 | 0.25 | 13.40 | 片刃箭式 |
| 38 | 11 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (13.0) | 2.3 | 0.6 | 0.25 | 11.12 | 片刃箭式 |
| 38 | 12 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (15.7) | 2.3 | 0.65 | 0.25 | 12.32 | 片刃箭式 |
| 38 | 13 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (12.8) | 2.5 | 0.6 | 0.3 | 11.56 | 片刃箭式 |
| 38 | 14 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (9.9) | － | 0.8 | 0.3 | 7.3 | |
| 38 | 15 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.0 | 2.4 | 0.6 | 0.3 | 15.23 | 片刃箭式 |
| 38 | 16 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (16.6) | 2.5 | 0.6 | 0.3 | 12.65 | 片刃箭式 |
| 38 | 17 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.1 | 2.6 | 0.6 | 0.3 | 14.02 | 片刃箭式 |
| 38 | 18 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.6 | 2.1 | 0.6 | 0.25 | 12.11 | 片刃箭式 |
| 38 | 19 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 16.6 | 2.3 | 0.6 | 0.25 | 11.56 | 片刃箭式 |
| 38 | 20 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 17.1 | 2.1 | 0.6 | 0.25 | 11.88 | 片刃箭式 |
| 38 | 21 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (16.9) | ☆2.8 | 0.7 | 0.25 | 13.40 | 片刃箭式 |
| 38 | 22 | 43 | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | 4.8 | － | 1.0 | 1.0 | 3.69 | |
| 38 | 23 | － | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (4.4) | － | 0.4 | 0.2 | 1.12 | |
| 38 | 24 | － | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (3.2) | － | 0.3 | 0.3 | － | |
| 38 | 25 | － | 鉄鏃 | 第１埋葬施設 | (3.5) | － | 0.2 | 0.2 | － | |
| 38 | 26 | 43 | 鉄剣 | 第１埋葬施設 | (62.4) | － | 3.3 | 0.5 | 318 | |
| 40 | 1 | 巻頭７・45 | 銅鏡 | 第２埋葬施設 | 直径10.7 | － | － | 1.0 | 134.72 | |
| 40 | 2 | 42 | 刀子 | 第２埋葬施設 | (6.8) | － | 1.2 | 0.2 | 3.15 | |

## 表10　出土遺物観察表７（瑞泉寺１号墳　玉類）

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 形態 | 材質 | 出土遺構 | 計測値（cm） | | | | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 直径 | 鉉・厚さ | 孔径 | 重さ(g) | |
| 39 | 1 | 巻頭７ | 勾玉 | 翡翠？滑石？ | 第１埋葬施設 | 1.3 | 2.4 | 0.1 | 1.9 | オリーブ灰 |
| 39 | 2 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.4 | 0.2 | 0.1 | 0.06 | 灰 |
| 39 | 3 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.35 | 0.2 | 0.1 | 0.04 | 灰 |
| 39 | 4 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | 0.05 | 灰 |
| 39 | 5 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.35 | 0.35 | 0.1 | 0.05 | 灰 |
| 39 | 6 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.35 | 0.25 | 0.1 | 0.04 | 灰白 |
| 39 | 7 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.35 | 0.2 | 0.1 | 0.04 | 灰 |
| 39 | 8 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | 0.04 | 灰 |
| 39 | 9 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.35 | 0.3 | 0.1 | 0.05 | 灰 |
| 39 | 10 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.4 | 0.15 | 0.1 | 0.03 | 灰 |
| 39 | 11 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.35 | 0.2 | 0.15 | 0.03 | 灰 |
| 39 | 12 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第１埋葬施設 | 0.4 | 0.25 | 0.1 | 0.04 | 灰 |
| 39 | 13 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第１埋葬施設 | 0.35 | 0.2 | 0.1 | 0.04 | 濃青 |
| 39 | 14 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第１埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.05 | 0.02 | 濃青 |
| 39 | 15 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第１埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.05 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 16 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第１埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 17 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第１埋葬施設 | 0.4 | 0.2 | 0.1 | 0.04 | 濃青 |
| 39 | 18 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第１埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青 |
| 39 | 19 | 巻頭７ | 管玉 | 細粒凝灰岩 | 第２埋葬施設 | 0.5 | 2.5 | 0.2 | 0.86 | 淡緑色 |
| 39 | 20 | 巻頭７ | 管玉 | 細粒凝灰岩 | 第２埋葬施設 | 0.5 | 1.8 | 0.2 | 0.64 | 淡緑色 |
| 39 | 21 | 巻頭７ | 丸玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.9 | 0.85 | 0.2 | 0.97 | 濃青色 |
| 39 | 22 | 巻頭７ | 丸玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.9 | 0.85 | 0.2 | 1.04 | 濃青色 |
| 39 | 23 | 巻頭７ | 丸玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.9 | 0.7 | 0.3 | 0.7 | 濃青色 |
| 39 | 24 | 巻頭７ | 丸玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.8 | 0.8 | 0.2 | 0.78 | 濃青色 |
| 39 | 25 | 巻頭７ | 臼玉 | 不明 | 第２埋葬施設 | 0.4 | 0.3 | 0.15 | 0.04 | 灰緑色 |
| 39 | 26 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.15 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 27 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 28 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 29 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 30 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 31 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 32 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 33 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 34 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 35 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 36 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.35 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 37 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.15 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 38 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 39 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 40 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 41 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 42 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 43 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 44 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 45 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 46 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 47 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 48 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 49 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 50 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 51 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 52 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 53 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.03 | 青色 |
| 39 | 54 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 55 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 56 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 57 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 58 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 59 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 60 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 61 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 62 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 63 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 64 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 65 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 66 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 67 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 68 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 69 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 70 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 71 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 72 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 73 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 74 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青緑色 |
| 39 | 75 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 76 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 77 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.02 | 青色 |

| 図版番号 | 新遺物番号 | 写真図版番号 | 形態 | 材質 | 出土遺構 | 計測値（cm） | | | | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 直径 | 鉉・厚さ | 孔径 | 重さ(g) | |
| 39 | 78 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 79 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 80 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 81 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 82 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 83 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 84 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 85 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 86 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 87 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 88 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 89 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 90 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 91 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 92 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 93 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 94 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 95 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 96 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 97 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 98 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 濃青色 |
| 39 | 99 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 100 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 101 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 102 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 103 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 104 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 105 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 106 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 107 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.15 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 108 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 109 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 110 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 111 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 112 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 113 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 114 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 115 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 116 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 117 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 118 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 119 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 120 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 121 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 122 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 123 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.25 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 124 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 125 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 126 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 127 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 128 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 129 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 130 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 131 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 132 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 133 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 134 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 135 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 136 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.4 | 0.2 | 0.1 | 0.05 | 濃青色 |
| 39 | 137 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 水色 |
| 39 | 138 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 139 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 140 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.25 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 141 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 142 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青緑色 |
| 39 | 143 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 144 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 145 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 水色 |
| 39 | 146 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 147 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 148 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 149 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 150 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 151 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.01 | 青色 |
| 39 | 152 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 0.02 | 青色 |
| 39 | 153 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.25 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 水色 |
| 39 | 154 | 巻頭７ | 小玉 | ガラス | 第２埋葬施設 | 0.3 | 0.15 | 0.1 | 0.02 | 青色 |

## 表11　出土遺物観察表８（八幡ヶ谷古墳　金属製品）

（　）は残存値
☆は推定値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長 | 鏃身・刃部長 | 幅 | 厚 | 重量 | |
| 49 | 1 | 53 | 直刃鎌 | １号棺 | 7.7 | 5.5 | 2.3 | 0.2 | 7.53 | |
| 49 | 2 | 53 | 直刃鎌 | １号棺 | (6.4) | - | 2.1 | 0.1 | 4.87 | |
| 49 | 3 | 53 | 刀子 | １号棺 | (6.1) | ☆4.0 | 1.1 | 0.2 | 5.02 | |
| 49 | 4 | 53 | 袋状鉄斧 | １号棺 | 6.5 | - | 4.0 | 1.5 | 11.13 | |
| 49 | 5 | 53 | 袋状鉄斧 | １号棺 | 6.9 | - | 4.6 | 1.6 | 16.45 | |
| 49 | 6 | 53 | 袋状鉄斧 | １号棺 | 9.2 | - | 4.1 | 0.3 | 27.901 | |
| 50 | 1 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (13.3) | ☆5.0 | 1.4 | 0.25 | 13.38 | |
| 50 | 2 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (12.1) | 5.2 | 1.5 | 0.3 | 17.45 | |
| 50 | 3 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (12.7) | 5.5 | 1.7 | 0.3 | 20.15 | |
| 50 | 4 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | 10.7 | 5.3 | 1.5 | 0.25 | 13.83 | |
| 50 | 5 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | 11.0 | 5.4 | 1.6 | 0.3 | 15.62 | |
| 50 | 6 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (12.1) | 5.4 | 1.5 | 0.2 | 20.23 | |
| 50 | 7 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (12.7) | (5.1) | 1.6 | 0.25 | 18.83 | |
| 50 | 8 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (10.8) | 5.3 | 1.5 | 0.23 | 16.35 | |
| 50 | 9 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (10.3) | ☆5.3 | 1.4 | 0.3 | 15.02 | |
| 50 | 10 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | 11.7 | 5.6 | 1.5 | 0.25 | 14.60 | |
| 50 | 11 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (11.1) | 5.5 | 1.6 | 0.25 | 18.19 | |
| 50 | 12 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (11.7) | ☆5.5 | 1.6 | 0.25 | 17.03 | |
| 50 | 13 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (10.3) | 5.0 | 1.4 | 0.25 | 13.35 | |
| 51 | 14 | 54 | 鉄鏃 | １号棺 | (11.7) | 5.5 | 1.6 | 0.25 | 96.22 | 分離できず |
| | 15 | | | | (11.3) | 5.3 | 1.6 | 0.25 | | |
| | 16 | | | | (12.7) | 5.6 | 1.6 | 0.25 | | |
| | 17 | | | | (11.2) | (5.1) | 1.6 | 0.25 | | |
| | 18 | | | | (11.1) | (4.7) | 1.5 | 0.25 | | |
| 51 | 19 | 55 | 鉄鏃 | １号棺 | (11.6) | 5.0 | 1.4 | 0.28 | 144,17 | 分離できず |
| | 20 | | | | 11.3 | 5.2 | 1.4 | 0.25 | | |
| | 21 | | | | 10.8 | 5.3 | 1.5 | 0.25 | | |
| | 22 | | | | (11.6) | 5.1 | 1.6 | 0.23 | | |
| | 23 | | | | (12.2) | 5.0 | 1.5 | 0.25 | | |
| | 24 | | | | (12.2) | 不明 | 1.5 | 0.25 | | |
| 51 | 25 | 56 | 鉄鏃 | １号棺 | 10.8 | 5.0 | 1.4 | 0.25 | 99.82 | 分離できず |
| | 26 | | | | 11.2 | 5.2 | 1.3 | 0.25 | | |
| | 27 | | | | (12.6) | 5.3 | 1.3 | 0.25 | | |
| | 28 | | | | (12.5) | 5.0 | 1.4 | 0.25 | | |
| | 29 | | | | (13.4) | 5.2 | 1.4 | 0.22 | | |
| | 30 | | | | 10.9 | 5.2 | 1.5 | 0.25 | | |
| 51 | 31 | 56 | 鉄鏃 | １号棺 | (12.8) | 5.4 | 1.5 | 0.25 | 37.92 | 分離できず |
| | 32 | | | | (13.0) | 5.3 | 1.4 | 0.3 | | |
| 51 | 33 | 56 | 鉄鏃 | １号棺 | 10.9 | 5.2 | 1.4 | 0.25 | 88.85 | 分離できず |
| | 34 | | | | (12.2) | 5.3 | 1.5 | 0.23 | | |
| | 35 | | | | (10.2) | 不明 | 1.4 | 0.27 | | |
| | 36 | | | | (12.1) | (4.8) | 1.3 | 0.23 | | |
| | 37 | | | | (13.3) | 5.1 | 1.5 | 0.22 | | |
| 52 | 1 | 57 | 刀 | １号棺 | ☆81.2 | ☆64.3 | 2.9 | 0.6 | 285.00 | 漆塗柄頭が残存、棺内 |
| 52 | 2 | 57 | 刀 | １号棺 | 57.5 | 43.6 | 2.4 | 0.5 | 149.10 | 棺内 |
| 52 | 3 | 57 | 刀 | １号棺 | 90.0 | 69.3 | 3.0 | 0.7 | 700.00 | 漆模に直弧文 |
| 53 | 1 | 57 | 刀 | １号棺 | 82.0 | 63.6 | 2.9 | 0.5 | 620.00 | |
| 53 | 2 | 57 | 刀 | １号棺 | 70.8 | 55.3 | 2.8 | 0.6 | 514.00 | |
| 54 | 1 | 57 | 剣 | １号棺 | 54.1 | 44.6 | 3.2 | 0.4 | 232.00 | |
| 54 | 2 | 57 | 剣 | １号棺 | 46.2 | 34.3 | 3.6 | 0.5 | 275.00 | |
| 54 | 3 | 59 | 剣(槍) | １号棺 | 23.1 | 17.3 | 2.6 | 0.3 | 47.36 | |
| 54 | 4 | 59 | 剣(槍) | １号棺 | 18.8 | 13.6 | 2.8 | 0.3 | 50.10 | |
| 54 | 5 | 59 | 剣(槍) | １号棺 | (17.2) | ☆12.9 | 2.4 | 0.3 | 44.11 | |
| 54 | 6 | 59 | 剣(槍) | １号棺 | 24.1 | 18.3 | 2.9 | 0.4 | 123.36 | |
| 54 | 7 | 59 | 剣(槍) | １号棺 | 18.4 | 14.7 | 2.6 | 0.35 | 80.41 | |
| 54 | 8 | 59 | 剣(槍) | １号棺 | 18.6 | 13.8 | 2.3 | 0.3 | 58.94 | |
| 55 | 1 | 巻頭11・53 | 巴形銅器 | １号棺 | - | - | - | 1.2 | 2.83 | 推定径4.0cm |

## 表11　出土遺物観察表８（八幡ヶ谷古墳　金属製品）

（　）は残存値
☆は推定値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長 | 鎌身・刃部長 | 幅 | 厚 | 重量 | |
| 56 | 1 | 61 | 直刃鎌 | ２号棺 | (4.8) | － | 2.0 | 0.2 | 5.75 | |
| 56 | 2 | 61 | 直刃鎌 | ２号棺 | 6.95 | 4.2 | 2.4 | 0.2 | 7.90 | |
| 56 | 3 | 61 | 曲刃鎌 | ２号棺 | 16.6 | － | 3.9 | 1.1 | 42.198 | |
| 56 | 4 | 61 | 袋状鉄斧 | ２号棺 | 9.5 | － | 3.4 | 0.2 | 22.48 | |
| 56 | 5 | 61 | 袋状鉄斧 | ２号棺 | (6.9) | － | ☆3.7 | 0.2 | 9.83 | |
| 56 | 6 | 61 | 袋状鉄斧 | ２号棺 | 5.8 | － | 3.7 | 0.25 | 11.25 | |
| 57 | 1 | 62 | 刀 | ２号棺 | 83.5 | 67.9 | 3.0 | 0.6 | 417.00 | |
| 57 | 2 | 62 | 剣 | ２号棺 | 53.0 | 40.4 | 3.1 | 0.4 | 215.00 | |
| 57 | 3 | 63 | 剣(槍) | ２号棺 | 24.8 | 19.8 | 2.8 | 0.4 | 72.39 | |
| 57 | 4 | 63 | 剣(槍) | ２号棺 | (23.2) | 18.2 | 3.2 | 0.4 | 64.35 | |
| 57 | 5 | 63 | 剣(槍) | ２号棺 | 20.6 | 16.2 | 2.6 | 0.3 | 55.16 | |
| 57 | 6 | 63 | 剣(槍) | ２号棺 | (16.7) | ☆13.9 | 2.2 | 0.35 | 35.87 | |
| 57 | 7 | 63 | 剣(槍) | ２号棺 | 17.1 | 13.6 | 2.5 | 0.3 | 45.31 | |

## 表12　出土遺物観察表９（八幡ヶ谷古墳　土器・埴輪）

径の（　）は推定値
高さの（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 時期 | 部位 | 残存(%) | 備考 | 反転 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | | | | | | | | |
| 60 | 1 | 65 | 土師器 | 壺 | 埋葬施設 | 18.8 | (4.8) | － | にぶい黄橙 | 密白色茶色微粒子、ウンモ含有 | 良好 | | 口縁部 | ５％ | | ○ |
| 60 | 2 | 65 | 土師器 | 壺 | 埋葬施設 | － | (1.6) | (9.0) | にぶい黄橙 | 密白色微粒子、茶色砂粒含有 | 良好 | | 底部 | ５％ | | ○ |
| 60 | 3 | 65 | 土師器 | 高杯 | 墳丘東 | － | (2.4) | (12.4) | 浅黄 | 密ウンモ含有 | 良好 | | 坏部 | － | | |
| 60 | 4 | 65 | 土師器 | 高杯 | 埋葬施設(確認調査時) | － | (1.7) | － | 橙 | 密白色粒子含有 | 良好 | ５Ｃ後半？ | 坏部 | － | | |
| 60 | 5 | 65 | 土師器 | 高杯 | 埋葬施設(確認調査時) | － | (1.4) | － | 橙 | 密白色粒子含有 | 良好 | ５Ｃ後半？ | 坏部 | － | | |
| 60 | 6 | － | 須恵器 | 盤？ | 墳丘南西(確認調査時) | － | (0.8) | － | 灰白 | 密白色砂粒含有 | 良好 | ８Ｃ後半以降 | 口縁部 | － | | |
| 60 | 7 | 65 | 須恵器 | 甕 | 南西周溝 | － | (6.8) | － | 灰 | 密黒色粒子含有 | 良好 | ７Ｃ～ | 胴部 | － | 湖西 | |
| 60 | 8 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 埋葬施設 | － | (3.4) | － | 橙 | 密白色赤色砂粒ウンモ含有 | 良好 | | 胴部 | － | | ○ |
| 60 | 9 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 東周溝 | － | (5.2) | － | にぶい橙 | 密赤色粒子、ウンモ含有 | 良好 | | 胴部 | － | | |
| 60 | 10 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 埋葬施設 | － | (3.6) | － | 浅黄橙 | 密白色赤色粒子含有 | 良好 | | 胴部 | － | | |
| 60 | 11 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 南西周溝 | － | (10.3) | － | にぶい橙 | 密赤色粒子含有 | 良好 | | 胴部 | － | | |
| 60 | 12 | 65 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 埋葬施設 | － | (2.05) | (16.4) | にぶい黄橙 | 密白色微粒子ウンモ含有 | 良好 | | 底部 | － | | ○ |
| 60 | 13 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 埋葬施設 | 外径(28.0) | (2.8) | － | 浅黄橙 | 密白色黒色微粒子ウンモ含有 | 良好 | | 突帯部 | － | | ○ |
| 60 | 14 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 埋葬施設 | 外径(27.6) | (2.2) | － | にぶい黄橙 | 密白色赤色粒子ウンモ含有 | 良好 | | 突帯部 | － | | ○ |
| 60 | 15 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 埋葬施設 | 外径(28.0) | (1.7) | － | 橙 | 粗灰白砂礫多く含む(８㎜) | 良好 | | 突帯部 | － | | ○ |
| 60 | 16 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 北東周溝 | 外径(28.2) | (1.6) | － | にぶい黄橙 | 密ウンモ含有 | 良好 | | 突帯部 | － | | |
| 60 | 17 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 埋葬施設 | 外径(24.8) | (1.8) | － | にぶい黄橙 | 密赤色微粒子含有 | 良好 | | 突帯部 | － | | ○ |
| 60 | 18 | 66 | 埴輪 | 壺形埴輪 | 南西周溝 | 外径(24.7) | (1.3) | － | 橙 | 密ウンモ含有 | 良好 | | 突帯部 | － | | |

## 表13　出土遺物観察表10（下平川八幡神社西遺跡　土器）

径の（　）は推定値
高さの（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 時期 | | 部位 | 残存（%） | 備考 | 反転 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 高台径 | | | | | | | | | |
| 67 | 1 | 70 | 土師器 | 坏 | 1区 | SD09 | (11.3) | 3.6 | (6.4) | - | 浅黄橙 | 密茶色赤色粒子含有 | 良好 | | 10C | | 60% | | ○ |
| 67 | 2 | 70 | 土師器 | かわらけ | 1区 | SD09 | 6.9 | 2.0 | 4.3 | - | にぶい橙 | 密赤色粒子含有 | 良好 | | 13C | | 80% | | - |
| 67 | 3 | - | 土師器 | かわらけ | 1区 | SD09 | 7.3 | 1.6 | 5.3 | - | にぶい黄橙 | 灰色赤色粒子含有 | 良好 | | 13C | | 80% | | |
| 67 | 4 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | SD09 | (6.7) | 1.4 | (3.7) | - | 灰 | 密白色微粒子含有 | 良好 | 東遠Ⅲ-2 | 13C中 | | 30% | | ○ |
| 67 | 5 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | SD09 | (8.25) | 1.7 | (5.3) | - | 灰白 | 密白色砂粒含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 40% | | ○ |
| 67 | 7 | - | 土師器 | かわらけ | 1区 | SE03 | (8.5) | 1.9 | (3.7) | - | 橙 | 密白色赤色粒子含有 | 良好 | | 17C | | 60% | | ○ |
| 67 | 8 | 72 | 陶器 | 丸皿 | 1区 | SE03 | (11.6) | 3.0 | - | (5.4) | 灰白 | 密白色粒子含有 | 良好 | 志戸呂灰釉 | 17C前 | | 60% | | ○ |
| 67 | 9 | - | 志戸呂 | 香炉 | 1区 | SE03 | (10.75) | 5.1 | - | (7.0) | にぶい褐 | 密白色微粒子含有 | 良好 | | 18C | | 60% | | ○ |
| 67 | 10 | - | 土師器 | かわらけ | 1区 | SP42 | (8.0) | 1.5 | (4.8) | - | 浅黄橙 | 密灰色赤色微粒子含有 | 良好 | | 13C | | 50% | | ○ |
| 67 | 11 | 70 | 山茶碗 | 碗 | 1区 | SK01 | (14.15) | 5.7 | - | (6.6) | 灰 | 密白色砂粒含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 80% | | |
| 67 | 12 | 70 | 土師器 | かわらけ | 1区 | C4 | (8.5) | 1.9 | (4.5) | - | 浅黄橙 | 密赤色粒子含有 | 良好 | | 13C | | 60% | 注口状 | ○ |
| 67 | 13 | - | 土師器 | かわらけ | 1区 | B6SE | (9.7) | 3.1 | (5.0) | - | 浅黄橙 | 密茶色赤色微砂粒含有 | 良好 | | 13C | | 30% | | ○ |
| 67 | 14 | - | 土師器 | かわらけ | 1区 | C4NE | (7.7) | 1.9 | (5.0) | - | 浅黄橙 | 密茶色微粒子、ウンモ含有 | 良好 | | 18C | 口縁～底部 | 40% | | ○ |
| 67 | 15 | 70 | 土師器 | かわらけ | 1区 | C2 | (8.4) | 1.9 | 4.4 | - | 浅黄橙 | 密赤色灰色微粒子含有 | 良好 | | 19C | | 95% | | |
| 67 | 16 | 70 | 土師器 | かわらけ | 1区 | C2 | 8.3 | 2.1 | 4.6 | - | 浅黄橙 | 密白色赤色粒子含有 | 良好 | | 19C | | 95% | | |
| 67 | 17 | 72 | 灰釉陶器 | 四耳壺 | 1区 | トレンチ | (9.45) | (4.8) | - | - | 灰白 | 密白色微粒子含有 | 良好 | 古瀬戸前Ⅱ併行 | 13C前 | 口縁部 | 10% | 美濃須衛か | ○ |
| 67 | 18 | 70 | 山茶碗 | 碗 | 1区 | C4 | - | (3.5) | - | 6.7 | 灰白 | 密白色微粒子含有 | 良好 | 渥美・湖西Ⅲ-1 | 13C前 | 底部 | 30% | | ○ |
| 67 | 19 | 70 | 山茶碗 | 碗 | 1区 | B3 | 14.5 | 5.0 | - | 7.0 | 灰白 | 密白色砂礫含有 | 良好 | 渥美・湖西Ⅲ-1 | 13C前 | | 90% | | |
| 67 | 20 | 70 | 山茶碗 | 碗 | 1区 | C4 C3NE | 15.3 | 4.4 | - | 6.9 | 灰白 | 密白色灰色砂礫含有(4㎜) | 良好 | 知多3 | 12C後 | | 80% | | |
| 67 | 21 | 70 | 山茶碗 | 碗 | 1区 | C4 | - | (2.4) | - | 6.8 | 灰白 | 密白色砂礫含有(6㎜) | 良好 | 知多6 | 13C後 | 底部 | 30% | 砥石 | ○ |
| 67 | 22 | - | 山茶碗 | 碗 | 1区 | C7W C7NW | (14.6) | 5.1 | - | 6.1 | 灰 | 密白色粒子含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 40% | | ○ |
| 67 | 23 | - | 山茶碗 | 碗 | 1区 | C4NE | 15.0 | (5.3) | (6.4) | - | 灰白 | 密白色黒色粒子含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | 口縁～底部 | 30% | 高台取れている為高台無 | |
| 67 | 24 | 70 | 山茶碗 | 碗 | 1区 | 排水溝 | (14.25) | 5.6 | - | (6.3) | 灰 | 密白色砂礫含有(5㎜) | 良好 | 知多6 | 13C後 | 口縁～底部 | 30% | | |
| 67 | 25 | - | 山茶碗 | 碗 | 1区 | B7 | (15.4) | 5.4 | - | 5.4 | 灰白 | 密白色黒色砂粒含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 60% | | ○ |
| 67 | 26 | - | 山茶碗 | 碗 | 1区 | C5NNE | - | (4.3) | - | (4.9) | 灰白 | 密白色微粒子含有 | 良好 | 東濃8 | 14C前 | 胴部～底部 | 40% | 大畑大洞4 | |
| 67 | 27 | - | 山茶碗 | 碗 | 1区 | C6N | (11.4) | 4.45 | - | (4.1) | 灰白 | 密白色微粒子含有 | 良好 | 東濃8 | 14C前 | | 20% | 大畑大洞4 | ○ |
| 67 | 28 | - | 山茶碗 | 小碗 | 1区 | C6N | - | (1.8) | - | (4.4) | 灰白 | 密白色茶色粒子含有 | 良好 | 東遠皿山Ⅰ-2 | 12C中 | 底部 | 20% | | ○ |
| 68 | 1 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C2 | (7.6) | 1.6 | 4.0 | | 灰 | 密 | 良好 | 東遠Ⅲ-2 | 13C中 | | 50% | | ○ |
| 68 | 2 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3NW | (7.8) | 1.9 | 4.0 | | 灰 | 密 | 良好 | 東遠Ⅲ-2 | 13C中 | | 35% | | ○ |
| 68 | 3 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3NE | (8.1) | 2.0 | 4.2 | | 灰白 | 密 | 良好 | 渥美・湖西Ⅱ | 12C後 | | 40% | | ○ |
| 68 | 4 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3S | 8.5 | 2.2 | 3.3 | | 褐灰 | 密 | 良好 | 渥美・湖西Ⅱ | 12C後 | | 95% | | - |
| 68 | 5 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | 8.0 | 1.7 | 5.0 | - | 灰白 | 密白色粒子含有 | 良好 | 知多5 | 13C中 | | 98% | | - |
| 68 | 6 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | B4 | 8.5 | 2.1 | 4.6 | - | 灰白 | 密5㎜程の白色小礫含有 | 良好 | 知多5 | 13C中 | | 95% | | - |
| 68 | 7 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C5 | 7.9 | 1.8 | 5.2 | - | 灰白 | 密3㎜程の白色小礫含有 | 良好 | 知多5 | 13C中 | | 100% | | - |
| 68 | 8 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C7 | 8.1 | 1.3 | 5.6 | | 灰 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 95% | | - |
| 68 | 9 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | (7.9) | 1.4 | (5.4) | | 黄灰 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 50% | | ○ |

## 表13　出土遺物観察表10（下平川八幡神社西遺跡　土器）

径の（　）は推定値
高さの（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 時期 | | 部位 | 残存（%） | 備考 | 反転 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 高台径 | | | | | | | | | |
| 68 | 10 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | B7 | 8.4 | 1.5 | 4.8 | | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 70% | | - |
| 68 | 11 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3NE | (7.2) | 1.6 | (3.6) | | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 30% | | ○ |
| 68 | 12 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | 8.3 | 2.0 | 4.6 | - | 灰白 | 密黒色粒子4㎜程の白色小礫含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 100% | | - |
| 68 | 13 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3SE | (7.6) | 1.65 | (4.1) | | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | 口縁～底部 | 40% | | ○ |
| 68 | 14 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C4 | 8.0 | 1.75 | 5.4 | - | 灰白 | 密黒色粒子含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 95% | | - |
| 68 | 15 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | 8.1 | 1.75 | 3.1 | - | 褐灰 | 密白色砂粒含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 100% | | - |
| 68 | 16 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C4NE | 8.3 | 1.45 | 1.4 | - | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 90% | | - |
| 68 | 17 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | B7 | 7.9 | 1.9 | 4.7 | - | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 80% | | - |
| 68 | 18 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C2 | 8.5 | 1.7 | 5.0 | - | 灰白 | 密白色砂粒含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 95% | | - |
| 68 | 19 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | 7.6 | 1.7 | 4.3 | - | 灰白 | 密2㎜程の白色小礫含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 95% | | - |
| 68 | 20 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C7W | (7.9) | 1.8 | (4.6) | | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 30% | | ○ |
| 68 | 21 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C7 | (7.6) | 1.3 | (4.4) | | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 25% | | ○ |
| 68 | 22 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | 7.6 | 1.6 | 4.6 | - | 灰白 | 密7㎜程の白色小礫含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 100% | | - |
| 68 | 23 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | 7.8 | 1.75 | 4.6 | - | 灰白 | 密黒色粒子3㎜程の白色小礫含有 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 100% | | - |
| 68 | 24 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3NW C3NE | (8.2) | 1.3 | (5.6) | - | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 45% | | ○ |
| 68 | 25 | 72 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C3 | 8.0 | 1.6 | 4.6 | - | 灰白 | 密 | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 95% | | - |
| 68 | 26 | - | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | B4NE | (7.2) | 1.35 | (3.6) | - | 灰白 | 密 | 良好 | 東濃8 | 14C前 | | 50% | 大畑大洞4 | ○ |
| 68 | 27 | - | 中世陶器 | 鉢 | 1区 | C4 B4 B4SE | - | (6.3) | - | (15.3) | 灰白 | 密白色砂礫(8㎜)多数含有 鉄分吹き出しあり | 良好 | 知多5か6 | 13C中～後 | 底部 | 10% | | ○ |
| 68 | 28 | - | 陶器 | 丸碗 | 1区 | C3NW | - | (2.6) | - | 4.5 | 灰白 | 密白色微粒子含有 | 良好 | 志戸呂灰釉 | 18C | 底部 | 60% | | |
| 68 | 29 | 72 | 陶器 | おろし皿 | 1区 | C5 | (16.2) | 3.5 | (13.0) | - | 灰白 | 密白色粒子含有 | 良好 | 古瀬戸前Ⅱ | 13C中 | | 20% | | ○ |
| 68 | 30 | - | 陶器 | 徳利 | 1区 | C2 C5NW C3NW | 3.3 | (11.5) | 5.8 | - | にぶい褐 | 密白色微粒子含有 | 良好 | 志戸呂鉄釉 | 18C | 口縁部・胴部～底部 | 20% | | ○ |
| 70 | 1 | 71 | 土師器 | かわらけ | 2区 | C-2 | (9.6) | 2.7 | 5.4 | - | にぶい橙 | 密赤色、黒色粒子含有 | 良好 | | 16C後 | | 70% | | ○ |
| 70 | 2 | - | 土師器 | かわらけ | 2区 | C-2 | (9.0) | 2.7 | 4.8 | - | 浅黄橙 | 密3㎜程の白色小礫含有 | 良好 | | 16C後 | | 50% | | ○ |
| 70 | 3 | - | 土師器 | かわらけ | 2区 | C-2 | (8.8) | (3.1) | (5.0) | - | にぶい黄橙 | 密赤色粒子含有 | 良好 | | 17C前 | 口縁～底部 | 30% | | ○ |
| 70 | 4 | 71 | 土師器 | 灯明皿 | 2区 | SK07 | 9.8 | 3.9 | 5.1 | - | 灰白 | 密黒色粒子含有 | 良好 | | 17C前 | | 80% | | - |
| 70 | 5 | 71 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | SR07 C-2 | (16.8) | 6.1 | - | 6.7 | 灰 | 密4㎜程の灰色小礫含有 | 良好 | 東遺(皿山)1-1 | 12C前 | | 50% | | - |
| 70 | 6 | 71 | 陶器 | 小碗 | 2区 | C-2 | 7.7 | 5.2 | - | 3.6 | 灰 | 密白色粒子含有 | 良好 | 瀬戸灰釉5,6小期 | 18C前 | | 70% | | - |
| 70 | 7 | 71 | 陶器 | 丸碗 | 2区 | C-2 | 9.7 | 6.2 | - | 5.4 | 灰白 | 密黒色粒子含有 | 良好 | 瀬戸6小期 | 18C前 | | 90% | | - |
| 70 | 8 | 71 | 陶器 | 天目茶碗 | 2区 | B-1 | (10.8) | 6.9 | - | 4.6 | 黄灰 | 密白色粒子含有 | 良好 | 志戸呂 | 17C前 | | 35% | | ○ |
| 70 | 9 | - | 陶器 | 丸皿 | 2区 | C-1 | (10.8) | 1.7 | - | (6.5) | 灰 | 密黒色粒子含有 | 良好 | 瀬戸灰釉大窯4 | 16C末～17C初 | 口縁～底部 | 25% | | ○ |
| 70 | 10 | - | 陶器 | 丸皿 | 2区 | C-2 | (12.3) | (1.8) | - | (7.2) | 灰白 | 密黒色粒子含有 | 良好 | 志野連房Ⅱ小期 | 17C前 | 口縁～底部 | 20% | | ○ |
| 70 | 11 | 71 | 陶器 | 擂鉢 | 2区 | C-1 | (31.4) | (4.3) | - | - | にぶい赤褐 | 密白色粒子含有 | 良好 | 志戸呂 | 17C前 | 口縁部 | 10% | | ○ |
| 70 | 12 | - | 陶器 | ひょうそく | 2区 | B-2 | - | (2.1) | - | 3.9 | 灰 | 密 | 良好 | 瀬戸 | 18C後 | 底部 | 10% | | - |
| 70 | 13 | 71 | 陶器 | 徳利 | 2区 | C-2 | - | (16.0) | 6.8 | - | 灰白 | 密黒色粒子含有 | 良好 | 志野大窯4後 | 17C初 | 頸部～底部 | 90% | | - |
| 70 | 14 | 71 | 陶器 | 香炉 | 2区 | C-2 | 9.8 | 6.6 | - | 6.7 | 黄灰 | 密白色粒子含有 | 良好 | 志戸呂 | 18C前 | | 70% | | - |

## 表14　出土遺物観察表11（下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　磁器）

径の（　）は推定値
高さの（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 遺跡 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | 色調 | | 胎土 | 焼成 | 時期 | | 部位 | 残存(%) | 備考 | 反転 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 高台径 | 釉 | 断面 | | | | | | | | |
| 67 | 6 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | SD09 | - | (2.5) | - | (5.9) | 暗オリーブ | 灰 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | A1 | 12C後～13初 | 底部 | 30% | | ○ |
| 69 | 1 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | B3 | (14.8) | (4.2) | - | - | オリーブ黄 | 灰 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | A2 | 12C後～13C初 | 口縁部 | 20% | | ○ |
| 69 | 2 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | トレンチ | - | (5.0) | - | - | 灰オリーブ | 灰白 | 密白色微砂粒含有 | 良好 | A6 | 12C後～13C初 | 口縁部 | 5% | | ○ |
| 69 | 3 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | C7 | (13.3) | (4.7) | - | - | オリーブ灰 | 灰 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | B1 | 13C中～14C中 | 口縁部 | 10% | | ○ |
| 69 | 4 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | SD03 | (12.0) | (3.2) | - | - | 緑灰 | 褐灰 | 密白色灰色微砂粒含有 | 良好 | B1 | 13C中～14C中 | 口縁部 | 10% | | ○ |
| 69 | 5 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | C3S | - | (2.3) | - | (6.0) | 明オリーブ灰 | にぶい橙 | 密黒色微粒子含有 | 良好 | B1? | 13C中～14C中か | 底部 | 20% | | ○ |
| 69 | 6 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | C4 | - | (2.9) | - | (5.4) | 明緑灰 | 灰白 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | B1 | 13C中～14C中 | 底部 | 20% | | ○ |
| 69 | 7 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | トレンチ | - | (2.2) | - | (5.6) | オリーブ灰 | 灰白 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | B2 | 14C末～15初 | 底部 | 20% | | ○ |
| 69 | 8 | 巻頭14 | 青磁 | 小碗 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | C6SW | - | (1.9) | - | (3.9) | 緑灰 | 灰白 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | E2? | 15後～16前か | 底部 | 5% | | ○ |
| 69 | 9 | 巻頭14 | 青磁 | 盤 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | C7W | - | (2.0) | - | - | 緑灰 | 灰白 | 密黒色微粒子含有 | 良好 | | 13C | 口縁部 | 5% | | ○ |
| 69 | 10 | 巻頭14 | 白磁 | 口禿皿 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | トレンチ | (10.3) | 2.0 | (6.8) | - | 灰白 | 灰白 | 密うす茶色微砂粒含有 | 良好 | Ⅸ | 13後～14C初 | | 25% | | ○ |
| 76 | 1 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡谷遺跡 | 1区 | B10 | (14.9) | (3.0) | — | — | オリーブ灰 | 灰白 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | B1 | 13C中～14C前 | 口縁部 | 5% | | ○ |
| 76 | 2 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡谷遺跡 | 1区 | B10 | (14.8) | (3.4) | — | — | 緑灰 | 灰白 | 密白色微砂粒含有 | 良好 | B1 | 13C中～14C前 | 口縁部 | 5% | | ○ |
| 76 | 3 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡谷遺跡 | 1区 | B14 | (8.0) | (3.4) | — | — | 緑灰 | 灰白 | 密灰色微粒子含有 | 良好 | E | 15C後～16C前 | 口縁部 | 10% | | ○ |
| 76 | 4 | 巻頭14 | 青磁 | 碗 | 下平川八幡谷遺跡 | 1区 | B11 | (16.0) | (4.7) | — | — | オリーブ灰 | 灰 | 密白色灰色微砂粒含有 | 良好 | B1 | 13C中～14C前 | 口縁部 | 5% | | ○ |
| 76 | 5 | 巻頭14 | 白磁 | 碗 | 下平川八幡谷遺跡 | 1区 | B11SE | (15.6) | (4.5) | — | — | 灰白 | 灰白 | 密黒色微粒子含有 | 良好 | Ⅷ | 12C～13C初頭 | 口縁部 | 5% | | ○ |

## 表15　出土遺物観察表12（下平川八幡神社西遺跡　石器）

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 石材 | 計測値（cm） | | | | 色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重さ（g） | | |
| 71 | 1 | 72 | 砥石 | 1区 | C4NW | 凝灰岩 | 6.4 | 3.6 | 1.9 | 70.87 | 黄褐色 | |
| 71 | 2 | 72 | 砥石 | 1区 | SE03 | 凝灰質砂岩 | 11.0 | 3.7 | 2.3 | 87.37 | 淡褐色 | |
| 71 | 3 | 72 | 砥石 | 1区 | C4S | 凝灰岩 | 9.8 | 3.3 | 3.5 | 414.0 | 淡褐灰色 | |

## 表16　出土遺物観察表13（下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　銭貨）

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 遺跡 | 調査区 | 出土遺構・位置 | 計測値 | | | | 銭名 | 国名 | 初鋳年 | 書体 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 銭径(cm) | 孔径(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | | | | | |
| 71 | 4 | 4 | 下平川八幡神社西遺跡 | 1区 | C5 | 2.4 | 0.7 | 0.1 | 1.35 | 元豊通宝 | 宋 | 1078 | 篆書 | |
| 71 | 5 | 5 | 下平川八幡神社西遺跡 | 2区 | C-1 | 2.4 | 0.6 | 0.1 | 2.23 | 皇宋通宝 | 宋 | 1039 | 篆書 | |
| 71 | 6 | 6 | 下平川八幡神社西遺跡 | 2区 | C-2 | 2.4 | 0.6 | 0.1 | 1.51 | 淳化元宝 | 宋 | 990 | 行書 | |
| 71 | 7 | 7 | 下平川八幡神社西遺跡 | 2区 | C-2 | 2.4 | 0.6 | 0.1 | 1.70 | 寛永通宝 | 日本 | 1668 | | 新寛永通宝 |
| 77 | 6 | 6 | 下平川八幡谷遺跡 | 1区 | C12 | 2.5 | 0.7 | 0.075 | 2.02 | 皇宋通宝 | 宋 | 1039 | 篆書 | |

## 表17　出土遺物観察表14（下平川八幡谷遺跡　土器）

径の（　）は推定値
高さの（　）は残存値

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 種別 | 器種 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 時期 | | 部位 | 残存（%） | 備考 | 反転 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 高さ | 底径 | 高台径 | | | | | | | | | |
| 75 | 1 | 76 | 灰釉陶器 | 碗 | 2区 | S D01 | － | (2.4) | － | 6.4 | 〃 | 密 | 良好 | 清ヶ谷 Ⅲ－2 | 10C後 | | 10% | | － |
| 75 | 2 | 76 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | S D01 | (16.0) | 5.5 | － | 6.7 | 灰白 | 密 | 良好 | 湯美・湖西 Ⅲ-1 | 13C前 | | 70% | | － |
| 75 | 3 | 76 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | S D01 | 16.4 | 5.2 | － | 6.6 | 〃 | 密白色の砂礫、3～5㎜の小礫含む | 良好鉄分吹き出しあり | 湯美・湖西 Ⅲ-1 | 13C前 | | 80% | | － |
| 75 | 4 | 76 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | S D01 | － | (2.2) | － | 7.8 | 灰白 | 密 | 良好 | 湯美・湖西 Ⅲ-1 | 13C前 | | 15% | | － |
| 75 | 5 | 76 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | S D01 | － | (3.3) | － | 7.6 | 灰白 | 密 | 良好鉄分吹き出しあり | 湯美・湖西 Ⅲ-1 | 13C前 | | 40% | | ○ |
| 75 | 6 | 76 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | S D01 | (15.4) | 5.0 | － | (6.4) | 〃 | 密白の砂礫含む | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 45% | 墨書あり「大」か「×」か | ○ |
| 75 | 7 | 76 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | S D01 | 14.8 | 5.05 | － | 7.0 | 灰白 | 密白の砂礫、5㎜の小礫含む | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 70% | | － |
| 75 | 8 | 76 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | S D01 | (15.6) | 5.1 | － | 6.2 | 灰 | 密白の砂礫含む | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 40% | | ○ |
| 75 | 9 | 76 | 山茶碗 | 小皿 | 2区 | S D01 | 8.5 | 2.0 | 4.6 | － | 灰白 | 密 | 良好 | 湯美・湖西 Ⅲ-1 | 13C前 | | 100% | | － |
| 75 | 10 | 76 | 山茶碗 | 小皿 | 2区 | S D01 | 8.0 | 1.7 | 5.2 | － | 灰 | 密白の砂礫、3㎜の小礫含む | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 70% | | － |
| 75 | 11 | 76 | 山茶碗 | 小皿 | 2区 | S D01 | 9.2 | 1.7 | 4.8 | － | 灰 | 密白色砂粒、5㎜の砂礫含む | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 100% | | － |
| 75 | 12 | 77 | 土師器 | 高坏 | 2区 | E23 | － | (2.3) | － | － | 橙 | 密 | 良好 | 古墳時代中期 | | 脚部 | 5％ | 小型品 | ○ |
| 75 | 13 | 77 | 土師器 | 台付甕 | 2区 | C23S E | － | (3.9) | － | 7.4 | にぶい黄橙 | 密 | 良好 | 古墳時代中期 | | 脚部 | 5％ | | － |
| 75 | 14 | 77 | 須恵器 | 杯蓋 | 2区 | C23N E | (10.8) | (1.4) | － | － | 灰 | 密 | 良好 | 7C後 | | | 20% | | ○ |
| 75 | 15 | 77 | 須恵器 | 坏蓋 | 2区 | S R01 | － | (1.7) | － | － | 灰白 | 密 | 良好 | 8C中～後 | | | 60% | 湖西 | － |
| 75 | 16 | 77 | 須恵器 | 坏蓋 | 2区 | S R03 | (13.4) | (2.2) | － | － | 灰 | 密 | 良好 | 8C中～後 | | | 20% | | ○ |
| 75 | 17 | 77 | 須恵器 | 甕 | 2区 | C25 | (24.0) | (8.1) | － | － | 灰 | 密 | 良好 | 7～8C | | | 5％ | 湖西 | ○ |
| 75 | 18 | 77 | 灰釉陶器 | 小碗 | 2区 | D24S W | (10.3) | 3.3 | － | 6.0 | 灰 | 密白色の砂粒含む | 良好 | 東遠(金谷?) Ⅳ-4 | 11C末 | | 40% | | ○ |
| 75 | 19 | 77 | 山茶碗 | 碗 | 2区 | D24N E | 14.6 | 4.9 | 7.7 | － | 灰白 | 密白の砂粒、3㎜位の砂礫含む | 良好 | 知多6 | 13C後 | | 95% | | － |
| 75 | 20 | 77 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | B10S E B10NW | 7.7 | 1.9 | 3.6 | － | 灰 | 密 | 良好 | 東遠 Ⅲ－2 | 13C中 | | 80% | | － |
| 75 | 21 | 77 | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C11 | 7.6 | 1.7 | 4.2 | － | 灰白 | 密 | 生焼け | 東遠 Ⅲ－2 | 13C中 | | 90% | | － |
| 75 | 22 | | 山茶碗 | 小皿 | 1区 | C10NW | 7.45 | 1.7 | 4.6 | － | 灰白 | 密 | 良好鉄分吹き出しあり | 知多6 | 13C後 | | 60% | | － |
| 75 | 23 | 77 | 山茶碗 | 小皿 | 2区 | B16 | (7.8) | 2.2 | 4.0 | － | 灰白 | 密 | 良好 | 湯美・湖西 Ⅲ-2 | 12c | | 40% | | ○ |
| 75 | 24 | 77 | 中世陶器 | 鉢 | 2区 | C23 | (22.2) | 8.7 | － | (10.8) | 灰白 | 密白の砂礫含む | 良好 | 湯美・湖西 Ⅰ-2 | 12C後 | | 30% | | ○ |
| 75 | 25 | 77 | 陶器 | 広口壺 | 1区 | 表土層 | (13.6) | (10.0) | － | － | 赤黒 | 密 | 良好 | 志戸呂 大窯4 | 16C末～17C初 | | 5％ | 線刻「天」 | ○ |

## 表18　出土遺物観察表15（下平川八幡谷遺跡　土製品）

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 調査区 | 出土位置・遺構 | 計測値（cm） | | | | 色調 | 胎土 | 焼成 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 直径 | 全長 | 孔径 | 重さ(g) | | | | | |
| 75 | 26 | 78 | 土錘 | 1区 | B12 | 1.6 | 3.3 | 0.45 | 6.37 | 灰黄褐 | 密白色茶色微粒子含有 | 良好 | 不明 | |
| 75 | 27 | 78 | 土錘 | 1区 | C 9 | 1.5 | 2.75 | 0.45 | 5.01 | 褐灰 | 密白色微砂子含有 | 良好 | 不明 | |

## 表19　出土遺物観察表16（下平川八幡谷遺跡　石器）

| 図版番号 | 遺物番号 | 写真図版番号 | 器種 | 調査区 | 出土位置 | 胎土 | 計測値（cm） | | | | 色調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重さ(g) | | |
| 77 | 1 | 78 | 石匙 | 2区 | D25 | 粘板岩 | 4.5 | 2.1 | 0.7 | 3.84 | 暗灰 | |
| 77 | 2 | 78 | 礫石錘 | 2区 | E25 | 中粒砂岩 | 10.2 | 8.5 | 3.0 | 378 | 青灰色 | |
| 77 | 3 | 78 | 敲石 | 2区 | D24 | 粗粒砂岩 | 12.8 | 5.6 | 3.8 | 429.0 | 灰色 | |
| 77 | 4 | 78 | 敲石 | 2区 | D25 | 含礫中粒砂岩 | 11.4 | 6.7 | 4.6 | 478.0 | 灰色 | |
| 77 | 5 | 78 | 石臼 | 1区 | 排水溝 | 細粒砂岩 | 8.7 | 3.9 | 2.4 | 66.72 | 灰白 | 割れた後被熱、復元径9.5cm |

# 第Ⅳ章　まとめ

## 第１節　古墳について

ここでは丘陵上の古墳についてまとめてみる。

まず、八幡ヶ谷古墳を考える上で比較となる古墳としては、旧磐田郡浅羽町（現袋井市）の五ヶ山Ｂ２号墳があげられる。当然のことながら、共通項も多いが相違点も多い。中期前半の丘陵上に築かれ、豊富な武器類をもつ、その地域の首長の墓であるという大枠においては一致している。

現在我々が注目する様々な要素の中で、古墳時代の埋葬における優先順位を推測するのは容易ではないが、次に重視されそうな、墳形、埋葬人数、埋葬施設、棺形、頭位などは相違がある。これらの点はそれぞれの地域、人物などによって選択されていたことが想像できる。

個々の副葬品、その数などは被葬者個人の所有によるもので、単純に比較することができないが、八幡ヶ谷古墳が甲冑を持たない以外は質的には同じと認めてよいであろう。斧が模造品、槍は鞘を装着するという点も共通項としてあげられよう。このことは同じような地位であったことを示しているのであろう。

五ヶ山Ｂ２号墳の被葬者は、遠江屈指の大首長である磐田市堂山１号墳の被葬者を軍事的に補佐した役割も担った人物と推定されている(鈴木一1999)。菊川流域で見た場合、発掘調査がなされた例が少なく検討が難しい。前方後円墳をみると、上平川大塚１・２号墳が西側低地部に存在するが、八幡ヶ谷古墳よりも古い段階であると推測される。また、同時期と推測される古墳に舟久保古墳があげられる。舟久保古墳は八幡ヶ谷古墳の南東約３㎞、牛渕川の支流である丹野川の南丘陵上に存在する全長47ｍの前方後円墳である。この舟久保古墳の被葬者が八幡ヶ谷古墳の人物よりも上位にいた可能性を考えることができるであろう。

地形的には上平川大塚１・２号墳が立地する位置は、東西から丘陵が延び旧菊川町域の平野部と旧小笠町域の平野部の境目にあたる。菊川の水運では要地であろう。八幡ヶ谷古墳からは上平川大塚古墳周辺を見下ろすことができることから、八幡ヶ谷古墳の被葬者も軍事力をもち、水上交通を押さえていたことが推測される。

次に、瑞泉寺１号墳、志味堂１号墳はともに中期後葉と八幡ヶ谷古墳よりも後に築かれている。

瑞泉寺１号墳の第１埋葬施設は武器、農工具を持つことから、被葬者は八幡ヶ谷古墳と同様な軍事的役割を想像させる。その一方、第２埋葬施設の被葬者は銅鏡と玉類、刀子が１点である。埋葬施設の深さが10㎝ほどしか残っていなかったのだが、周辺からも遺物がほとんど出土していないことから、失われた副葬品はそれほどないと思われる。軍事的ではない、宗教的な役割を担った人物であろうと考えられる。

志味堂１号墳も八幡ヶ谷古墳、瑞泉寺１号墳第１埋葬施設と同様、軍事的な色が現れている。

以上の３古墳を見たときに、出土した鉄鏃がみな違う形式であることが指摘できる。意識して違う形式を所有していたとも考えられよう。また八幡ヶ谷古墳では顕著であるが、周辺地域からだけでは入手できないような特殊な遺物を持っている。そのことから、他地域との関わりをもった被葬者像が浮かび上がってくる。

以上のことから八幡ヶ谷古墳ほか丘陵上の古墳は、五ヶ山Ｂ２号墳同様、軍事的な役割をもった首長達の古墳であると認められる。その中には、瑞泉寺１号墳第２埋葬施設のような宗教的な役割の人物も存在していたのである。

八幡ヶ谷古墳の南約600ｍの同じ丘陵上には好運寺山古墳が存在する。その間にも古墳と思われる地

形がいくつもあることから、そこまでが一つの群ととらえられよう。また、今回調査した別々の名を付けられた古墳群は別々の丘陵に立地しているが、大きく見れば一つの古墳群としてとらえてよいであろう。これら下平川の古墳群が菊川中流域の首長墓群であり、上平川大塚１・２号墳とも同じ系譜であると想像することも可能であろう。

その勢力は朝日神社古墳へと続く可能性を指摘できるであろうが、現状では資料不足のため、指摘でとどめざるを得ない。

## 第２節　横穴墓について

発掘調査を行った志味堂横穴群、周辺に開口している八幡ヶ谷横穴群ともに、丘陵の尾根から５ｍほど下がった比較的高所にあるが、これは菊川流域の特徴である。志味堂横穴群は南に面することが優先されているようだが、八幡ヶ谷横穴群では谷の奥を優先したためか、東向きの群も存在する。また、南向きを優先し、支尾根の先端付近に築かれた群も存在し、規範が一つでは無いことを示している。

志味堂横穴群の群構成としては、今回調査したＢ・Ｃ群の東にＡ群３基が開口している。Ｃ群の西、尾根の先端方向、現在は尾根が切られて道となっている所にも存在したという話もあるが、確実なことはわからない。さらに西、現在茶畑になっているところにも、地元の人によるとかつて存在したそうである。先端付近、春日神社裏には１基の開口がみられる。遺跡地図では堤城跡に含まれてしまうのだが、志味堂横穴群としては尾根の付け根から、先端付近にまで分布している。全体をみると、Ａ～Ｃ群で一つのグループと見なすことができるかもしれない。

被葬者集団の集落の候補としては、丘陵西側の城向遺跡、猪森遺跡、上平川政所遺跡などが候補にあげられようが、周辺では発掘調査がなされていないので未知の遺跡が存在する可能性もあり、不明といわざるをえない。

八幡ヶ谷横穴群の被葬者に関連する集落も未知であるが、下平川八幡谷遺跡南側で土師器、須恵器が出土していることから八幡ヶ谷の谷の出口付近に集落があった可能性を指摘できる。

志味堂横穴群の調査では遺物の量の少なさが特筆される。また、Ｂ群３・４号横穴では小破片が一面に散っているなど、踏み荒らされた感がある。

静岡県立掛川西高校郷土研究部が発行した「ふるさと」には昭和30年代に東遠江の横穴群を丹念に調べて歩いた様子が記されている。その中で、16号の「掛川市および小笠郡古墳地名表」には「志味堂谷」６基、「既掘」と記されている。遺物の欄には横瓶、高杯、磁があげられている。山道の位置、開口状況から、既掘の６基にＢ群１～４号墓、とＣ群３号墓が含まれる可能性が考えられよう。当時の出土遺物が掛川西高などに保管されている可能性もあるが、今回の事業ではそこまでの余力はなく、過去の遺物の再資料化、再評価は考古学会としての今後の課題である。

遺物が少ないことから、各横穴墓の時期および変遷を追うことは困難であるし、両群ともに調査区の両端で、調査区外にまだ存在する可能性があるが、与えられた情報から、推測すると以下のようである。

Ｂ群では横穴の大きさ、立地から１号横穴が開始に当たるのではないだろうか。２～４号横穴がそれに続き、ミニ横穴３基が終末で、５号横穴から７号横穴へという順が考えられる。ただし６号横穴が前か後かは不明である。

一方、Ｃ群では遺物からは１号横穴と３号横穴がほぼ同時で、２号横穴が後続すると考えられる。

## 第３節　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡出土中世土器・陶磁器について

近年、静岡県内では中世土器・陶磁器の破片点数計測データが蓄積され、ほぼ同一基準での比較が可能となり、様々な角度からの分析が進んでいる（菊川町2000・菊川シンポ実行委員会2005）。今回、下平川八幡神社西及び下平川八幡谷遺跡でも資料蓄積の一環から中世土器・陶磁器の数値化を実施し、表20及び21にとりまとめた。その過程でいくつか気付いた点があったので、以下に記述したい。なお、土器・陶磁器の分類及び計測は筆者が実施したが、小野正敏氏、藤澤良祐氏、松井一明氏に多大な指導をいただいた。

対象となる中世土器・陶磁器の総数は6,214点で、このうち５割以上を占めるのが山茶碗である。産地及び時期別に分類を試みたところ、興味深い事実が明らかとなった。当遺跡は東遠江に所在することから、通常、狭域流通品である山茶碗は在地の東遠江産製品が大半を占める（溝口2005）。にもかかわらず、破片数ベースでみると尾張系（知多）山茶碗が実に63％を占め、地元の東遠江系山茶碗は14％に過ぎないのである。これは湖西・渥美系製品の22％にも及ばない数値であり、遠江の中世遺跡における普遍的な出土状況からみれば特異なことである。また、当地域では稀少な東美濃系山茶碗が少量ながら搬入されることも特筆できる要素である。時期別の様相をみると、東遠江系、湖西・渥美系でいえばⅠ期（松井編年：松井1993）、尾張系（知多）でいえば３型式（中野編年：中野1994）から一定量出土しているが、前者ではⅢ期、後者では５型式あたりから出土量が増加する。これは当遺跡の中世前期における盛期が13世紀代にあることを物語るが、東遠江系、渥美・湖西系がⅢ－３期にはほとんど出土しなくなるのに対し、尾張系（知多）製品はこれと並行する６ａ型式が最も多くなっている。湖西・渥美系及び東遠江系山茶碗はⅢ期－１をピークとして、Ⅲ期－２以降は生産量が激減し、尾張系山茶碗が海運により大量に流通することが指摘されるが（松井1993・藤澤1994）、入手困難となった供膳具を尾張系（知多）製品が補完している側面はあるにしても、Ⅲ期－１～２期の東遠江系及び湖西・渥美系製品をはるかに上回る大量出土はそれだけでは説明はつかないだろう。遠江・駿河地域を見渡しても東遠江系、湖西・渥美系山茶碗がⅢ期－２段階以降に激減する遺跡はあっても、尾張系製品がそれらを凌駕するほど出土する例はほとんどない。例外は磐田市元島遺跡で、産地同定された半数近くを尾張系製品が占める（溝口前掲書）。この遺跡は水運を介した物流拠点という位置付けがなされているが、当遺跡では立地や遺構の面から同様の特徴を見出せる要素はない。よって、尾張地域と密接な関係があり、尾張系（知多）山茶碗を日常雑器として大量搬入できる流通経路を持った人物が当遺跡周辺に居住していたと考えられる。

瀬戸美濃系施釉陶器は表21に示すように114点が確認された。同一個体とみられる古瀬戸前Ⅱ期の四耳壺など、山茶碗と並行する時期の前期製品が一定量あるものの、大半は古瀬戸後期、それも後Ⅲ期あたりからの出土量が多くなっており、後Ⅳ期並行の古志戸呂製品を含むと全数の半数近くが後Ⅲ～Ⅳ期の間に位置づけられる。大窯製品は１～４段階が出土するが、やはり志戸呂製品を含む４段階の製品が増加する傾向がある。器種構成については、中世前期には四耳壺や水注といった袋物を少量ながら含む一方、中世後期には碗皿や擂鉢といった日常品が主体となる。

貿易陶磁は77点が出土し、青磁碗Ａ類、青磁碗Ｂ類、白磁碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ類、白磁皿Ⅸ類製品といった12～14世紀代に位置づけられる製品が大半を占める。山茶碗並行期であるこの時期に碗皿主体とはいえ、多くの貿易陶磁の搬入が確認されることは特筆される。15世紀代の製品は青磁碗Ｃ２・Ｅ類や青磁稜花皿、白磁腰折皿などが出土するものの、前代に比べれば激減といっていいだろう。

土師質土器類の主体はかわらけで、2,490点が確認された。時期別の数値化は実施していないが、ほとんどがロクロ製品であり、第67図２、３、12、13に図示したように当地域では比較的出土量が少ない13世紀代のかわらけも多く出土している。山茶碗期の煮沸具である伊勢鍋もまとまった数が確認されるが、

# 表20　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　瀬戸美濃系施釉陶器一覧表

## 器種組成表

| 項　目 | 破片数 | 個体数 |
|---|---|---|
| 山茶碗類 | 3301（53.1%） | 178 |
| 山茶碗 | 3034 | 107 |
| 小皿 | 2 | 2 |
| 小碗 | 265 | 69 |
| 土師質土器類 | 2584（41.6%） | 132 |
| かわらけ | 2490 | 114 |
| 鍋類 | 94 | 18 |
| その他 | | |
| 常滑産 | 101（1.6%） | 2 |
| 甕 | 52 | |
| 鉢 | 49 | 2 |
| その他 | | |
| 渥美・湖西産 | 36（0.6%） | 1 |
| 甕 | 31 | |
| 鉢 | 5 | 1 |
| その他 | | |
| 瀬戸・美濃産 | 74（1.2%） | |
| 天目茶碗 | 10 | |
| 碗類 | 10 | |
| 皿類 | 11 | |
| 卸皿類 | 2 | |
| 擂鉢 | 21 | |
| 壺・瓶類 | 17 | |
| 仏具類 | 2 | |
| その他 | 1 | |
| 不明 | | |
| 貿易陶磁 | 77（1.2%） | |
| 青磁 | 60 | |
| 碗類 | 52 | |
| 皿類 | 3 | |
| 盤類 | 1 | |
| その他 | 4 | |
| 白磁 | 17 | |
| 碗類 | 4 | |
| 皿類 | 10 | |
| その他 | 3 | |
| 志戸呂窯 | 39（0.6%） | |
| 天目茶碗 | 4 | |
| 碗類 | 1 | |
| 皿類 | 5 | |
| 盤類 | | |
| 擂鉢 | 26 | |
| 壺・瓶類 | 1 | |
| 仏具類 | 1 | |
| その他 | 1 | |
| 初山窯 | 1 | |
| 皿類 | 1 | |
| その他 | 1 | |
| 備前擂鉢 | 1 | |
| 合計 | 6,214 | |
| 調査面積（㎡） | 2,200 | |
| ㎡あたり点数 | 2.82 | |

## 貿易陶磁分類一覧

| 器種名 | | 分類 | | 年代 | 破片数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 青磁 | 碗類 | 龍泉窯系 | A１類 | 12C後～13C前葉 | 4 | |
| | | | A２類 | 12C後～13C前葉 | 4 | |
| | | | A３類 | 12C後～13C前葉 | 1 | |
| | | | A６類 | 12C後～13C前葉 | 3 | |
| | | | B０類 | 14C前 | 1 | |
| | | | B１類 | 13C中～14C前 | 19 | |
| | | | B２類 | 14C末～15C初頭 | 5 | |
| | | | C２類 | 15C前 | 1 | |
| | | | E類 | 15C後～16C前 | 4 | |
| | | | 不明 | | 10 | |
| | 皿類 | 稜花皿 | | 15C中～後 | 3 | |
| | 盤類 | | | | 1 | |
| | 不明 | | | | 4 | |
| 白磁 | 碗類 | | Ⅳ類 | 12C後 | 2 | |
| | | | Ⅴ類 | 12C後 | 1 | |
| | | | Ⅷ類 | 12C～13C初頭 | 1 | |
| | 皿類 | | Ⅸ類 | 13C後～14C前 | 6 | |
| | | | 腰折皿 | 15C | 2 | |
| | | | 不明 | | 2 | |
| | 壺類 | 四耳壺 | | | 3 | |
| 合計 | | | | | 77 | |

## 山茶碗類分類一覧

| | 湖西・渥美系 | | | | | | | | | 東濃系 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ期 | | Ⅱ期 | | Ⅲ-１期 | | Ⅲ-２期 | | 破片 | 大畑大洞４ | | 破片 |
| | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | | 破片 | 個体 | |
| 山茶碗 | | | 1 | 1 | 62 | 11 | 26 | 17 | 598 | 16 | 7 | 11 |
| 小碗 | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| 小皿 | | | 4 | 3 | 5 | 2 | 8 | 6 | 36 | | | |
| 合計 | 1 | 1 | 5 | 4 | 67 | 13 | 34 | 23 | 634 | 16 | 7 | 11 |
| 産地別破片数 | 739 | | | | | | | | | 27 | | |
| 割合 | 22% | | | | | | | | | 1％ | | |

| | 東遠江系 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰ期 | | Ⅱ期 | | Ⅲ-１期 | | Ⅲ-２期 | | Ⅲ-３期 | | 破片 |
| | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | |
| 山茶碗 | 7 | 4 | 1 | 1 | 8 | 3 | 5 | 3 | 1 | 1 | 382 |
| 小碗 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| 小皿 | | | | | | | 20 | 12 | | | 34 |
| 合計 | 8 | 5 | 1 | 1 | 8 | 3 | 25 | 15 | 1 | 1 | 416 |
| 産地別破片数 | 459 | | | | | | | | | | |
| 割合 | 14% | | | | | | | | | | |

| | 尾張系（知多） | | | | | | | | | 合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ３型式 | | ４型式 | | ５型式 | | ６ａ型式 | | 破片 | 破片 | | 個体 | |
| | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | | | | | |
| 山茶碗 | 7 | 1 | | | 11 | 2 | 149 | 56 | 1749 | 3034 | | 107 | |
| 小碗 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| 小皿 | | | 1 | 1 | 5 | 5 | 81 | 38 | 73 | 265 | | 69 | |
| 合計 | 7 | 1 | 1 | 1 | 16 | 7 | 230 | 94 | 1822 | 3301 | | 178 | |
| 産地別破片数 | 2076 | | | | | | | | | 3301 | | | |
| 割合 | 63% | | | | | | | | | 100% | | | |

## 土師質土器類分類一覧

| 器種 | かわらけ | | 伊勢鍋 | | 内耳鍋（く字型） | | 羽釜 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 | 破片 | 個体 |
| | 2490 | 114 | 62 | 15 | 25 | 3 | 7 | |

※１　山茶碗以外の遺物の分類及び年代観は菊川町教育委員会『横地城総合調査報告書資料編』2000による。

※２　山茶碗類分類一覧表中の時期区分は湖西・渥美及び東遠江製品は松井氏編年（松井1993）、尾張（知多）製品は中野氏編年（中野1994）、東濃製品は田口・若尾氏編年（多治見市1987）による。また、Ⅰ～Ⅱ期のように複数時期でしか識別できなかったものは案分した。

# 表21　下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡　中世遺物一覧表

## 瀬戸美濃

| 器種名 | | 古瀬戸前期 | | | | 古瀬戸中期 | | | | 古瀬戸後期 | | | | | 古瀬戸計 | 後Ⅳ期～大窯 | 大窯製品 | | | | | | | | 大窯計 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ古 | Ⅳ新 | | | 1前 | 1後 | 2前 | 2後 | 3前 | 3後 | 4前 | 4後 | | | |
| 天目 | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | 2 | | | 10 | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 碗類 | 灰釉平碗 | | | | | | | | | | | | | 9 | 10 | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 皿類 | 灰釉丸皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | 6 | 1 | 6 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | |
| | 灰釉端反皿か丸皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 |
| | 鉄釉丸皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | 3 | | 3 |
| | 鉄釉緑釉小皿 | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 卸皿 | 灰釉卸皿 | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 擂鉢 | 擂鉢 | | | | | | | | | | | | 6 | | 6 | 12 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | 21 |
| 壺・瓶類 | 灰釉水注 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 灰釉四耳壺 | | 16 | | | | | | | | | | | | 16 | | | | | | | | | | | | 16 |
| 神仏具 | 灰釉花瓶 | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 鉄釉筒形容器 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | 1 |
| その他 | 志野徳利 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 |
| 合計 | | | 16 | | | | | | | | | 3 | | 11 | 47 | 12 | 1 | | 1 | | 4 | | | | 15 | | 74 |
| | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | |
| | | 1 | | | | | | | | 8 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |

## 志戸呂

| 器種名 | | 古瀬戸前期 | | | | 古瀬戸中期 | | | | 古瀬戸後期 | | | | | 古瀬戸計 | 古瀬戸～大窯 | 大窯製品 | | | | | | | | 大窯計 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ古 | Ⅳ新 | | | 1前 | 1後 | 2前 | 2後 | 3前 | 3後 | 4前 | 4後 | | | |
| 天目 | 天目茶碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 4 | | 4 |
| | 小天目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 碗類 | 鉄釉丸碗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| 皿類 | 灰釉丸皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| | 鉄釉丸皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | 2 |
| | 鉄釉緑釉小皿 | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 擂鉢 | 擂鉢 | | | | | | | | | | | | 14 | | 14 | | | | | | | | 12 | | 12 | | 26 |
| 壺・瓶類 | 広口壺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| 神仏具 | 鉄釉香炉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| その他 | 鉄釉徳利 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | 16 | | 16 | | | | | | | | 23 | | 23 | | 39 |
| | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

## 初山

| 器種名 | | 古瀬戸前期 | | | | 古瀬戸中期 | | | | 古瀬戸後期 | | | | | 古瀬戸計 | 古瀬戸～大窯 | 大窯製品 | | | | | | | | 大窯計 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ古 | Ⅳ新 | | | 1前 | 1後 | 2前 | 2後 | 3前 | 3後 | 4前 | 4後 | | | |
| 皿類 | 内禿皿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 1 |

中世後期に盛行する内耳鍋及び羽釜は比較的出土量が少なくなっている。

以上、下平川八幡神社西及び下平川八幡谷遺跡出土の中世土器・陶磁器の数値化を概観したが、出土傾向を簡単にまとめてみると、山茶碗の大量所持、古瀬戸前期の四耳壺など袋物の所持、貿易陶磁の一定量所持といったことから、13～14世紀代には比較的高い階層の住人が当遺跡周辺に居住していたことが読み取れる。特に尾張系山茶碗の大量出土は居住者と尾張地域との密接な関係を窺わせるものであり、日常雑器である山茶碗をあえて遠隔地から搬入していたことに注目したい。中世後期となる15～16世紀代には遺物様相からみる限り、前代のように特徴的な要素は見出せず、遠江地域では普遍的にみられる集落遺跡での出土傾向となるため、一般的な集落として近世まで継続していくものと思われる。

## 第４節　中世から近世の集落について

ここでは下平川八幡神社西遺跡と下平川八幡谷遺跡をあわせて、中世以降についてまとめてみる。

両遺跡の全体をながめると、12世紀後半から19世紀までの遺物がほぼとぎれることなく出土している様子が見られる。その中でも12世紀後半～14世紀前半にピークがあり、遺跡の最盛期と見なせよう。

検出遺構、遺物の出土状況、周辺地形などを元に、中世から近世の八幡谷の様子を推定したのが第79図である。

集落、居住域は丘陵裾部東南面を中心に存在し、その一部が下平川八幡神社西遺跡１区および、下平川八幡谷遺跡２区南端で検出されたのであろう。図に示した以外にも居住域が存在したことは当然考えられる。中近世の状況は現在の様子とあまり変わらないものであったのではないだろうか。居住域が散在していたと推定したい。

下平川八幡神社西遺跡１区と下平川八幡谷遺跡１区からは輸入陶磁器片が出土している。集計したのが表20であるが、これらの出土遺物は有力者の存在を示していよう。明確な遺構は見つかっていないのだが、出土位置から下平川八幡神社西遺跡１区周辺が有力であろう。

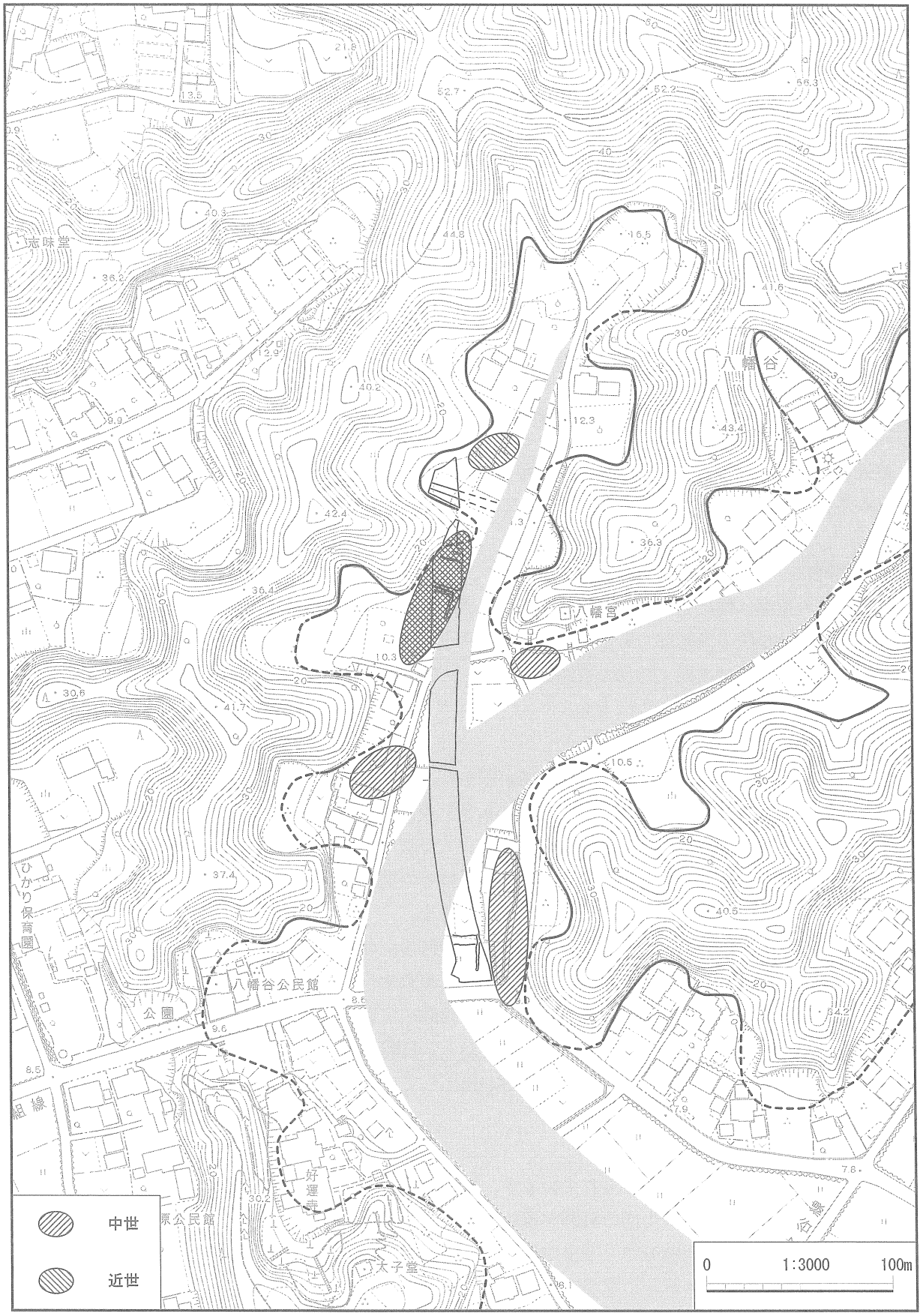
トーンで示した谷の中央部は流路、川というよりは湿地帯であっただろう。水田として利用されていた可能性も考えられるが、調査においては確たる証拠を見つけることはできず、しまりのない黒色粘土が堆積し、遺物が散布している状況であった。水田は谷の外にあった可能性と、水田による米栽培以外の生業が中心であったとも考えられるが、いずれも推測の域を出ない。

発掘調査の結果では、15世紀～16世紀にかけての遺構は検出されず、遺物もわずかである。戦国期の動乱による影響を考えることができよう。

17世紀から18世紀には下平川八幡神社西遺跡１区、と２区周辺に居住域が存在した。18世紀には２区の谷を埋めている。谷を埋めることができたことから、水路などの整備により排水能力が向上し、ひいては導水も改善され、水田経営へと進んだのではないだろうか。

下平川八幡神社西遺跡の遺跡名にもなっている八幡神社は、500年前に下平川の東南、東組から遷座したという伝承が伝えられている（小笠町誌1984）。それをそのまま信じれば、15世紀後半ということになる。また、八幡ヶ谷の南西、丘陵東面に好運寺がある。寺伝によると天正13（1585）年に黒田正次が復興したとある。この黒田正次は江戸時代に下平川周辺の代官であった黒田氏の一族であろう。代官である黒田家は源氏を自認していることから、八幡神社の遷座にも黒田氏が関係していてもおかしくはないであろう。神社の伝承である「500年前」が正確ではない可能性が高いが、正次以前から黒田氏がこの地と関係していた事を示しているかもしれない。

代官黒田家の家伝では、永禄年間（1558～70年）黒田義重が下平川に移住したのが始まりで、高天神城を守る一将であった黒田義則という人物が、武田勝頼により城が落とされると下平川に帰農したと伝




第79図　八幡谷周辺　中・近世居住域推定図
（菊川市都市計画図、菊川-36　1：2,500を複写して加筆）

える。天正２（1574）年のことであり、正次の好運寺復興は11年後ということになる。

戦乱が終息してきた16世紀の末頃に、戦禍により荒れた好運寺の復興を行ったのであろう。下平川八幡神社西遺跡２区で出土した陶器類が有力者の存在を示しており、調査区近くに居住域が存在していたはずである。谷の奥に住居を構え、谷の出口方向、東に神社、西に寺を配した空間が復元できる。それが正次の子孫の家であったと想像してもよいのではないだろうか。

今回の調査において出土遺物を分析すると、12世紀以降19世紀までの遺物が見られる。特に13世紀と17～18世紀には遺物量が多く、比較的安定した生活が営まれていたと推測できる。その間も低調ではあるが、人の生活は続いており、現代まで利用されていたのであろう。

それは、南に開いた谷で冬の遠州の空っ風を防ぐことができるこの地はいつの時代でも済むのに適していた事による。また、相良街道（塩の道）が時代によっては谷の中を通っていたと推測されることから、様々な物資の入手にも便がよい土地であったはずである。

## 第５節　下平川全体の変遷

最後に今回の発掘調査の結果と付近の遺跡の様子を合わせて、時代ごとに八幡ヶ谷周辺の状況をまとめてみる。

### (1)　縄文時代

縄文時代の遺構は検出されていないが、石匙、礫石錘などが下平川八幡谷遺跡南端で出土している。出土地点東側は丘陵の先端部であることから、丘陵上もしくは裾部分に集落が存在した可能性が考えられよう。旧小笠町内では縄文時代の遺跡は表採などで知られているのみであり、不明といってよい状況である。貴重な例としてあげられよう。

### (2)　古墳時代～奈良時代

中期（５世紀）初頭～前葉に八幡ヶ谷古墳が築かれ、中頃から後半にかけて瑞泉寺１号墳、志味堂１号墳と築かれる。その前後も含め、調査区外にも多くの古墳が築かれたことは想像に難くない。周辺の丘陵上には古墳と思われる地形が数多く見られる。そのような中で、八幡ヶ谷古墳の被葬者は当地域を治めた首長であり、豊富かつ特殊な副葬品から他地域との交流を持った人物であろう。瑞泉寺１号墳を始め周辺の古墳はそのような一族の墓であると思われる。

後期（６～７世紀）では、６世紀に志味堂２号墳で何らかの行為が行われているが、詳細は分からない。７世紀には埋葬形態に変化が生じ、志味堂横穴群が営まれ、８世紀まで続いている。八幡ヶ谷横穴群は調査してないので確たることはわからないが、同様に７世紀が中心であると推測される。

下平川八幡谷遺跡２区では前期の土師器と後期から奈良時代の須恵器が出土している。また、下平川八幡神社西遺跡１区では古墳時代後期の土師器が出土している。これらのことから、集落が付近に存在した可能性を指摘できる。

### (3)　中世以降

８世紀以降もわずかに遺物がみられているが、12世紀後半になって八幡ヶ谷の谷部、下平川八幡神社西遺跡、下平川八幡谷遺跡に生活の痕跡が現れ、14世紀前半まで活発に続いている。

居住域はやはり丘陵の裾部分で、下平川八幡神社西遺跡１区、下平川八幡谷遺跡南端には居住域が存在している。谷部は利用されることなく、湿地であったと想像される。いくつかの想定ができるが、水田耕作の痕跡が残らなかった、水田耕作に頼らない生業が中心であった、水田は八幡谷よりも南の平野部で行っていた、などが考えられようが、今回の調査だけでは結論を得ることはできない。

15、16世紀も遺物は出土しているが、低調であり、再び活発になるのは17世紀初頭から18世紀にかけてであり、同じような位置に居住域があったことが判明した。

出土遺物の分布状況から中世・近世ともに、谷の奥、下平川八幡神社西遺跡周辺が有力者の居住空間であったと考えられる。

## あとがき

旧小笠町域は発掘調査の例が少なく、今回の調査は非常に貴重なものである。本書では十分な成果として形にすることが出来なかったが、今後の調査、研究によってさらに理解が深められることを願っている。

これらの遺跡の発掘調査・資料整理に際し、以下の方々から多くのご教示・ご指導をいただきました。記して厚くお礼申し上げます。（敬称略・五十音順）

井口智博　泉敬秀　大谷宏治　小野正敏　柴田稔　白井久美子　杉井尊器　鈴木一有　鈴木敏則

高木淳　塚本和弘　藤沢良祐　松井一明　松下善和　向坂鋼二　村瀬隆彦

菊川市教育委員会

# 参考文献


榎本義嗣，2004：箱崎17　福岡市埋蔵文化財調査研究報告書第811集。
大谷宏治，2003ａ：「地域区分、時期区分と鉄鏃分類」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』10
大谷宏治，2003ｂ：「遠江・駿河・伊豆における古墳時代後期の鉄鏃の変遷とその意義」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』10
川江秀孝，1979：「静岡県下の須恵器について」『静岡県考古学会シンポジューム』2
栗田賢二，1959：「小笠町の遺跡分布」『ふるさと』14
後藤守一，1922：「大塚古墳調査報告」『考古学雑誌』12-9
坂詰秀一他，1999：武蔵国府関連遺跡調査報告22　武蔵国分寺跡調査報告２。
鈴木一有他，1999：五ヶ山Ｂ２号墳。
鈴木一有，2003：「二段逆刺鏃の象徴性」『静岡県考古学研究』35
鈴木敏則，2001：「湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅　第５分冊　補遺・論考編』
塚本和弘，2001：土橋遺跡。
塚本和弘，2004：釜太夫横穴群Ｅ群発掘調査報告書。
塚本和弘，2006：赤土政所遺跡発掘調査報告書。
中野晴久，1994：「知多（常滑）古窯址群の山茶碗について」『研究紀要』第３号　三重県埋蔵文化財センター
中村育男，1997：掛川誌稿全翻刻。
平野吾郎，1977：「小笠郡小笠町舟久保古墳の調査」『静岡県文化財調査報告書第16集　静岡県埋蔵文化財調査報告』
藤澤良祐，1994：「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第３号　三重県埋蔵文化財センター
松井一明，1993：「遠江における山茶碗生産について」『静岡県考古学研究』№25　静岡県考古学会
水島和弘他，1985：三沢西原遺跡。
溝口彰啓，2005：「山茶碗の流通と消費－遠江・駿河・伊豆地域の様相－」『陶磁器から見る静岡県の中世社会（発表要旨・論考編）』菊川シンポジウム実行委員会
渡辺康弘，1986：「朝日神社古墳」『静岡県文化財調査報告第36集　静岡県埋蔵文化財調査報告書』

菊川町教育委員会，2000：横地城総合調査報告書資料編。
菊川シンポジウム実行委員会，2005：陶磁器から見る静岡県の中世社会。
菊川市教育委員会，2007：大鹿横穴群Ｂ群発掘調査報告書。
静岡県編，1930：静岡縣史第１巻。
静岡県，1990：静岡県史　資料編１　考古一。
静岡県，1990：静岡県史　資料編２　考古二。
静岡県，1992：静岡県史　資料編３　考古三。
静岡県，1994：静岡県史　通史編　原始・古代。
静岡県教育委員会，1981：静岡県の中世城館跡。
静岡県教育委員会，1989：静岡県文化財地図Ⅱ。
静岡県教育委員会，1989：静岡県文化財地名表Ⅱ。
静岡県立掛川西高等学校郷土研究部，1960：『ふるさと』15
静岡県立掛川西高等学校郷土研究部，1961：『ふるさと』16
多治見市教育委員会，1987：小名田古窯跡群発掘調査報告書。

# 写　真　図　版

図版 1

遺跡遠景（南より）

# 図版２　志味堂１号墳

１．調査前状況（北より）

２．完掘状況（東より）

１．第１埋葬施設　刀、鉄鏃出土状況（東より）

２．第１埋葬施設　鉄鏃出土状況（北より）

３．第２埋葬施設　刀出土状況（東より）

# 図版４　志味堂２号墳

１．調査前状況（東より）

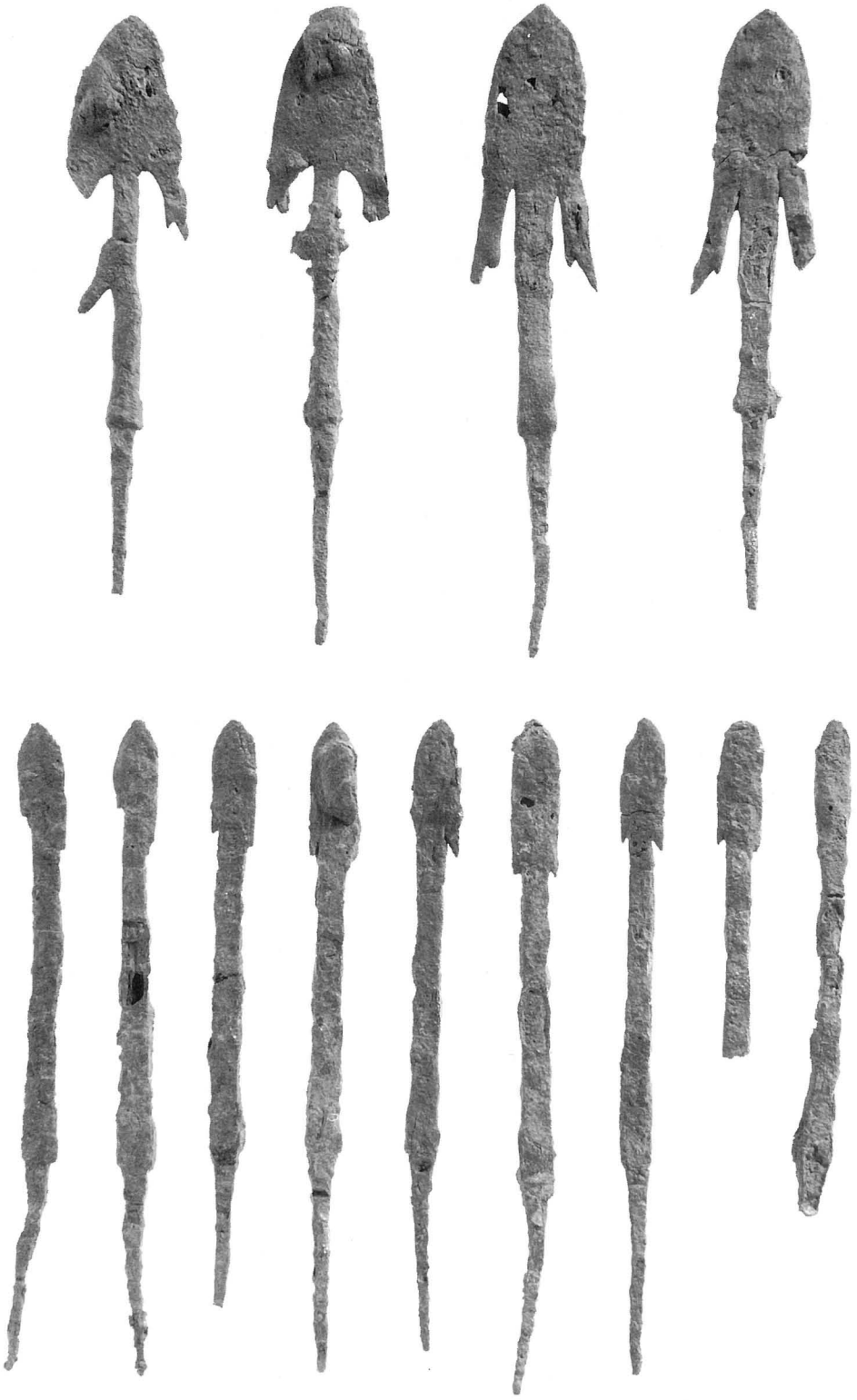
２．完掘状況（東より）

１．SX01　須恵器、横瓶出土状況（北西より）

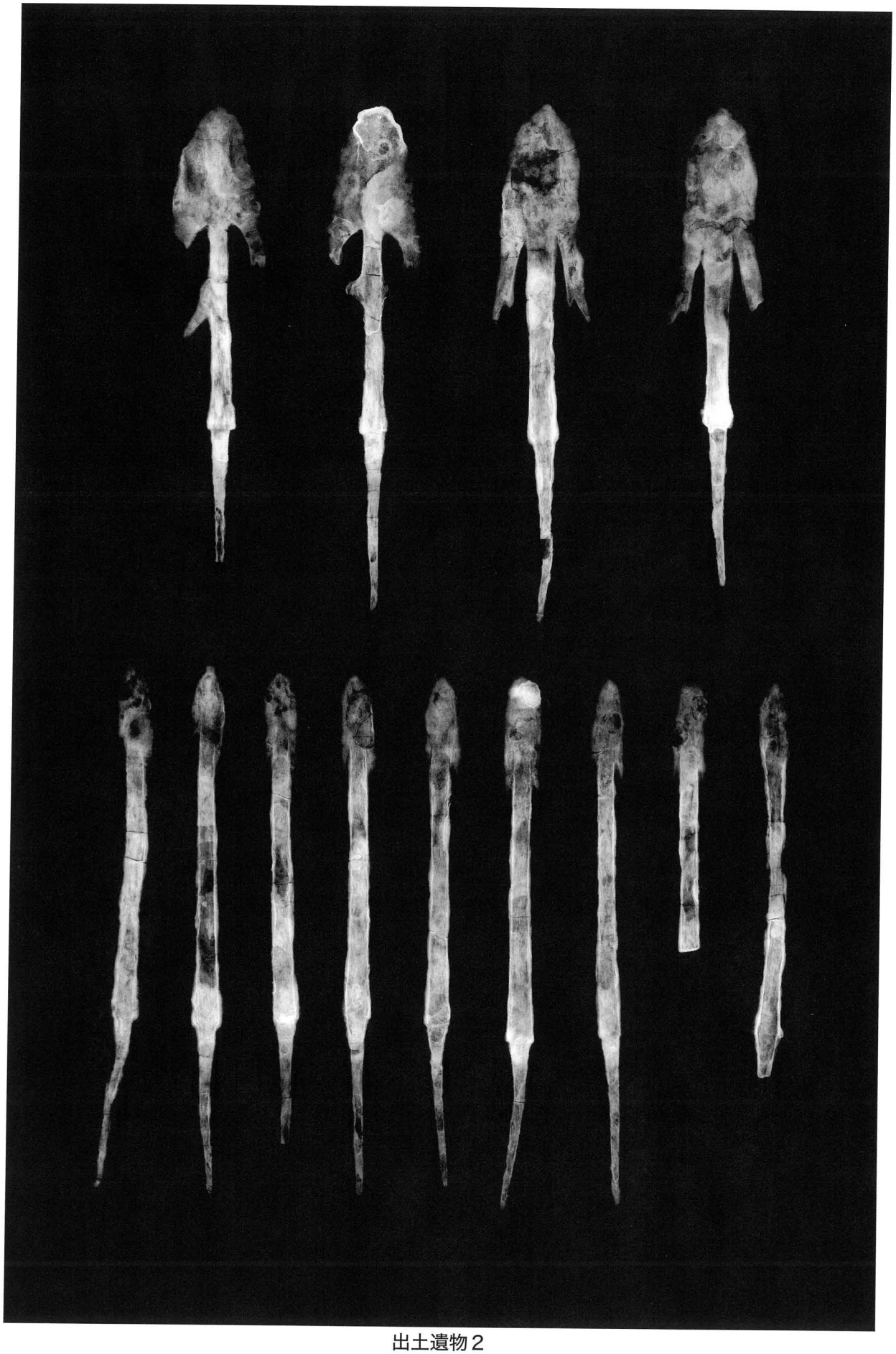
２．SX01　土師器、坏出土状況（東より）

３．須恵器、碗出土状況（北より）

# 図版６　志味堂１号墳

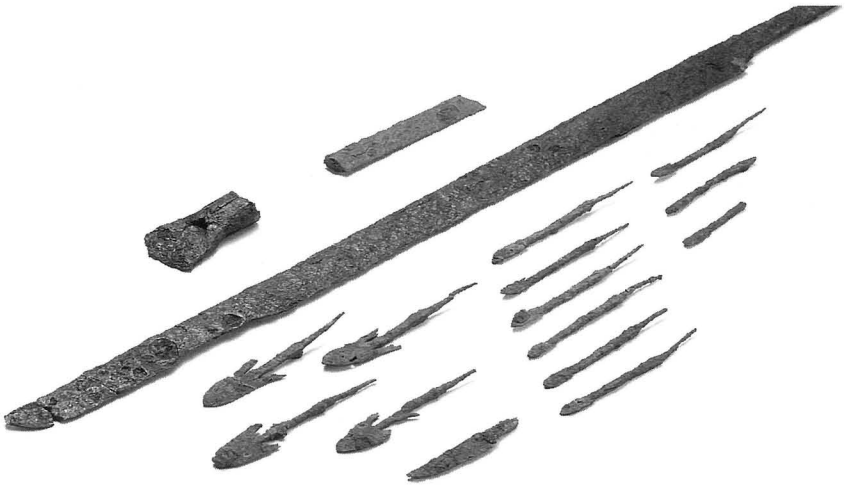


出土遺物１



出土遺物２

# 図版８　志味堂１号墳

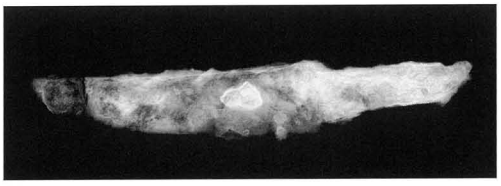


出土鉄製品集合

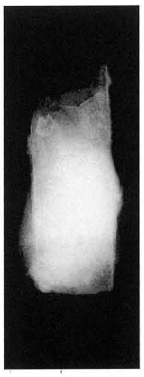
刀9-15茎部背側、糸巻きの痕跡

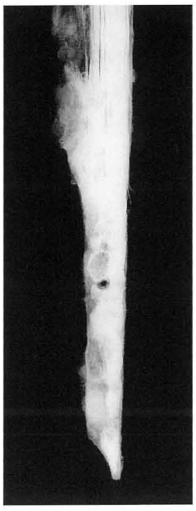
10-1

9-1

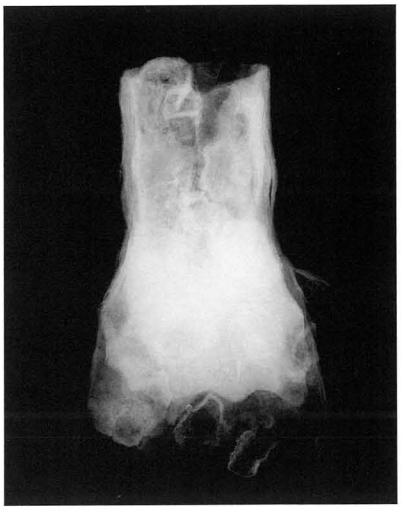


10-3





10-2



出土遺物３

出土遺物集合

12-1

12-3

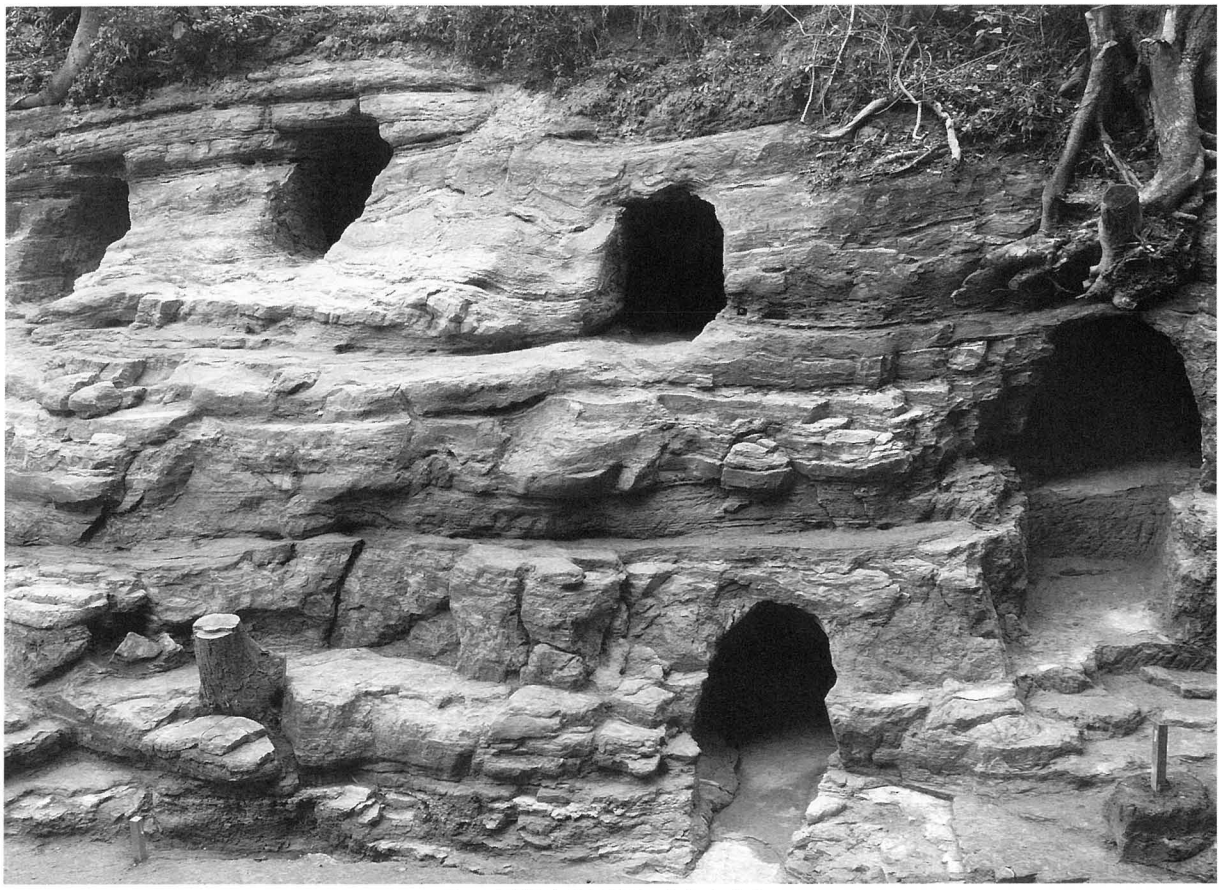
12-4

12-5

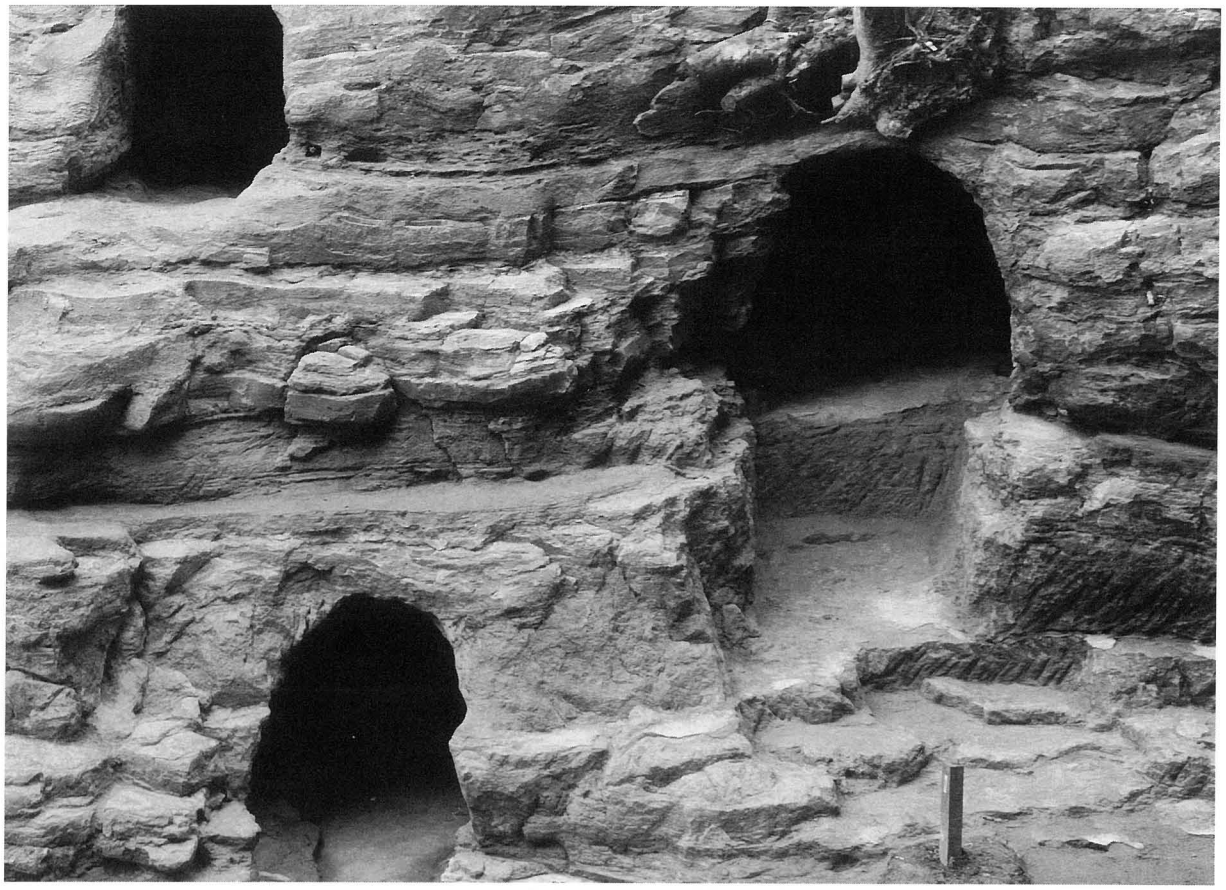
出土遺物 1

# 図版10　志味堂横穴群

1．B群調査前状況（南東より）



2．B群完掘状況（南より）



1．B1号横穴　正面（南より）

2．B1号横穴　完掘状況（南より）

# 図版12　志味堂横穴群

1．B1号横穴　主体部溝完掘状況（北東より）

2．B1号横穴　奥壁工具痕（南より）

3．B1号横穴　天井工具痕（北東より）

4．B1号横穴　玄室東壁工具痕（西より）

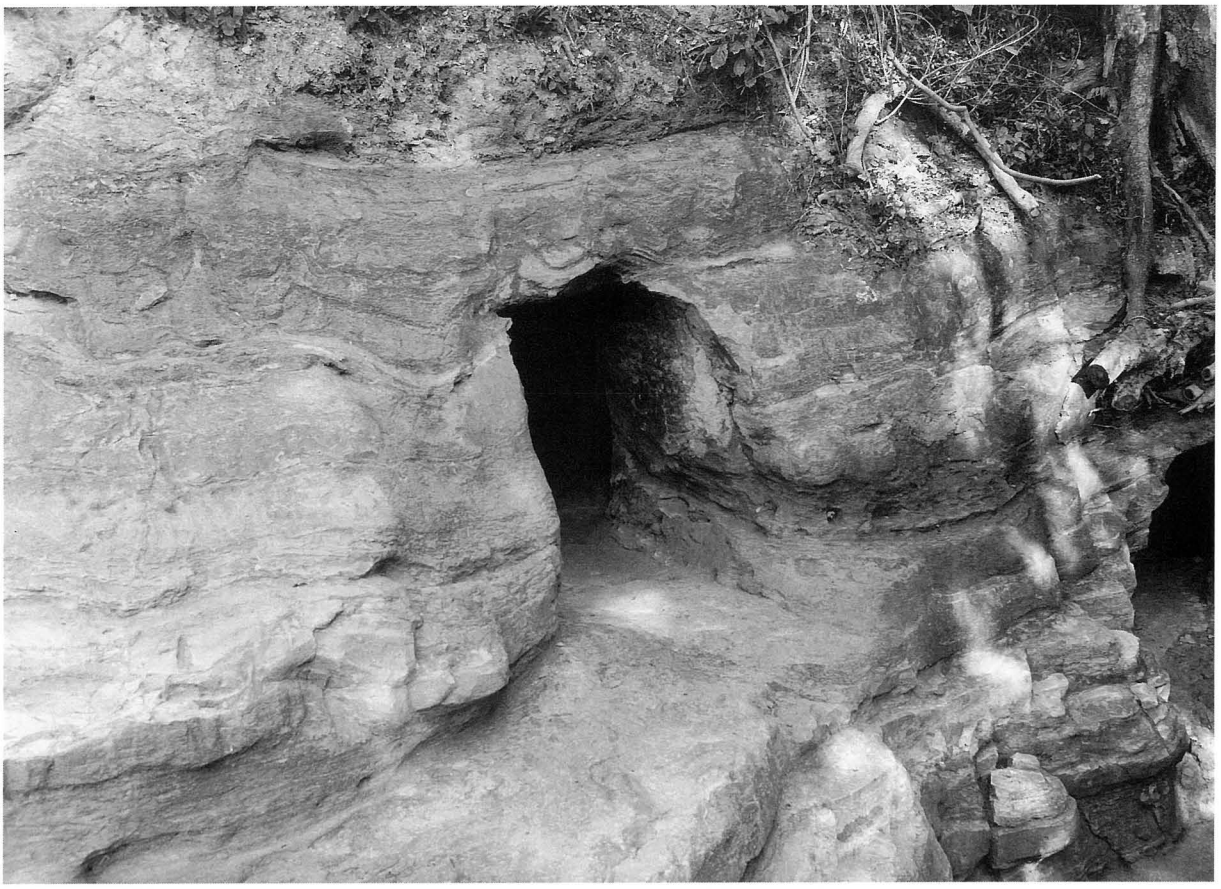
5．B1号横穴　玄室西壁工具痕（東より）

6．B1号横穴　羨道西壁工具痕（北東より）

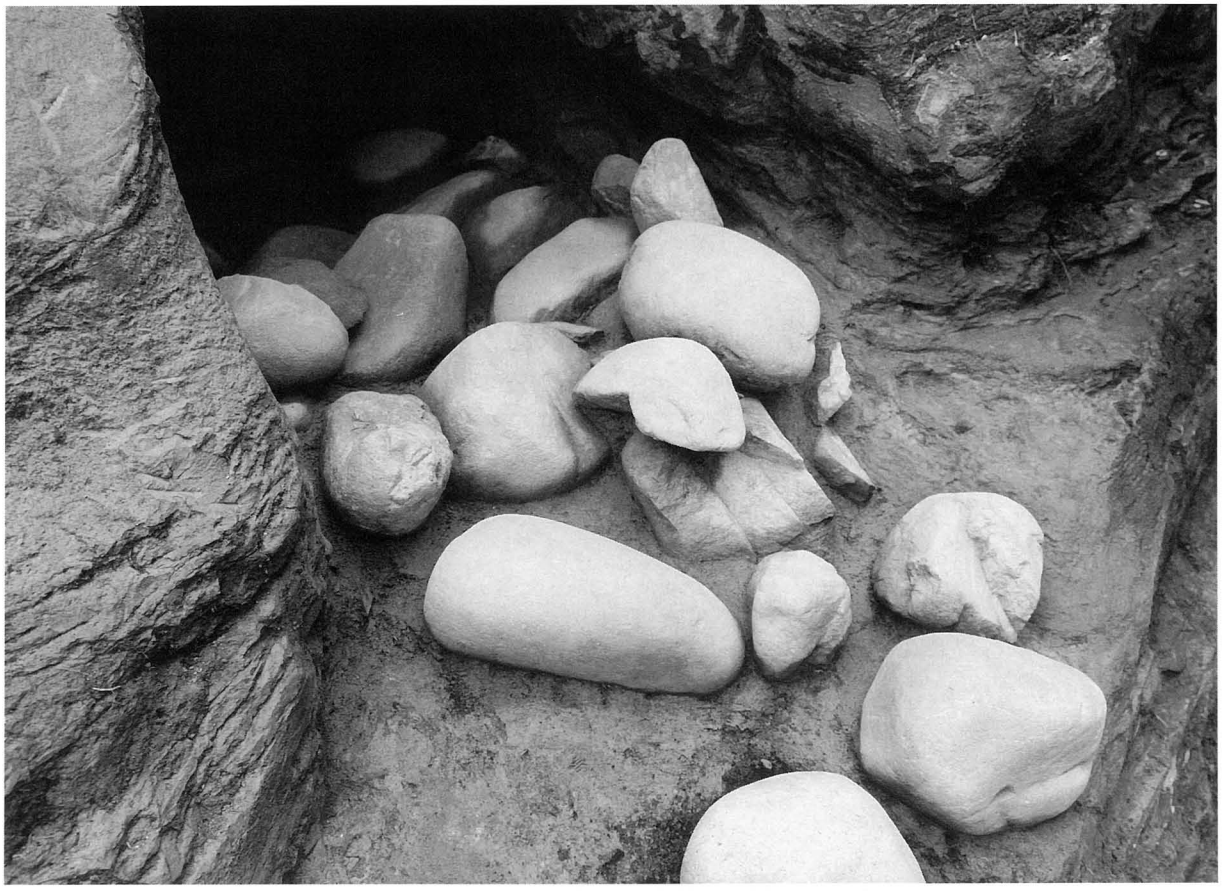
1．B1号横穴　羨門（南より）

2．B1号横穴　墓前域工具痕（南より）

# 図版14　志味堂横穴群



1．B２号横穴　完掘状況（南西より）

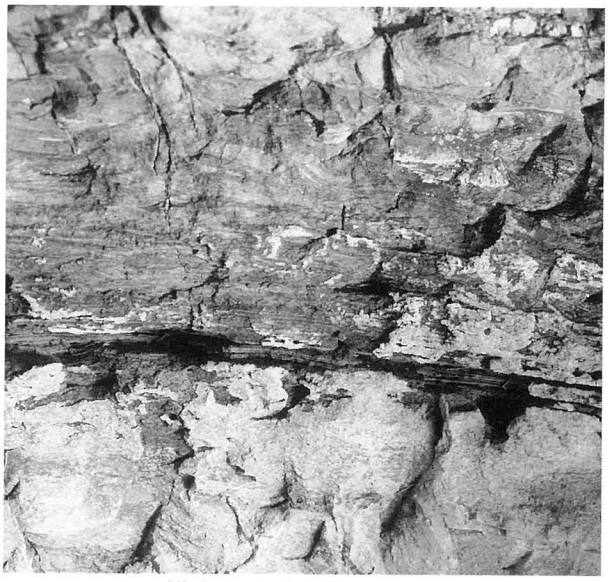


2．B２号横穴　閉塞石検出状況（南西より）

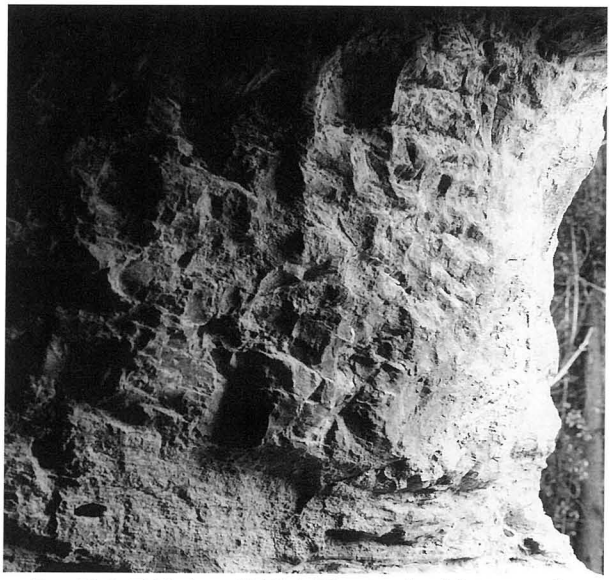
1．B２号横穴　完掘状況（南より）

2．B２号横穴　遺物出土状況（北東より）

3．B２号横穴　奥壁工具痕（南より）



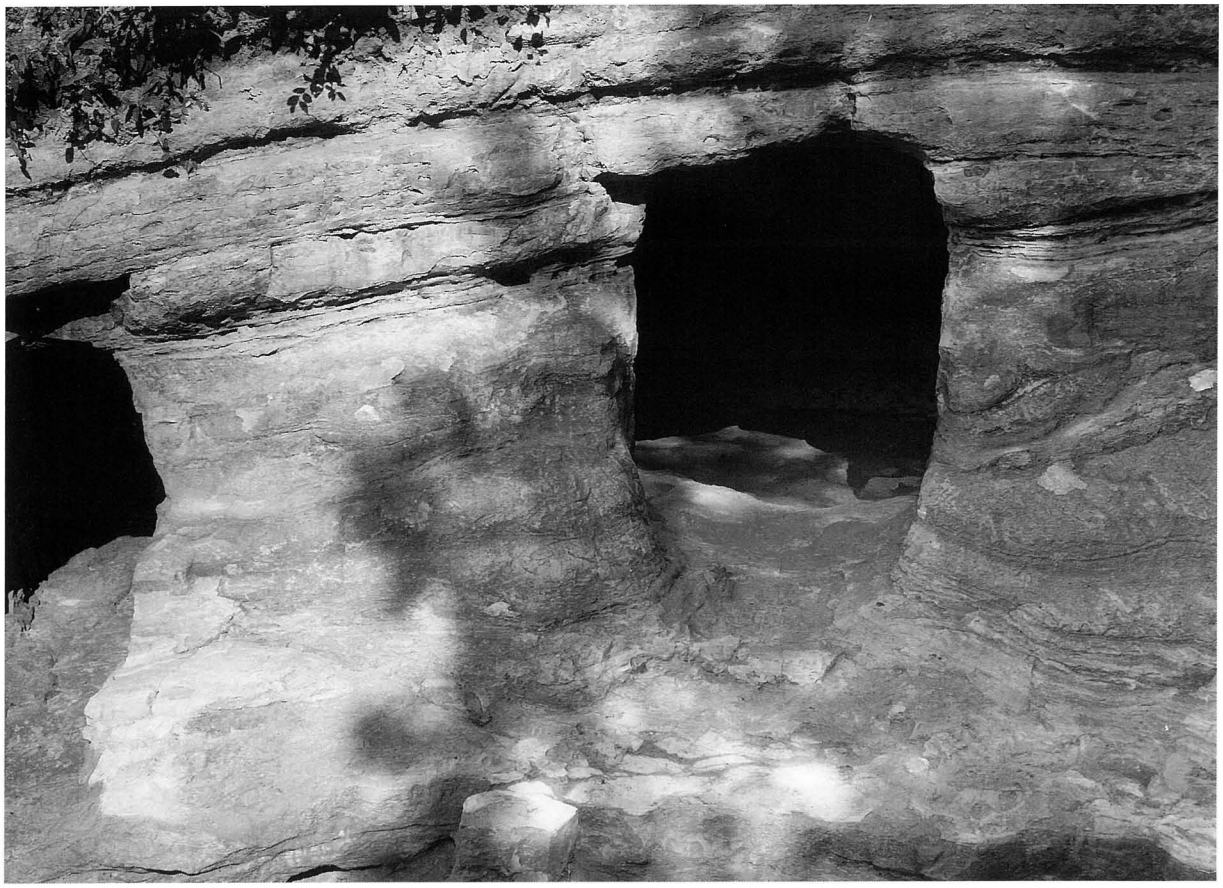
4．B２号横穴　玄室東壁工具痕（西より）



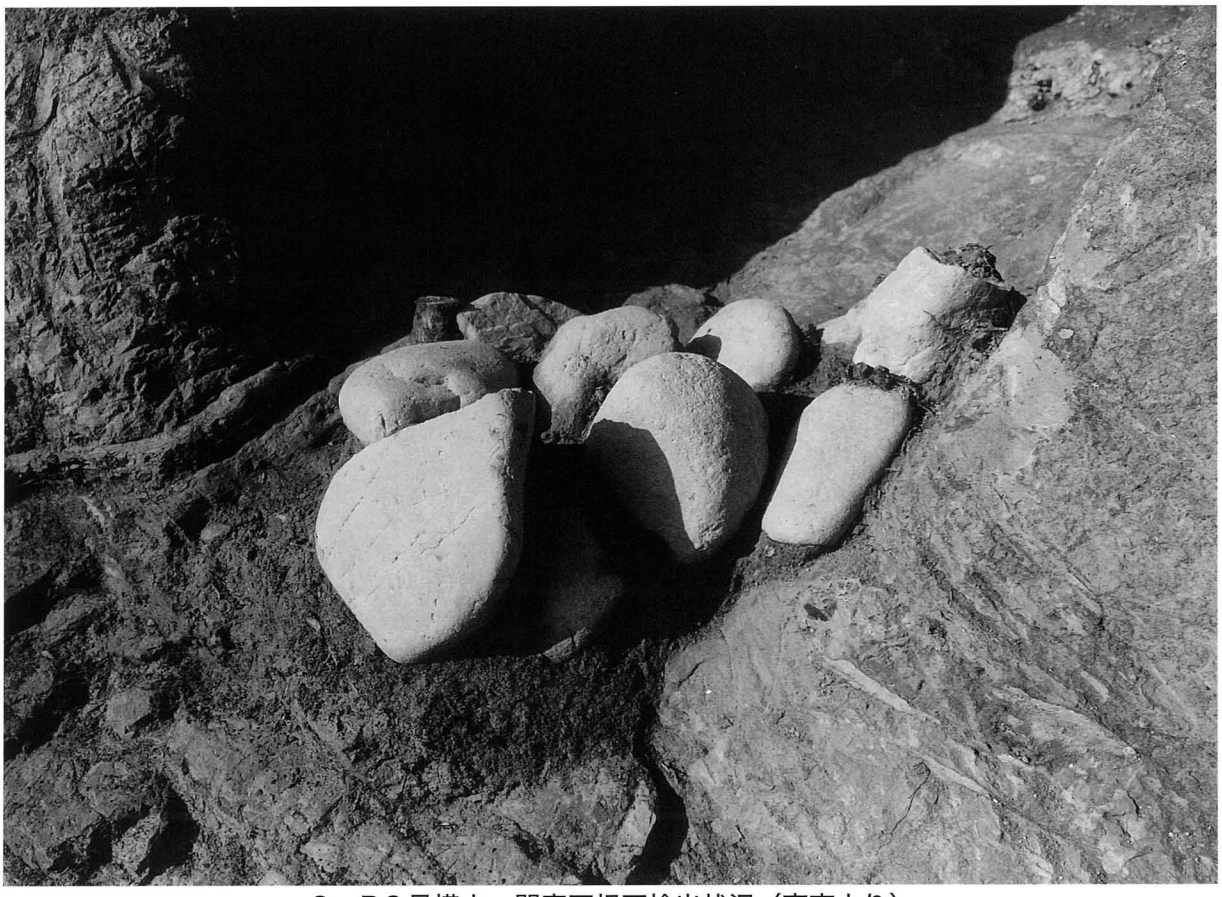
5．B２号横穴　羨道東壁工具痕（北西より）

6．B２号横穴　羨道西壁工具痕（北東より）

# 図版16　志味堂横穴群



1．B３号横穴　正面（南より）



2．B３号横穴　閉塞石根石検出状況（南東より）

1．B３号横穴　完掘状況（南より）

2．B３号横穴　遺物出土状況（上面）（南より）

3．B３号横穴　遺物出土状況（下面）（南より）

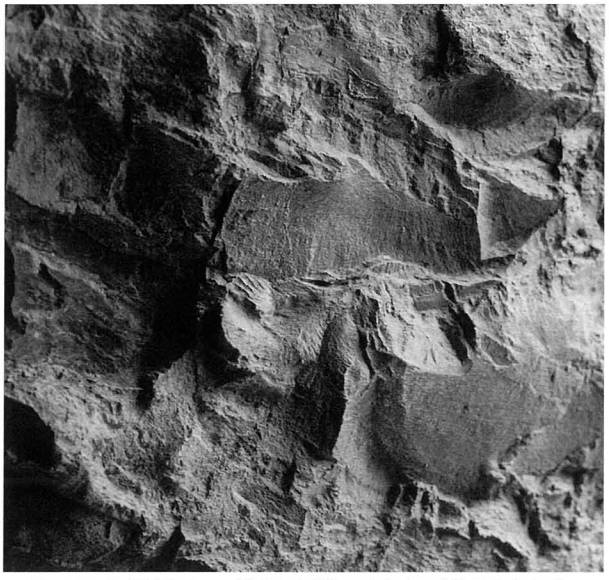
# 図版18　志味堂横穴群

1．B３号横穴　奥壁工具痕（南より）

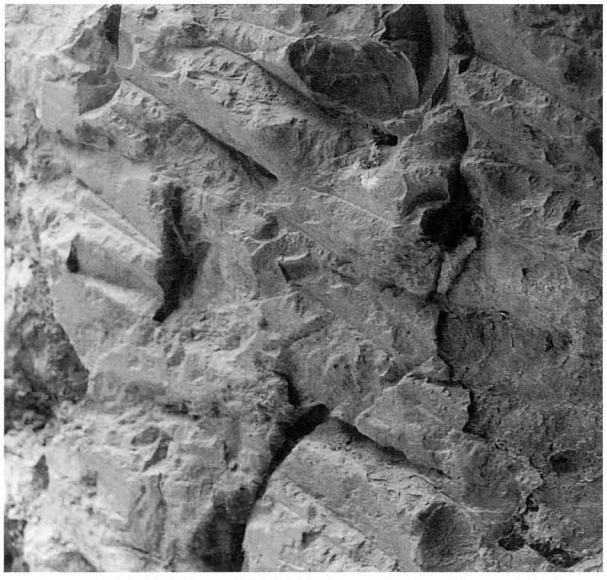
2．B３号横穴　天井工具痕（南より）

3．B３号横穴　玄室東壁工具痕（西より）

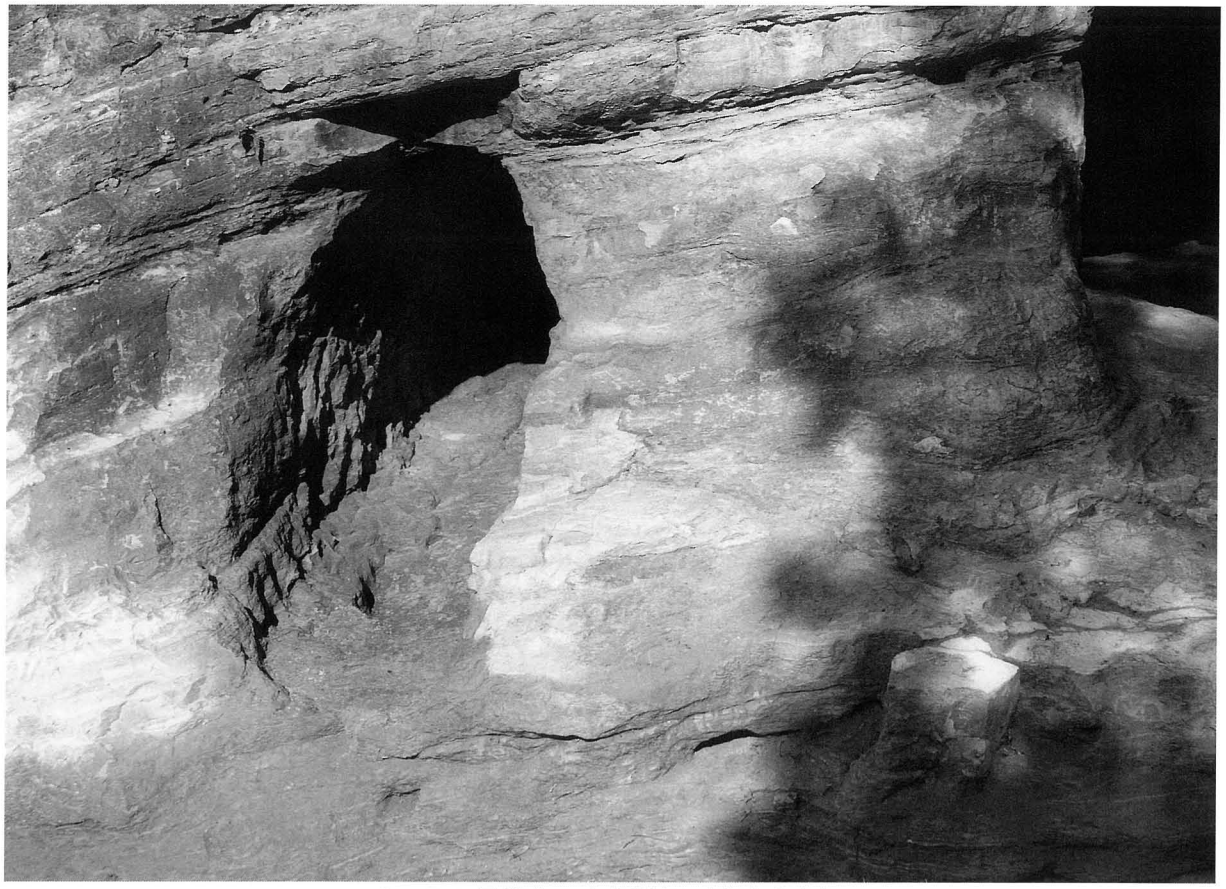
4．B３号横穴　玄室西壁工具痕（東より）



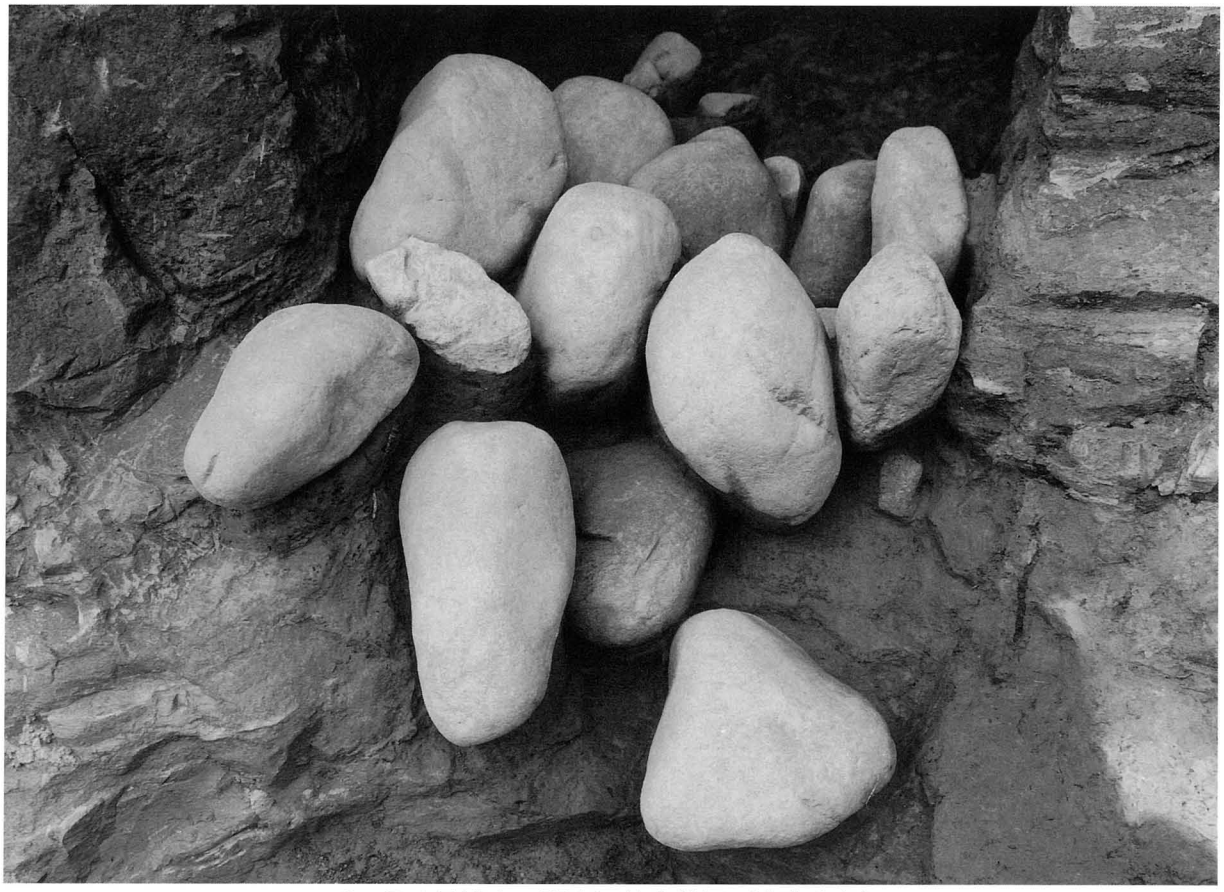
5．B３号横穴　羨道東壁工具痕（北西より）



6．B３号横穴　羨道西壁工具痕（北東より）



1．B４号横穴　完掘状況（南東より）



2．B４号横穴　閉塞石検出状況（南東より）

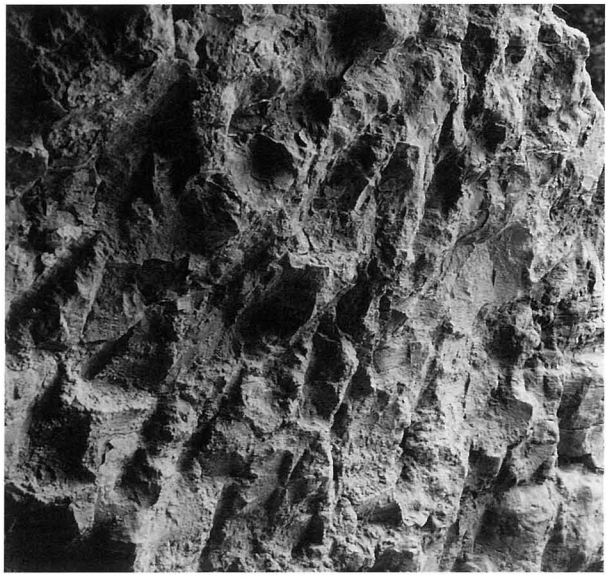
# 図版20　志味堂横穴群

1．B４号横穴　完掘状況（南より）

2．B４号横穴　奥壁工具痕（南より）

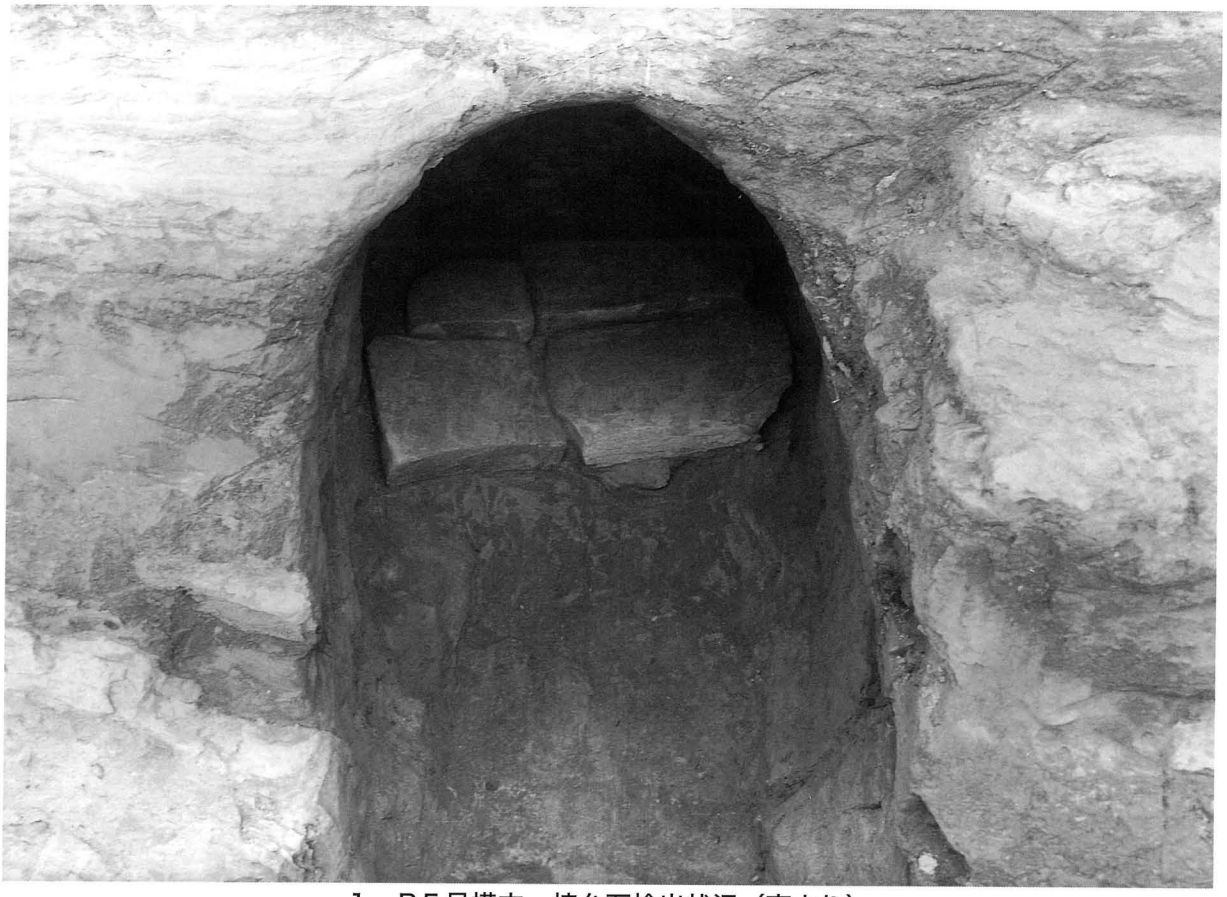
3．B４号横穴　天井工具痕（南より）

4．B４号横穴　玄室東壁工具痕（北西より）



5．B４号横穴　羨道東壁工具痕（北西より）

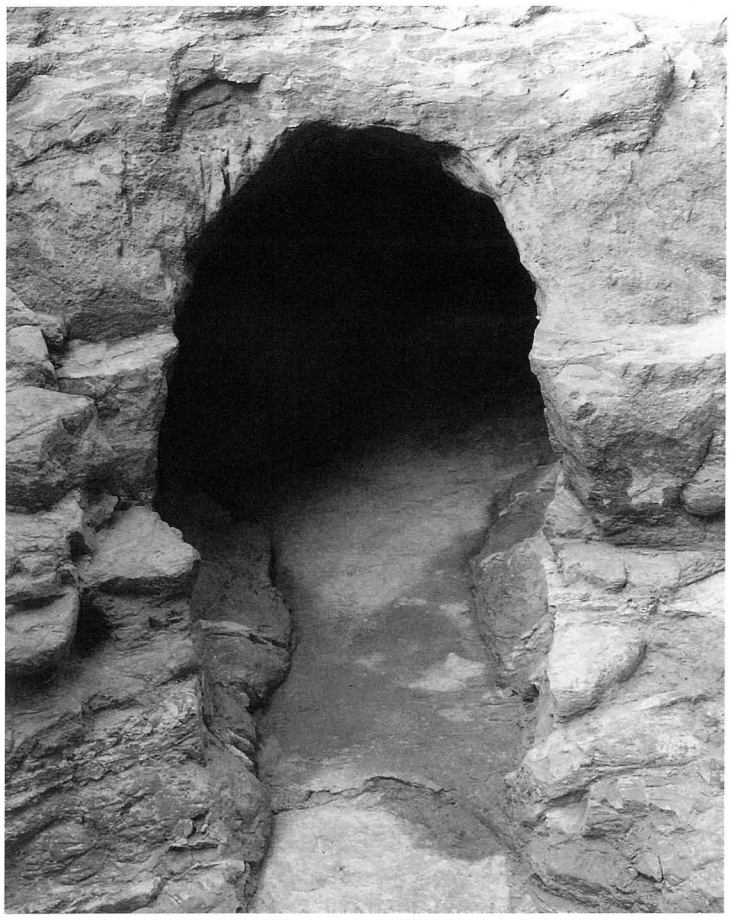
6．B４号横穴　羨道西壁工具痕（北東より）



1．B５号横穴　棺台石検出状況（南より）

2．B６号横穴　土器、閉塞石検出状況（南より）

# 図版22　志味堂横穴群



1．B６号横穴　完掘状況（南より）

2．B６号横穴　東壁工具痕（南より）

3．B７号横穴　完掘状況（南より）

4．B６号横穴　奥壁工具痕（南より）

Ｂ３号横穴出土遺物集合

18-1

18-4

18-2

18-6

出土遺物１（Ｂ３号横穴）

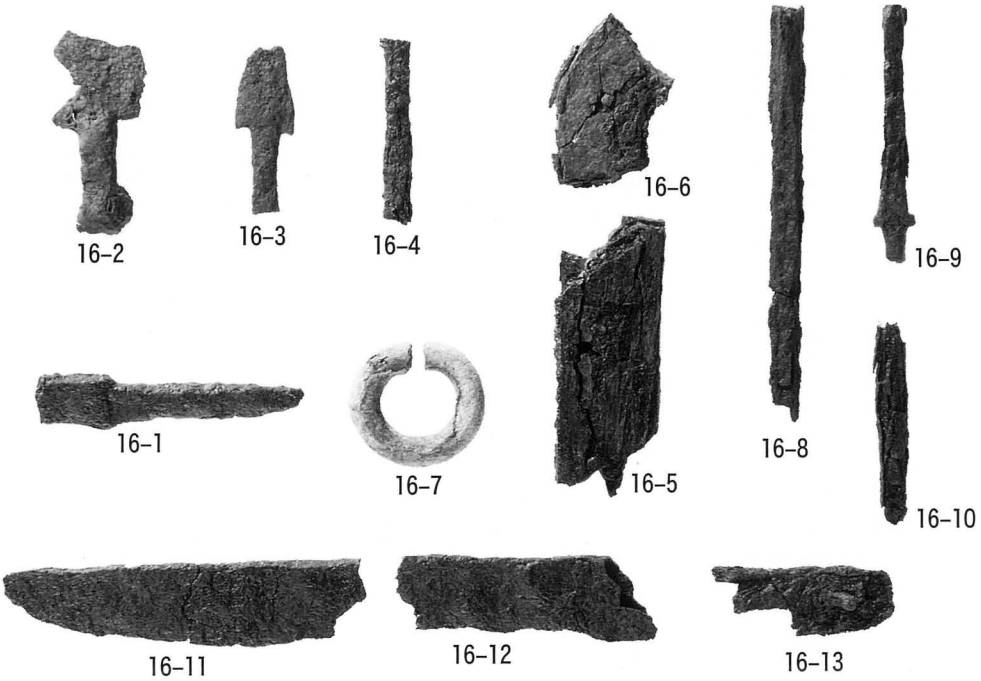
# 図版24　志味堂横穴群

18-7

18-8

18-10

18-13




出土遺物２

22-1

22-2

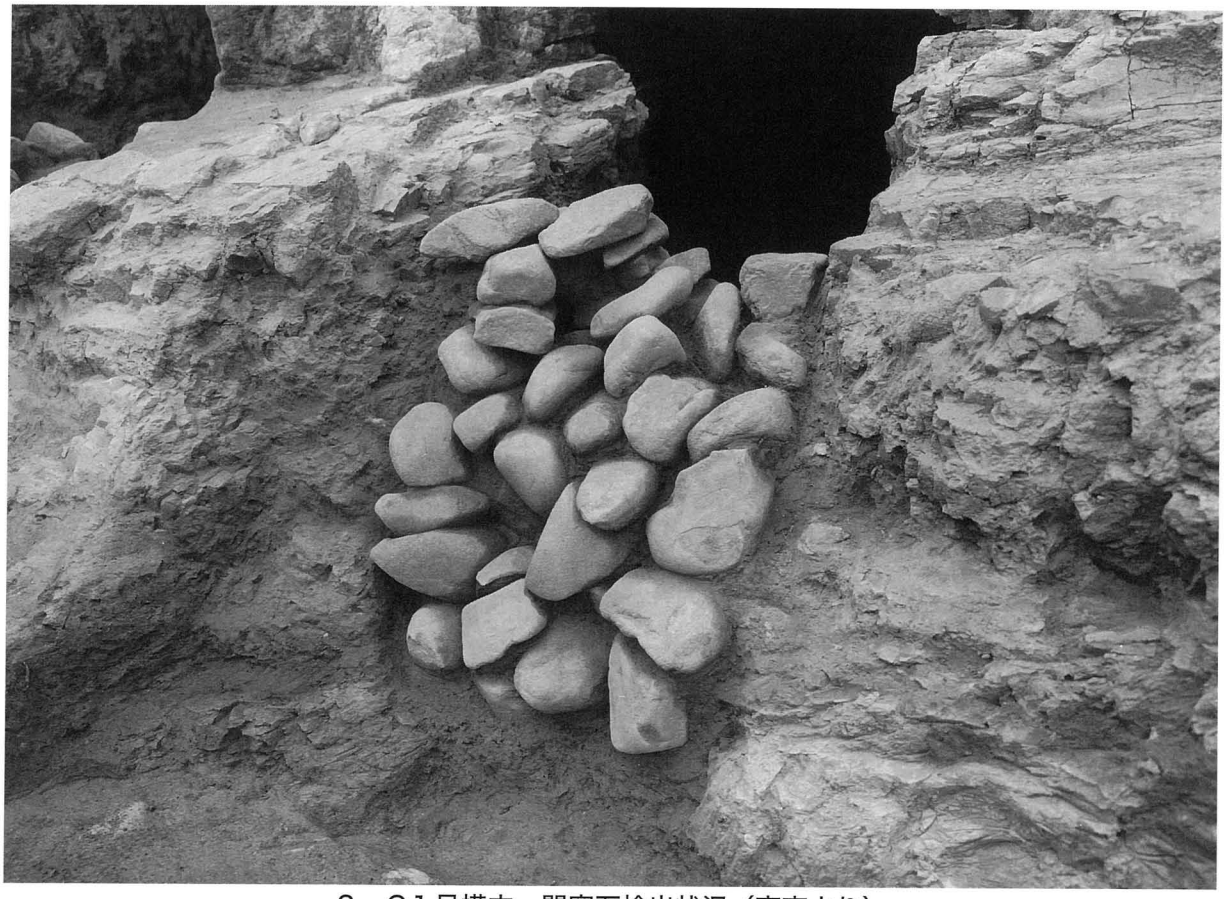
出土遺物３（Ｂ６号横穴）

# 図版26　志味堂横穴群

1．C群調査前状況（南東より）

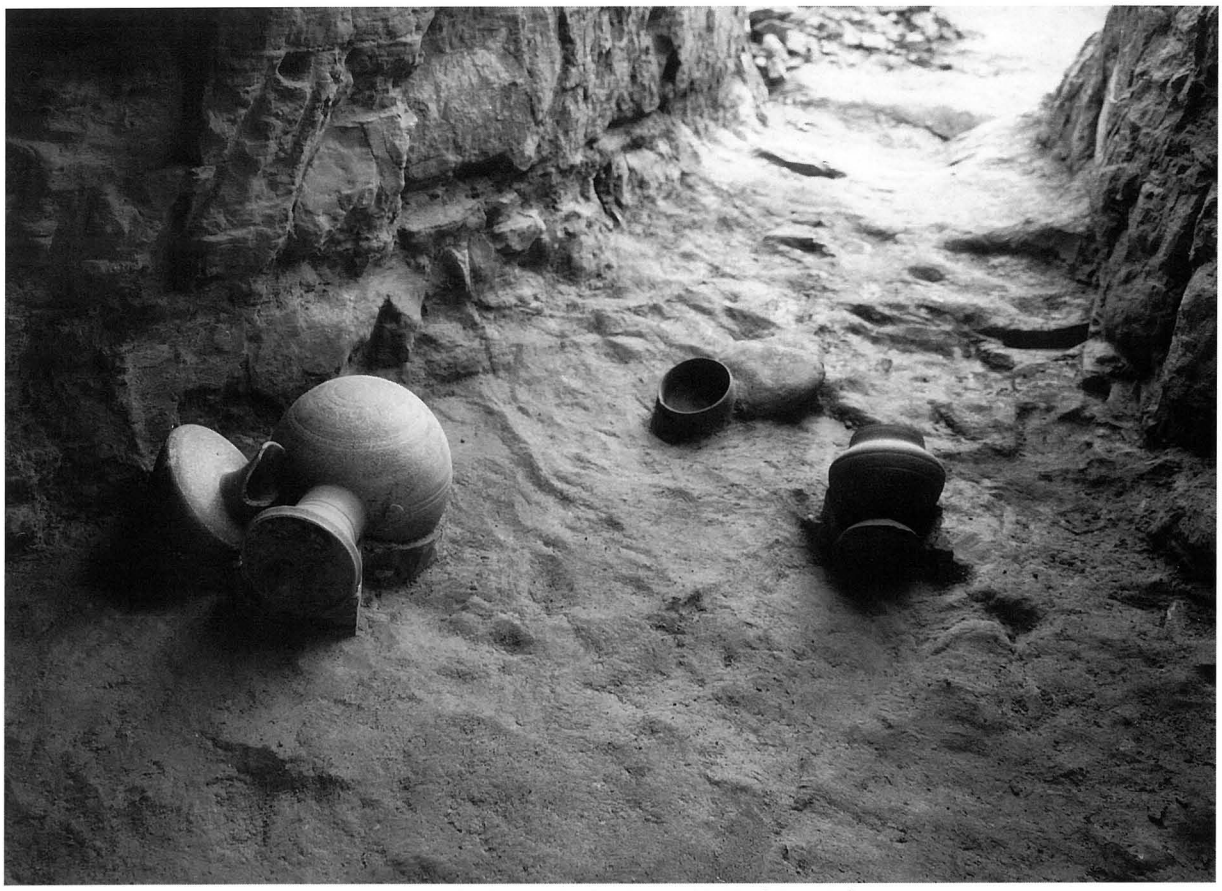
2．C群完掘状況（南東より）

1．C1号・C2号横穴　完掘状況（南西より）

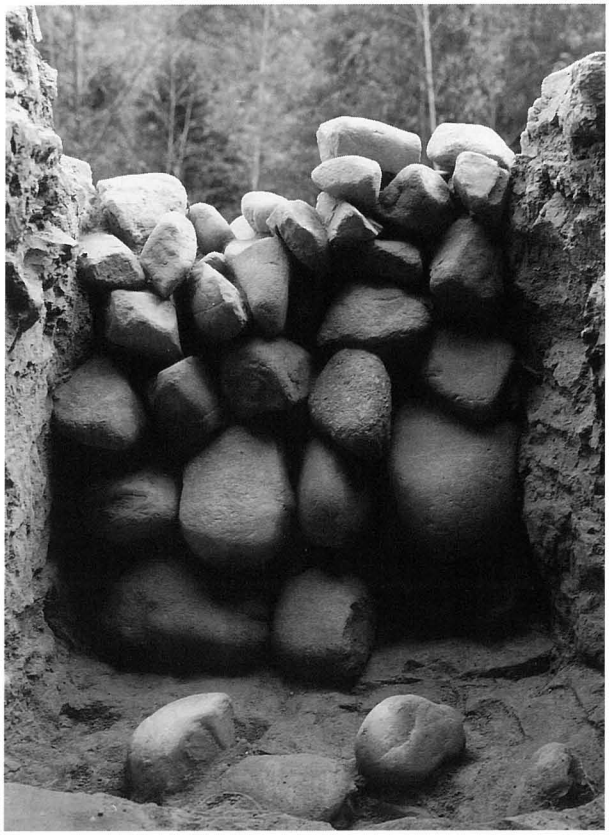


2．C1号横穴　閉塞石検出状況（南東より）

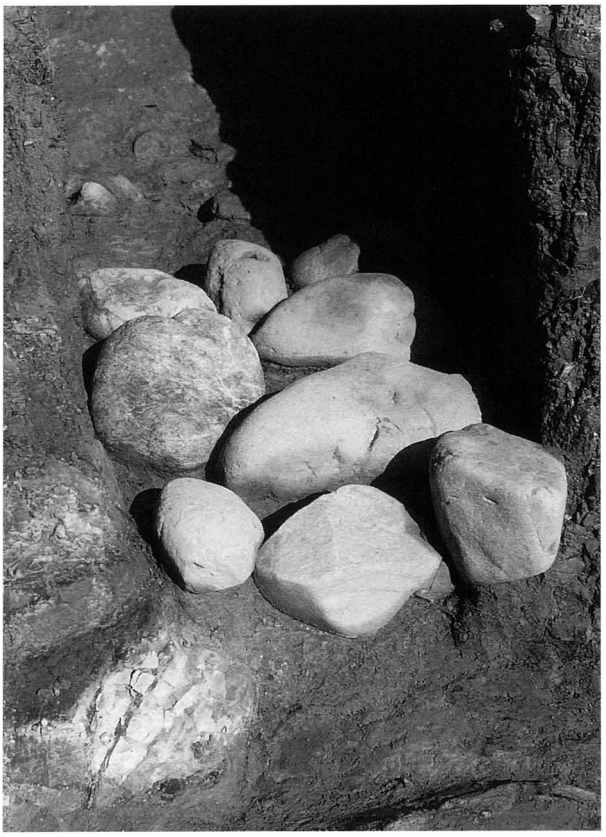
# 図版28　志味堂横穴群



1．C1号横穴　須恵器出土状況（北より）

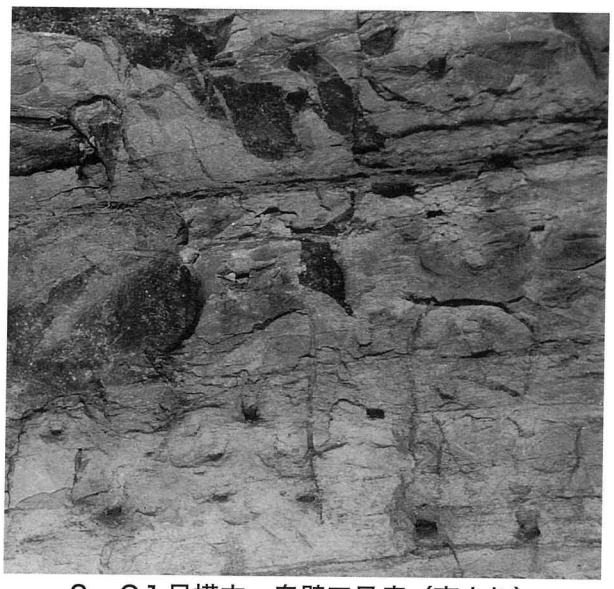


2．C1号横穴　閉塞石検出状況（内側）
（北より）



3．C1号横穴　閉塞石根石検出状況
（南より）

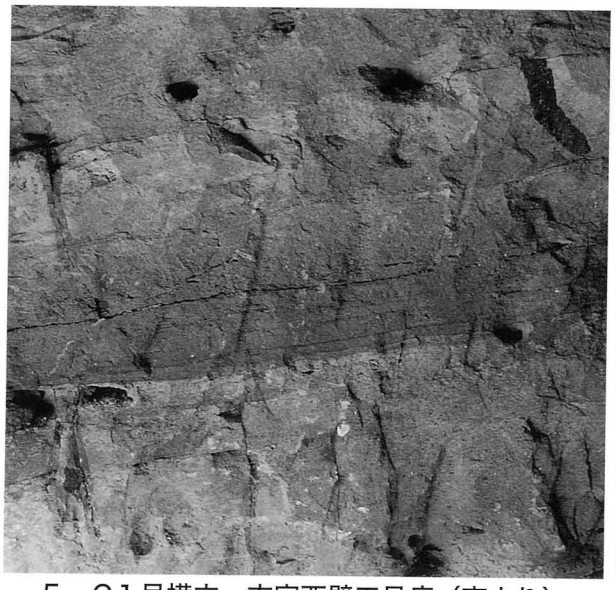
1．C1号横穴　鉄鏃出土状況（西より）



2．C1号横穴　奥壁工具痕（南より）

3．C1号横穴　天井工具痕（南より）

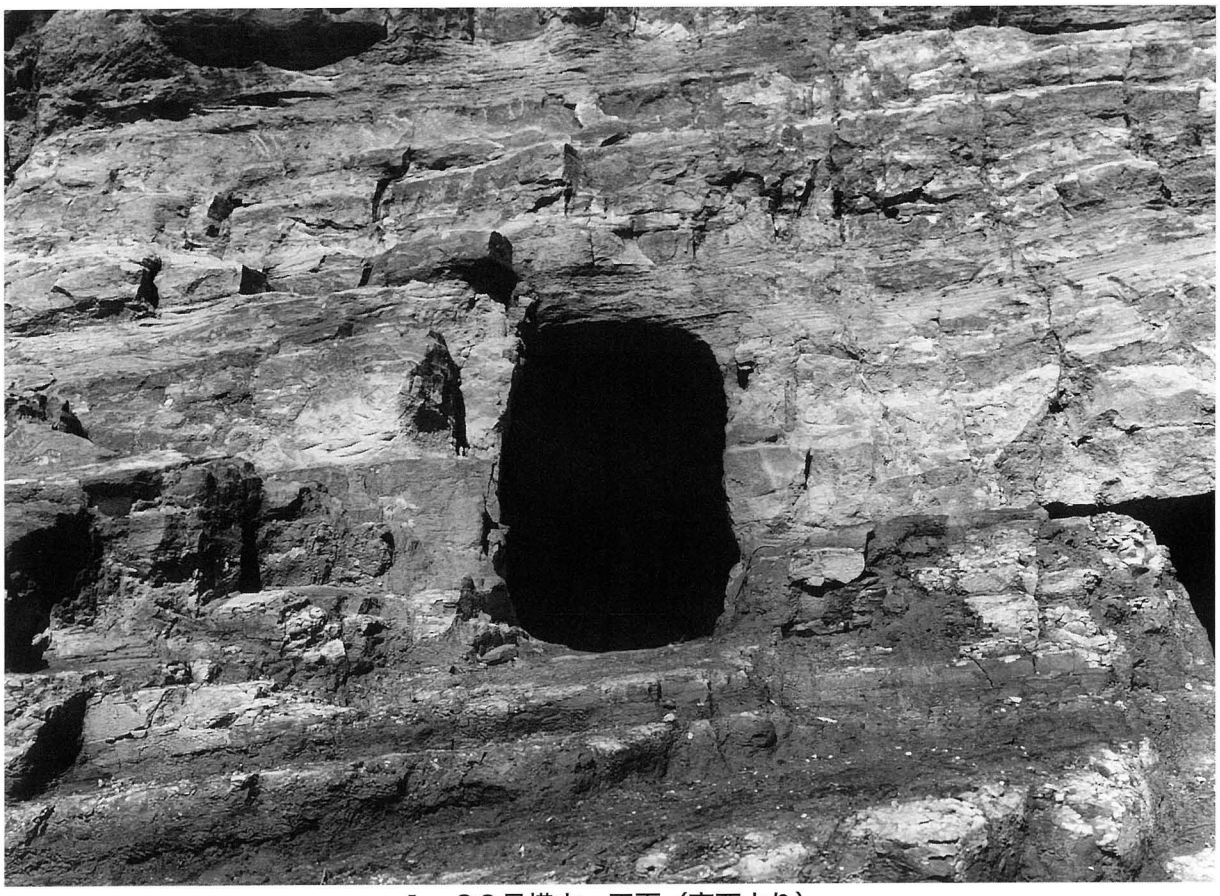
4．C1号横穴　玄室東壁工具痕（西より）



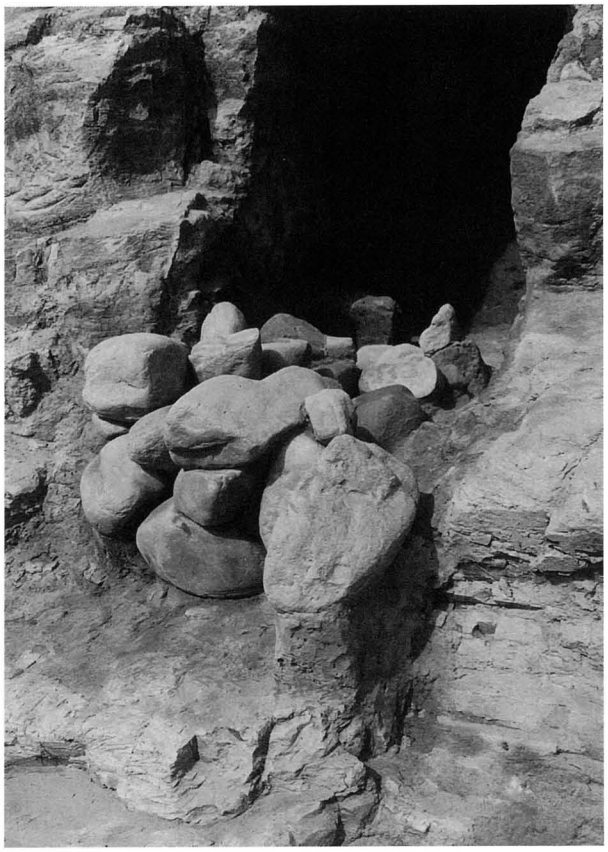
5．C1号横穴　玄室西壁工具痕（東より）

6．C1号横穴　羨道東壁工具痕（北西より）

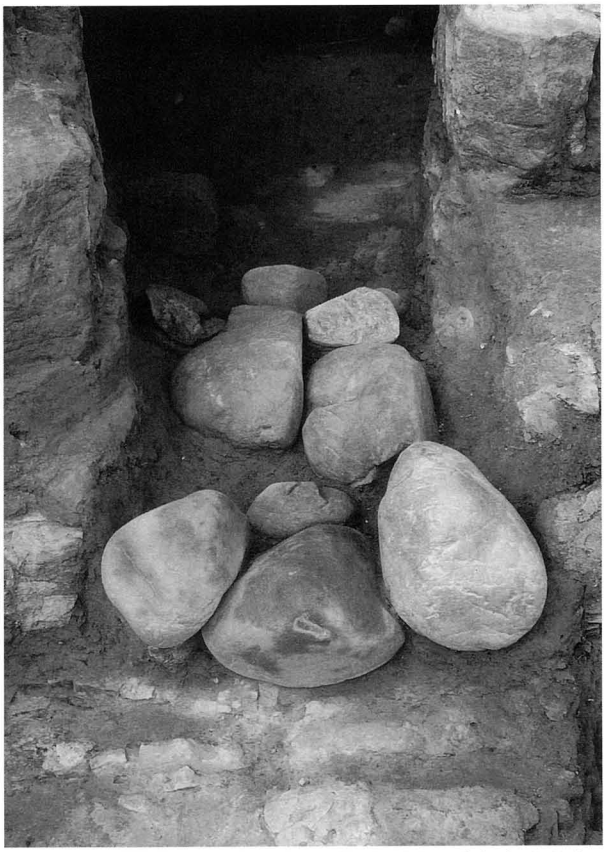
# 図版30　志味堂横穴群



1．C2号横穴　正面（南西より）

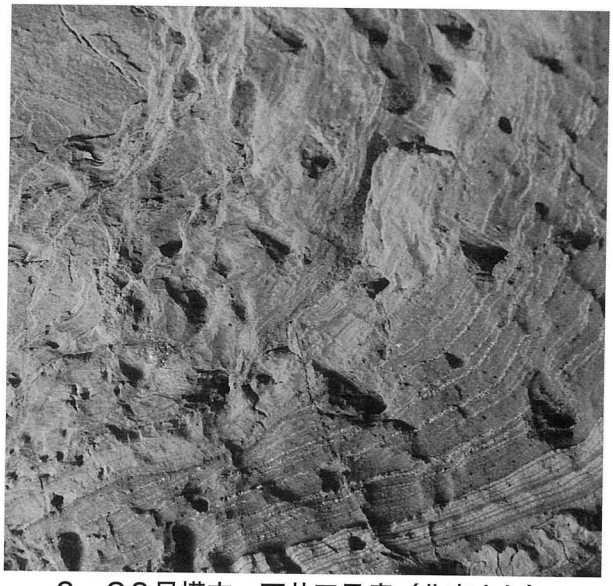


2．C2号横穴　閉塞石検出状況（南東より）



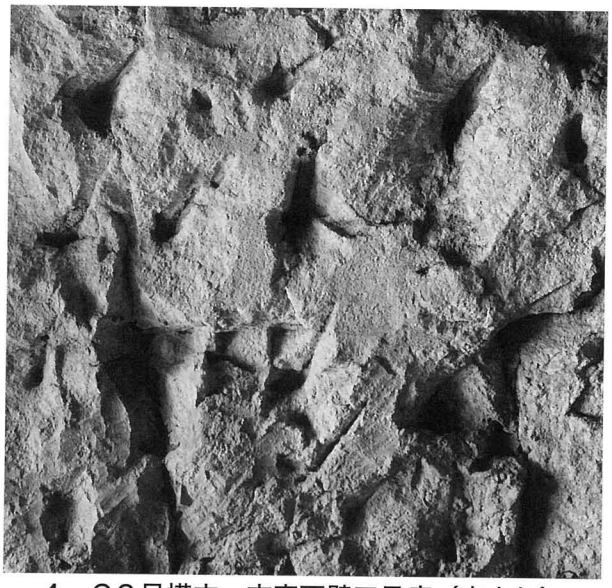
3．C2号横穴　閉塞石根石検出状況（南東より）

1．C2号横穴　完掘状況（南より）

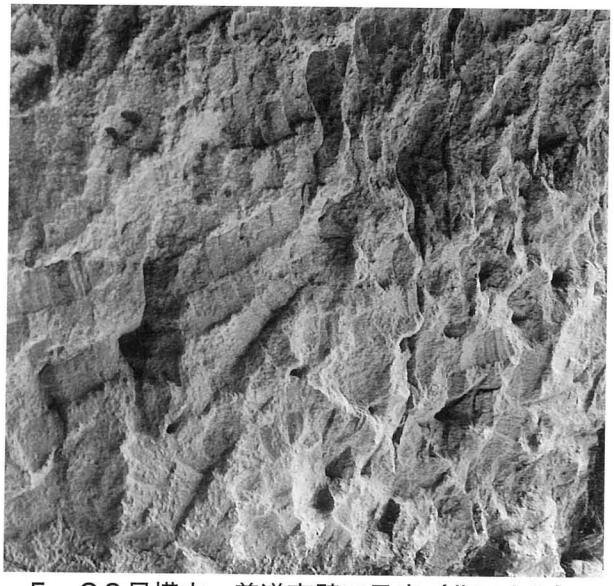


2．C2号横穴　天井工具痕（北東より）

3．C2号横穴　玄室東壁工具痕（西より）



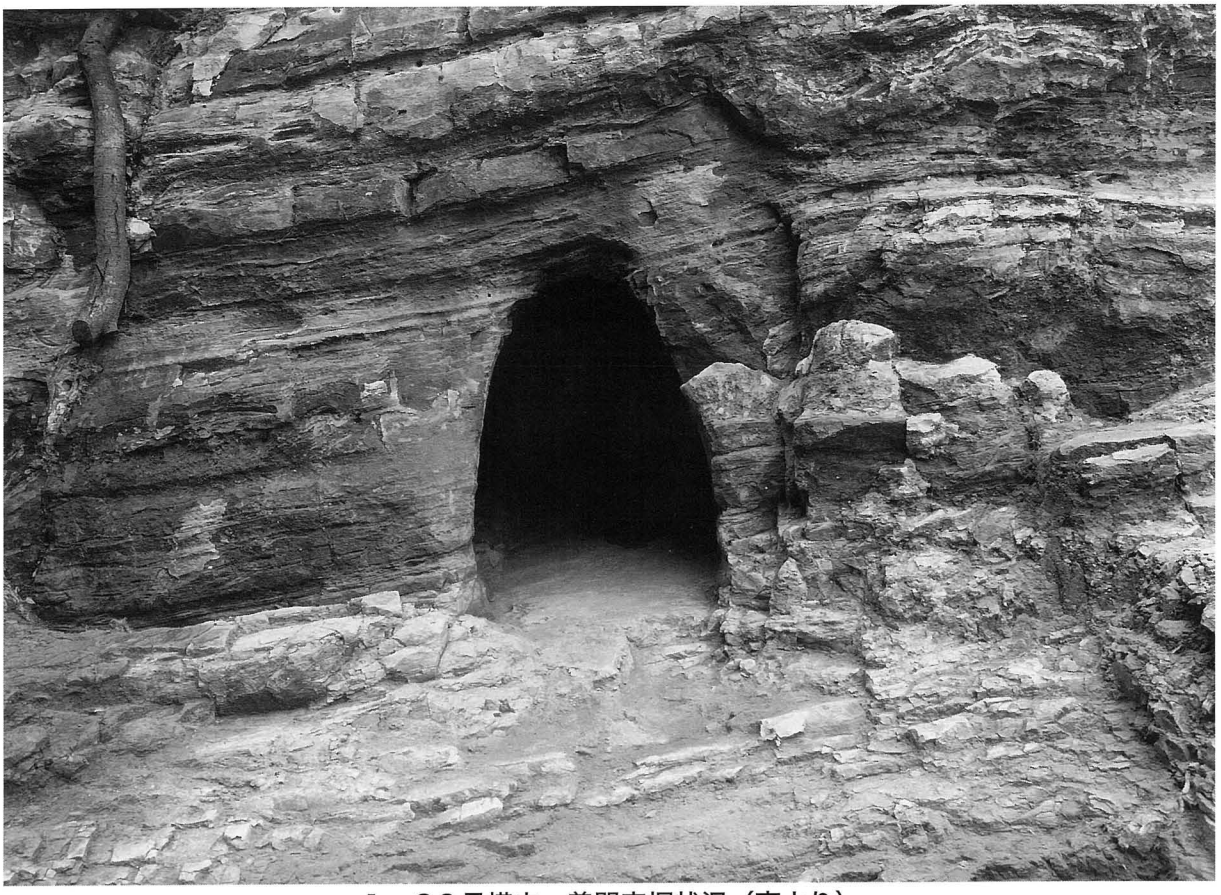
4．C2号横穴　玄室西壁工具痕（東より）



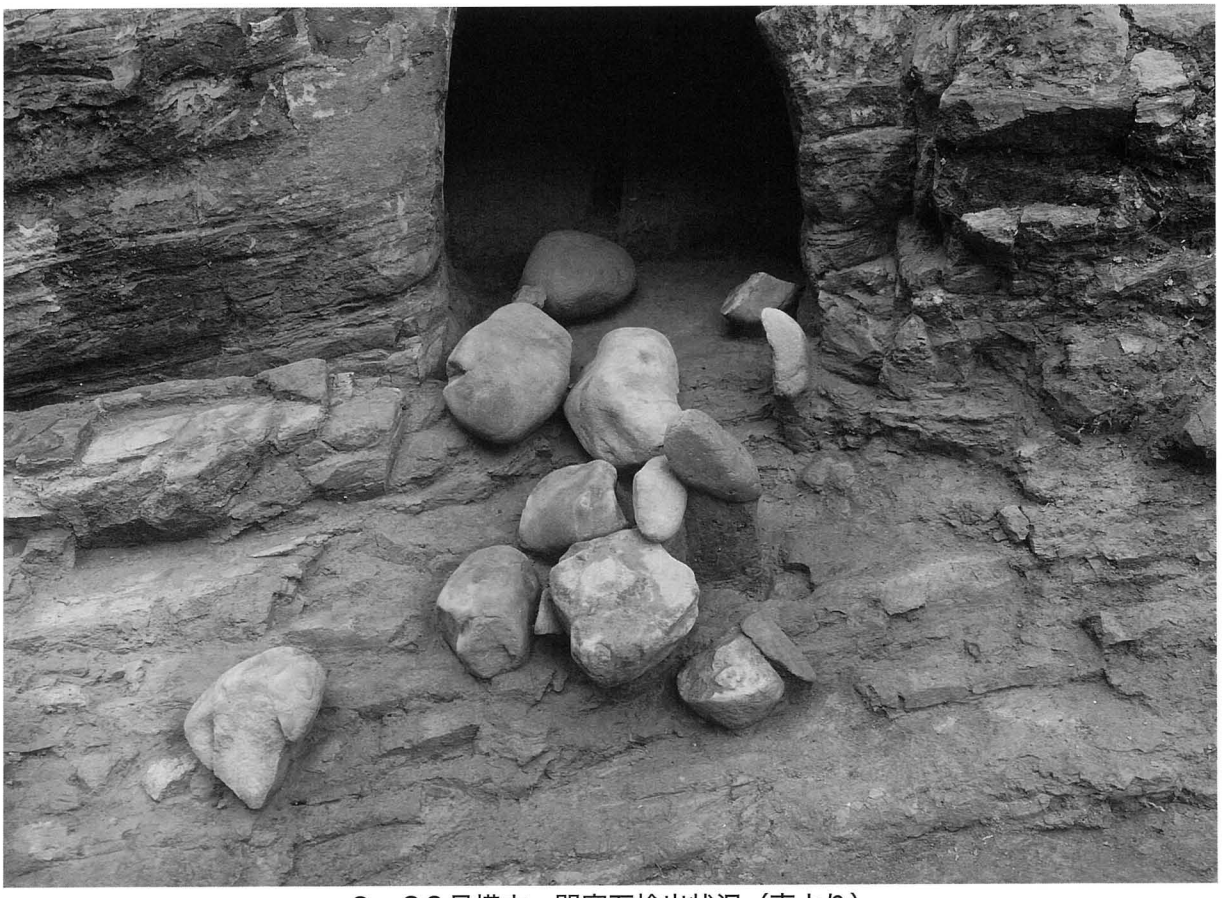
5．C2号横穴　羨道東壁工具痕（北西より）

6．C2号横穴　羨道西壁工具痕（北東より）

# 図版32　志味堂横穴群



1．C３号横穴　羨門完掘状況（南より）



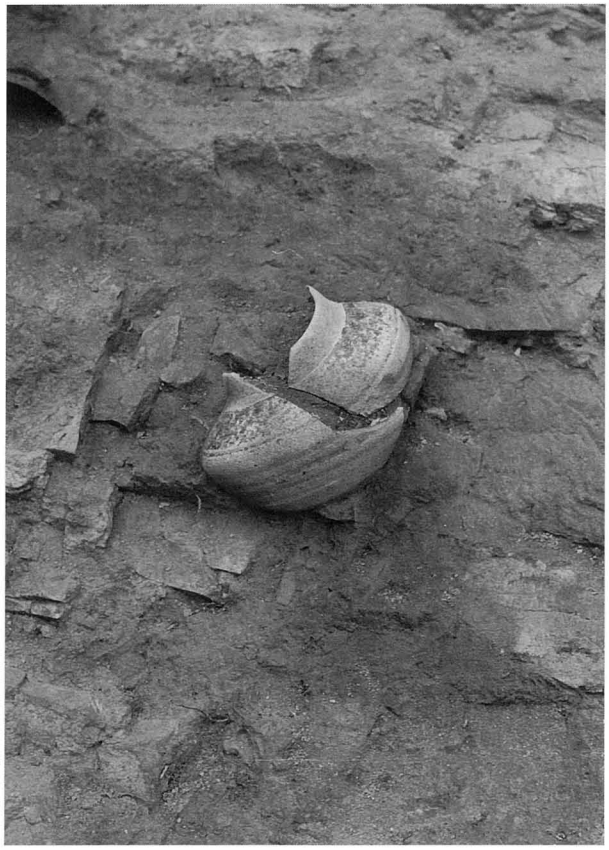
2．C３号横穴　閉塞石検出状況（南より）

1．C３号横穴　完掘状況（南より）

2．C３号横穴　墓前域完掘状況（南東より）

# 図版34　志味堂横穴群

1．C３号横穴　墓前域須恵器出土状況（南東より）

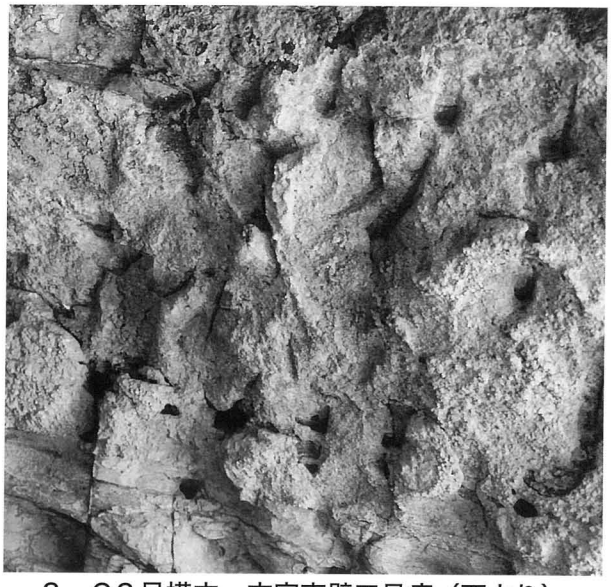


2．C３号横穴　墓前域須恵器出土状況
（南東より）

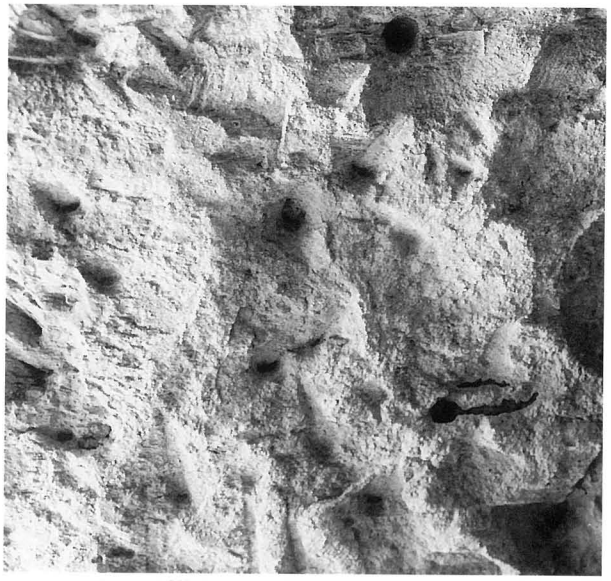
3．C３号横穴　墓前域須恵器出土状況
（南東より）

1．C３号横穴　天井崩落状況（北東より）

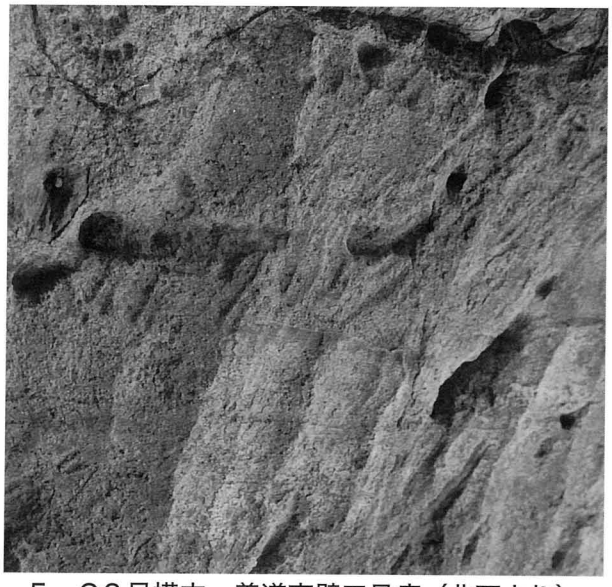
2．C３号横穴　奥壁工具痕（南より）



3．C３号横穴　玄室東壁工具痕（西より）



4．C３号横穴　玄室西壁工具痕（東より）



5．C３号横穴　羨道東壁工具痕（北西より）

6．C３号横穴　羨道西壁工具痕（北東より）

# 図版36　志味堂横穴群

Ｃ１号横穴出土遺物集合

26-1

26-4

26-2

26-3

出土遺物４（Ｃ１号横穴）

26-5

26-6

26-7

28-3

28-4

28-1

28-8

31-14

32-1

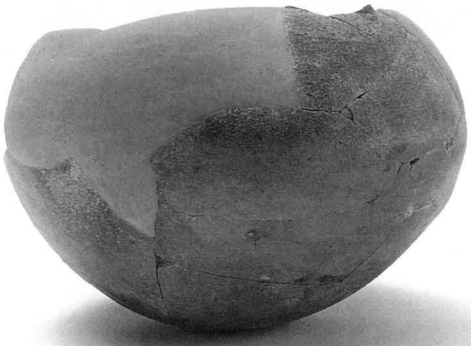
出土遺物５

# 図版38　志味堂横穴群

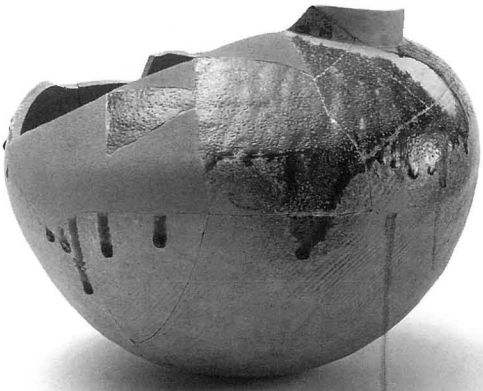
C３号横穴出土遺物集合

31-3

31-8



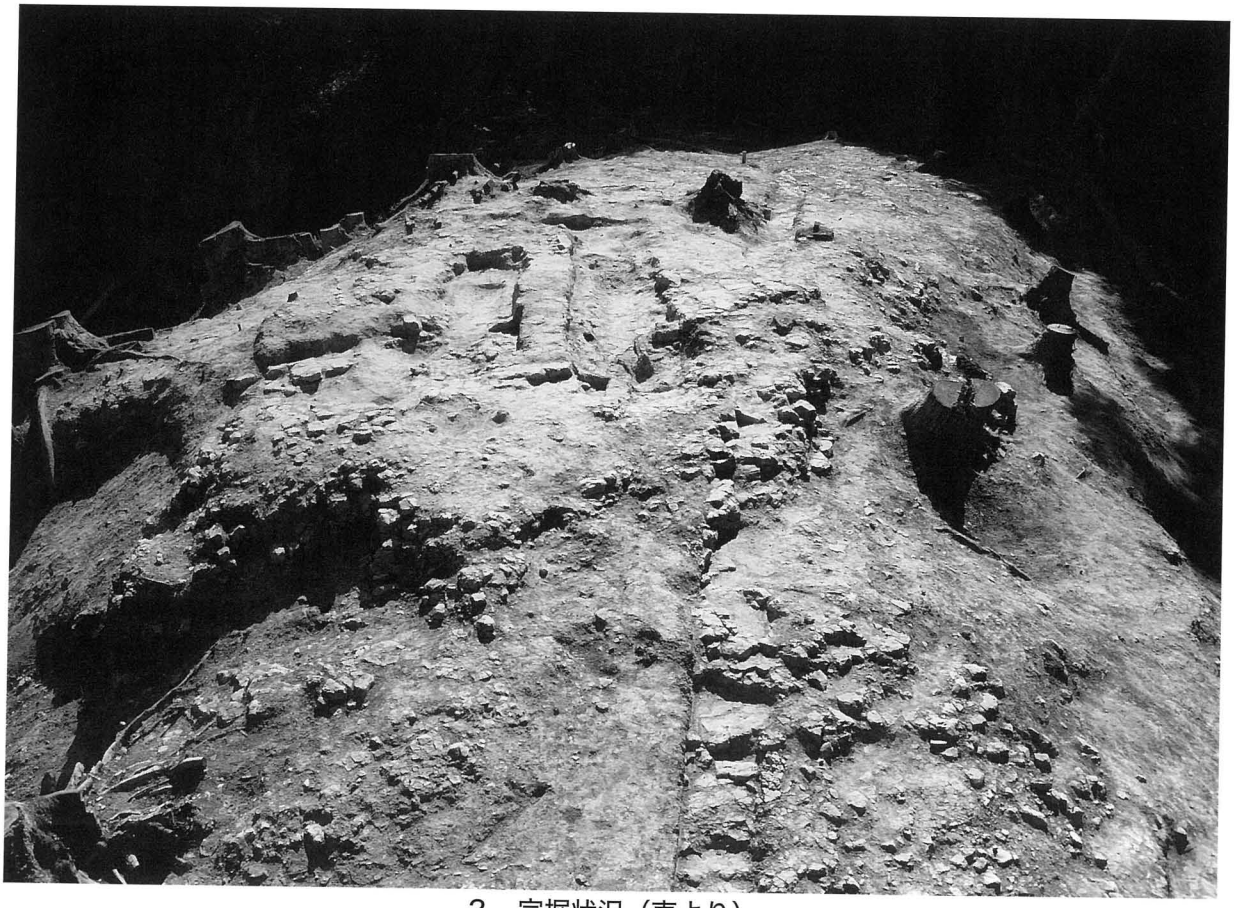
31-9



31-10

出土遺物６（C３号横穴）

１．調査前状況（東より）



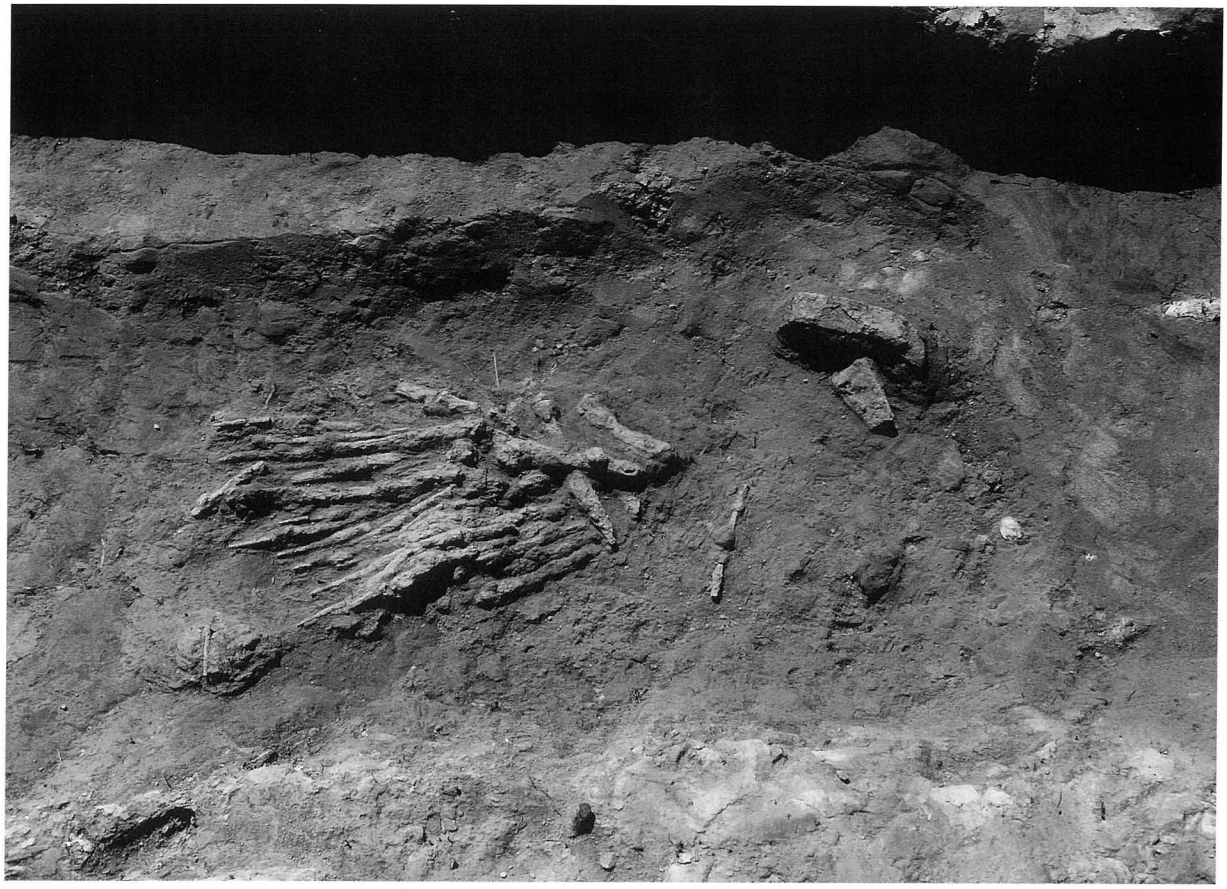
２．完掘状況（東より）

# 図版40　瑞泉寺１号墳

１．第１埋葬施設（東より）

２．第２埋葬施設（東より）

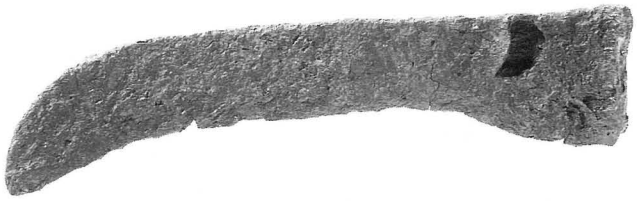
３．第２埋葬施設　遺物出土状況（西より）



１．第１埋葬施設　鉄鏃出土状況（北より）

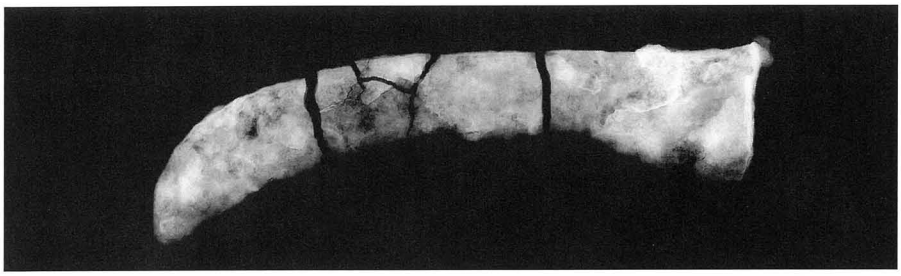
２．第１埋葬施設　遺物出土状況（西より）

# 図版42　瑞泉寺１号墳

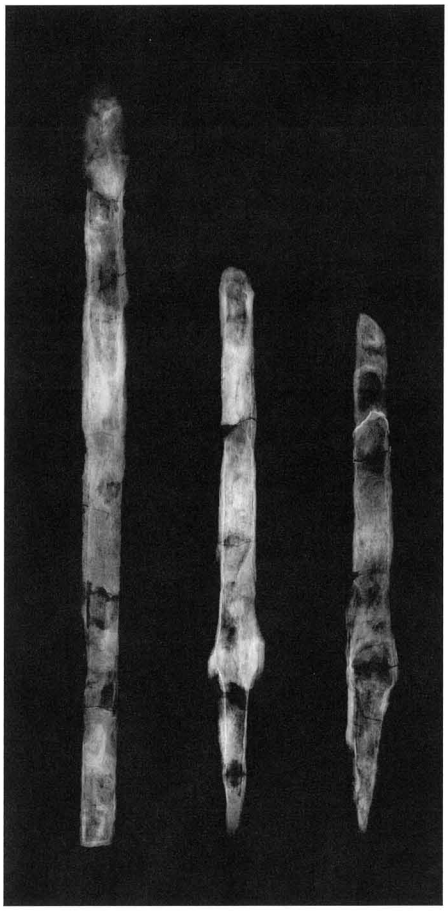


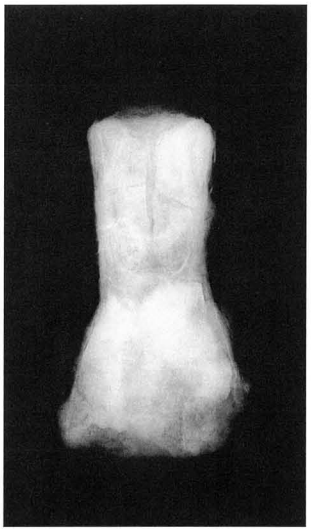
37-1

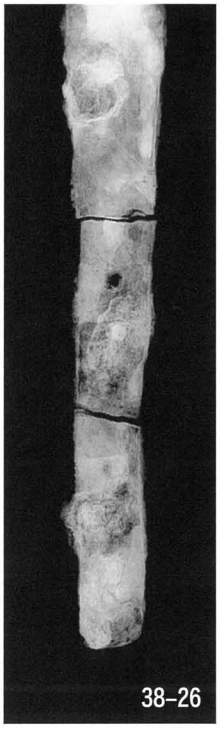
37-2



37-3　37-4　37-5



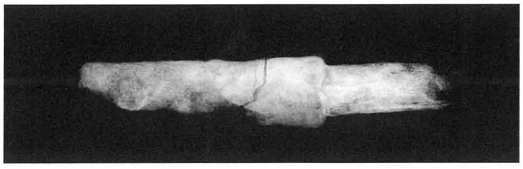


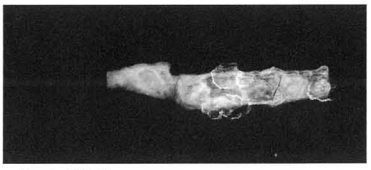


38-26

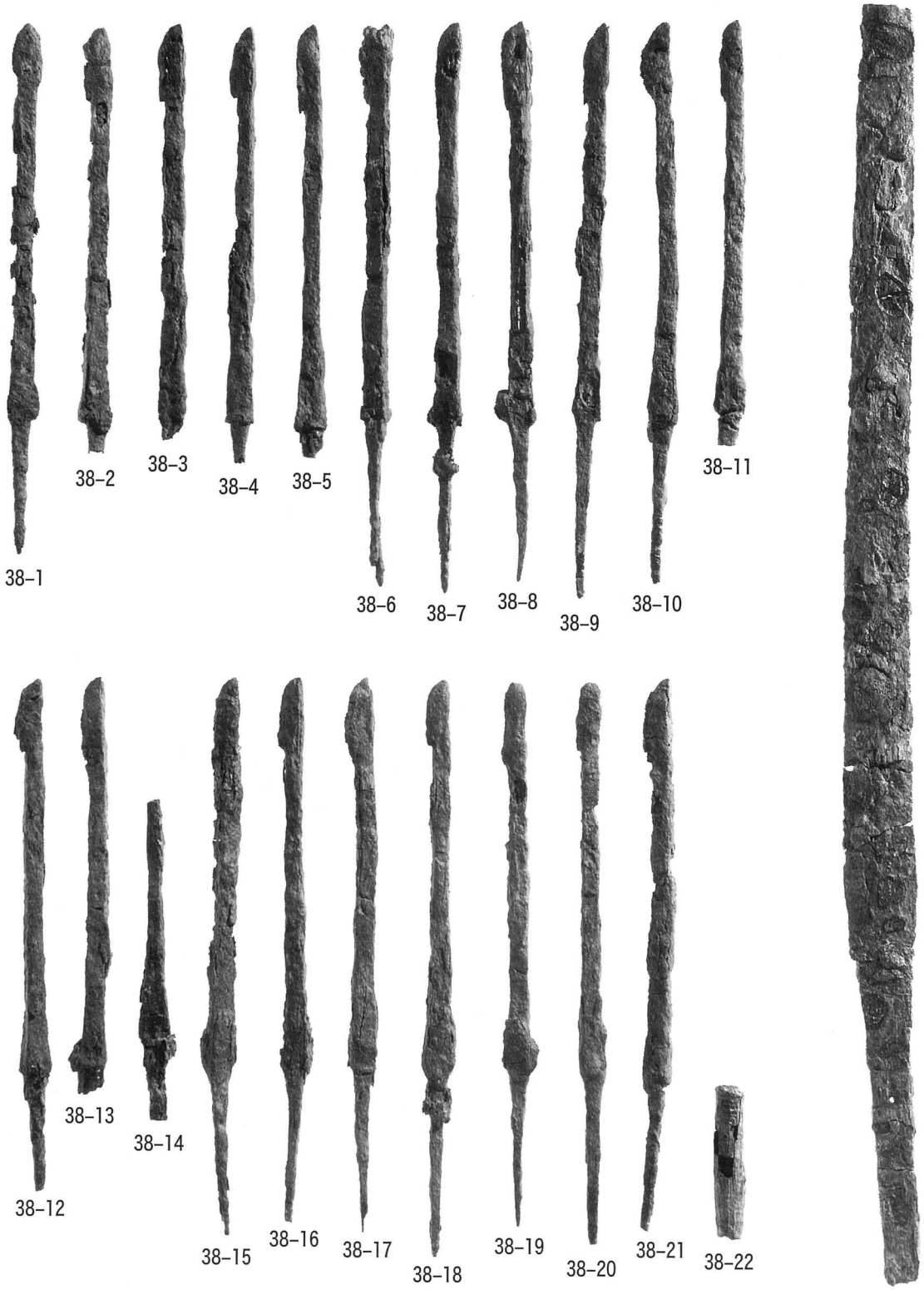
37-6

40-2



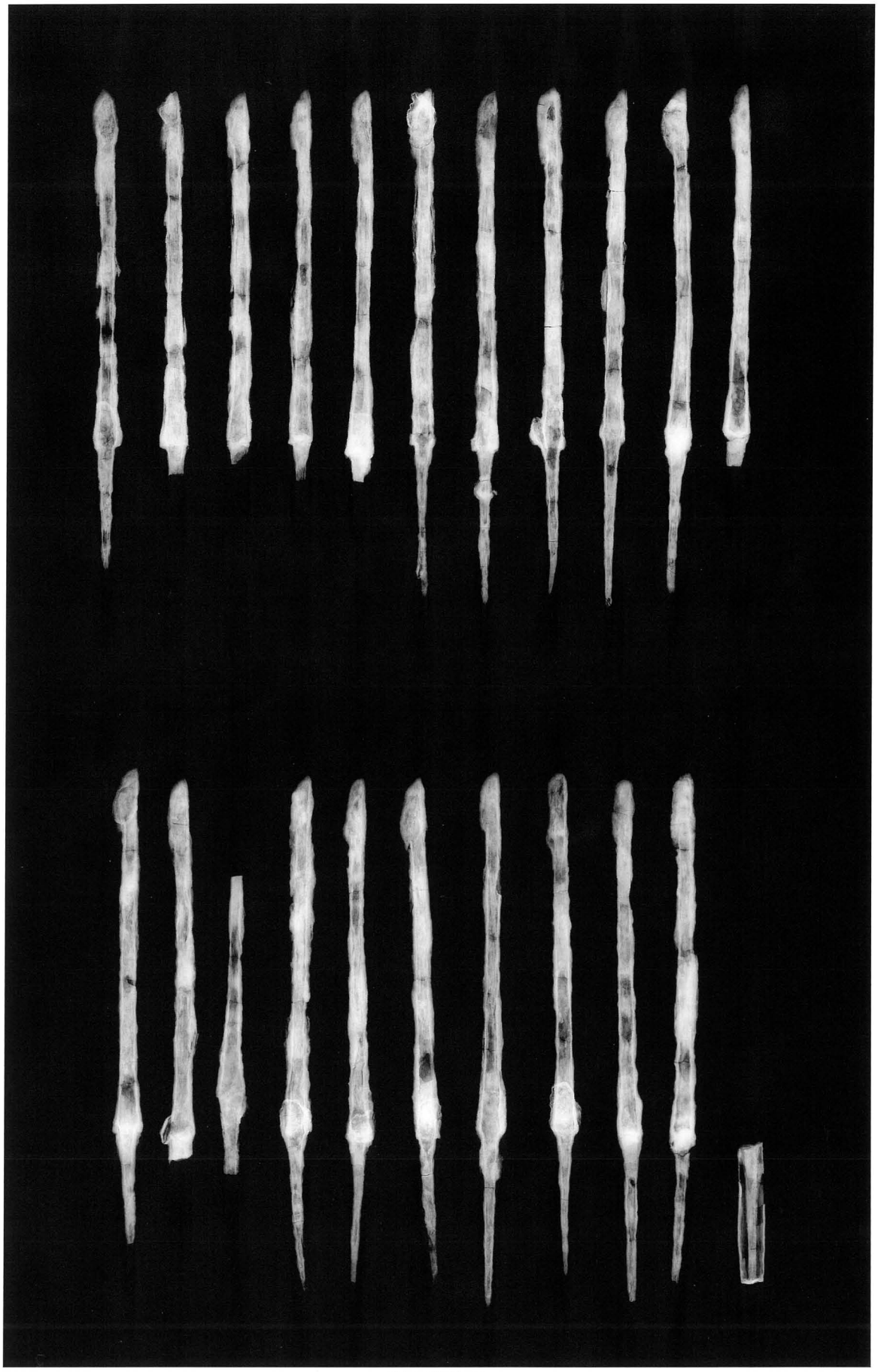


出土遺物１


38-1
38-2
38-3
38-4
38-5
38-6
38-7
38-8
38-9
38-10
38-11
38-12
38-13
38-14
38-15
38-16
38-17
38-18
38-19
38-20
38-21
38-22
38-26

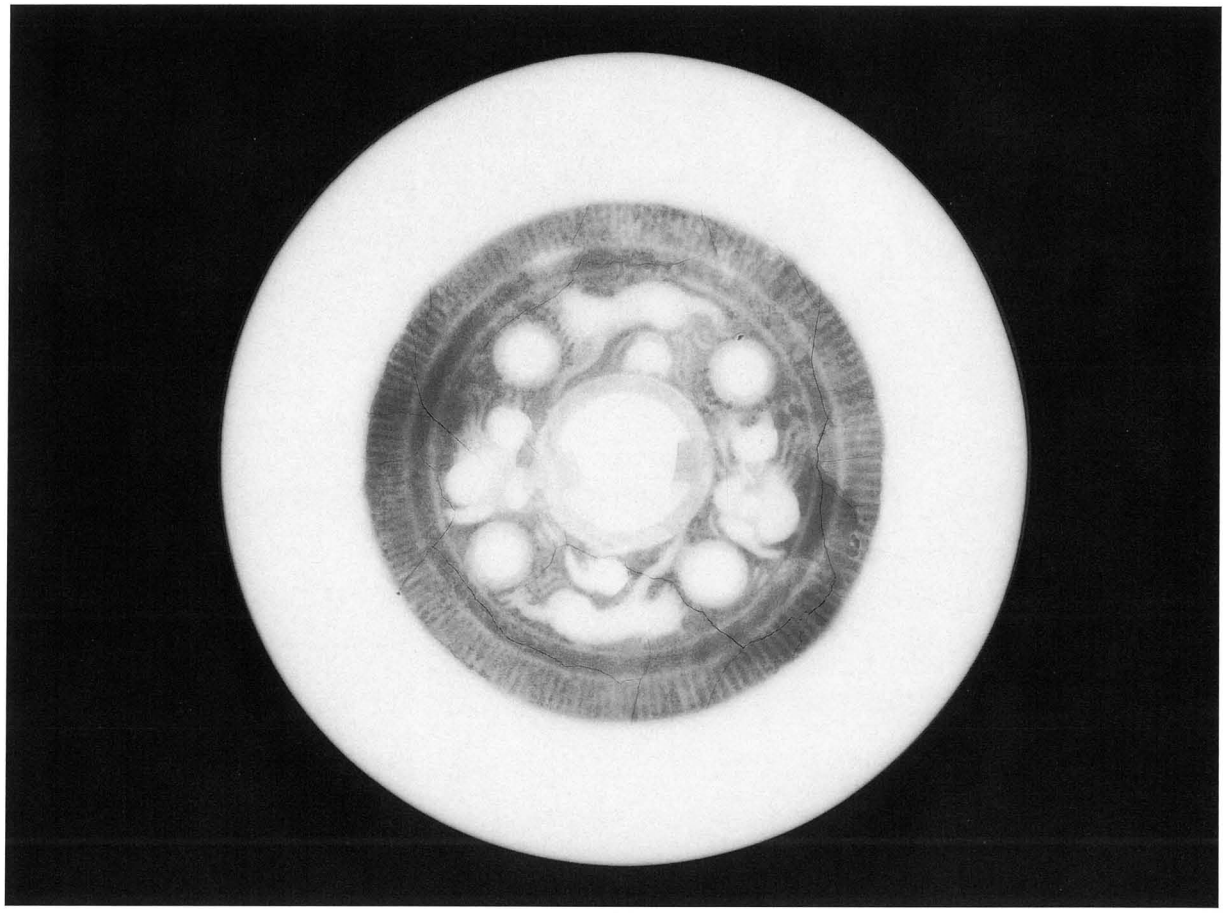
出土遺物２

# 図版44　瑞泉寺１号墳



出土遺物３

40-1



出土遺物４

# 図版46　八幡ヶ谷古墳

1．遠景（西より）

2．調査前状況（北東より）

1．完掘状況（東より）

2．埋葬施設遺物出土状況（南東より）

# 図版48　八幡ヶ谷古墳

1．遺物出土状況（北より）

2．礫床検出状況（北より）

1．１号棺　遺物出土状況（北より）

2．１号棺　遺物出土状況（西より）

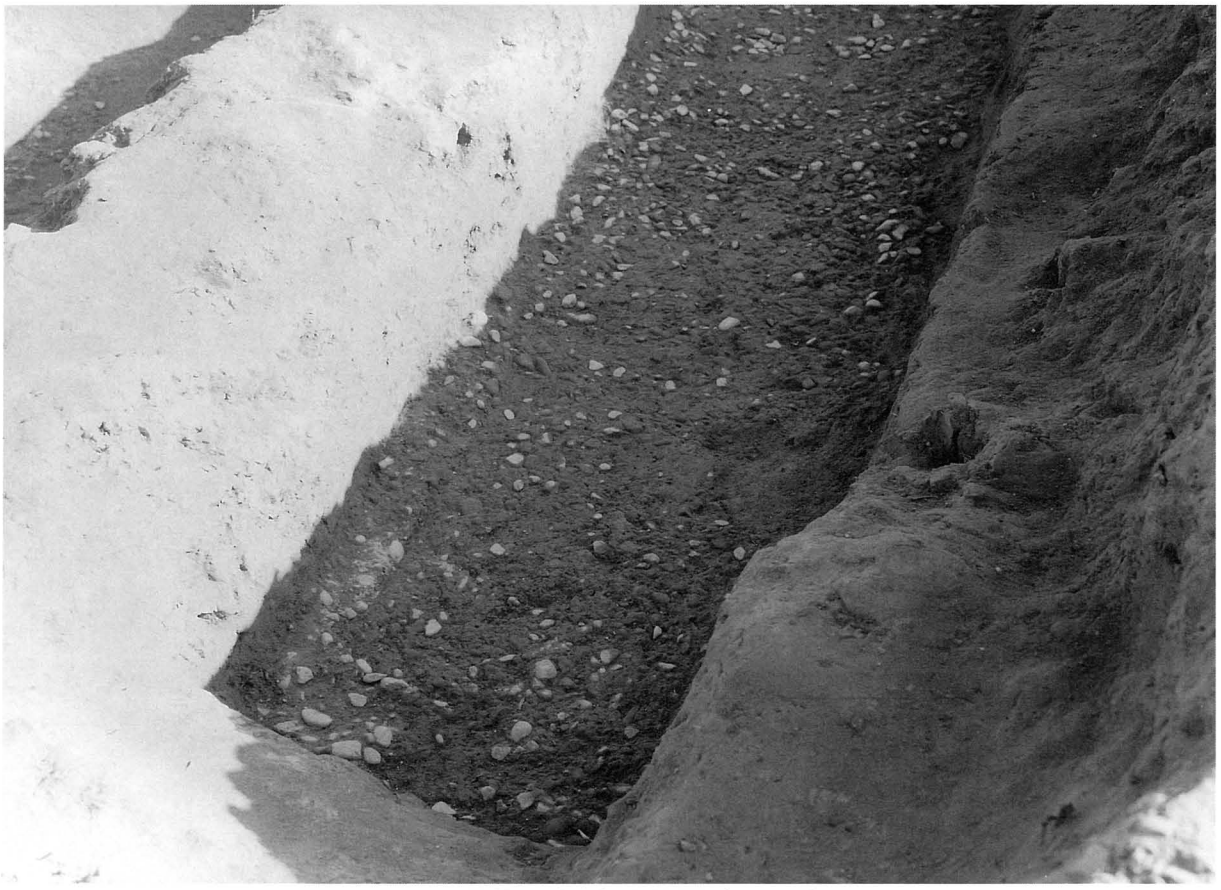
3．１号棺　遺物出土状況（北より）

4．１号棺　遺物出土状況（南西より）

# 図版50　八幡ヶ谷古墳

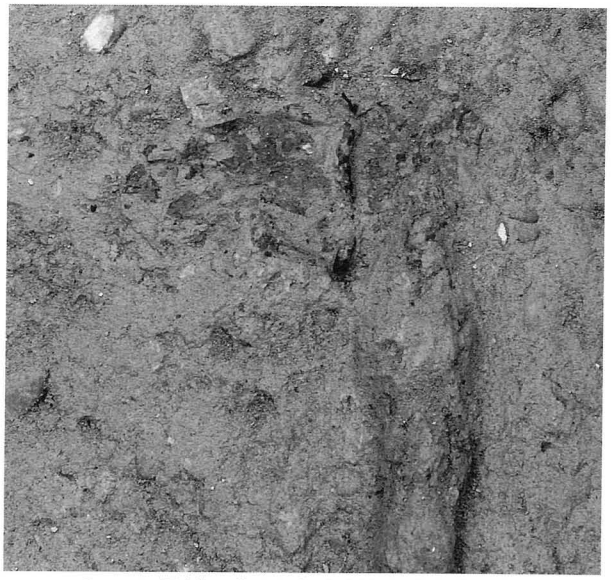
1．２号棺　遺物出土状況（西より）

2．２号棺　遺物出土状況（北より）



3．２号棺　礫床検出状況（西より）

1．１号棺　巴型銅器出土状況（北東より）



2．１号棺　柄頭出土状況（北より）

3．１号棺　遺物出土状況（西より）

4．２号棺　竪櫛出土状況（北より）

5．埋葬施設上部　埴輪出土状況（南より）

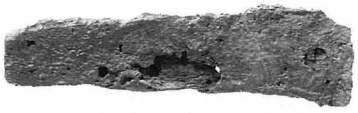
6．西周溝　埴輪出土状況（北西より）

# 図版52　八幡ヶ谷古墳

１号棺出土遺物集合

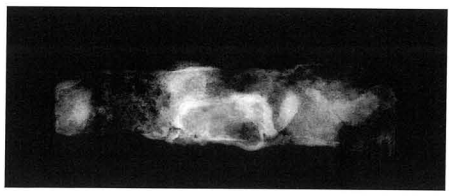
２号棺出土遺物集合

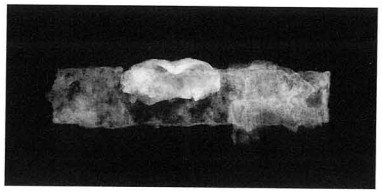
出土遺物１

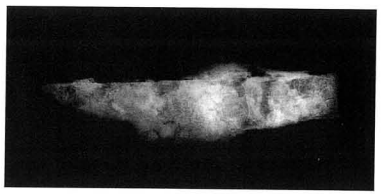

49-1

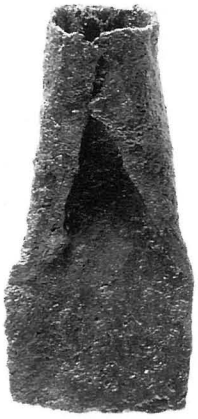
49-2

49-3



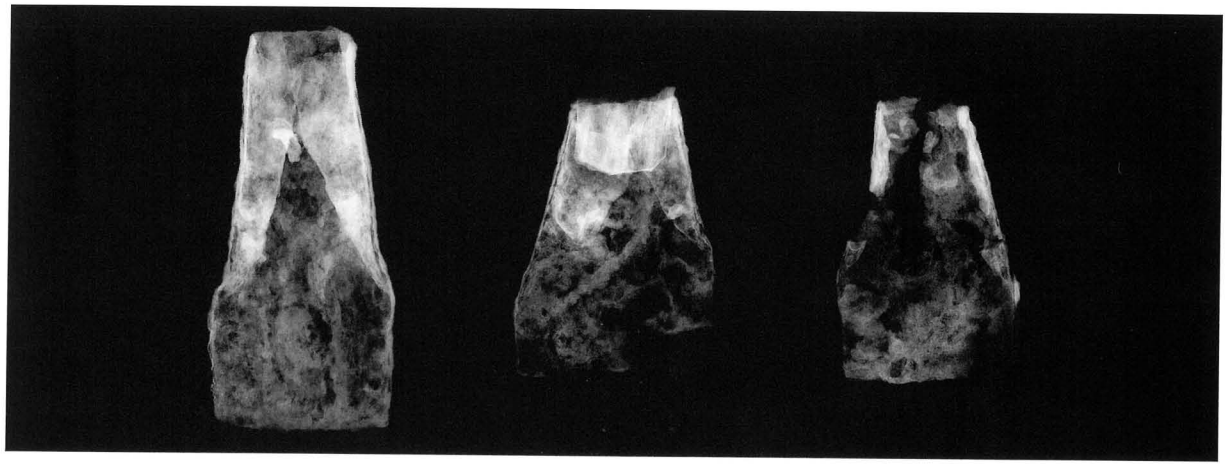





49-3

49-5

49-4



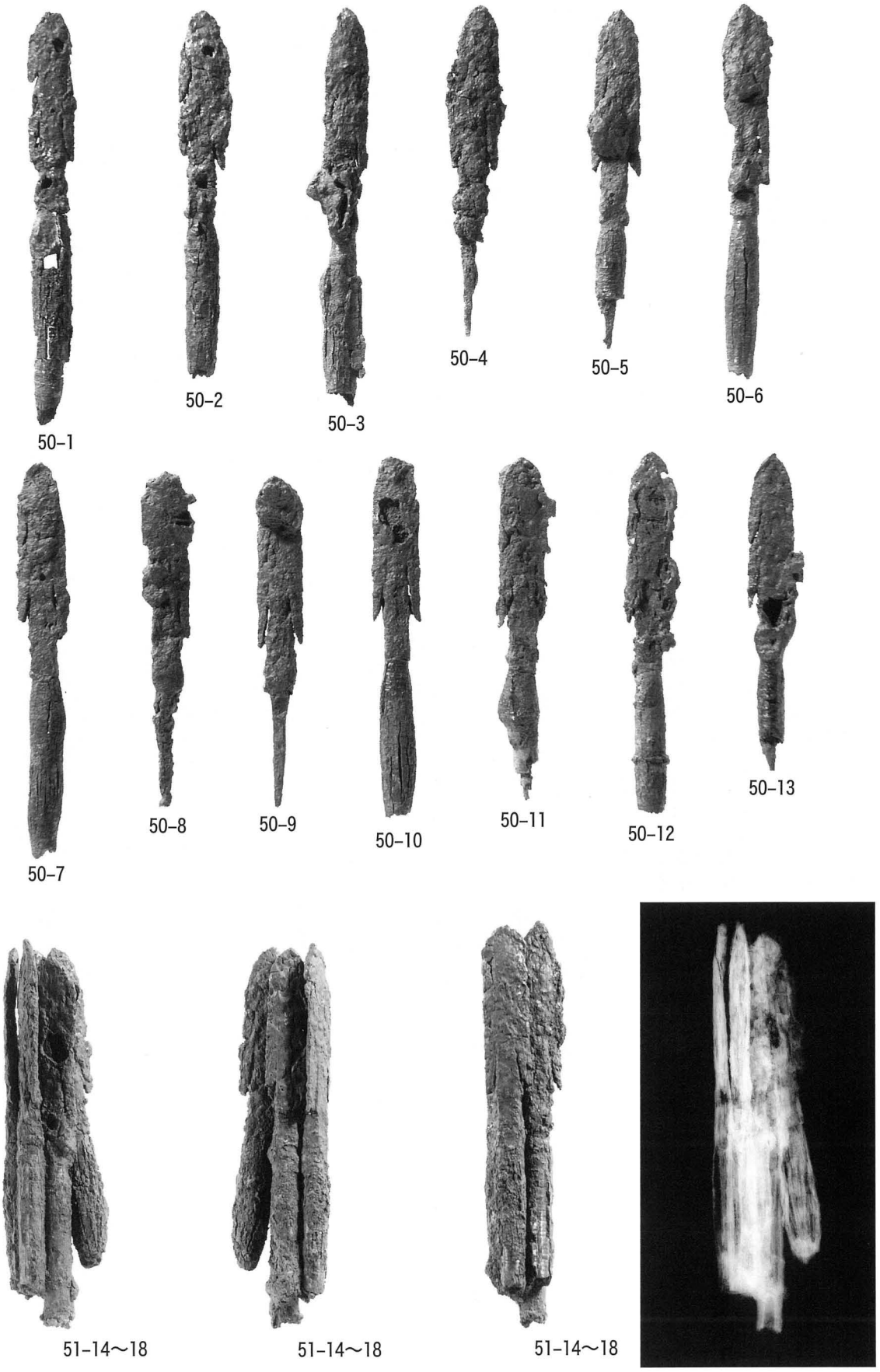
55-1 表

55-1 裏

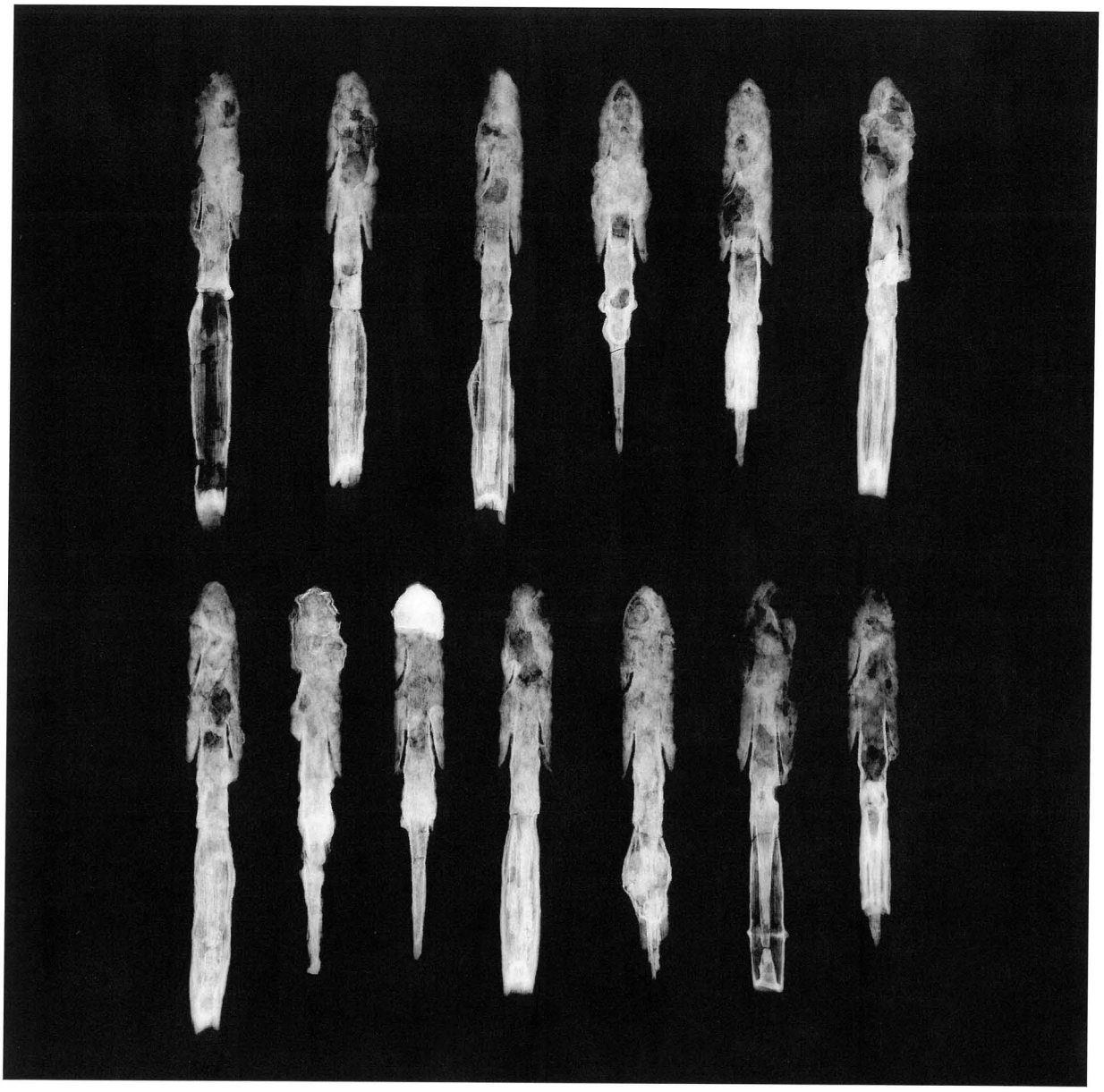
55-1

出土遺物２（１号棺）

# 図版54　八幡ヶ谷古墳

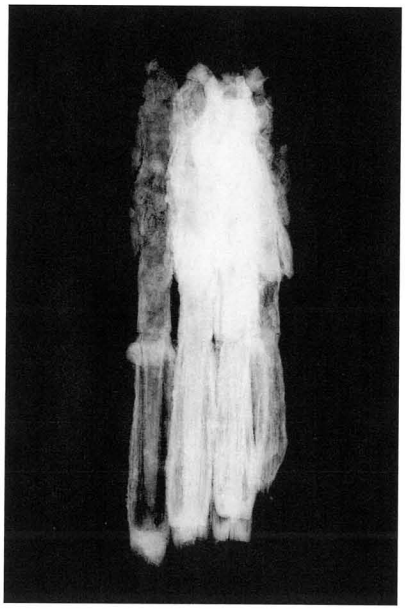



出土遺物３（１号棺）



51-19～24

51-19～24

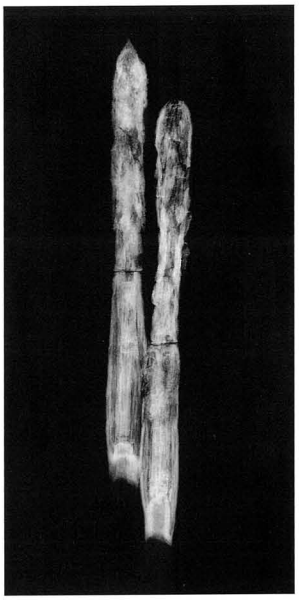


出土遺物４（１号棺）

# 図版56　八幡ヶ谷古墳

51-31～32

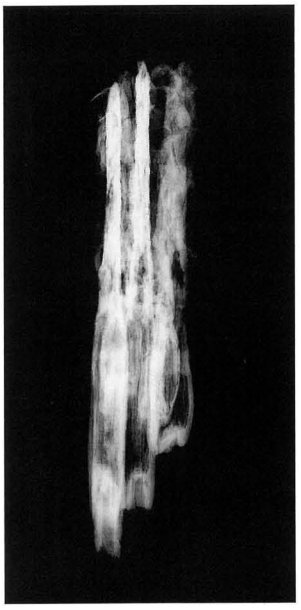
51-31～32



51-25～30

51-25～30

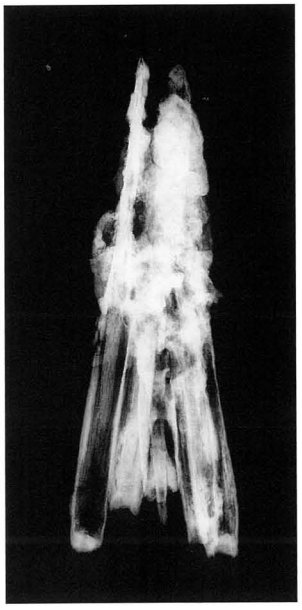
51-25～30



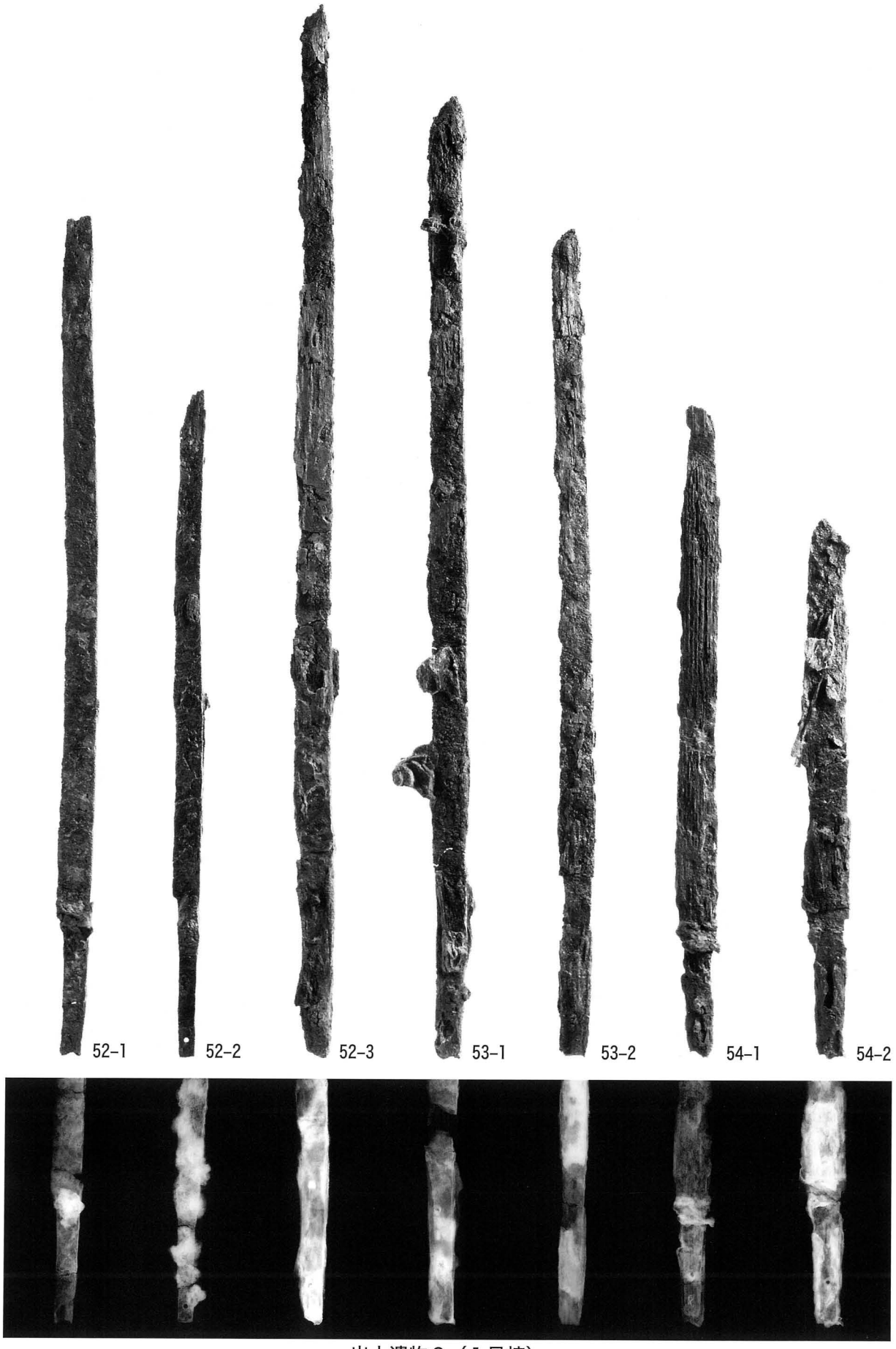
51-33～37

51-33～37

51-33～37



出土遺物５（１号棺）




出土遺物６（１号棺）

# 図版58　八幡ヶ谷古墳

刀52-1

刀52-3

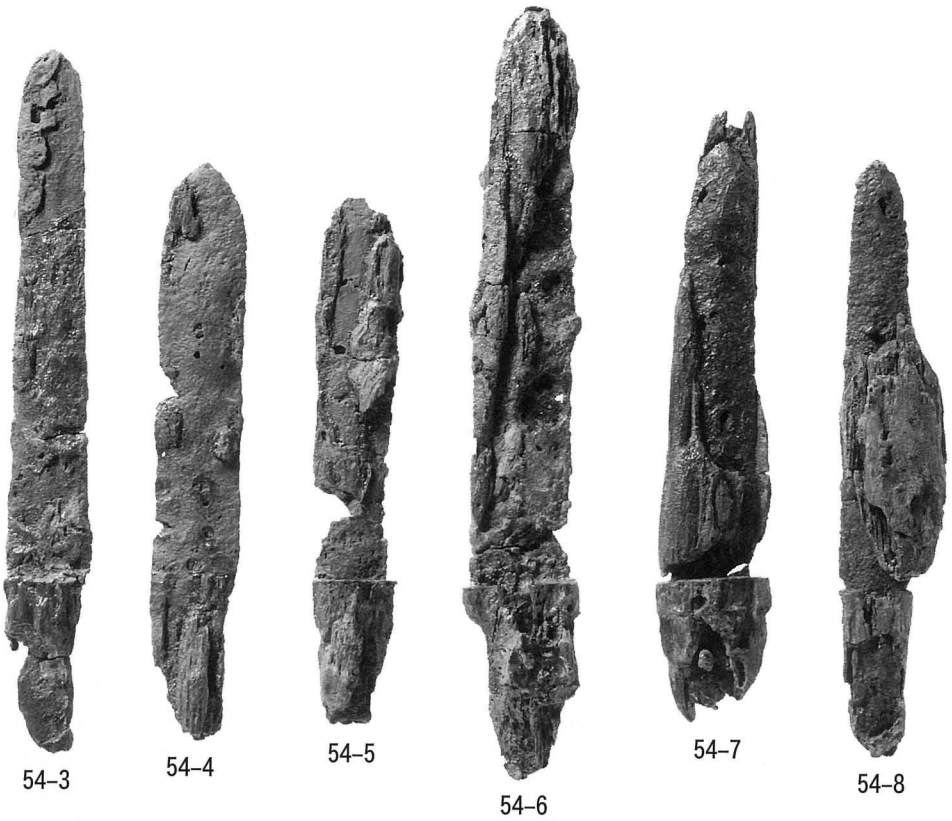
刀52-3

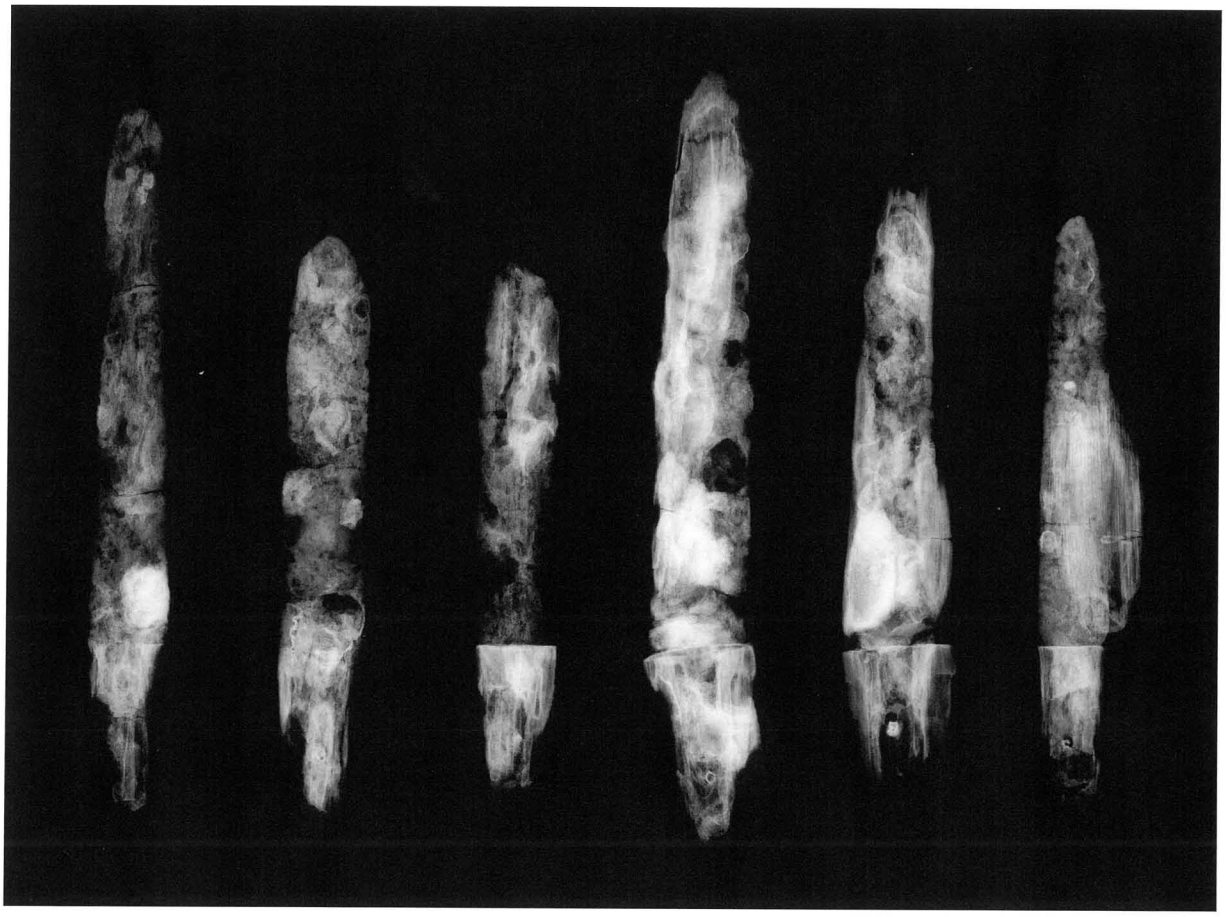
刀53-2

剣54-1

剣54-2

出土遺物７（１号棺）



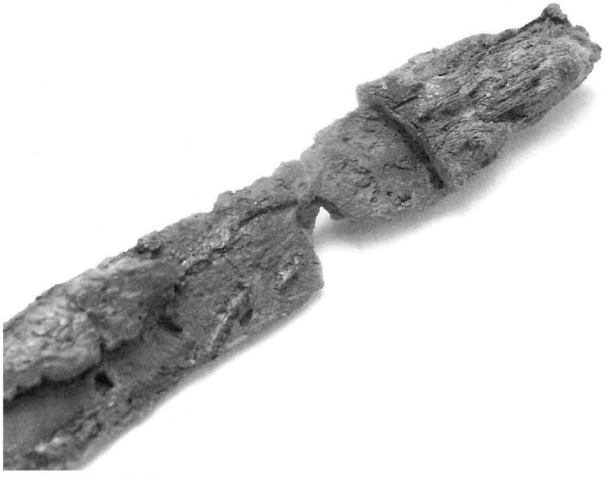



出土遺物８（１号棺）

# 図版60　八幡ヶ谷古墳

剣（槍）54-3

剣（槍）54-4



剣（槍）54-5

剣（槍）54-6

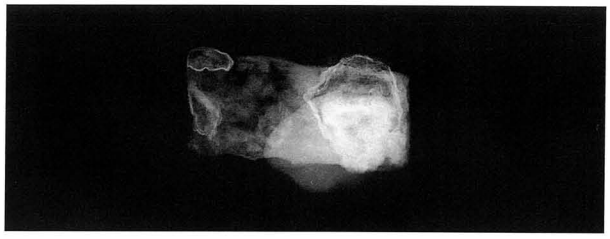
剣（槍）54-7

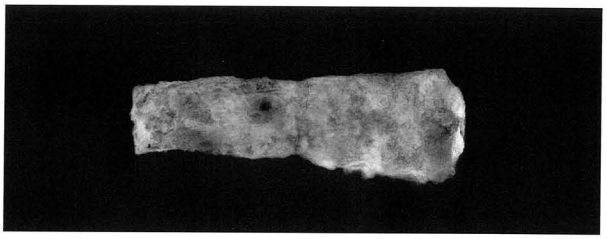
剣（槍）54-8

出土遺物９（１号棺）

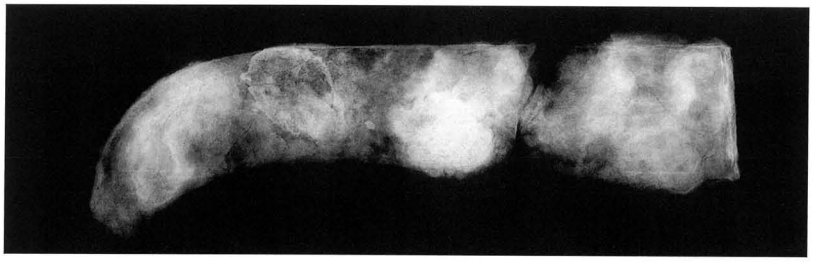
56-1

56-2



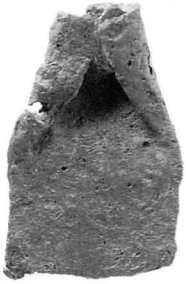


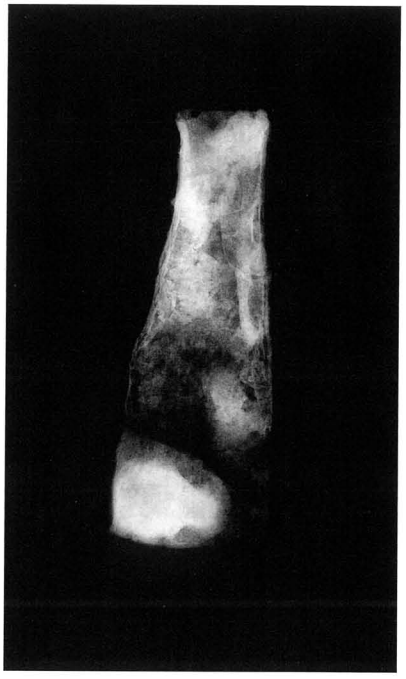
56-3

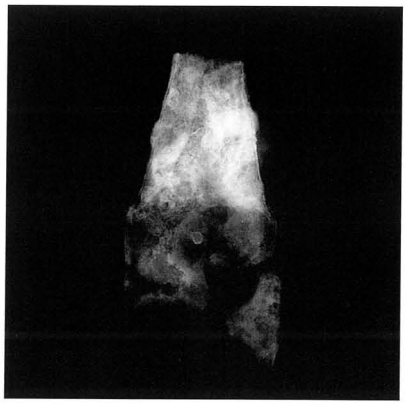


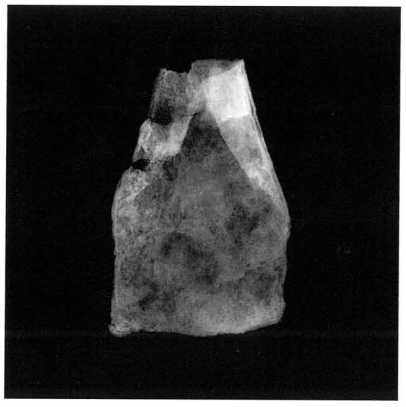
56-4

56-5


56-6





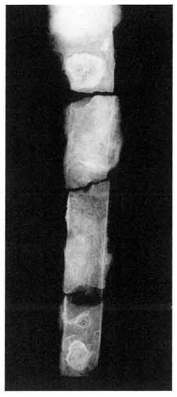


出土遺物10（２号棺）

# 図版62　八幡ヶ谷古墳

57-1

57-2

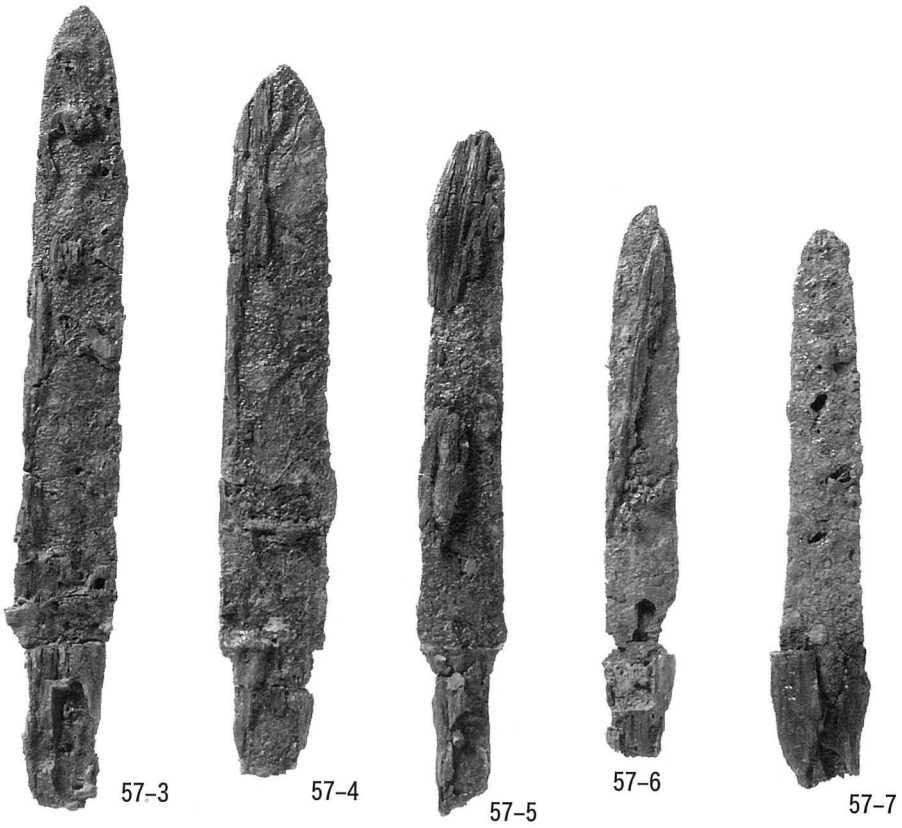


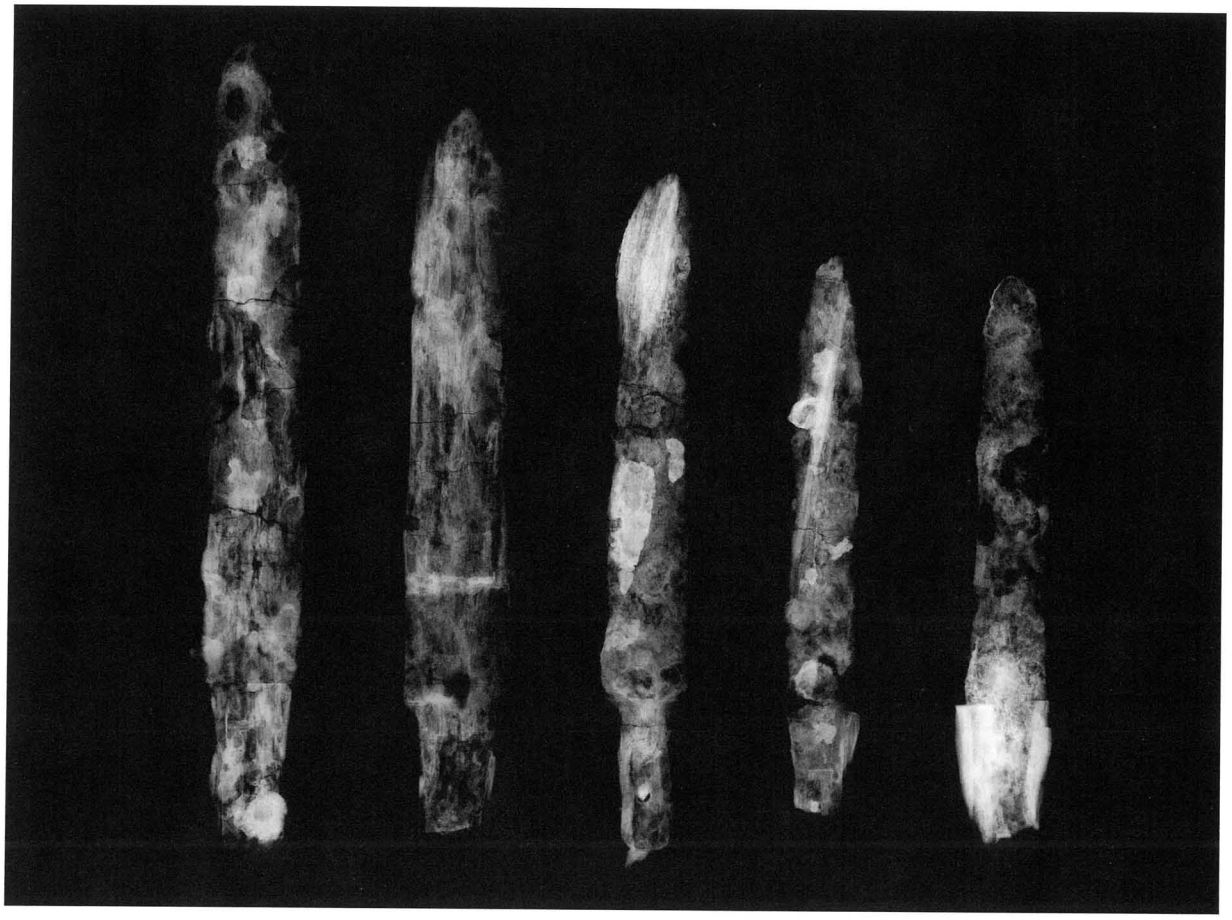
剣57-1

刀57-2

出土遺物11（２号棺）

刀57-2



出土遺物12（２号棺）

# 図版64　八幡ヶ谷古墳

剣（槍）57-3

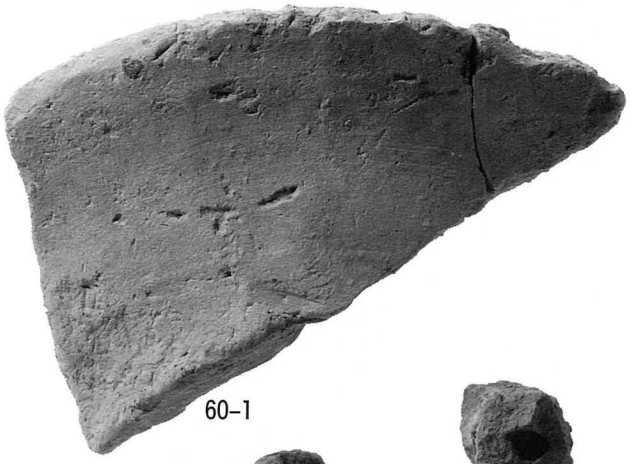
剣（槍）57-4

剣（槍）57-5

剣（槍）57-6

剣（槍）57-7

出土遺物13（２号棺）

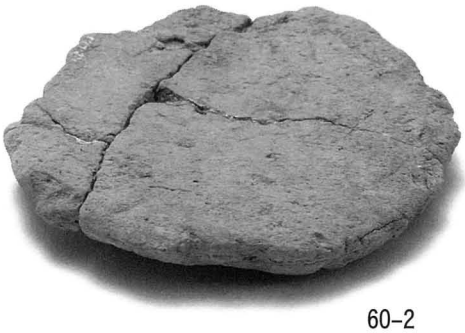

60-1

60-3

60-5

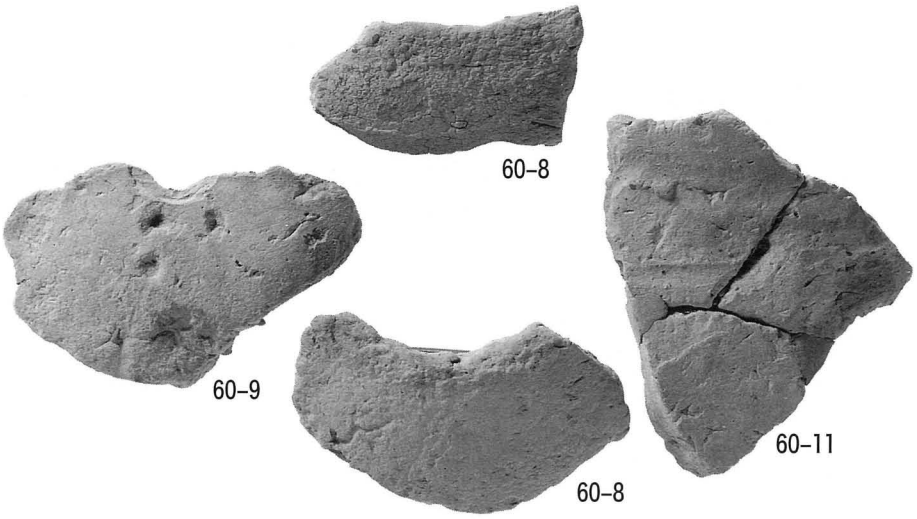
60-4

60-7


60-2

60-12

# 図版66　八幡ヶ谷古墳




（表）

（裏）

60-13

60-14

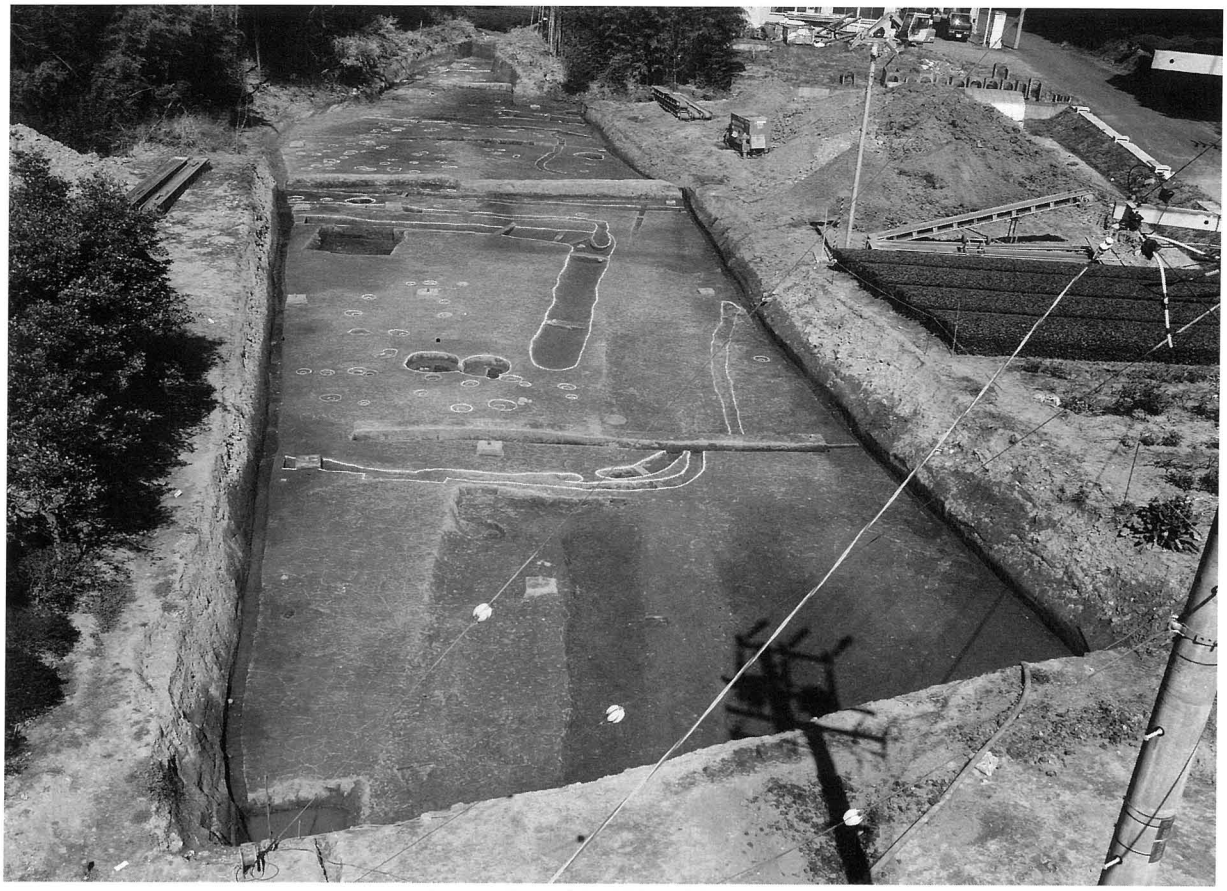
60-16

60-15

60-17

60-18

出土遺物15



1．1区　完掘状況（南より）

2．1区　完掘状況（北東より）

# 図版68　下平川八幡神社西遺跡

1．１区SE01　遺物出土状況（北東より）

2．１区SE02　完掘状況（北東より）

3．１区SE03　遺物出土状況（北東より）

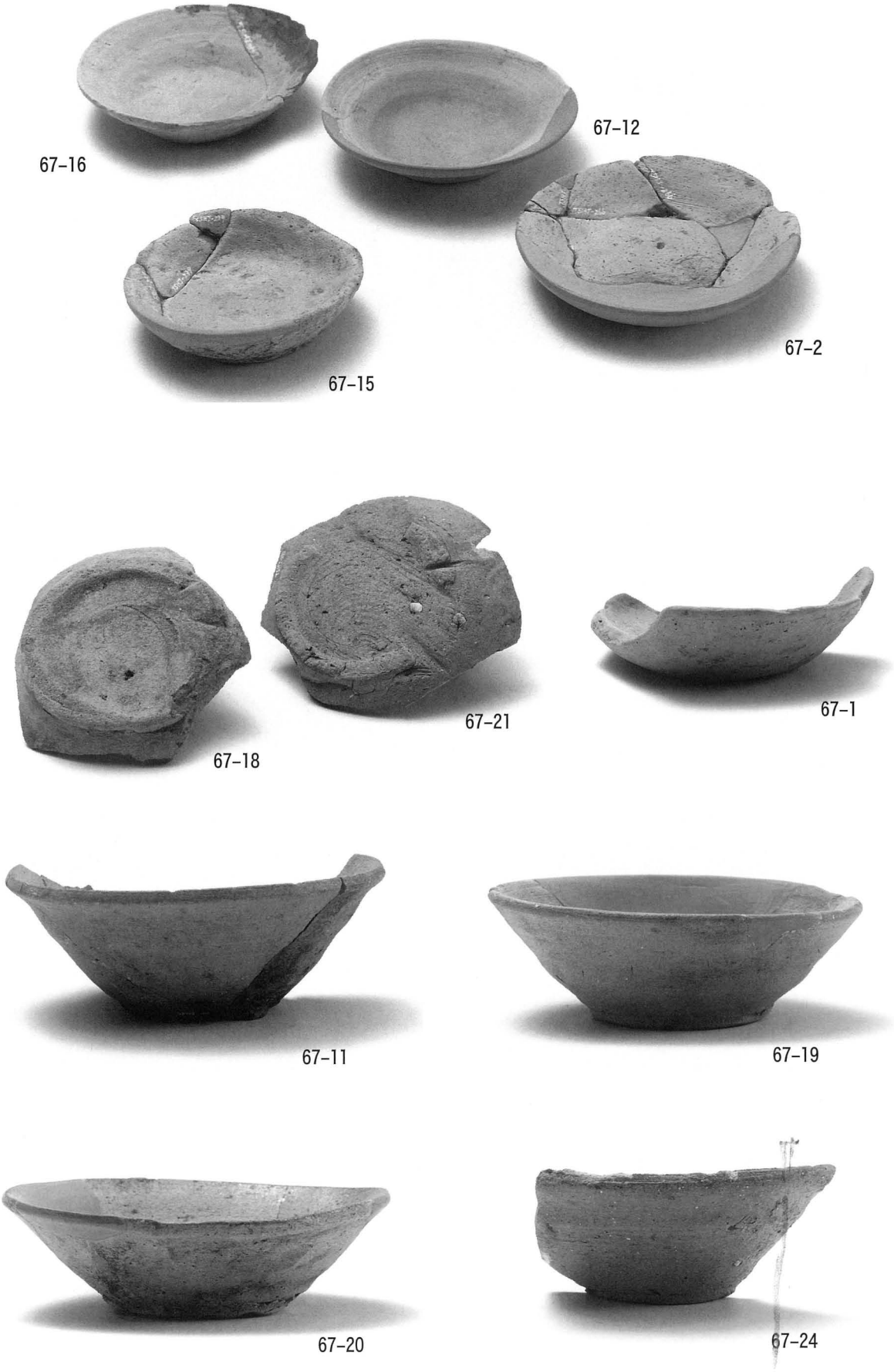
4．１区　青磁出土状況（南より）

1．2区　完掘状況（南より）

2．2区　山茶碗出土状況（東より）

3．2区　山茶碗出土状況（北東より）

# 図版70　下平川八幡神社西遺跡



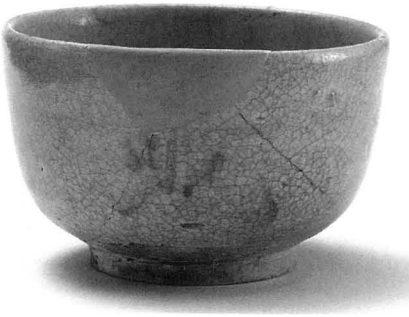

出土遺物１（１区）

70-1

70-4

70-6

70-8


70-7

70-14

70-13

70-5

70-11

出土遺物２（２区）

# 図版72　下平川八幡神社西遺跡

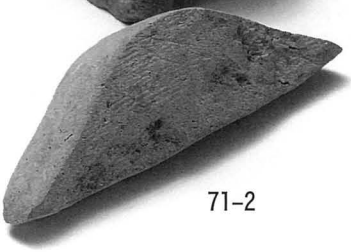
68-29

67-17

67-8

71-3

71-1



71-2

71-4

71-5

71-6

71-7

出土遺物３

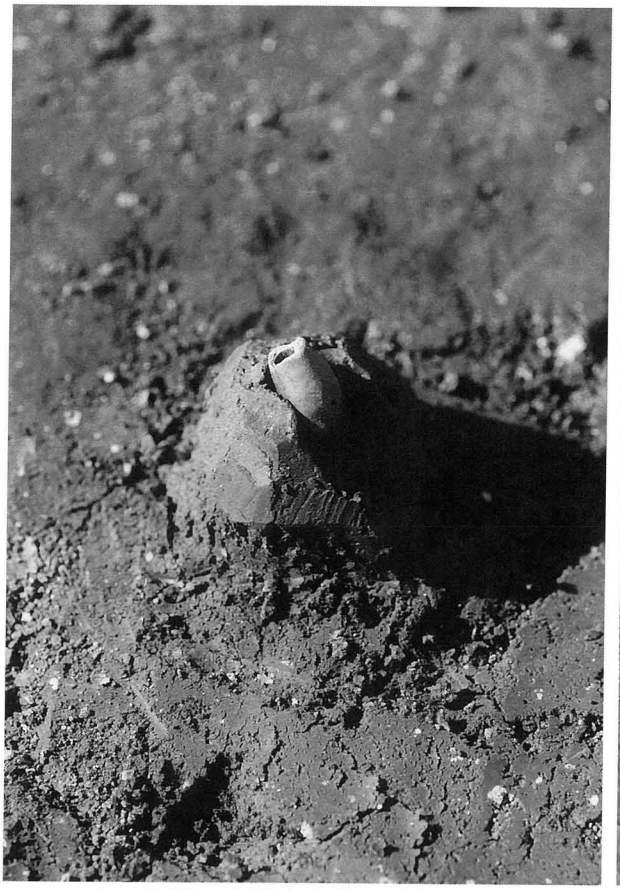
1．1区　遺物出土状況（北より）

2．2区　完掘状況（南より）

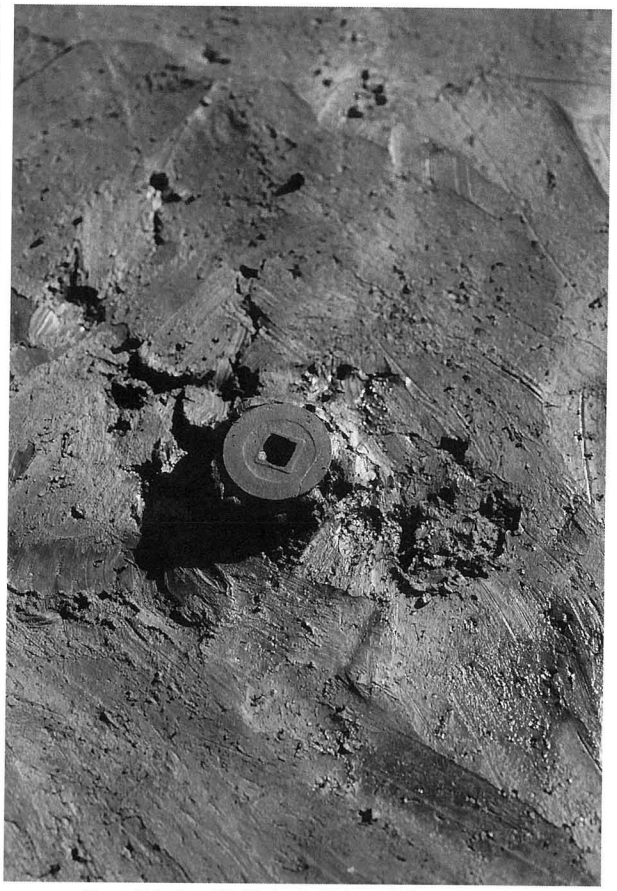
# 図版74　下平川八幡谷遺跡

1．２区SD01　完掘状況（南より）

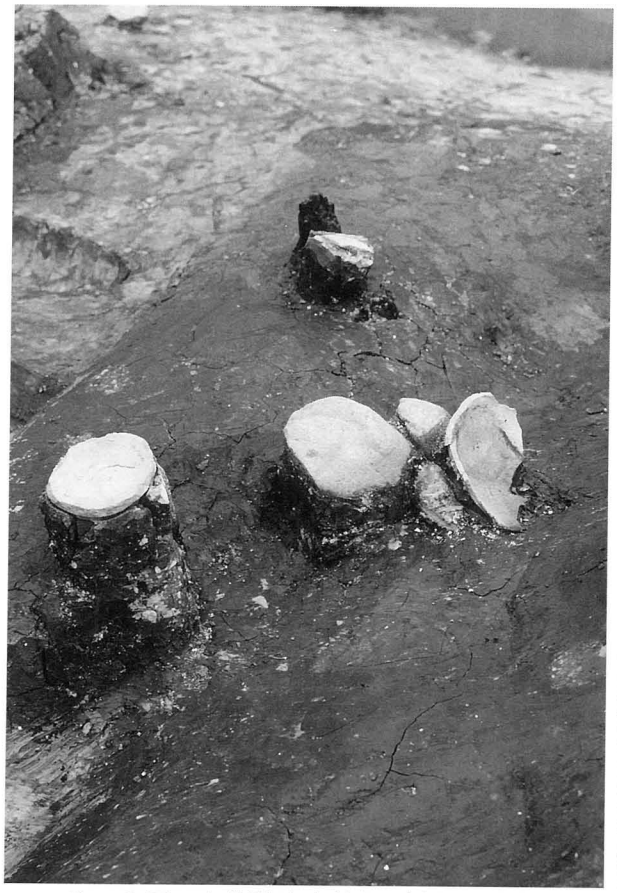
2．２区SD01　山茶碗出土状況（北より）



1．１区　土錘出土状況（東より）



2．１区　銭貨出土状況（北西より）

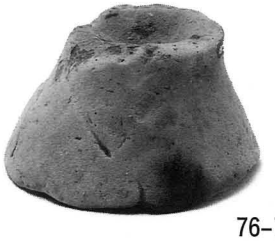


3．２区　山茶碗出土状況（南西より）

4．２区SD01　山茶碗出土状況（北東より）

# 図版76　下平川八幡谷遺跡

出土遺物１（２区SD01）


76-13

76-12

76-15

76-14

76-19

76-16

76-17

76-18

76-23

76-23

76-20

76-21

76-24

76-25

出土遺物２

# 図版78　下平川八幡谷遺跡

76-26

76-27

78-1

78-2

78-3

78-4

78-5

78-6

出土遺物３

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | きくがわししもひらかわのいせきぐん |
| 書名 | 菊川市下平川の遺跡群 |
| 副書名 | 志味堂古墳群・志味堂横穴群・瑞泉寺１号墳・八幡ヶ谷古墳・下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第204集 |
| 編著者名 | 蔵本俊明　溝口彰啓 |
| 編集機関 | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 |
| 所在地 | 〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20　TEL054-262-4261 |
| 発行年月日 | 2009年３月23日 |

| 所収遺跡名（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯（世界測地形） | 東経（世界測地形） | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 志味堂古墳群（しみどうこふんぐん） | 静岡県菊川市（しずおかけんきくがわし）下平川志味堂（しもひらかわしみどう）2719-1他（た） | 22224 | | 34度42分44秒 | 138度5分21秒 | 20070518～20080325 | 540㎡ | (主)掛川浜岡線合併支援重点道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 |
| 志味堂横穴群（しみどうよこあなぐん） | 静岡県菊川市（しずおかけんきくがわし）下平川志味堂（しもひらかわしみどう）2718他（た） | 22224 | | 34度42分43秒 | 138度5分21秒 | | | |
| 瑞泉寺１号墳（ずいせんじごうふん） | 静岡県菊川市（しずおかけんきくがわし）下平川瑞泉ヶ谷（しもひらかわずいせんがや）2604-1他（た） | 22224 | | 34度42分41秒 | 138度5分22秒 | | 300㎡ | |
| 八幡ヶ谷古墳（はちまんがやこふん） | 静岡県菊川市（しずおかけんきくがわし）下平川八幡谷（しもひらかわはちまんがや）4862-1他（た） | 22224 | | 34度42分39秒 | 138度5分24秒 | | 830㎡ | |
| 下平川八幡神社西遺跡（しもひらかわはちまんじんじゃにしいせき） | 静岡県菊川市（しずおかけんきくがわし）下平川八幡谷（しもひらかわはちまんがや）4891-1他（た） | 22224 | | 34度42分33秒 | 138度5分24秒 | 20061201～20070326 | 1,400㎡ | |
| 下平川八幡谷遺跡（しもひらかわはちまんがやいせき） | 静岡県菊川市（しずおかけんきくがわし）下平川八幡谷（しもひらかわはちまんがや）4626-1他（た） | 22224 | | 34度42分29秒 | 138度5分24秒 | 20070518～20080325 | 2,720㎡ | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 志味堂古墳群 | 古墳 | 古墳時代 | 円墳、不明土坑１ | 須恵器横瓶・甕、土師器坏各１<br>刀２、鉄鏃13、刀子１、袋状鉄斧１ | 鉄製武器を副葬された木棺直葬墓 |
| 志味堂横穴群 | 横穴墓 | 古墳時代後期～古代 | 横穴墓10 | 須恵器、土師器、山茶碗<br>鉄鏃、刀２、鍔２<br>鋏１、丸玉８ | |
| 瑞泉寺１号墳 | 古墳 | 古墳時代中期 | 円墳 | 鉄鏃、剣１、刀子１、銅鏡１、竪櫛１<br>勾玉１、管玉２、臼玉、ガラス小玉 | 銅鏡を副葬された木棺直葬墓 |
| 八幡ヶ谷古墳 | 古墳 | 古墳時代中期 | 円墳 | 土師器、埴輪<br>巴形銅器１<br>鏃37、刀６、剣14、<br>鎌５、袋状鉄斧６、刀子１、<br>盾１、竪櫛12 | 古墳時代中期の首長墓<br>豊富な副葬品 |
| 下平川八幡神社西遺跡 | 集落 | 中世～近世 | 土坑１、溝、井戸３、ピット他 | 陶磁器、山茶碗、銭貨４、砥石３ | |
| 下平川八幡谷遺跡 | 集落 | 縄文時代<br>古墳時代～古代<br>中世 | なし<br>自然流路<br>溝１ | 石匙１、礫石錘１、敲石２<br>土師器、須恵器<br>山茶碗、陶磁器、銭貨１ | |

八幡ヶ谷古墳は副葬品の質量ともに、菊川中流域の首長墓と認められる。特殊な形態の鉄鏃、巴形銅器等から畿内など他地域との交流を持った人物が葬られていた。盾、竪櫛、柄頭などの漆製品が残存していたことも貴重な例である。

瑞泉寺１号墳、志味堂１号墳は八幡ヶ谷古墳に後続する有力古墳である。

瑞泉寺１号墳は鉄製武具を副葬された人物と鏡、玉を副葬された人物が葬られており、被葬者の性格の違いが明確である。

下平川八幡神社西遺跡、下平川八幡谷遺跡では貿易陶磁がまとまって出土したことなどから、中近世に有力者の存在が推定される。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書　第204集

# 菊川市下平川の遺跡群

志味堂古墳群・志味堂横穴群・瑞泉寺1号墳・八幡ヶ谷古墳
下平川八幡神社西遺跡・下平川八幡谷遺跡

平成18・19・20年度主要地方道掛川浜岡線合併支援
重点道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成21年3月23日発行

編集発行　財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL054-262-4261㈹
印 刷 所　松本印刷株式会社
〒421-0303　静岡県榛原郡吉田町片岡2210
TEL0548-32-0851㈹